



Cisco Unified Communications Manager リリース 14 システム設定ガイド

初版：2019年8月27日

最終更新：2022年2月1日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Full Cisco Trademarks with Software License ?

第 1 章	はじめに 1
	システム設定の概要 1
第 1 部 :	システム コンポーネント 3
第 2 章	スマートソフトウェア ライセンシング 5
	スマート ソフトウェア ライセンシングの概要 5
	ライセンス タイプ 7
	製品インスタンスの評価モード 8
	システム ライセンスの前提条件 8
	スマートソフトウェア ライセンシングのタスク フロー 9
	製品インスタンスの登録トークンの取得 9
	スマート ソフトウェア ライセンシング への接続の設定 10
	Cisco Smart Software Manager への登録 11
	スマートソフトウェア ライセンシングでの追加タスク 12
	認証を更新 14
	登録の更新 15
	登録解除 16
	Cisco Smart Software Manager でのライセンスの再登録 17
	特定ライセンス予約 18
	特定ライセンス予約のタスクフロー 20
	license smart reservation enable 20
	license smart reservation request 21

license smart reservation install "<authorization-code>"	22
license smart reservation install-file <url>	23
特定のライセンス予約に関する追加タスク	23
license smart reservation disable	23
ライセンス予約の更新	24
license smart reservation cancel	27
license smart reservation return	27
license smart reservation return-authorization "<authorization-code>"	29
特定ライセンス予約対応システムのバージョン 14 へのアップグレード	30
スマート ライセンシングのエクスポートに関するコンプライアンス	31
エクスポート制御のタスクフロー	31
license smart export request local <exportfeaturename>	31
license smart export return local <exportfeaturename>	32
license smart export cancel	32

第 3 章

エンタープライズ パラメータおよびサービスの設定 35

エンタープライズ パラメータの概要	35
サービス パラメータの概要	36
システム パラメータのタスク フロー	36
エンタープライズ パラメータを設定する	37
よくある企業パラメータ	37
基本サービスのアクティブ化	43
パブリッシャ ノードに推奨するサービス	44
サブスクリバード用の推奨サービス	45
サービス パラメータの設定	46
クラスタ全体のサービス パラメータ設定の表示	47

第 4 章

IPv6 スタックの設定 49

IPv6 スタックの概要	49
デュアル スタック IPv6 の前提条件	50
IPv6 の設定タスク フロー	50
オペレーティング システムの IPv6 の設定	51

IPv6 向けのサーバ設定	52
IPv6 の有効化	52
クラスタの IP アドレッシング優先順位の設定	53
デバイス用 IP アドレッシングモードの優先順位の設定	53
サービスの再起動	55

第 5 章	2つのスタック (IPv4 と IPv6) の設定	57
	2つのスタック (IPv4 および IPv6) の概要	57
	2つのスタック (IPv4 と IPv6) の前提条件	58
	2つのスタック (IPv4 と IPv6) の設定タスク フロー	58
	SIP プロファイル用 ANAT の設定	58
	SIP 電話への ANAT の適用	59
	SIP トランクへの ANAT の適用	59
	サービスの再起動	60

第 6 章	基本的なセキュリティの設定	61
	セキュリティの設定について	61
	セキュリティ設定のタスク	61
	クラスタの混合モードの有効化	61
	証明書のダウンロード	62
	証明書署名要求の生成	62
	証明書署名要求のダウンロード	63
	サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード	63
	TLS の前提条件	64
	最小 TLS バージョンの設定	65
	TLS 暗号化の設定	65

第 7 章	シングルサインオンの設定	67
	SAML SSO ソリューションについて	67
	SAML SSO 設定タスク フロー	68
	Cisco Unified Communications Manager からの UC メタデータのエクスポート	69

Cisco Unified Communications Manager での SAML SSO の有効化 70

Cisco Tomcat サービスの再起動 72

SAML SSO 設定の検証 73

第 8 章

デバイス プールのコア設定の設定 75

デバイスプールの概要 75

ネットワーク タイム プロトコル 76

リージョンの概要 77

Cisco Unified CM グループの概要 79

コール処理の冗長性 80

分散コール処理 81

デバイス プールの前提条件 82

デバイス プールのコア設定の設定タスク フロー 83

Network Time Protocol の設定 84

NTP サーバの追加 85

対称キー経由での NTP 認証キーの設定 86

オートキー経由での NTP 認証キーの設定 86

電話用 NTP リファレンスの設定 87

日時グループの追加 88

リージョンの設定 89

音声コーデック設定のカスタマイズ 89

リージョンにおけるクラスタ全体のデフォルト値の設定 90

リージョンの関係の設定 91

Cisco Unified CM グループの設定 92

デバイス プールの設定 93

基本的なデバイス プール設定フィールド 94

コール保持 94

コール保持のシナリオ 95

第 9 章

トランクの設定 99

SIP トランクの概要 99

SIP トランクの前提条件	99
SIP トランクの設定タスク フロー	100
SIP プロファイルの設定	100
SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定	101
SIP トランクの設定	102
SIP トランクの連携動作および制限	103
H.323 トランクの概要	104
H.323 トランクの前提条件	105
H.323 トランクの設定	106

第 10 章

ゲートウェイの設定	107
ゲートウェイの概要	107
音声ゲートウェイのセットアップ要件	108
ゲートウェイの設定タスク フロー	109
MGCPゲートウェイの設定	109
MGCP (IOS) ゲートウェイの設定	110
ゲートウェイ ポート インターフェイスの設定	111
デジタルアクセス優先ポートの設定	112
MGCP ゲートウェイのデジタルアクセス T1 ポートの設定	112
FXS ポートの設定	113
FXO ポートの設定	114
BRI ポートの設定	115
MGCP ゲートウェイでのデジタルアクセス T1 ポートの追加	116
ゲートウェイのリセット	118
MGCP 発信者 ID 制限	118
SCCP ゲートウェイの設定	118
ゲートウェイプロトコルとしての SCCP の設定	119
アナログ電話の自動登録の有効化	120
未設定のアナログ FXS ポートの自動登録の有効化	122
トラブルシューティングのヒント	122
SIP ゲートウェイの設定	122

SIP プロファイルの設定	123
SIP トランク セキュリティプロファイルの設定	124
SIP ゲートウェイ向け SIP トランクの設定	124
H.323 ゲートウェイの設定	125
ゲートウェイに対するクラスタ全体のコール分類の設定	126
オフネット ゲートウェイ転送のブロック	127

第 11 章

SRST の設定 129

Survivable Remote Site Telephony の概要	129
Survivable Remote Site Telephony の設定タスク フロー	130
SRST 参照の設定	131
デバイス プールへの SRST リファレンスの割り当て	131
クラスタの接続モニタ期間の設定	132
デバイス プールの接続モニタ期間の設定	132
SRST ゲートウェイでの SRST の有効化	133
SRST の制限	134

第 12 章

メディア リソースの設定 135

メディアリソースについて	135
メディアターミネーションポイント	136
メディアターミネーションポイントの連携動作と制限事項	137
トランスコーダ	138
MTP 機能を使用したトランスコーダ	139
トランスコーダタイプ	139
トランスコーダの連携動作と制限事項	143
トラステッドリレーポイントの概要	144
トラステッドリレーポイントの連携動作と制限事項	145
TRP リソースが不足したときのコール動作	146
アナンシエータの概要	147
デフォルトのアナンシエータのアナウンスおよびトーン	148
自動音声応答の概要	150

デフォルトの IVR アナウンスとトーン	150
自動音声応答制限	151
アナウンスの概要	152
デフォルトのアナウンス	152
メディアリソース構成タスクフロー	153
ソフトウェアメディアリソースのアクティブ化	154
メディアターミネーションポイントの設定	155
トランスコーダの設定	155
自動音声応答 (IVR) の設定	156
アナンシエータの設定	157
メディアリソースグループの設定	157
メディアリソースグループリストの設定	158
デバイスまたはデバイスプールへのメディアリソースの割り当て	158
アナウンスの設定	159
カスタマイズされたアナウンスのアップロード	160

第 13 章

会議ブリッジの設定	163
会議ブリッジの概要	163
会議ブリッジタイプ	163
会議ブリッジの設定タスクフロー	168
会議ブリッジの設定	169
会議ブリッジのサービスパラメータの設定	169
会議ブリッジへの SIP トランク接続の設定	170

第 14 章

拡張ロケーションコールアドミッション制御の設定	171
拡張ロケーションコールアドミッション制御の概要	171
クラスタ間 LBM のレプリケーション	172
拡張ロケーション CAC の前提条件	174
拡張ロケーション CAC のタスクフロー	174
ロケーション帯域幅マネージャのアクティブ化	175
LBM グループの設定	175

ロケーションとリンクの設定	176
LBM クラスタ間レプリケーショングループの設定	177
SIP クラスタ間トランクの設定	177
コールアドミッション制御のサービスパラメータの設定	178
拡張ロケーション CAC の連携動作の制限	178

第 15 章

Resource Reservation Protocol (RSVP) の設定	183
RSVP コールアドミッション制御の概要	183
RSVP コールアドミッション制御の前提条件	183
RSVP の設定タスクフロー	183
クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシーの設定	184
ロケーションペア RSVP ポリシーの設定	185
RSVP の再試行の設定	186
コール中の RSVP エラー処理の設定	187
MLPP から RSVP への優先レベルマッピングの設定	188
アプリケーション ID の設定	189
DSCP マーキングの設定	190

第 16 章

プッシュ通知の設定	191
プッシュ通知の概要	191
プッシュ通知の設定	195

第 II 部 :

ダイヤルプラン	197
----------------	------------

第 17 章

パーティションの設定	199
パーティションの概要	199
コーディングサーチスペースの概要	199
サービスクラス	200
パーティションの設定タスクフロー	201
パーティションの設定	201
パーティション名のガイドライン	203

コーディング サーチ スペースの設定	203
パーティションの連携動作と制限	204

第 18 章

国内番号計画のインストール	207
国内番号計画の概要	207
国内番号計画の前提条件	207
国内番号計画のインストールタスクフロー	208
COP ファイルのインストール	208
COP ファイルインストールのフィールド	209
国内番号計画のインストール	209
CallManager サービスの再起動	210

第 19 章

コール ルーティングの設定	211
コール ルーティングの概要	211
コール ルーティングの前提条件	213
コール ルーティングの設定タスクフロー	213
トランスレーション パターンの設定	215
発信側トランスフォーメーション パターンの設定	215
着信側トランスフォーメーション パターンの設定	216
ローカル ルート グループの設定	217
ローカル ルート グループの設定	218
ローカル ルート グループとデバイス プールの関連付け	218
ローカル ルート グループのルートリストへの追加	218
ルート グループの設定	219
ルート リストの設定	220
ルート フィルタの設定	221
ルート フィルタの設定項目	222
ルート パターンの設定	225
ルート パターンの設定項目	226
クラスタ全体の自動代替ルーティングの有効化	230
AAR グループの設定	230

時間帯ルーティングの設定	231
時間帯の設定	232
タイムスケジュールの設定	232
パーティションとスケジュールの関連付け	232
コールルーティングの制限	233
Dialed Number Analyzer によるトラブルシューティング	234
回線グループの設定	235
回線グループの設定について	235
回線グループの削除	236
回線グループの設定項目	236
回線グループへのメンバーの追加	251
回線グループからのメンバーの削除	252

第 20 章

ハントパイロットの設定	253
ハントパイロットの概要	253
ハントパイロットの設定タスクフロー	254
回線グループの設定	254
ハントリストの設定	255
ハントパイロットの設定	256
ハントパイロットのワイルドカードと特殊文字	256
ハントパイロットのパフォーマンスと拡張性	259
ハントパイロットの連携動作と制限	260
分配されないコール	261

第 21 章

クラスタ間ルックアップサービスの設定	263
ILS の概要	263
ILS ネットワーキング キャパシティ	264
ILS の設定タスクフロー	265
クラスタ ID の設定	265
ILS の設定	266
ILS の実行状態の確認	267

リモート クラスタ ビューの設定 268

ILS の連携動作および制限 269

ILS の連携動作 269

ILS の制限 270

第 22 章

グローバル ダイアル プラン レプリケーションの設定 273

グローバル ダイアル プラン複製の概要 273

URI ダイアル 275

Directory URI の形式 276

URI への通話転送 277

グローバル ダイアル プラン レプリケーションのコール ルーティング 277

グローバル ダイアル プラン レプリケーションの前提条件 278

グローバル ダイアル プラン レプリケーションの設定タスク フロー 278

グローバル ダイアル プラン複製に対する ILS サポートの有効化 280

SIP プロファイルの設定 280

URI ダイヤリング用の SIP トランクの設定 281

SIP ルート パターンの設定 282

学習したデータに対するデータベース制限の設定 283

学習番号とパターンのパーティションの設定 284

代替番号のアドバタイズパターンの設定 285

学習したパターンのブロック 285

グローバルダイアルプランデータのプロビジョニング 286

グローバル ダイアル プランのデータをインポート 288

グローバルダイアルプランレプリケーションの連携動作と制限事項 290

第 23 章

発信側の正規化 295

発信側の正規化の概要 295

発信側の正規化の要件 296

発信側の正規化の設定タスク フロー 297

発信側番号のグローバル化 298

コーリング サーチ スペースの設定 299

発信側トランスフォーメーション パターンの作成	299
コーリング サーチ スペースへの発信側トランスフォーメーション パターンの適用	300
発信側の正規化サービス パラメータの例	300
発信側の正規化の連携動作と制限事項	301
発信側の正規化の連携動作	301
発信側の正規化の制限事項	304

第 24 章

ダイヤル ルールの設定 307

ダイヤル ルールの概要	307
ダイヤルルールの前提条件	307
ダイヤル ルールの設定タスク フロー	308
アプリケーション ダイヤル ルールの設定	308
ディレクトリ検索ダイヤル ルールの設定	309
SIP ダイヤル ルールの設定	310
パターンの形式	311
SIP ダイヤル ルールの設定	311
SIP ダイヤル ルールのリセット	312
SIP ダイヤル ルール設定と SIP 電話の同期	313
ダイヤル ルールの優先順位の変更	313
連携動作と制限事項	314
SIP ダイヤル ルールの連携動作	314
ディレクトリ検索ダイヤル ルールの制限	315

第 III 部 :

アプリケーションの統合 317

第 25 章

シスコ アプリケーションの統合 319

Cisco Unity Connection	319
PIN同期の有効化	321
Cisco Expressway	322
Cisco Emergency Responder	322
Cisco Paging Server	323
Cisco Unified Contact Center Enterprise	324

Cisco Unified Contact Center Express	324
高度な QoS APIC-EM コントローラ	325
Cisco WebDialer サーバの設定	325

 第 26 章

CTI アプリケーションの設定 327

CTI アプリケーションの概要	327
CTI ルート ポイントの概要	328
Cisco Unified Communications Manager の CTI 冗長性	328
CTIManager 上の CTI 冗長性	329
アプリケーション障害の CTI 冗長性	329
CTI アプリケーションの前提条件	329
CTI アプリケーションの設定タスクフロー	330
CTIManager サービスのアクティブ化	331
CTIManager と Cisco Unified Communications Manager のサービスパラメータの設定	331
CTI ルートポイントの設定タスクフロー	332
CTI ルート ポイントの設定	332
新しいコール受け付けタイマーの設定	333
同時アクティブ通話の設定	333
CTI ルート ポイントの同期化	334
CTI デバイスの電話番号の設定	334
デバイスとグループの関連付け	335
エンドユーザとアプリケーションユーザの追加	335
アクセス制御グループの設定オプション	336
アプリケーション障害時の CTI 冗長性	337

 第 IV 部 :

エンドユーザのプロビジョニング 339

 第 27 章

プロビジョニング プロファイルの設定 341

プロビジョニング プロファイルの概要	341
プロビジョニング プロファイルのタスク フロー	342
SIP プロファイルの設定	344

電話機のセキュリティ プロファイルの設定	345
機能管理ポリシーの作成	346
共通の電話プロファイルの作成	347
共通デバイス設定の構成	348
ユニバーサル デバイス テンプレートの設定	349
ユニバーサル回線テンプレートの設定	350
ユーザ プロファイルの設定	351
ヘッドセットテンプレートの設定	353
UC サービスの設定	354
サービス プロファイルの設定	355
機能グループ テンプレートの設定	355
デフォルトのクレデンシャル ポリシーの設定	356

第 28 章**LDAP 同期の設定 359**

LDAP 同期の概要	359
LDAP 同期の前提条件	360
LDAP 同期の設定タスク フロー	360
Cisco DirSync サービスの有効化	362
LDAP ディレクトリ同期の有効化	362
LDAP フィルタの作成	363
LDAP ディレクトリの同期の設定	363
エンタープライズ ディレクトリ ユーザ検索の設定	366
LDAP 認証の設定	367
LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ	368

第 29 章**一括管理ツールを使用したユーザおよびデバイスのプロビジョニング 369**

一括管理ツールの概要	369
一括管理ツールの前提条件	370
一括管理ツールのタスク フロー	370
データベースへの電話機の追加	371
新しい BAT 電話テンプレートの作成	372

BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新	373
BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新	373
BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新	374
BAT テンプレート内の話中ランプ フィールドの追加または更新	375
BAT テンプレート内のビジョー ランプ フィールド ダイレクト コール パークの追加または更新	376
BAT テンプレート内のインターコム テンプレートの追加または更新	377
BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データ ファイルの作成	378
テキスト エディタを使用したカスタム電話機ファイル形式の作成	381
Unified Communications Manager への電話の挿入	382
ユーザの追加	384
BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成	385
Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入	386
BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加	388
電話およびユーザ ファイル形式の追加	388
Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入	389

 第 V 部 :

エンドポイントのプロビジョニング 391

 第 30 章

エンドポイントの設定 393

エンドポイント プロビジョニングのデフォルト値	393
エンドポイント プロビジョニングのデフォルトの前提条件	393
エンドポイント プロビジョニングのデフォルトのタスク フロー	394
デバイスのデフォルト値の設定	395
デバイスのデフォルト設定の更新	395
デフォルト デバイス プロファイルの設定	396
デフォルトのデバイスプロファイルでのソフトキーテンプレートの設定	396
デバイスプロファイルの設定	398
エンタープライズ電話の設定	399
エンタープライズ電話設定の構成	399
電話の設定	399

セルフケアポータル 400

第 31 章

CAPF の設定 401

認証局プロキシ機能 (CAPF) の概要 401

電話機の証明書タイプ 402

CAPF 経由の LSC 生成 403

CAPF 前提条件 403

認証局プロキシ機能の設定タスクフロー 404

サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード 405

認証局 (CA) ルート証明書のアップロード 406

オンライン認証局の設定 407

オフライン認証局の設定の設定 408

CAPF サービスのアクティブ化または再起動 409

ユニバーサルデバイス テンプレートでの CAPD 設定の構成 410

一括管理による CAPF 設定の更新 411

電話機の CAPF 設定の構成 413

キープアライブ タイマーの設定 413

CAPF の管理タスク 414

証明書ステータスのモニタリング 414

古い LSC レポートの実行 414

保留中の CSR リストの表示 415

古い LSC 証明書の削除 415

CAPF システムの連携動作と制限事項 415

7942 および 7962 電話機での CAPF の例 417

IPv6 アドレッシングとの CAPF のインタラクション 418

第 32 章

TFTP サーバの設定 421

プロキシ TFTP 展開の概要 421

冗長およびピアプロキシ TFTP サーバ 421

プロキシ TFTP 422

IPv4 および IPv6 デバイスに対する TFTP サポート 423

TFTP 展開のエンドポイントおよび設定ファイル	424
プロキシ TFTP のセキュリティに関する考慮事項	424
TFTP サーバの設定タスク フロー	425
TFTP サーバのダイナミック設定	426
TFTP サーバの手動設定	427
TFTP サーバの CTL ファイルの更新	428
TFTP サーバの非設定ファイルの変更	428
TFTP サービスの停止と開始	429

第 33 章

アクティベーションコードによるデバイスのオンボーディング 431

アクティベーションコードの概要	431
オンプレミス モードでのオンボーディングのプロセス フロー	432
モバイルおよびリモートアクセスモードでのオンボーディング プロセス フロー	433
アクティベーションコードの前提条件	434
オンプレミス モードでのアクティベーションコードを使用したデバイスのオンボーディングのタスク フロー	434
デバイス アクティベーションサービスの有効化	435
アクティベーションコードを使用する登録方法の設定	436
アクティベーションコードを要件とする電話機の追加	437
一括管理によるアクティベーションコードを使用した電話の追加	438
BAT プロビジョニングテンプレートの設定	438
新しい電話機での CSV ファイルの作成	439
電話の挿入	440
電話機のアクティブ化	441
アクティベーションコードのエクスポート	442
デバイス オンボーディング タスク フロー (モバイルおよびリモートアクセスモード)	442
モバイルおよびリモートアクセスによる Cisco Cloud オンボーディングの有効化	444
モバイルおよびリモートアクセス サービス ドメインの設定 (オプション)	444
カスタム証明書のアップロード (オプション)	445
アクティベーションコードの追加タスク	445
アクティベーションコードの使用例	447

第 34 章	自動登録の設定	451
	自動登録の概要	451
	自動登録の設定タスク フロー	452
	自動登録のパーティションの設定	453
	自動登録用コーリングサーチスペースの設定	454
	自動登録用デバイスプールの設定	455
	自動登録のデバイスプロトコルタイプの設定	456
	自動登録の有効化	456
	自動登録の無効化	459
	自動登録番号の再利用	459

第 35 章	セルフプロビジョニングの設定	461
	セルフプロビジョニングの概要	461
	セルフプロビジョニングの前提条件	463
	セルフプロビジョニングの設定タスク フロー	463
	セルフプロビジョニングのサービスの有効化	464
	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化	464
	CTI ルート ポイントの設定	465
	CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て	465
	セルフプロビジョニングのアプリケーション ユーザの設定	466
	セルフプロビジョニングのシステムの設定	467
	ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化	468

第 VI 部 :	参考情報	469
----------	-------------	------------

第 36 章	Cisco Unified Communications Manager の TCP および UDP ポートの使用	471
	Cisco Unified Communications Manager の TCP と UDP ポートの使用に関する概要	471
	ポート説明	473
	Cisco Unified Communications Manager サーバーがクラスタ間で使用するポート	473
	共通サービス ポート	476

Cisco Unified Communications Manager と LDAP ディレクトリ間のポート	480
CCMAdmin または CCMUser から Cisco Unified Communications Manager への Web 要求	480
Cisco Unified Communications Manager から電話機への Web 要求	481
電話機と Cisco Unified Communications Manager 間のシグナリング、メディア、およびその他の通信	481
ゲートウェイと Cisco Unified Communications Manager 間のシグナリング、メディア、およびその他の通信	483
アプリケーションと Cisco Unified Communications Manager 間の通信	486
CTL クライアントとファイアウォールの通信	488
HP サーバ上の特殊なポート	488
ポート参照	489
ファイアウォールアプリケーションインスペクションガイド	489
IETF TCP/UDP ポート割り当てリスト	489
IP テレフォニー設定とポート使用に関するガイド	489
VMware ポート割り当てリスト	490

 第 37 章

IM and Presence Service のポートの使用情報 [英語]	491
IM and Presence Service ポート利用の概要	491
表に記載の情報	492
IM and Presence サービス ポートリスト	492



第 1 章

はじめに

- [システム設定の概要 \(1 ページ\)](#)

システム設定の概要

このドキュメントでは、コール制御システムのインストール後のセットアップに関する基本的な設定作業について説明します。このドキュメントでは、システムパラメータ、ダイヤルプランとコールルーティング、メディアリソースの設定、アプリケーションの統合、エンドユーザとエンドポイントのプロビジョニングを行うことができます。このドキュメントを完了する際には、設定されたダイヤルプラン、コールルーティング、メディアリソース、帯域幅管理リソース、および基本セキュリティを含む基本的な **configuration** が必要です。さらに、ユーザとエンドポイントがプロビジョニングされます。

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

- **システムコンポーネント:** システムライセンス、基本セキュリティ、SSO、デバイスプール、トランク、ゲートウェイ、メディアリソース、およびコールの許可制御などの項目を設定します。
- **ダイヤルプラン:** ダイヤルプランとコールルーティング要素を設定します。
- **アプリケーションの統合:** Cisco 緊急応答側、Cisco Unity Connection、Cisco Expressway などのアプリケーションを統合します。
- **ユーザのプロビジョニング:** システムにユーザを追加します。
- **デバイスのプロビジョニング:** ユーザのデバイスを登録します。

このガイドのタスクが完了すると、システムはユーザ、デバイス、基本セキュリティ、および SSO を使用してセットアップされます。その後、シスコのソリューションの設定に進むことができます。



第 1 部

システムコンポーネント

- [スマートソフトウェア ライセンシング \(5 ページ\)](#)
- [エンタープライズパラメータおよびサービスの設定 \(35 ページ\)](#)
- [IPv6 スタックの設定 \(49 ページ\)](#)
- [2 つのスタック \(IPv4 と IPv6\) の設定 \(57 ページ\)](#)
- [基本的なセキュリティの設定 \(61 ページ\)](#)
- [シングルサインオンの設定 \(67 ページ\)](#)
- [デバイス プールのコア設定の設定 \(75 ページ\)](#)
- [トランクの設定 \(99 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(107 ページ\)](#)
- [SRST の設定 \(129 ページ\)](#)
- [メディア リソースの設定 \(135 ページ\)](#)
- [会議ブリッジの設定 \(163 ページ\)](#)
- [拡張ロケーション コール アドミッション制御の設定 \(171 ページ\)](#)
- [Resource Reservation Protocol \(RSVP\) の設定 \(183 ページ\)](#)
- [プッシュ通知の設定 \(191 ページ\)](#)



第 2 章

スマートソフトウェア ライセンシング

- [スマートソフトウェア ライセンシングの概要 \(5 ページ\)](#)
- [システム ライセンスの前提条件 \(8 ページ\)](#)
- [スマートソフトウェア ライセンシングのタスク フロー \(9 ページ\)](#)
- [スマートソフトウェア ライセンシングでの追加タスク \(12 ページ\)](#)
- [特定ライセンス予約 \(18 ページ\)](#)
- [スマート ライセンシングのエクスポートに関するコンプライアンス \(31 ページ\)](#)

スマート ソフトウェア ライセンシングの概要

シスコスマートソフトウェアライセンシングは、ライセンスに関する新しい考え方を提供しています。ライセンスの柔軟性が増し、企業全体のライセンスがシンプルになります。また、ライセンスの所有権および消費が可視化されます。

Ciscoスマートソフトウェア ライセンシングを使用すると、デバイスが自己登録し、ライセンス消費を報告し、製品アクティベーションキー (PAK) が必要なくなり、ライセンスの調達、展開、管理が簡単にできるようになります。ライセンス資格を単一のアカウントにプールして、必要に応じてネットワーク経由でライセンスを自由に移動することができます。Cisco製品全体で有効化され、直接クラウドベースまたは間接導入モデルによって管理されます。

Cisco スマート ソフトウェア ライセンシング サービスでは、製品インスタンスを登録し、ライセンスの使用状況を報告し、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから必要な認証を取得します。

スマート ライセンシングでは次のことを実行できます。

- ライセンスの使用状況とライセンス数の表示
- 各ライセンス タイプのステータスの表示
- Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトによる利用可能な製品ライセンスの表示
- Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトによるライセンス認証の更新

- ライセンス登録の更新
- Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトによる登録解除



(注) ライセンス承認は、30 日間に少なくとも 1 回更新することで 90 日間有効になります。Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続しないと、90 日後に承認の期限が切れます。

Cisco Smart Software Manager サテライトのオプションを選択する場合、このサテライトが認証を行うために、Cisco Smart Software Manager へのインターネット接続が必要になります。Cisco Smart Software Manager サテライトは、接続時間が設定可能な接続済みモードと、手動同期が必要な切断モードの 2 つのモードで動作できます。

スマートライセンスの導入オプションには、主に次の 2 つがあります。

- Cisco Smart Software Manager
- Cisco Smart Software Manager サテライト

Cisco Smart Software Manager

Cisco Smart Software Manager は、システムのライセンスを処理するクラウドベースのサービスです。Unified Communications Manager が直接またはプロキシサーバ経由で、cisco.com に接続できる場合に、このオプションを使用します。Cisco Smart Software Manager によって、次のことを行うことができます。

- ライセンスの管理およびトラック
- バーチャルアカウント間でのライセンスの移動
- 登録済みの製品インスタンスの削除

オプションで、Unified Communications Manager が直接 Cisco Smart Software Manager に接続できない場合、接続を管理するプロキシサーバを導入することができます。

Cisco Smart Software Manager の詳細については、<https://software.cisco.com> に進みます。

Cisco Smart Software Manager サテライト

Cisco Smart Software Manager サテライトは、セキュリティ上または可用性上の理由で、Unified Communications Manager が直接 cisco.com に接続できない場合に、ライセンスのニーズを処理できるオンプレミス導入です。このオプションを導入すると、Unified Communications Manager は、ライセンスの使用を登録し、サテライトに報告します。この際、cisco.com でホストされているバックエンドの Cisco Smart Software Manager とそのデータベースを定期的に同期します。

サテライトが cisco.com に直接接続できるかどうかに応じて、Cisco Smart Software Manager サテライトを接続または切断のいずれかのモードで導入できます。

- [接続 (Connected)] : Smart Software Manager サテライトから [cisco.com](https://www.cisco.com) への直接の接続がある場合に使用されます。スマート アカウントの同期が自動的に実行されます。
- [切断 (Disconnected)] : Smart Software Manager サテライトから [cisco.com](https://www.cisco.com) への接続がない場合に使用されます。Smart Account の同期を手動でアップロードおよびダウンロードする必要があります。



(注) デュアルスタックモードで実行される Unified CM は、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを使用して構成されたサテライトをサポートします。

Cisco Smart Software Manager サテライトの情報およびドキュメントについては、<https://www.cisco.com/c/en/us/buy/smart-accounts/software-manager-satellite.html> に進みます。

ライセンス タイプ

ニーズをカバーするために、次のライセンス タイプを使用できます。

Cisco Unified Workspace Licensing

Cisco Unified Workspace Licensing (UWL) は、シスコ コラボレーション アプリケーションおよびサービスの最も一般的なバンドルをコスト効率の高いシンプルなパッケージで提供します。このパッケージには、ソフト クライアント、アプリケーション サーバ ソフトウェア、およびユーザごとのライセンスが含まれています。

Cisco User Connect Licensing

User Connect Licensing (UCL) は、個々の Cisco Unified Communications アプリケーションに対するユーザベースのライセンスで、アプリケーション サーバ ソフトウェア、ユーザライセンス、ソフト クライアントが含まれています。UCL は、必要なデバイスのタイプとデバイスの数に応じて、Essential、Basic、Enhanced、Enhanced Plus の各バージョンから選択できます。

これらのライセンスタイプと使用可能なバージョンの詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/unified-communications-licensing/index.html> を参照してください。

Session Management Edition

Session Management Edition は、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトのいずれかに登録できます。Session Management Edition の登録には、Unified Communications Manager と同じプロセスを使用できます。Cisco Unified Communications Manager が登録されているバーチャルアカウントまたは別のバーチャルアカウントに登録し、最小のライセンス要件を満たします。



(注) 特定ライセンス予約 (SLR) に登録された SME では、SLR 承認コードの生成時に最小セットのライセンスが CSSM に予約されている必要があります。

製品インスタンスの評価モード

Unified Communications Manager は、インストール後 90 日間は評価期間として実行されます。評価期間が終了すると、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録されるまで、Unified Communications Manager で新規ユーザや新規端末の追加ができなくなります。



(注) 製品が登録されると評価期間は終了します。

システム ライセンスの前提条件

システムのライセンスプランの策定

Unified Communications (UC) のライセンス構造を確認し、把握します。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/unified-communications-licensing/index.html> を参照してください。

Unified Communications Manager を Smart Software Manager サービスに接続する方法を計画します。

- cisco.com の Cisco Smart Software Manager への直接接続：Unified Communications Manager は、cisco.com の Cisco Smart Software Manager に直接接続します。このオプションでは、tools.cisco.com を解決するように Unified Communications Manager で DNS を設定する必要があります。
- プロキシサーバ経由で Smart Software Manager への接続：Unified Communications Manager はプロキシサーバまたはトランスポート ゲートウェイに接続し、そこから cisco.com の Cisco Smart Software Manager サービスに接続します。Unified Communications Manager では DNS は必要ありませんが、プロキシサーバで tools.cisco.com を解決できるように DNS を設定する必要があります。
- オンプレミスの Cisco Smart Software Manager サテライトへの接続：Unified Communications Manager は、オンプレミスの Smart Software Manager サテライトに接続します。Unified Communications Manager では DNS は必要ありません。接続モードを展開する場合は、サテライトサーバ上に tools.cisco.com を解決できる DNS が必要です。非接続モード展開の場合は、サテライトサーバで DNS を使用する必要はありません。

スマートライセンスの登録

スマートアカウントおよびバーチャルアカウントのセットアップ詳細については、<https://software.cisco.com/> を参照してください。

(省略可) Cisco Smart Software Manager サテライトを導入する場合は、サテライトをインストールしてセットアップします。『Smart Software Manager サテライト設置ガイド』などのド

キュメントを参照してください。ドキュメントは <https://www.cisco.com/c/en/us/buy/smart-accounts/software-manager-satellite.html> で入手できます。

スマート ソフトウェア ライセンシングのタスク フロー

このタスクを完了して、Unified Communication Manager のシステムライセンスを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	製品インスタンスの登録トークンの取得 (9 ページ) 。	仮想アカウントでの製品インスタンス登録トークンの生成は、この手順を使用します。
ステップ 2	スマート ソフトウェア ライセンシング への接続の設定 (10 ページ)	Unified Communications Manager がスマート ソフトウェア ライセンシング サービスに接続するトランスポート設定を選択します。デフォルトでは[直接 (Direct)] オプションが選択されており、製品がシスコ ライセンシング サーバに直接接続します。
ステップ 3	Cisco Smart Software Manager への登録 (11 ページ) 。	次の手順を実行して、Unified Communications Manager を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録します。

製品インスタンスの登録トークンの取得

始める前に

製品インスタンスを登録するには、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから製品インスタンス登録トークンを取得します。トークンは、エクスポート管理された機能が有効か無効かに関係なく生成できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトのいずれかでスマート アカウントにログインします。
- ステップ 2 Unified Communications Manager クラスタを関連付けるバーチャル アカウントに移動します。
- ステップ 3 「製品インスタンス登録トークン」を生成します。

(注) [このトークンで登録されている製品でエクスポート管理された機能を許可 (Allow export-controlled functionality on the products registered with this token)] チェックボックスを選択して、このスマートアカウントで使用する製品インスタンスのトークンに対して、エクスポート管理された機能を有効にします。このチェックボックスをオンにして条件に同意して、この登録トークンに登録されている製品の高度な暗号化を有効にします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。エクスポート管理された機能をこのトークンで使用できなくするには、このチェックボックスをオフにします。

注意 このオプションは、エクスポート管理された機能を準拠している場合のみ使用します。

(注) [このトークンで登録されている製品でエクスポート管理された機能を許可 (Allow export-controlled functionality on the products registered with this token)] チェックボックスは、エクスポート管理された機能の使用が許可されていないスマートアカウントでは表示されません。

ステップ 4 トークンをコピーするか、別の場所に保存します。

詳細については、<https://software.cisco.com/>を参照してください。

スマートソフトウェアライセンスングへの接続の設定

この作業を完了して、Smart Software Licensing サービスに Unified Communications Manager を接続します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。

[ライセンス管理 (LicenseManagement)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [スマートソフトウェアライセンスング (Smart Software Licensing)] セクションから、[ライセンス Smart Call Home 設定の表示/編集 (View/Edit the Licensing Smart Call Home settings)] リンクをクリックします。

[転送設定 (Transport Settings)] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 3 Smart Licensing サービスに Unified Communications Manager を接続する方法を選択します。

- [直接 (Direct)] : Unified Communications Manager が [cisco.com](https://tools.cisco.com/) の Smart Software Manager に直接接続します。これがデフォルトのオプションです。このオプションでは、tools.cisco.com を解決できる Unified Communications Manager で DNS を導入する必要があります。

- [トランスポートゲートウェイ (Transport Gateway)] : Unified Communications Manager が オンプレミスの Cisco Smart Software Manager サテライトまたはシステム ライセンシング用のトランスポート ゲートウェイに接続します。[URL] テキスト ボックスに、Smart Software Manager サテライトまたはトランスポート ゲートウェイのアドレスとポートを入力します。fqdn_of_smart_software_manager:port_number が一例になります。HTTPS の場合は、port 443 を使用します。
- [HTTP/HTTPSプロキシ (HTTP/HTTPS Proxy)] : Unified Communications Manager はプロキシ サーバに接続します。プロキシ サーバは、Cisco Smart Software Manager サービスと併せて、cisco.com のサテライトおよびトランスポート ゲートウェイと接続します。プロキシ サーバの IP アドレス、ホスト名、およびポートを入力します。
 - HTTP または HTTPS プロキシに必要な認証: 認証ベースのプロキシサーバを使用して Cisco Smart Software Manager に登録する場合は、このチェックボックスをオンにします。
 - [IPアドレス/ホスト名 (IP Address/Host Name)]
 - [ポート (Port)] : HTTPS の場合、port 443 を使用します。
 - [ユーザ名 (User Name)]
 - [パスワード (Password)]

ステップ 4 Unified Communications Manager が IP アドレスとホスト名を共有しないように制限するには、スマート ライセンシング登録中に [自分のホスト名またはIPアドレスをシスコと共有しません (Do not share my hostname or IP address with Cisco)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Smart Software Manager への登録

製品を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録するには、この手順を使用します。登録するまで、製品は評価モードになっています。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
[ライセンス管理 (LicenseManagement)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[登録 (Register)] ボタンをクリックします。
[登録 (Registration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [製品インスタンス登録トークン (Product Instance Registration Token)] セクションで、Smart Software Manager または Smart Software Manager サテライトを使用して生成し、コピーまたは保存した「登録トークン キー」を貼り付けます。
- ステップ 4** [登録 (Register)] をクリックして、登録プロセスを完了します。
- ステップ 5** [閉じる (Close)] をクリックします。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)] セクションで、[使用状況の詳細の更新 (Update Usage Details)] をクリックして、システムのライセンスの使用状況の情報を手動で更新します。

(注) 使用状況の情報は、6 時間ごとに自動的に更新されます。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

スマート ソフトウェア ライセンシングでの追加タスク

Unified Communications Manager とスマートソフトウェアライセンスングでは、次のオプションのタスクを実行できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	認証を更新 (14 ページ)	ライセンスタイプの下に表示されるすべてのライセンスのライセンス認証ステータスを手動で更新するにはこの手順を実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) ライセンス認証は30日ごとに自動的に更新されます。Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続しないと、認証ステータスの期限は90日後に切れます。</p> <p>Cisco Smart Software Manager サテライトのオプションを選択する場合、このサテライトが認証を行うために、Cisco Smart Software Manager へのインターネット接続が必要になります。Cisco Smart Software Manager サテライトは、接続時間が設定可能な接続済みモードと、手動同期が必要な切断モードの2つのモードで動作できます。</p>
ステップ 2	登録の更新 (15 ページ)	<p>登録情報を手動で更新するには、以下手順を実行します。</p> <p>(注) 初回登録の有効期間は1年です。登録の更新は、製品を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続すると、6か月ごとに自動的に行われます。</p>
ステップ 3	登録解除 (16 ページ)	<p>Cisco Smart Software Manager または Smart Software Manager サテライトから Unified Communications Manager クラスタを切断するには、このタスクを実行します。製品は、評価期間の終了まで評価モードに戻ります。製品で使用されているすべてのライセンス権限は、バーチャルアカウントにすぐにリリースされ、他の製品インスタンスで使用できるようになります。</p>
ステップ 4	Cisco Smart Software Manager でのライセンスの再登録 (17 ページ)	<p>Unified Communications Manager を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>Software Manager サテライトに再登録するには、このタスクを実行します。</p> <p>(注) 新しいバーチャルアカウントのトークンを使用して再登録すると、製品が異なるバーチャルアカウントに移行される場合があります。</p>

認証を更新

この手順を使用すると、ライセンスタイプの下に表示されるすべてのライセンスのライセンス認証ステータスを手動で更新できます。



- (注) ライセンス認証は 30 日ごとに自動的に更新されます。Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続しないと、認証ステータスの期限は 90 日後に切れます。

Cisco Smart Software Manager サテライトのオプションを選択する場合、このサテライトが認証を行うために、Cisco Smart Software Manager へのインターネット接続が必要になります。Cisco Smart Software Manager サテライトは、接続時間が設定可能な接続済みモードと、手動同期が必要な切断モードの 2 つのモードで動作できます。

始める前に

製品は Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
[ライセンス管理 (LicenseManagement)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストをクリックします。
- ステップ 3 [認証を今すぐ更新 (Renew Authorization Now)] を選択します。
[認証の更新 (Renew Authorization)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。

Unified Communications Manager は、「ライセンス承認ステータス」を確認するために Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに要求を送信し、Cisco

Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトが Unified Communications Manager にステータスを返します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)] セクションで、[使用状況の詳細の更新 (Update Usage Details)] をクリックして、システムのライセンスの使用状況の情報を手動で更新します。

(注) 使用状況の情報は、6 時間ごとに自動的に更新されます。フィールドとその設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

登録の更新

製品を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録する間、製品の識別にはセキュリティアソシエーションが使用され、登録証明によってアンカーが設定されます。この有効期限 (登録期間) は 1 年間です。これは登録トークン ID の有効期限とは異なり、トークンの時間制限が有効になります。この登録期間は 6 か月ごとに自動的に更新されます。ただし、問題がある場合は、この登録期間を手動で更新できます。

始める前に

製品は Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。

[ライセンス管理 (License Management)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストをクリックします。

ステップ 3 [登録を今すぐ更新 (Renew Registration Now)] を選択します。

[登録の更新 (Renew Registration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

Unified Communications Manager は、「登録ステータス」を確認するために Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに要求を送信し、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトが Unified Communications Manager にステータスを返します。

ステップ 5 [ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)] セクションで、[使用状況の詳細の更新 (Update Usage Details)] をクリックして、システムのライセンスの使用状況の情報を手動で更新します。

(注) 使用状況の情報は、6時間ごとに自動的に更新されます。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

登録解除

この手順を使用すると、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから登録を解除して、現在のバーチャルアカウントからすべてのライセンスをリリースします。この手順を実行すると、Unified Communications Manager クラスタが Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから切断されます。製品で使用されているすべてのライセンス権限は、バーチャルアカウントにリリースされ、他の製品インスタンスで使用できるようになります。



(注) Unified Communications Manager が Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続できず、製品がまだ登録されていない場合は、警告メッセージが表示されます。このメッセージでは、製品を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから手動で削除してライセンスを解放する通知が表示されています。

始める前に

製品は Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
[ライセンス管理 (LicenseManagement)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストをクリックします。
- ステップ 3 [登録解除 (Deregister)] を選択します。
登録解除 ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。
- ステップ 5 [ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)] セクションで、[使用状況の詳細の更新 (Update Usage Details)] をクリックして、システムのライセンスの使用状況の情報を手動で更新します。

(注) 使用状況の情報は、6時間ごとに自動的に更新されます。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

- (注)
- Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトへの登録後にデータプレーン暗号化（混合モードの Unified Communications Manager クラスター）が有効化され、製品が後で登録解除された場合、混合モードでは引き続き有効となります。

Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから製品が登録解除されると、SmartLicenseExportControlNotAllowedという名前の警告が管理者に送信され、クラスターが非セキュアモードに設定されます。混在モードは、再起動後も引き続き有効となります。

- この登録解除後の動作は、製品の将来のバージョンでは変更される可能性があります。CTLクライアントのセットアップに関する詳細については、「Cisco Unified Communications Managerセキュリティガイド」（<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-maintenance-guides-list.html>）の「Cisco CTLクライアントの設定」の章を参照してください。

トークンレス CTL の混合モードに関する詳細については、「Tokenless CTL との CUCM 混合モード」（<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-tech-notes-list.html>）を参照してください。

Cisco Smart Software Manager でのライセンスの再登録

この手順を使用すると、Cisco Unified Communications Manager を Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに再登録できます。

始める前に

[製品インスタンスの登録トークンの取得 \(9 ページ\)](#)。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
[ライセンス管理 (LicenseManagement)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[登録 (Register)] ボタンをクリックします。
[登録 (Registration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [スマートソフトウェアライセンシング (Smart Software Licensing)] セクションで、[アクション (Actions)] ドロップダウンリストをクリックします。
 - ステップ 4** [登録 (Reregister)] を選択します。
[登録 (Reregister)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** [製品インスタンス登録トークン (Product Instance Registration Token)]セクションで、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトを使用して生成し、コピーまたは保存した「登録トークンキー」を貼り付けます。
- ステップ 7** [登録 (Register)] をクリックして、登録プロセスを完了します。
- ステップ 8** [閉じる (Close)] をクリックします。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 9** [ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)]セクションで、[使用状況の詳細の更新 (Update Usage Details)] をクリックして、システムのライセンスの使用状況の情報を手動で更新します。

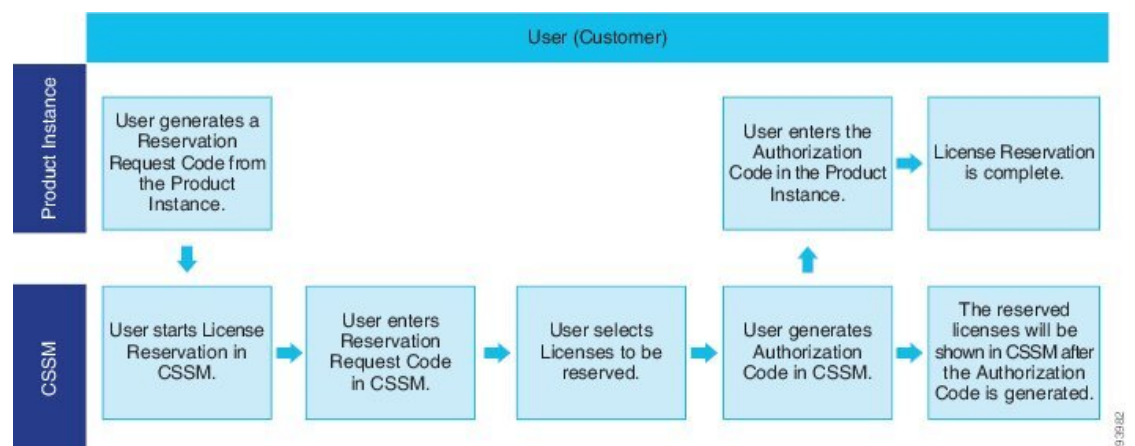
(注) 使用状況の情報は、6 時間ごとに自動的に更新されます。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

特定ライセンス予約

特定ライセンス予約は、非常にセキュリティの高いネットワークで使用される機能です。特定ライセンス予約は、使用情報を通信せずに、デバイス（製品インスタンス、Unified Communications Manager）にソフトウェアライセンスを展開する方法を提供します。

Unified Communications Manager 製品では、永久ライセンスまたは期間ベースのライセンスを指定して予約することができます。認証コードが交換された後は、予約に変更があるまで定期的な製品の同期は必要ありません。予約済みライセンスは、リターンコードを使用して製品からリリースされていない限り、Cisco Smart Software Manager でブロックされたままになります。

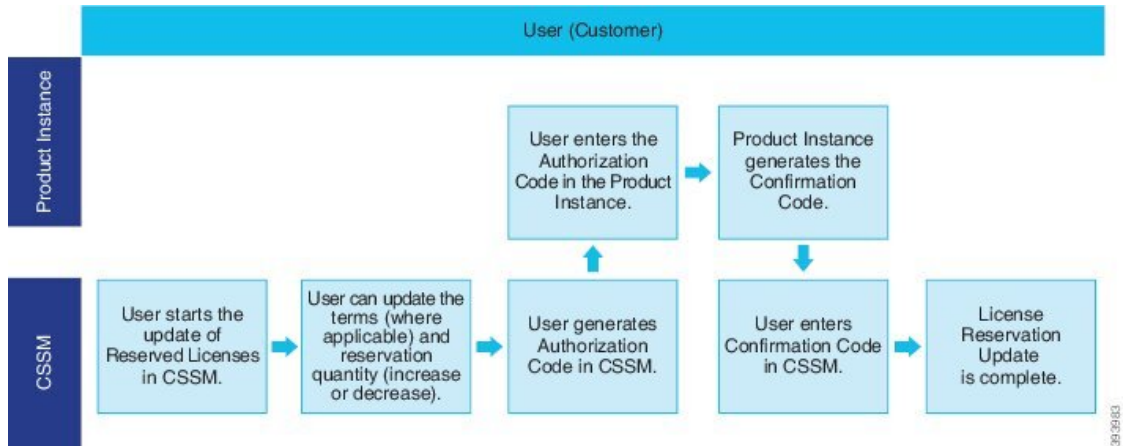
図 1: ライセンスの予約



予約済みライセンスの更新または変更 (増減) は、Cisco Smart Software Manager で以前に予約されたライセンスに実行できます。新しい認証コードの製品へのインストールおよび確認コード

の取得が可能です。製品からの確認コードが Cisco Smart Software Manager にインストールされていない限り、新しい変更は送信中の状態のままになります。

図 2: ライセンス予約のアップデート

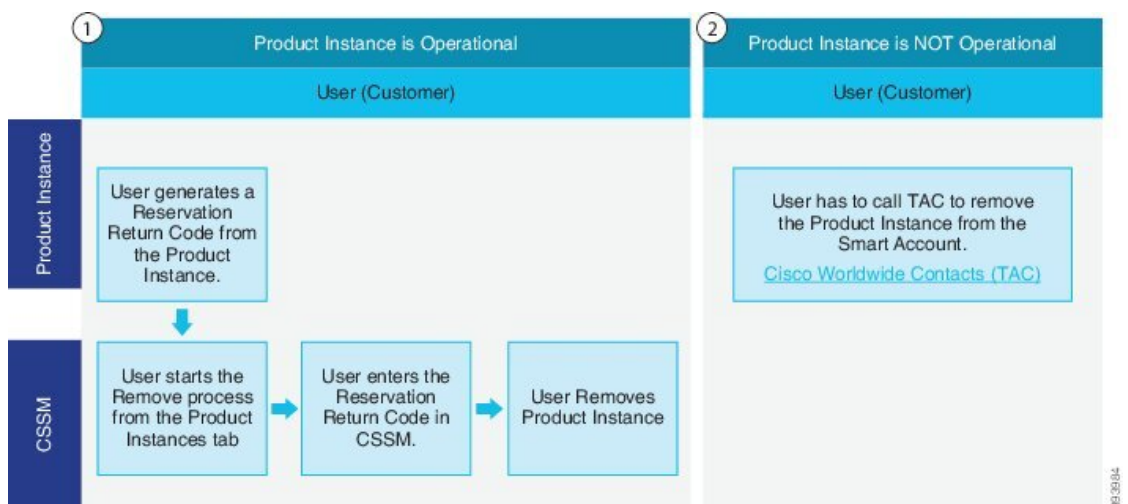


ライセンスが製品インスタンス (Unified Communications Manager) で予約されている場合、スマートアカウントから製品インスタンスを削除して、スマートアカウントからその製品インスタンス (Unified Communications Manager) に予約されているすべてのライセンスをすべてリリースするには、2つの方法があります。

製品インスタンスは動作可能 (グレースフル削除): 製品インスタンスで (認証コードの削除) 予約戻りコードを作成して、特定のライセンス予約認証をリリースすることができます。その後、Cisco Smart Software Manager に予約戻りコードを入力します。

製品インスタンスは動作不可能 (失敗または RMA による場合、または VM またはコンテナを破棄する場合): ユーザは TAC に連絡する必要があります。スマートアカウントからの製品インスタンスの削除は、TACが行います。

図 3: 製品インスタンスの削除: *Unified Communications Manager*





(注) ユーザが特定のライセンス予約を有効にするには、CLI 設定のみが使用可能です。



(注) 特定ライセンス予約が **Unified Communications Manager** で有効化されている場合、クラウド オンボーディング用のバウチャー生成はサポートされません。

スマートアカウントでライセンス予約機能を使用できるお客様は、自身のバーチャルアカウントからライセンスを予約し、そのライセンスをデバイス UDI に関連付けて、接続していない状態で予約済みライセンスを使用してデバイスを使用することができます。この場合、バーチャルアカウントから UDI 用の特定ライセンスと数量を予約します。以下のオプションは、特定のライセンス予約向けの新機能および設計要素の説明です。

- license smart reservation enable
- license smart reservation disable
- license smart reservation request
- license smart reservation cancel
- ライセンス予約の更新
- license smart reservation install "<authorization-code>"
- license smart reservation install-file <url>
- license smart reservation return
- license smart reservation return-authorization "<authorization-code>"

特定ライセンス予約のタスクフロー

これらのタスクを完了して、**Unified Communications Manager** の特定のライセンスを予約します。

license smart reservation enable

特定のライセンスの予約を有効化するには、この手順を使用します。

始める前に

Unified Communications Manager が **Cisco Smart Software Manager** またはサテライトから登録解除されます。

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart reservation enable

license smart reservation request

Unified Communications Manager 製品から予約要求コードを生成するには、次の手順を実行します。

始める前に

license smart reservation enable を実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [予約を実行中 (Reservation in progress)] になっていることを確認します

。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理コンソールから、*license smart reservation request* コマンドを実行します。

ステップ 2 CSSM (Cisco Smart Software Manager) にログインし、予約要求コードを入力します。

The screenshot shows the Cisco Smart Software Licensing web interface. The top navigation bar includes 'Smart Software Licensing' and 'Virtual Account: UCM-Test'. The 'Licenses' tab is selected and highlighted with a red box. Below it, the 'License Reservation...' button is also highlighted with a red box. A modal dialog titled 'Smart License Reservation' is open, showing a four-step process: STEP 1: Enter Request Code, STEP 2: Select Licenses, STEP 3: Review and confirm, and STEP 4: Authorization Code. The 'Enter Request Code' step is active, with a text input field and 'Browse' and 'Upload' buttons. Instructions and a list of steps are provided within the dialog.

450364

- license smart reservation install "<authorization-code>"

license smart reservation install-file <url>

Cisco Smart Software Manager で生成されたライセンス予約承認コード ファイルをインストールするには、この手順を使用します。

始める前に

次の順序でコマンドを実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [進行中の予約 (Reservation In Progress)]であることを確認します。

- license smart reservation enable
- license smart reservation request



- (注) URL は、SFTP サーバ上の承認コード ファイルへの必須のパスであり、次の形式で表されます。

sftp://<ホスト名/IP>:<port>/<承認コード ファイルへのパス>

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart reservation install-file <url>
-

特定のライセンス予約に関する追加タスク

特定ライセンス予約については、Unified Communications Manager で次の追加タスクを使用できます。

license smart reservation disable

このプロセスで特定のライセンスの保留を無効にします。

始める前に

特定ライセンス予約は、Unified Communications Manager で有効化します。

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart reservation disable
-

ライセンス予約の更新

製品インスタンスのライセンス予約を更新し、新しい承認コードを取得するには、次の手順を実行します。

始める前に

次の順序でコマンドを実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [登録済み-特定ライセンス予約 (Registered - Specific License Reservation)] になっていることを確認します。

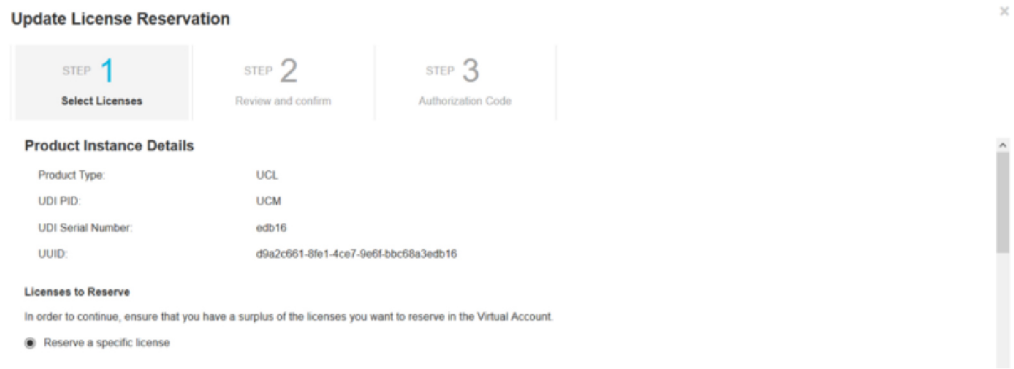
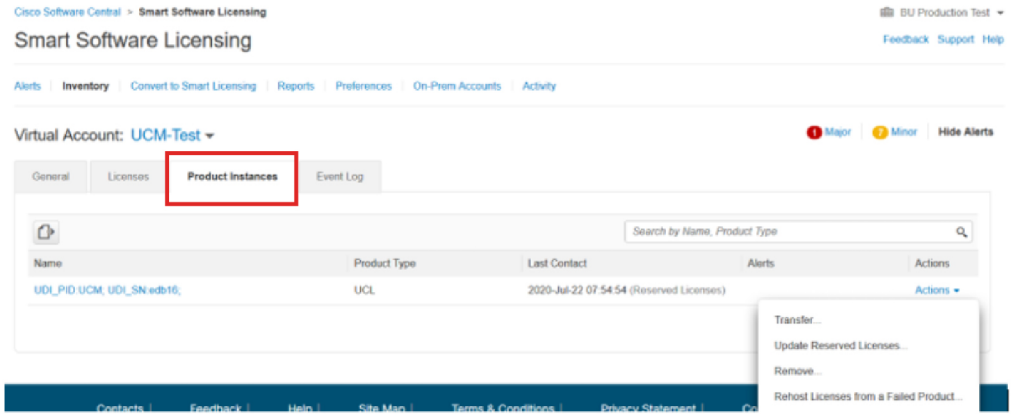
- license smart reservation enable
- license smart reservation request
- license smart reservation install "<authorization-code>"



- (注) Unified Communications Manager で特定ライセンス予約が有効になっている場合、上位層からのライセンスの借用は自動的には行われません。ライセンス予約は、Unified Communications Manager でのライセンスの消費/使用に合わせて手動で更新する必要があります。
-

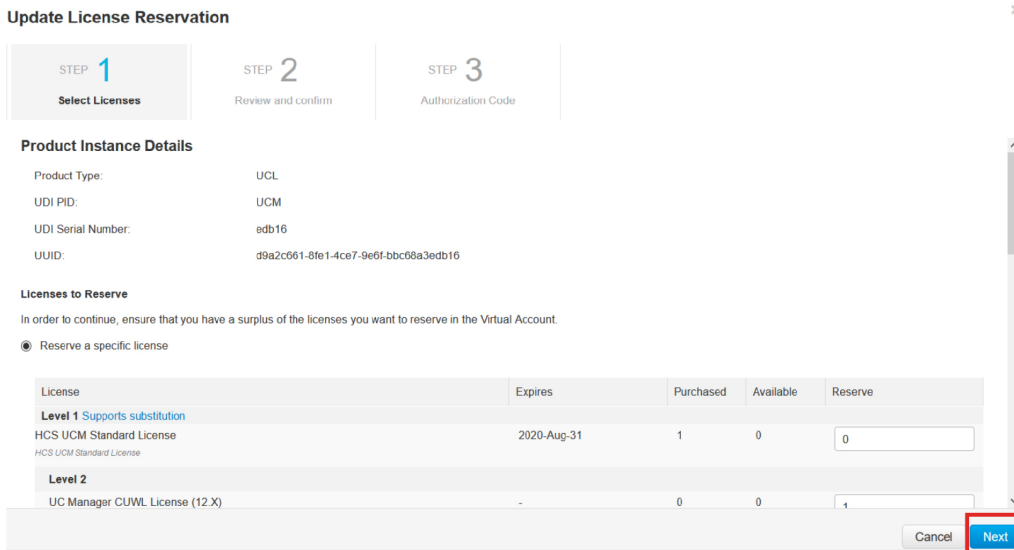
手順

- ステップ 1** CSSM で予約を更新する製品インスタンスの横にある [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[予約済みライセンスの更新 (Update Reserved Licenses)] を選択します。



450363

ステップ2 予約を更新（この製品インスタンスに対するライセンスを追加、削除、更新）し、承認コードを生成します。



450367

ステップ3 承認コードを製品インスタンスにコピーし、**license smart reservation install** “<authorization-code>” コマンドを実行してインストールします。

Update License Reservation

STEP 1 ✓ Select Licenses

STEP 2 ✓ Review and confirm

STEP 3 Authorization Code

✓ The Reservation Authorization Code below has been generated for this product instance. Several steps remain:

1. This code must be entered into the Product Instance's Smart Licensing settings to complete the reservation.
2. When the code has been entered, a Reservation Confirmation Code will be generated.
3. To release licenses in transition, enter confirmation code generated by device into CSSM.

Authorization Code:

```
<specificPLR><authorizationCode><flag>A</flag><version>C</version><pid>6191f5e5-319e-41ff-abba-be220ea4b2e1</pid><timestamp>1595405336190</timestamp><entitlements><entitlement><tag>regid.2017.02.com.cisco.UCM_CUWL.12.0_cc59375a-1cd8-4b38-8368-6f4d2abba965</tag><count>1</count><startDate>2020-Mar-04 UTC</startDate><endDate>2020-Aug-31 UTC</endDate><licenseType>TERM</licenseType><displayName>UC Manager CUWL License (12 X)</displayName><tagDescription>UC Manager CUWL License</tagDescription><subscriptionID></subscriptionID></entitlement><entitlement><tag>regid.2016.07.com.cisco.UCM_Enhanced.12.0_66d0d1cf-4863-4761-91d0-d01d3eb1949a</tag><count>1</count><startDate></startDate><endDate></endDate><licenseType>PERPETUAL</licenseType><displayName>UC Manager Enhanced License (12 X)</displayName><tagDescription>UC Manager Enhanced License</tagDescription><subscriptionID></subscriptionID></entitlement></entitlements></authorizationCode><signature>MEQCIFDLpw4k+0O+Zr3bp/ucJ3KNyKVGDGumUvN0BuGyvi9JAiBcB6O+c2GxAS2FUfIAZdVhHz9xcVbbriraWoavm9Hnw==</signature><udi>P-UCM,S.edb16,U.d9a2c661-8fe1-4ce7-9e6f-bbc68a3ed16</udi>
```

To learn how to enter this code, see the configuration guide for the product being licensed

Download as File Copy to Clipboard **Enter Confirmation Code** Close

450362

ステップ4 承認コードが正しくインストールされると、製品で確認コードが生成されます。

```
admin>license smart reservation install "<specificPLR><authorizationCode><flag>A</flag><version>C</version><pid>6191f5e5-319e-41ff-abba-be220ea4b2e1</pid><timestamp>1595405336190</timestamp><entitlements><entitlement><tag>regid.2017.02.com.cisco.UCM_CUWL.12.0_cc59375a-1cd8-4b38-8368-6f4d2abba965</tag><count>1</count><startDate>2020-Mar-04 UTC</startDate><endDate>2020-Aug-31 UTC</endDate><licenseType>TERM</licenseType><displayName>UC Manager CUWL License (12 X)</displayName><tagDescription>UC Manager CUWL License</tagDescription><subscriptionID></subscriptionID></entitlement><entitlement><tag>regid.2016.07.com.cisco.UCM_Enhanced.12.0_66d0d1cf-4863-4761-91d0-d01d3eb1949a</tag><count>1</count><startDate></startDate><endDate></endDate><licenseType>PERPETUAL</licenseType><displayName>UC Manager Enhanced License (12 X)</displayName><tagDescription>UC Manager Enhanced License</tagDescription><subscriptionID></subscriptionID></entitlement></entitlements></authorizationCode><signature>MEQCIFDLpw4k+0O+Zr3bp/ucJ3KNyKVGDGumUvN0BuGyvi9JAiBcB6O+c2GxAS2FUfIAZdVhHz9xcVbbriraWoavm9Hnw==</signature><udi>P-UCM,S.edb16,U.d9a2c661-8fe1-4ce7-9e6f-bbc68a3ed16</udi></specificPLR>"
admin>
```

450368

ステップ5 確認コードをコピーして CSSM に入力し、予約の更新を完了します。

✕

Update License Reservation

STEP 1 ✓
Select Licenses

STEP 2 ✓
Review and confirm

STEP 3
Authorization Code

✓ The Reservation Authorization Code below has been generated for this product instance. Several steps remain:

1. This code must be entered into the Product Instance's Smart Licensing settings to complete the reservation.
2. When the code has been entered, a Reservation Confirmation Code will be generated.
3. To release licenses in transition, enter confirmation code generated by device into CSSM.

Authorization Code:

```

<specificPLR><authorizationCode><flag>A</flag><version>C</version><pid>6191f5e5-319e-411f-abba-be220ea4b2e1</pid><timestamp>1595405336190</timestamp><entitlements>
<entitlement><tag>regid.2017.02.com.cisco.UCM_CUWL.12.0_cc59375a-1cd8-4b36-8366-6f4d2abba965</tag><count>1</count><startDate>2020-Mar-04 UTC</startDate><endDate>2020-
Aug-31 UTC</endDate><licenseType>TERM</licenseType><displayName>UC Manager CUWL License (12 X)</displayName><tagDescription>UC Manager CUWL License</tagDescription>
<subscriptionID></subscriptionID><entitlement><entitlement><tag>regid.2016-07.com.cisco.UCM_Enhanced.12.0_66d0d1cf-4963-4761-91d0-d01d3eb1949a</tag><count>1</count>
<startDate><startDate><endDate><endDate><licenseType>PERPETUAL</licenseType><displayName>UC Manager Enhanced License (12 x)</displayName><tagDescription>UC Manager
Enhanced License</tagDescription><subscriptionID></subscriptionID><entitlement><entitlements></authorizationCode><signature>MEQCIFDLpw4k+0O+Zr3p
/ucJ3KNyKvGDGumUvN0BuGyy9JAIBcB6O+c2GxAS2FUHAIZdVhHz9xcVbbr/raWoavm9Hnw==</signature><udi>P-UCM,S_edb16,U_d9a2c661-8fe1-4ca7-9e6f-bbc68a3edb16</udi>

```

To learn how to enter this code, see the configuration guide for the product being licensed

Download as File
Copy to Clipboard
Enter Confirmation Code
Close

450362

license smart reservation cancel

次の手順を使用して、CUCM 要求コードに対する Cisco Smart Software Manager からの認証コードがインストールされる前に、予約プロセスをキャンセルします。

始める前に

次の順序でコマンドを実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [進行中の予約 (Reservation In Progress)]であることを確認します。

- **license smart reservation enable**
- **license smart reservation request**

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- **license smart reservation cancel**

license smart reservation return

ライセンスをバーチャルアカウントプールに返却し、CSSMから製品インスタンスを削除するには、Cisco Smart Software Manager に返却コードを入力する必要があります。返却コードを生成するには、次の手順を実行します。

始める前に

次の順序でコマンドを実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [登録済み-特定ライセンス予約 (Registered - Specific License Reservation)] であることを確認します。

- **license smart reservation enable**
- **license smart reservation request**
- **license smart reservation install "<authorization-code>"**

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理コンソールから、license smart reservation return コマンドを実行します。

ステップ 2 予約返却コードを CSSM にコピーし、製品インスタンスを削除します。

The screenshot shows the Cisco Smart Software Licensing interface. The 'Product Instances' tab is selected and highlighted with a red box. Below it, a table lists product instances. One instance is highlighted, and its 'Actions' menu is open, showing options like 'Remove...'. A modal dialog titled 'Remove Product Instance' is displayed in the foreground. The dialog contains instructions on how to remove a product instance with reserved licenses and a text input field for the 'Reservation Return Code'. The 'Remove Product Instance' button is highlighted in blue.

Virtual Account: UCM-Test

General Licenses **Product Instances** Event Log

Search by Name, Product Type

Name	Product Type	Last Contact	Alerts	Actions
UDL_PID UCM, UDL_SN edb10	UCL	2020-Jul-22 08:11:19 (Reserved Licenses)		Actions

Transfer...
Update Reserved Licenses...
Remove...
Rehost Licenses from a Failed Product...

Remove Product Instance

To remove a Product Instance that has reserved licenses and make those licenses once again available to other Product Instances, enter in the Reservation Return Code generated by the Product Instance. If you cannot generate a Reservation Return Code, contact [Cisco Support](#)

* **Reservation Return Code:**

Remove Product Instance Cancel

450360

license smart reservation return-authorization "<authorization-code>"

まだインストールされていない認証コードのリターンコードを生成するには、次の手順を使用します。ライセンスをバーチャルアカウントプールに返却し、CSSMから製品インスタンスを削除するには、Cisco Smart Software Manager に返却コードを入力する必要があります。

始める前に

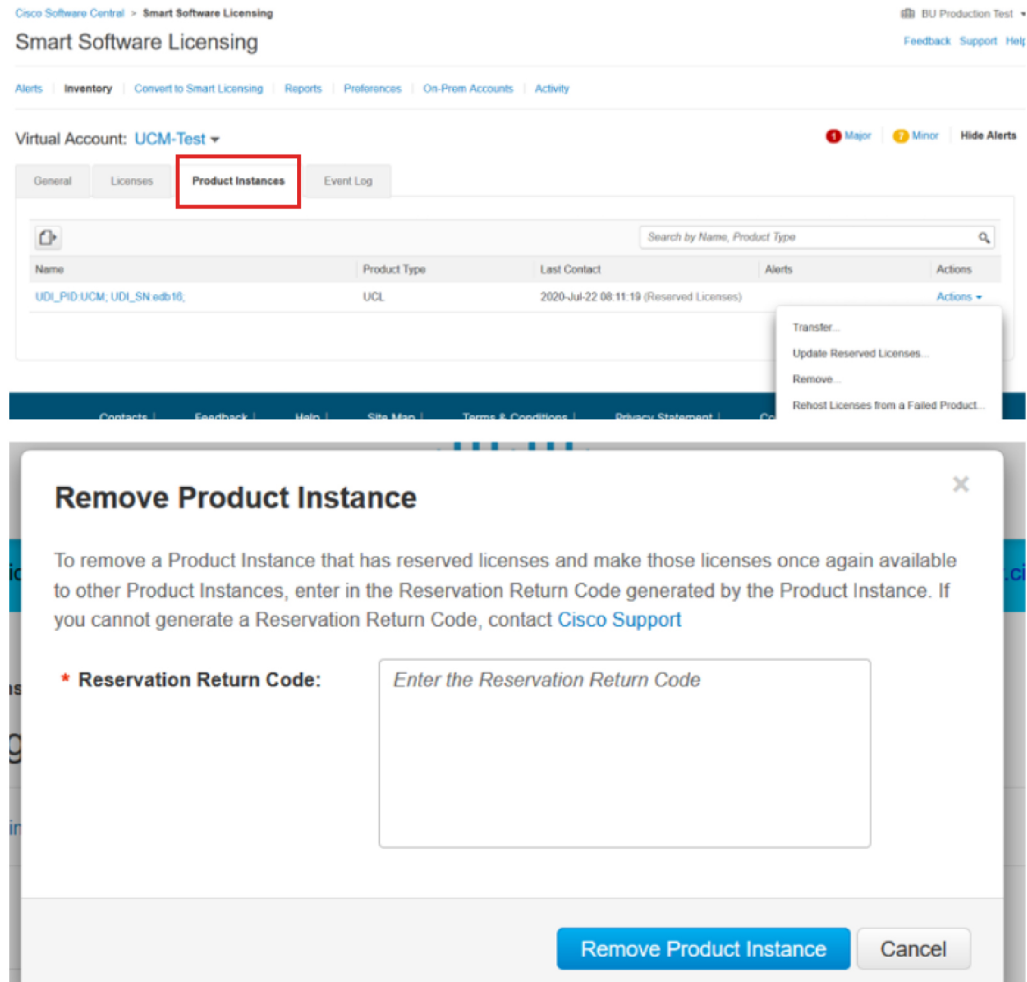
次の手順でコマンドを実行して、Unified Communications Manager の登録ステータスが [進行中の予約 (Reservation In Progress)]であることを確認します。

- **license smart reservation enable**
- **license smart reservation request**

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理コンソールから、license smart reservation return-authorization "<authorization-code>" コマンドを実行します。

ステップ 2 予約返却コードを CSSM にコピーし、製品インスタンスを削除します。



450361

特定ライセンス予約対応システムのバージョン14へのアップグレード

ライセンス予約が有効になっている Unified Communications Manager 12.5 システムをバージョン 14 にアップグレードする場合は、次のシナリオを考慮する必要があります。

1. バージョン 14 にアップグレードする前に、"license smart reservation return" コマンドを使用して 12.x のライセンスを返却します（推奨）。

または

バージョン 14 にアップグレードした後で、"license smart reservation return" コマンドを使用して 12.x のライセンスを返却します。

2. "license smart reservation request" コマンドを使用して要求コードを作成します。Cisco Smart Software Manager で、バージョンのないライセンスを使用して承認コードを生成します。
3. Cisco Unified Communications Manager で、"license smart reservation install <auth-code>" コマンドを使用して承認コードをインストールします。

スマートライセンシングのエクスポートに関するコンプライアンス

スマートライセンシングは、エクスポート制限機能をユーザが使用できるようにする手段を提供します。接続された状態では、登録プロセスを使用して、エクスポート制限機能を使用します。接続されていない状態では、スマートライセンス予約を使用してエクスポート制限機能を使用します。

このエクスポート制限機能は、スマートアカウントを使用している、エクスポート制限が適用されるお客様向けのソリューションです。この機能によってユーザは、Cisco Smart Software Manager またはサテライトで付与される規制上のエクスポート許可を要求し、エクスポート制限されている機能を Cisco Unified Communications Manager で有効化することができます。

以下のオプションでは、エクスポート制限機能に関する新しい機能と設計要素について説明しています。

- license smart export request local <exportfeaturename>
- license smart export return local <exportfeaturename>
- license smart export cancel

エクスポート制御のタスクフロー

次のタスクを実行して、Cisco Unified Communications Manager のエクスポート制限ライセンスを取得します。

license smart export request local <exportfeaturename>

このコマンドを使用すると、スマートアカウントを使用している、エクスポート制限の対象となるユーザは、Cisco Smart Software Manager またはサテライトから規制対象となるエクスポートライセンスを要求することができます。

license smart export return local <exportfeaturename>

Cisco Smart Software Manager またはサテライトで規制対象となるエクスポートライセンスが利用可能になると、このコマンドはエクスポート承認キーを返し、エクスポート制限の対象となる機能を製品上で有効化します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Smart Software Manager またはサテライトを使用して登録されます。<CUCM の輸出制限の対象となる承認キー> ライセンスが利用可能であることを Cisco Smart Software Manager で確認してください。

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart export request local <exportfeaturename>
-

license smart export return local <exportfeaturename>

このコマンドは、以前に要求されたエクスポート制限付きライセンスを Cisco Smart Software Manager またはサテライトに返すことを許可します。エクスポート制限機能のエクスポート認証キーがシステムから削除されます。

始める前に

機能に対してエクスポート認証キーが生成されます。

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart export return local <exportfeaturename>
-

license smart export cancel

このコマンドを使用すると、エクスポート制限の対象となっている Smart アカウントを持つユーザは、Cisco Smart Software Manager またはサテライトからのエクスポート要求またはリターンの自動再試行のキャンセルを取り消すことができます。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Smart Software Manager またはサテライトを使用して登録されます。

手順

Cisco Unified CM 管理コンソールから、次の CLI コマンドを実行します。

- license smart export cancel
-



第 3 章

エンタープライズパラメータおよびサービスの設定

- [エンタープライズパラメータの概要 \(35 ページ\)](#)
- [サービスパラメータの概要 \(36 ページ\)](#)
- [システムパラメータのタスクフロー \(36 ページ\)](#)

エンタープライズパラメータの概要

エンタープライズパラメータは、同一クラスタに存在するすべてのデバイスやサービスに適用されるデフォルト設定を提供します。クラスタは、同じデータベースを共有する Cisco Unified Communications Manager のセットで構成されます。Cisco Unified Communications Manager の新規インストール時には、エンタープライズパラメータを使用して、デバイスのデフォルトの初期値が設定されます。

エンタープライズパラメータの多くは、ほとんど変更の必要がありません。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更を指示された場合を除き、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

ほとんどの場合、推奨されるデフォルト設定が機能するはずですが、

- IP 電話のフォールバック接続モニタ期間を設定します。
- すべてのユーザに対して社内ディレクトリの検索を許可します。
- クラスタの完全修飾電話番号 (FQDN) と組織のトップレベルドメインを設定します。
- ビデオ対応の Cisco Jabber 開始条件を設定します。
- (省略可) ネットワークが IPv6 を使用している場合は、IPv6 を有効にします。
- (省略可) リモート syslog サーバ名前を入力します。
- (省略可) 導入をトラブルシューティングするためのコールトレースログを設定します。
- (省略可) 依存関係レコードを有効にします。

サービスパラメータの概要

サービスパラメータを使用すると、選択した Unified Communications Manager サーバでさまざまなサービスを設定できます。すべてのサービスに適用されるエンタープライズパラメータとは異なり、各サービスは個別のサービスパラメータのセットで設定されます。

サービスパラメータでは、次の2種類のサービスを設定できます。これらはいずれも Cisco Unified Serviceability 内で有効化できます。

- **機能サービス**：この種類のサービスは、特定のシステム機能を実行するのに使用されます。それらを使用するためには、機能サービスをに対してオンにする必要があります。
- **ネットワークサービス**：ネットワークサービスはデフォルトでオンになっていますが、トラブルシューティングの目的でネットワークサービスの停止と開始（または再起動）を選択できます。この種類のサービスには、データベースやプラットフォームなどのシステムコンポーネントが正常に機能できるようにするサービスが含まれます。

サービスパラメータの [サービスパラメータ (service parameter)] フィールドの説明を表示するには、[サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで [?] アイコンをクリックするか、パラメータの名前をクリックします。



- (注) サービスを非アクティブ化すると、更新されたサービスパラメータ値は Unified Communications Manager に保持されます。サービスを再開すると、Unified Communications Manager はサービスパラメータを変更後の値に設定します。

システムパラメータのタスクフロー

始める前に

Unified Communications Manager ノードとポート設定をセットアップします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	エンタープライズパラメータを設定する (37 ページ) 。	ユニファイドコミュニケーションマネージャノードの初期セットアップに必要なシステム全体のパラメータを設定します。
ステップ 2	基本サービスのアクティブ化 (43 ページ) 。	Cisco Unified Serviceability を使用するノードで、サービスをアクティブ化することができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	サービスパラメータの設定 (46 ページ) 。	クラスタ内のパブリッシャ ノードとサブスクライバ ノードのサービスパラメータを設定します。

エンタープライズパラメータを設定する

導入のエンタープライズレベルのパラメータを編集するには、次の手順を実行します。これを使用して、組織の最上位ドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名などのエンタープライズレベルの設定を設定できます。



- (注) Cisco ユニファイド CM Administration でパラメータを編集すると、新しい設定も Cisco ユニファイド CM、IM およびプレゼンスの管理に反映されます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- [エンタープライズパラメータ (Enterprise parameters)] ウィンドウに、エンタープライズパラメータのリストが表示されます。
- ステップ 2** パラメータ設定を編集します。
- パラメータに関する説明を参照するには、GUI でパラメータ名をクリックします。一般的なエンタープライズパラメータの詳細については、「[よくある企業パラメータ \(37 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** [リセット(reset)] をクリックし、[OK] をクリックしてすべてのデバイスをリセットします。
- (注) ほとんどのパラメータでは、設定を保存した後にデバイスをリセットする必要があります。デバイスを登録している場合は、デバイスをリセットする前に、すべての設定変更を完了することをお勧めします。
- システム内のすべてのデバイスプールをリセットすることで、すべてのデバイスをリセットできます。

よくある企業パラメータ

次の表に、組織のトップレベルドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名など、エンタープライズ設定に使用される共通のエンタープライズパラメータを示します。詳細なリストを見

るには、Cisco Unified CM Administration の [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] メニューを使用します。

表 1: *Unified Communications Manager* の初期設定用の共通エンタープライズパラメータ

パラメータ名	説明
エンタープライズ パラメータ	
接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)	<p>クラスタ内の IP 電話がセカンダリ ノードに登録された場合に、このパラメータを使用して、プライマリ ノードが使用可能になった後、それがフォールバックして再登録される前に、IP 電話が待機する時間を設定します。このパラメータは、特定のセキュア Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータに対応するすべてのセキュアなデバイスに影響します。</p> <p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド</i>』を参照してください。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p> <p>変更内容を反映するには、すべてのサービスを再起動してください。</p>
CCMAdmin パラメータ	
依存性レコードを有効化 (Enable Dependency Records)	<p>このパラメータはトラブルシューティングに必要な依存関係の記録を表示します。初期システム設定の間、依存記録を表示することは有益であるかもしれない。</p> <p>依存関係記録の表示は、高い CPU 使用率のピークをもたらし、コール処理に影響を与える可能性がある。考えられるパフォーマンス問題を回避するために、システム設定の完了後は、このパラメータを無効にします。負荷の低い時間帯またはメンテナンス ウィンドウの間だけに依存関係レコードを表示することを推奨します。</p> <p>有効にすると、Unified Communications Manager を使用してほとんどの設定画面からアクセスできる [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[依存関係レコード (Dependency Records)] を選択できるようになります。</p> <p>デフォルト : False</p>
ユーザ データ サービス パラメータ	
すべてのユーザ検索を有効にする (Enable All User Search)	<p>名前、名前、またはディレクトリ番号が指定されていない場合、このパラメータは会社のディレクトリのすべてのユーザを検索することができます。このパラメータは、[Cisco CallManager セルフケア (Cisco CallManager Self Care)] (CCMUser) ウィンドウでのディレクトリ検索にも適用されます。</p> <p>デフォルト : True</p>

パラメータ名	説明
クラスタ全体のドメイン設定	
組織の最上位ドメイン (Organization Top Level Domain)	<p>このパラメータは、組織のトップレベルのドメインを定義します。 例：cisco.com</p> <p>最大長：255 文字</p> <p>許可された値は、大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル区切り記号として) の有効領域を使用します。ドメイン ラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.lom といったドメインは無効です。</p>
クラスタの完全修飾ドメイン名 (Cluster Fully Qualified Domain Name)	<p>このパラメータに、このクラスタの1つまたは複数の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を定義します。複数の FQDN はスペースで区切る必要があります。アスタリスク (*) を使用して、FQDN 内でワイルドカードを指定することができます。例：cluster-1.cisco.com *.cisco.com</p> <p>このパラメータのいずれかの FQDN に一致するホスト部分がある URL を含む要求 (SIP コールなど) は、クラスタと接続されたデバイスにルーティングされます。</p> <p>最大長：255 文字</p> <p>有効な値：FQDN または *ワイルドカードを使用した部分的な FQDN。大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル区切り記号として)。ドメイン ラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.lom といったドメインは無効です。</p>
IPv6	

パラメータ名	説明
IPv6の有効化 (Enable IPv6)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager が Internet Protocol Version 6 (IPv6) をネゴシエートできるかどうか、および電話で IPv6 機能をアダプタイズできるかどうかを決定します。</p> <p>このパラメータを有効化する前に、すべてのノードのプラットフォームも含め、他のすべてのネットワーク コンポーネントで IPv 6を有効にする必要があります。それ以外の場合、システムは引き続き IPv4 専用モードで稼動します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : False (IPv6 は無効です)</p> <p>IPv6パラメータの変更を有効にするには、以下のサービスと、IM and Presence Service クラスタ内の影響を受けるサービスを再起動する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager • Cisco IP Voice Media Streaming App • Cisco CTIManager • Cisco Certificate Authority Proxy Function
Cisco Syslog Agent	
リモート Syslog サーバ名 1 (Remote Syslog Server Name 1)	<p>リモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。サーバ名が指定されていない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。このパラメータは、ログ用に Syslog サーバを使用している場合にのみ必須です。</p> <p>最大長 : 255 文字</p> <p>許可された値:文字の大きさ、数字(0-9)、ハイフン、ポイントの有効なリモート Syslogサーバ名を使用します。</p> <p>別の Unified Communications Manager ノードを宛先として指定することはできません。</p>
Cisco Jabber	
ビデオとともにコールを開始しない (Never Start Call with Video)	<p>このパラメータは、ビデオ コールの開始時に、ビデオを送信するかどうかを決定します。すぐにビデオを送信せずにビデオ コールを開始するには、[True]を選択します。ビデオ コール中はいつでも、ビデオの送信開始を選択できます。</p> <p>このパラメータは、IM and Presence Service のどの設定よりも優先されます。False に設定すると、ビデオコールは IM and Presence Service で指定された設定に従って開始されます。</p> <p>デフォルト : False</p>

パラメータ名	説明
SSO および OAuth の設定	
IOS の SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)	<p>このパラメータは、制御された Mobile Device Manager (MDM) 導入環境で Cisco Jabber が IdP に対して証明書ベースの認証を実行できるようにする場合に必要です。</p> <p>[iOS向けSSOログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)]パラメータには次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser)] : このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は SSO 認証に組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン9より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。 • [ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)] : このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は、MDM 導入環境でアイデンティティプロバイダー (IdP) に対して証明書ベースの認証を実行するために、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用します。 <p>(注) 制御された MDM 導入環境である場合を除き、ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザを使用する場合ほどセキュアではないため、このオプションの設定は推奨しません。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>[デフォルト (Default)] : 組み込みブラウザ (WebView) を使用します。</p>

パラメータ名	説明
更新ログインフローを使用した OAuth (OAuth with Refresh Login Flow)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager に接続するときに、Cisco Jabber などのクライアントによって使用されるログインフローを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)] : このオプションを有効にすると、クライアントで OAuth ベースの高速なログインフローを使用してすばやく効率的にログインできるようになり、たとえばネットワークの変更などによってログインし直す際にユーザが入力する必要がなくなります。このオプションを使用するためには、Expressway や Unity Connection (更新ログインフローが有効化されている互換性のあるバージョン) など、Unified Communications ソリューションのその他のコンポーネントからのサポートが必要です。 • [無効 (Disabled)] : このオプションを有効化する場合、従来の動作のままとなり、旧バージョンの他のシステムコンポーネントとの互換性が保たれます。 <p>(注) Cisco Jabber を使用したモバイルおよびリモートアクセスの導入環境では、更新ログインフローで OAuth をサポートする、互換性のある Expressway バージョンでのみ、このパラメータを有効化することを推奨します。互換性のないバージョンは、Cisco Jabber の機能に影響する場合があります。サポートされているバージョンおよび設定要件については、特定の製品のドキュメントを参照してください。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルトでは無効になっています。</p>

パラメータ名	説明
RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)	<p>このパラメータは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 用に SAML SSO を有効化するために設定します。</p> <p>[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータには、次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [True] : このオプションを選択すると、RTMTは、SAML SSO ベースの IdP ログイン ウィンドウを表示します。 <p>(注) 新規インストール時には、[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータのデフォルト値は True になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [False] : このオプションを選択すると、RTMTは、基本認証のログイン ウィンドウを表示します。 <p>(注) [RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータがない Cisco Unified Communications Manager のバージョンからアップグレードする場合、新しいバージョンに表示されるこのパラメータのデフォルト値は False です。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルト : True。</p>

基本サービスのアクティブ化

クラスタ全体でサービスをアクティブ化するには、この手順を使用します。

パブリッシャ ノードとサブスクライバ ノードで推奨されるサービスの一覧については、次のトピックを参照してください。

- [パブリッシャ ノードに推奨するサービス \(44 ページ\)](#)
- [サブスクライバ ノード用の推奨サービス \(45 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2** ドロップダウン メニューから [サーバ (Server)] を選択して、[移動 (Go)] をクリックします。
サービスと現在のステータスが表示されます。

ステップ3 必要なサービスをアクティブ化または非アクティブ化します。

- サービスをアクティブ化するには、アクティブ化するサービスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- サービスを非アクティブ化するには、非アクティブ化するサービスの横にあるチェックボックスをオフにします。

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

サービスのアクティブ化が完了するには数分かかることがあります。ステータスの変更を確認するには、ページを更新します。

パブリッシャノードに推奨するサービス

次の表に、専用でない TFTP サーバを使用している場合に Unified Communications Manager パブリッシャノードに推奨されるサービスを示します。

表 2: 専用ではない TFTP サーバの導入環境に推奨するパブリッシャノードサービス

タイプ	サービス名
CM サービス	Cisco CallManager
	Cisco Unified Mobile Voice Access Service
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco Extended Functions
	シスコ クラスタ間検索サービス
	シスコ ロケーション帯域幅マネージャ
	Cisco TFTP
CTI サービス	Cisco IP Manager Assistant
	Cisco WebDialer Web Service
CDR サービス	Cisco SOAP - CDRonDemand Service
	Cisco CAR Web Service
データベースおよび管理者サービス	Cisco Bulk Provisioning サービス
	シスコソープ-顧客ニーズサービス
	Cisco URL Web Service

タイプ	サービス名
パフォーマンスおよび モニタリングサービス	Cisco Serviceability Reporter
	Cisco Certificate Authority Proxy Function
ディレクトリサービス	Cisco DirSync



ヒント 以下のサービスを使用しない場合、安全にそれらを無効にできます。

- Cisco Messaging Interface
- Cisco DHCP Monitor サービス
- Cisco TAPS サービス
- Cisco Directory Number Alias Sync
- Cisco Dialed Number Analyzer Server
- Cisco Dialed Number Analyzer
- Self Provisioning IVR

サブスクリバード用の推奨サービス

次の表に、専用でない TFTP サーバを使用している場合に、Unified Communications Manager サブスクリバードに推奨されるサービスを示します。



ヒント 他のサービスを使用する予定がない場合は、そのサービスを安全に無効にすることができます。

表 3: 専用の TFTP サーバ導入に推奨されるサブスクリバードサービス

タイプ	サービス名
CM サービス	Cisco CallManager
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco Extension Mobility
	Cisco Extended Functions
	Cisco TFTP

クラスタ内の各 IM and Presence Service ノードで、次のサービスをアクティブ化する必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco XCP Authentication Service

サービスパラメータの設定

ノードのサービスパラメータは、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して設定できます。クラスタ全体としてマークされているサービスパラメータは、クラスタ内の全ノードに影響を及ぼします。



注意 サービスパラメータの一部の変更は、システム障害の原因になることがあります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合と、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除いて、サービスパラメータに変更を加えないようにしてください。

始める前に

- Unified Communications Manager ノードが設定されていることを確認します。
- サービスがアクティブであることを確認します。詳細については、「[基本サービスのアクティブ化 \(43 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストのノードを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストのサービスを選択します。

ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの ? アイコンをクリックして、サービスパラメータのリストと説明を表示します。

ステップ 4 [詳細設定 (Advanced)] をクリックして、すべてのパラメータのリストを表示します。

ステップ 5 サービスパラメータを変更し、[保存 (Save)] をクリックします。

ウィンドウが更新され、サービスパラメータ値が更新されます。

[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが、[パラメータ値 (Parameter Value)] フィールドの後に表示される推奨値に更新されます。パラメー

タに提案値が設定されていない場合は、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしてもサービス パラメータ値は変更されません。

クラスタ全体のサービス パラメータ設定の表示

Cisco Unified Communications Manager Assistant および Cisco Unified Serviceability を使用して、クラスタ内のノードのサービスステータスを表示できます。サービスパラメータの設定とパラメータの説明を表示するには、Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用してノードのサービスを表示し、サービスパラメータ設定を確認するには、次の手順を実行します。

- a) [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- b) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスのノードを選択します。
- c) [サービス (Service)] ドロップダウン ボックスのサービスを選択します。

選択したノードに適用されるすべてのパラメータが表示されます。[クラスタ全体のパラメータ (一般) (Clusterwide Parameters (General))] セクションに表示されるパラメータは、クラスタ内の全ノードに適用されます。

- d) [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの (?) アイコンをクリックし、サービス パラメータと説明のリストを表示します。

ステップ 2 クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスのサービス パラメータを表示するには、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスの [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。

[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを開くことができます。

ステップ 3 クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスの同期外れサービス パラメータを表示するには、[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスの [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。

[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを開くことができます。



第 4 章

IPv6 スタックの設定

- [IPv6 スタックの概要 \(49 ページ\)](#)
- [デュアルスタック IPv6 の前提条件 \(50 ページ\)](#)
- [IPv6 の設定タスクフロー \(50 ページ\)](#)

IPv6 スタックの概要

IPv6 は、IPv4 アドレスが使用する 32 ビットの代わりに 128 ビットを使用する拡張 IP アドレス指定プロトコルです。IPv6 は IPv4 よりもはるかに広い範囲の IP アドレスを提供しています。これにより、IP アドレスが枯渇するリスクが大幅に軽減されます。これは IPv4 アドレスを使用する主な懸念事項の中にあります。

デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は IPv4 アドレス指定を使用するように設定されています。ただし、IPv6 スタックをサポートするようにシステムを構成して、IPv6 のみのエンドポイントを使用して SIP ネットワークを展開できるようにすることもできます。IP アドレスが枯渇するリスクを減らすことに加えて、IPv6 は次の利点をいくつか提供しています。

- 状態なしアドレス自動設定
- 単純化されたマルチキャスト機能
- ルーティングの簡素化とルーティングテーブルの必要性の最小化
- サービスの最適化
- モビリティの適切な処理
- より優れたプライバシーと安全性

システムレベルIPv6

IPv6 ネットワークを展開していても、Cisco Unified Communications Manager サーバは内部通信で IPv4 を使用することがあります。これは、内部のシステムコンポーネントとアプリケーションの一部が IPv4 のみをサポートしているためです。その結果、すべてのデバイスが IPv6 専用

モードで動作しても、Cisco Unified Communications Manager サーバはいくつかの内部通信で IPv4 を使用する必要があるため、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが指定されます。



- (注) SIP デバイスを IPv4 と IPv6 の両方のネットワークで動作させる必要がある場合は、2つのスタックを設定する必要があります。この章のタスクを実行して Cisco Unified Communications Manager で IPv6 スタックを有効にする場合、2つのスタックの SIP ネットワークも有効にする必要があります。「[2つのスタック \(IPv4 および IPv6\) の概要 \(57 ページ\)](#)」を参照してください。

デュアルスタック IPv6 の前提条件

デュアルスタック Cisco Unified Communications Manager を設定する前に、IPv6 をサポートするように次のネットワークサーバとデバイスを設定する必要があります。詳細については、デバイスのユーザドキュメントを参照してください。

- IPv6 がサポートされている DHCP サーバと DNS サーバをプロビジョニングします。シスコネットワーク登録サーバは、DHCP と DNS に対する IPv6 をサポートする。
- IPv6 がサポートされている場合は、ゲートウェイ、ルータ、MTP などのネットワークデバイス用の IOS を設定します。
- IPv6 を実行するように TFTP サーバを設定します。

IPv6 の設定タスク フロー

システムのデュアルスタック IPv6 を設定するには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	オペレーティングシステムの IPv6 の設定 (51 ページ)	IPv6 アドレスをサポートするオペレーティングシステムを設定します。
ステップ 2	IPv6 向けのサーバ設定 (52 ページ)	IPv6 アドレスを使用して、クラスタのサーバを設定します。
ステップ 3	IPv6 の有効化 (52 ページ)	IPv6 のシステムを有効にするエンタプライズパラメータを設定します。
ステップ 4	次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> • クラスタの IP アドレッシング優先順位の設定 (53 ページ) 	クラスタ全体の IP アドレッシング設定を割り当てるために、エンタプライズパラメータを設定することができます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> デバイス用 IP アドレッシング モードの優先順位の設定 (53 ページ) 	<p>エンドポイントのグループごとに異なる設定を割り当てる必要がある場合は、共通デバイス設定でアドレッシング設定を入力します。</p> <p>IP アドレッシング方式が推奨されるクラスタ設定を設定します。</p>
ステップ 5	サービスの再起動 (55 ページ)	<p>次のネットワーク サービスを再起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco CallManager Cisco CTIManager Cisco IP Voice Media Streaming App Cisco Certificate Authority Proxy Function

次のタスク

デュアルスタックのトランクを設定する方法については、SIP トランクの設定の章を参照してください。

SIP デバイスのデュアルスタックを設定する方法については、設定する SIP デバイスのセクションを参照してください。

オペレーティングシステムの IPv6 の設定

Cisco Unified OS の管理でイーサネット IPv6 を設定するには、以下の手順を実行します。



(注) IPv6 DHCP サーバの設定は Windows でサポートされていないため、Cisco IOS IPv6 DHCP サーバを使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified OS の管理で **設定 > IPv6 > イーサネット** を選択します。

ステップ 2 [Enable IPv6] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 **アドレス送信元** ドロップダウンリストボックスで、システムの IPv6 アドレス取得方法を設定します。

- **ルーターアドバタイズ:** システムは、ステートレス自動構成を使用して IPv6 アドレスを取得します。

- **DHCP**: システムは、DHCP サーバから IPv6 アドレスを取得します。
- **手動入力**: IPv6 アドレスを手動で入力する場合は、このオプションを選択します。

ステップ 4 IPv6 アドレスの取得方法に手動入力を設定する場合は、以下のフィールドに入力します。

- **IPv6 アドレス**を入力します。たとえば、**fd62:6:96:21e:bff:fecc:2e3a**と入力します。
- **IPv6 マスク**を入力します。たとえば、**64**と入力します。

ステップ 5 **再起動して更新する** チェックボックスをオンにして、保存後に確実にシステムが再起動するようにします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

IPv6 向けのサーバ設定

IPv6 アドレスを使用して、クラスタのサーバを設定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択します。

ステップ 2 [IPv6 アドレス (デュアル IPv4/IPv6 の場合) (IPv6 Address (for dual IPv4/IPv6))] フィールドに、次のいずれかの値を入力します。

- DNS 設定済みで、DNS サーバが IPv6 対応の場合は、サーバのホスト名を入力します。
- それ以外の場合は、非リンク ローカル IPv6 アドレスを入力します。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 各クラスタ ノードで上記の手順を繰り返します。

IPv6 の有効化

システムで IPv6 サポートを設定する場合、システムで IPv6 デバイスをサポートできるようにする必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 [IPv6 を有効化 (Enable IPv6)] エンタープライズパラメータの値を [True (True)] に設定します。

ステップ3 [保存 (Save)]をクリックします。

次のタスク

クラスタ内デバイス用の IP アドレッシング設定を指定します。クラスタ全体のエンタープライズパラメータを使用して設定を適用するか、共通デバイス設定を使用して、その設定を使用するデバイスのグループに設定を適用することができます。

- [クラスタの IP アドレッシング優先順位の設定 \(53 ページ\)](#)
- [デバイス用 IP アドレッシング モードの優先順位の設定 \(53 ページ\)](#)

クラスタの IP アドレッシング優先順位の設定

デュアルスタック IPv6 でクラスタ全体の IP アドレッシング優先順位を設定するには、この手順でエンタープライズパラメータを使用します。これらの設定は、これよりも優先される共通デバイス設定が特定のトランクまたはデバイスに対して適用される場合を除き、すべての SIP トランクおよびデバイスに適用されます。



(注) 共通デバイス設定での IP アドレス優先順位は、共通デバイス設定を使用するデバイスに対するクラスタ全体のエンタープライズパラメータの設定よりも優先されます。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)]>[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)]を選択します。
- ステップ2 [メディア用のIPアドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Media)]のエンタープライズパラメータの値を [IPv4 (IPv4)] または [IPv6 (IPv6)] に設定します。
- ステップ3 [シグナリング用のIPアドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Media)]のエンタープライズパラメータの値を [IPv4 (IPv4)] または [IPv6 (IPv6)] に設定します。
- ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

デバイス用 IP アドレッシング モードの優先順位の設定

共通デバイス設定で優先順位を設定することで、個々のデバイスに IP アドレッシングモードの優先順位を設定できます。トランク、電話、会議ブリッジ、トランスコーダなど、IPv6 アドレッシングをサポートする SIP デバイスおよび SCCP デバイスには、共通デバイス設定を適用できます。



(注) 共通デバイス設定での IP アドレス優先順位は、共通デバイス設定を使用するデバイスに対するクラスタ全体のエンタープライズパラメータの設定よりも優先されます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** SIP トランク、SIP 電話または SCCP 電話の場合、[IPアドレッシングモード (IP Addressing Mode)] ドロップダウンリストの値を選択します。
- [IPv4 のみ (IPv4 Only)] — デバイスはメディアやシグナリングに IPv4 アドレスだけを使用します。
 - [IPv6 のみ (IPv6 Only)] — デバイスはメディアやシグナリングに IPv6 アドレスだけを使用します。
 - [IPv4 および IPv6 (IPv4 and IPv6)] — (デフォルト) デバイスはデュアルスタックデバイスで、利用できる IP アドレスのタイプを使用します。両方の IP アドレスのタイプがデバイスに設定されている場合、デバイスのシグナリングには、[シグナリグ用 IP アドレッシングモード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定を使用し、メディアデバイスには、[メディア用 IP アドレッシングモード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Media)] エンタープライズパラメータの設定を使用します。
- ステップ 4** 前のステップで IPv6 を設定した場合は、[シグナリング用の IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode for Signaling)] ドロップダウンリストで IP アドレッシング設定を指定します。
- [IPv4 (IPv4)] — デュアルスタックデバイスでシグナリングに IPv4 アドレスを優先して使用します。
 - [IPv6 (IPv6)] — デュアルスタックデバイスでシグナリングに IPv6 アドレスを優先して使用します。
 - [システム デフォルトを使用 (Use System Default)] — デバイスは、[シグナリグ用 IP アドレッシングモード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] エンタープライズパラメータの設定を使用します。
- ステップ 5** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

IPv6 設定が完了したら、[サービスの再起動 \(55 ページ\)](#) を実行します。

SIP デバイスが IPv4 と IPv6 の両方のネットワークを同時にサポートするには、デバイス レベルで両方のスタックをサポートするようにシステムを設定する必要があります。詳細については、「[2つのスタック \(IPv4 および IPv6\) の概要 \(57 ページ\)](#)」を参照してください。

サービスの再起動

システムの IPv6 設定したら、基本的なサービスを再起動します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability にログインして、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 2** 次のそれぞれのサービスに対応するチェックボックスをオンにします。
- Cisco CallManager
 - Cisco CTIManager
 - Cisco Certificate Authority Proxy Function
 - Cisco IP Voice Media Streaming App
- ステップ 3** [再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
-



第 5 章

2つのスタック（IPv4 と IPv6）の設定

- [2つのスタック（IPv4 および IPv6）の概要（57 ページ）](#)
- [2つのスタック（IPv4 と IPv6）の前提条件（58 ページ）](#)
- [2つのスタック（IPv4 と IPv6）の設定タスク フロー（58 ページ）](#)

2つのスタック（IPv4 および IPv6）の概要

SIP ネットワークが IPv4 と IPv6 の両方のスタックに設定されている場合、SIP デバイスは次の各シナリオのコールを処理できます。

- コール内のすべてのデバイスが IPv4 のみをサポートします。
- コールに含まれるすべてのデバイスは IPv6 のみに対応しています。
- コール内のすべてのデバイスは、IPv4 と IPv6 の両方のスタックをサポートしています。このシナリオでは、システムはシグナリング イベントの [シグナリングの IP アドレッシングモード設定（IP Addressing Mode Preference for Signaling）] 設定とメディア イベントの [メディアの IP アドレッシングモード設定（IP Addressing Mode Preference for Media）] エンタープライズ パラメータを設定することで、IP アドレスのタイプを判別します。
- 1つのデバイスで IPv4 のみをサポートし、他のデバイスで IPv6 のみをサポートしている。このシナリオでは、Unified Communications Manager は、2つのアドレッシングタイプ間でシグナリングを変換するために、コールパスに MTP を挿入します。

SIP デバイスとトランクの場合は、代替ネットワーク アドレス タイプ（ANAT）を設定すると、2つのスタック サポートを有効にできます。ANAT が SIP デバイスまたはトランクに適用されると、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが使用可能な場合は、デバイスまたはトランクが送信する SIP シグナリングに両方のアドレスが含まれます。ANAT により、エンドポイントは IPv4 専用と IPv6 専用の両方のネットワークでシームレスに相互運用できます。

2つのスタック (IPv4 と IPv6) の前提条件

IPv6 スタックをサポートするには、まず Cisco Unified Communications Manager を設定する必要があります (デフォルトでは IPv4 が有効になっています)。これには、メディアとシグナリングの IP アドレッシング設定の設定も含まれます。設定の詳細については、「[IPv6 の設定タスクフロー \(50 ページ\)](#)」を参照してください。

2つのスタック (IPv4 と IPv6) の設定タスクフロー

IPv4 と IPv6 の両方のアドレス指定を同時にサポートするように SIP デバイスとトランクを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SIP プロファイル用 ANAT の設定 (58 ページ)	IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートする SIP プロファイルを設定します。
ステップ 2	SIP 電話への ANAT の適用 (59 ページ)	ANAT 対応 SIP プロファイルを SIP 電話に適用します。これにより、SIP phone は IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートできます。
ステップ 3	SIP トランクへの ANAT の適用 (59 ページ)	ANAT 対応 SIP プロファイルを SIP トランクに適用します。これにより、トランクが IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートできるようになります。
ステップ 4	サービスの再起動 (60 ページ)	IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートするようにシステムを設定した後、重要なサービスを再起動します。

SIP プロファイル用 ANAT の設定

この手順を使用すると、代替ネットワークアドレスタイプ (ANAT) をサポートする SIP プロファイルを設定できます。このプロファイルを使用する SIP デバイスおよびトランクは、IPv4 専用と IPv6 専用のネットワーク間でシームレスに相互運用できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- 新しい SIP プロファイルを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存の SIP プロファイルを選択します。
- ステップ 3** [ANATの有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスを選択します。
- ステップ 4** [SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- SIP プロファイル SIP 電話または SIP トランクに適用して、これらのデバイスが IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートできるようにする必要があります。
-

SIP 電話への ANAT の適用

この手順を使用すると、SIP 電話に代替ネットワーク アドレス タイプ (ANAT) 設定を適用できます。ANAT が有効な場合は、電話は IPv4 専用と IPv6 専用の両方のネットワークと通信できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 既存の電話機を選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [SIP プロファイル (SIP Profile)] ドロップダウン リスト ボックスから、ANAT を有効にした SIP プロファイルを選択します。
- ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

SIP トランクへの ANAT の適用

次の手順を使用して、オルタナートネットワークアドレスタイプ設定を SIP トランクに適用します。これにより、SIP トランクが IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートできるようになります。



(注) SIP トランク設定オプションの詳細については、[SIP トランクの設定 \(102ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]** を選択します。
- ステップ 2** **[検索 (Find)]** をクリックして、既存の SIP トランクを選択します。
- ステップ 3** **[SIPプロファイル (SIP Profile)]** ドロップダウンリスト ボックスから、ANAT を有効にした SIP プロファイルを選択します。
- ステップ 4** トランク設定ウィンドウの残りのフィールドをすべて入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** **[保存 (Save)]** をクリックします。
-

サービスの再起動

IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートするようにシステムを設定した後、重要なサービスを再起動します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability にログインして、**[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)]** を選択します。
- ステップ 2** 次のそれぞれのサービスに対応するチェックボックスをオンにします。
- Cisco CallManager
 - Cisco CTIManager
 - Cisco Certificate Authority Proxy Function
 - Cisco IP Voice Media Streaming App
- ステップ 3** **[再起動 (Restart)]** をクリックします。
- ステップ 4** **[OK]** をクリックします。
-



第 6 章

基本的なセキュリティの設定

- [セキュリティの設定について](#) (61 ページ)
- [セキュリティ設定のタスク](#) (61 ページ)

セキュリティの設定について

ここでは、Cisco Unified Communications Manager を設定するために実行する必要がある基本的なセキュリティ設定タスクについて説明します。

セキュリティ設定のタスク

基本的なセキュリティ設定をセットアップするには、次のタスクを実行します。

- [クラスタの混合モードの有効化](#) (61 ページ)
- [証明書のダウンロード](#) (62 ページ)
- [証明書署名要求の生成](#) (62 ページ)
- [証明書署名要求のダウンロード](#) (63 ページ)
- [サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード](#) (63 ページ)
- [最小 TLS バージョンの設定](#) (65 ページ)
- [TLS 暗号化の設定](#) (65 ページ)

クラスタの混合モードの有効化

クラスタ内で混合モードを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 パブリッシュャ ノードでコマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ 2 `utils ctl set-cluster mixed-mode CLI` コマンドを実行します。

(注) Communications Manager が Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録されていること、およびスマート アカウントまたはバーチャルアカウントから受信した登録トークンで輸出制御機能の許可が有効になっており、そのトークンがこのクラスタに登録されていることを確認します。

証明書のダウンロード

CSR 要求を送信する場合は、ダウンロード証明書タスクを使用して証明書のコピーを作成するか、証明書をアップロードします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified OS Administration] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

ステップ 2 検索情報を指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 必要なファイル名を選択し、[ダウンロード (Download)] をクリックします。

証明書署名要求の生成

証明書署名要求 (CSR) を生成します。これは、公開キー、組織名、共通名、地域、および国などの証明書申請情報を含む暗号化されたテキストのブロックです。認証局はこの CSR を使用して、ご使用のシステムの信頼できる証明書を生成します。



(注) 新しい CSR を生成すると、既存の CSR は上書きされます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified OS の管理から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

ステップ 2 [CSR の作成 (Generate CSR)] をクリックします。

ステップ3 [証明書署名要求の作成 (Generate Certificate Signing Request)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [生成 (Generate)] をクリックします。

証明書署名要求のダウンロード

CSR を生成した後にダウンロードし、認証局に提出する準備をします。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS Administration] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

ステップ2 [CSR のダウンロード (Download CSR)] をクリックします。

ステップ3 [証明書の用途 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで、証明書名を選択します。

ステップ4 [CSR のダウンロード (Download CSR)] をクリックします。

ステップ5 (任意) プロンプトが表示されたら、[保存 (Save)] をクリックします。

サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード

CA ルート証明書を CAPF 信頼ストアと Unified Communications Manager 信頼ストアにアップロードし、外部 CA を使用して LSC 証明書に署名します。



(注) LSC の署名にサードパーティ CA を使用しない場合は、このタスクをスキップします。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS Administration] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

ステップ2 [証明書/証明書チェーンのアップロード (Upload Certificate/Certificate chain)] をクリックします。

ステップ3 [証明書の目的 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで、[CAPF 信頼 (CAPF-trust)] を選択します。

ステップ4 証明書の説明を [説明 (Description)] に入力します。たとえば、外部 LSC 署名 CA の証明書のよう指定します。

- ステップ 5** [参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動してから、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ 6** [アップロード (Upload)] をクリックします。
- ステップ 7** このタスクを繰り返し、[証明書の用途 (Certificate Purpose)] を [CallManager 信頼 (callmanager-trust)] として証明書をアップロードします。

TLS の前提条件

最低 TLS バージョンを設定する前に、ネットワーク デバイスとアプリケーションの両方でその TLS バージョンがサポートされていることを確認します。また、それらが、ユニファイド コミュニケーションマネージャIM およびプレゼンスサービス で設定する TLS で有効になっていることを確認します。次の製品のいずれかが展開されているなら、最低限の TLS 要件を満たしていることを確認します。この要件を満たしていない場合は、それらの製品をアップグレードします。

- Skinny Client Control Protocol (SCCP) Conference Bridge
- トランスコーダ (Transcoder)
- ハードウェア メディア ターミネーション ポイント (MTP)
- SIP ゲートウェイ
- Cisco Prime Collaboration Assurance
- Cisco Prime Collaboration Provisioning
- Cisco Prime Collaboration Deployment
- Cisco Unified Border Element (CUBE)
- Cisco Expressway
- Cisco TelePresence Conductor

会議ブリッジ、メディア ターミネーション ポイント (MTP) 、Xcoder、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning をアップグレードすることはできません。



- (注) ユニファイド コミュニケーション マネージャの旧リリースからアップグレードする場合は、上位のバージョンの TLS を設定する前に、すべてのデバイスとアプリケーションでそのバージョンがサポートされていることを確認します。たとえば、ユニファイド コミュニケーション マネージャIM およびプレゼンスサービスのリリース 9.x でサポートされるのは、TLS 1.0 のみです。

最小 TLS バージョンの設定

デフォルトでは、Unified Communications Manager において、最小 TLS バージョンとして 1.0 がサポートされています。Unified Communications Manager および IM and Presence Service の最低サポート TLS バージョンを 1.1 または 1.2 などの上位バージョンにリセットするには、次の手順を使用します。

設定対象の TLS バージョンが、ネットワーク内のデバイスとアプリケーションでサポートされていることを確認します。詳細については、「[TLS の前提条件 \(64 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 コマンドラインインターフェイスにログインします。
 - ステップ 2 既存の TLS のバージョンを確認するには、**show tls min-version** CLI コマンドを実行します。
 - ステップ 3 **set tls min-version <minimum>** CLI コマンドを実行します。ここで、<minimum> は TLS のバージョンを示します。
たとえば、最低 TLS バージョンを 1.2 に設定するには、**set tls min-version 1.2** を実行します。
 - ステップ 4 すべての Unified Communications Manager と IM and Presence Service クラスタノードで、手順 3 を実行します。
-

TLS 暗号化の設定

SIP インターフェイスで使用可能な最強の暗号方式を選択することで、弱い暗号を無効にすることができます。TLS 接続を確立するために Unified Communications Manager でサポートされる暗号化を設定するには、この手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2 [セキュリティパラメータ (Security Parameters)] で、[TLS 暗号化 (TLS Ciphers)] エンタープライズパラメータの値を設定します。使用可能なオプションについては、エンタープライズパラメータのオンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
(注) すべての TLS 暗号は、クライアントの暗号設定に基づいてネゴシエートされます。
-



第 7 章

シングルサインオンの設定

- [SAML SSO ソリューションについて \(67 ページ\)](#)
- [SAML SSO 設定タスク フロー \(68 ページ\)](#)

SAML SSO ソリューションについて



重要 Cisco Jabber を Cisco Webex Meeting Server と共に展開する場合、Unified Communications Manager と Webex Meeting Server は同じドメインに存在している必要があります。

SAML は XML ベースのオープン規格のデータ形式であり、いずれかのアプリケーションにサインインした後に、管理者は定義された一連のシスコのコラボレーションアプリケーションにシームレスにアクセスできます。SAML では、信頼できるビジネス パートナー間で、セキュリティに関連した情報交換を記述します。これは、サービス プロバイダ (例 : Unified Communications Manager) がユーザの認証に使用する認証プロトコルです。SAML により、ID プロバイダー (IdP) とサービス プロバイダーの間で、セキュリティ認証情報を交換できます。

SAML SSO は SAML 2.0 プロトコルを使用して、シスコのコラボレーション ソリューションのドメイン間と製品間で、シングルサインオンを実現しています。SAML 2.0 は、Cisco アプリケーション全体で SSO を有効にし、Cisco アプリケーションと IdP 間でフェデレーションを有効にします。SAML 2.0 では、高度なセキュリティ レベルを維持しながら、シスコの管理ユーザが安全なウェブドメインにアクセスして、IdP とサービス プロバイダーの間でユーザ認証と承認データを交換できます。この機能が安全なメカニズムを提供していることで、さまざまなアプリケーションにわたり、共通の資格情報や関連情報を使用します。

SAML SSO の管理者権限は、シスコのコラボレーション アプリケーションでローカルに設定されたロールベース アクセス コントロール (RBAC) に基づき認証されます。

SAML SSO は、IdP とサービス プロバイダーの間のプロビジョニングプロセスの一部として、メタデータと証明書を交換することで信頼の輪 (CoT) を確立します。サービス プロバイダーは IdP のユーザ情報を信頼しており、さまざまなサービスやアプリケーションにアクセスできるようにします。



重要 サービスプロバイダーが認証にかかわることはありません。SAML 2.0 では、サービスプロバイダーではなく、IdP に認証を委任します。

クライアントは IdP に対する認証を行い、IdP はクライアントにアサーションを与えます。クライアントはサービスプロバイダーにアサーションを示します。CoT が確立されているため、サービスプロバイダーはアサーションを信頼し、クライアントにアクセス権を与えます。

SAML SSO 設定タスク フロー

SAML SSO 用にユニファイドコミュニケーションマネージャを設定するには、次のタスクを実行します。

始める前に

SAML SSO の設定では、ユニファイドコミュニケーションマネージャを設定すると同時にアイデンティティプロバイダー (IdP) を設定する必要があります。IdP 固有の設定例については、以下を参照してください。

- [Active Directory フェデレーション サービス](#)
- [Okta](#)
- [Open Access Manager](#)
- [PingFederate](#)



(注) 上記のリンクは単なる例です。公式なマニュアルについては、IdP のマニュアルを参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Unified Communications Manager からの UC メタデータのエクスポート (69 ページ)	信頼関係を作成するには、ユニファイドコミュニケーションマネージャと IdP の間でメタデータファイルを交換する必要があります。
ステップ 2	ID プロバイダ (IdP) での SAML SSO の設定	以下のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 信頼関係の輪を完了するために、ユニファイドコミュニケーションマネージャからエクスポートされた

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>UC メタデータファイルをアップロードします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IdP での SAML SSO の設定 • IdP メタデータ ファイルをエクスポートします。このファイルは、ユニファイドコミュニケーションマネージャにインポートされます。
ステップ 3	Cisco Unified Communications Manager での SAML SSO の有効化	IdP メタデータをインポートし、ユニファイドコミュニケーションマネージャで SAML SSO を有効にします。
ステップ 4	Cisco Tomcat サービスの再起動 (72 ページ)	SSO の有効化の前後には、SSO が有効になっているすべてのクラスタノードで Cisco tomcat サービスを再起動する必要があります。
ステップ 5	SAML SSO 設定の検証 (73 ページ)	SAML SSO が正常に設定されていることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager からの UC メタデータのエクスポート

サービスプロバイダー (ユニファイドコミュニケーションマネージャ) から UC メタデータファイルをエクスポートするには、次の手順を使用します。信頼関係の輪を構築するために、メタデータファイルが Id プロバイダー (IdP) にインポートされます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] を選択します。

ステップ 2 [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] ウィンドウの [SSO モード (SSO Mode)] フィールドで、以下のいずれかのオプションを選択します。

- [クラスタ全体 (Cluster wide)] : クラスタで 1 つの SAML 合意。

(注) このオプションを選択する場合は、クラスタ内のすべてのノードの tomcat サーバの証明書が同じであることを確認します。これは、マルチサーバ SAN 証明書です。

- ノードごと: 各ノードには個別の SAML 契約があります。

ステップ 3 [SAML シングルサインオン (SAML Single sign-on)] ウィンドウで、[証明書 (Certificate)] フィールドのオプションのいずれかを選択します。

- システムで生成された自己署名証明書の使用
- tomcat 証明書の使用

ステップ 4 [すべてのメタデータのエクスポート (Export All Metadata)] をクリックして、メタデータファイルをエクスポートします。

(注) ステップ3で[クラスタ全体 (cluster wide)] オプションを選択すると、クラスタのダウンロード用に1つのメタデータ XML ファイルが表示されます。ただし、[Per node] オプションを選択した場合は、クラスタの各ノードに対して1つのメタデータ XML ファイルがダウンロード対象として表示されます。

次のタスク

IdP で次の作業を完了します。

- ユニファイドコミュニケーションマネージャからエクスポートされた UC メタデータファイルをアップロードします。
- IdP での SAML SSO の設定
- IdP メタデータ ファイルをエクスポートします。このファイルは、信頼関係の輪を完了するために、ユニファイドコミュニケーションマネージャにインポートされます。

Cisco Unified Communications Manager での SAML SSO の有効化

サービスプロバイダー (ユニファイドコミュニケーションマネージャ) で SAML SSO を有効にするには、次の手順を実行します。このプロセスには、IdP メタデータのユニファイドコミュニケーションマネージャサーバへのインポートが含まれます。



重要 シスコでは、SAML SSO を有効または無効にした後に、Cisco tomcat サービスを再起動することを推奨しています。



(注) SAML SSO を有効化または無効化した後は、Cisco CallManager Admin、Unified CM IM and Presence Administration、Cisco CallManager Serviceability、および Unified IM and Presence Serviceability サービスが再起動されます。

始める前に

この手順を完了する前に、次のことを確認してください。

- IdP からエクスポートされたメタデータファイルが必要です。
- エンドユーザデータが Unified Communications Manager データベースに同期されていることを確認します。
- Unified Communications Manager IM and Presence Cisco Sync Agent サービスが、正常にデータの同期を完了していることを確認します。[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] でこの検査のステータスを確認するには、[診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。データ同期が正常に完了した場合は [Sync Agent が関連データ (デバイス、ユーザ、ライセンス情報など) を使用して同期したことを確認する (Verify Sync Agent has sync'ed over relevant data (e.g. devices, users, licensing information))] に [テスト合格 (Test Passed)] という結果が表示されます
- Cisco Unified Administration へのアクセスを可能にするために、Standard CCM Super Users グループに少なくとも 1 人の LDAP 同期済みユーザが追加されている。エンドユーザデータの同期と LDAP 同期済みユーザのグループへの追加の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「システムの設定」および「エンドユーザの設定」のセクションを参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] を選択します。
- ステップ 2** [SAML SSO の有効化 (Enable SAML SSO)] をクリックして、[続行 (Continue)] をクリックします。
すべてのサーバ接続が再起動されることを伝える警告メッセージが示されます。
- ステップ 3** クラスタ全体の SSO モードを設定している場合は、[マルチサーバ Tomcat 証明書をテストする (Test for Multi server tomcat certificate)] ボタンをクリックします。それ以外の場合は、このステップを省略できます。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
ダイアログボックスが開き、ここで IdP メタデータをインポートできます。IdP とサーバの間の信頼関係を設定するには、IdP から信頼メタデータ ファイルを取得して、それをすべてのサーバにインポートする必要があります。
- ステップ 5** IdP からエクスポートしたメタデータファイルをインポートします。
 - a) [参照 (Browse)] をクリックして、エクスポートした IdP メタデータファイルを見つけて選択します。
 - b) [IdP メタデータのインポート (Import IdP Metadata)] をクリックします。
 - c) [次へ (Next)] をクリックします。
 - d) [サーバメタデータをダウンロードして IdP にインストール (Download Server Metadata and Install on IdP)] 画面で [次へ (Next)] をクリックします。

(注) [次へ (Next)] ボタンは、IdP メタデータ ファイルがクラスタ内の 1 つ以上のノードに正常にインポートされた場合にのみ有効になります。

ステップ 6 接続をテストし、設定を完了します。

- a) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[権限情報 (Permissions Information)] リストボックスから、LDAP で同期され、「標準 CCM スーパーユーザ」としての権限を持つユーザを選択します。
- b) [テストを実行 (Run Test)] をクリックします。

IdP ログイン ウィンドウが表示されます。

(注) テストが正常に完了するまでは、SAML SSO を有効化できません。

- c) 有効なユーザ名とパスワードを入力します。

認証が成功すると、次のメッセージが表示されます。

SSO テストに成功しました

このメッセージが表示されたら、ブラウザ ウィンドウを閉じます。

認証に失敗するか、認証に 60 秒以上かかる場合は、「ログインに失敗しました (Login Failed)」というメッセージが IdP ログイン ウィンドウに表示されます。次のメッセージが [SAML シングル サインオン (SAML Single Sign-On)] ウィンドウに表示されます。

SSO Metadata Test Timed Out

IdP へのログインを再度試行するには、別のユーザを選択して別のテストを実行します。

- d) [完了 (Finish)] をクリックして、SAML SSO の設定を完了します。

SAML SSO が有効になり、SAML SSO に参加しているすべての Web アプリケーションが再起動されます。Web アプリケーションが再起動するまでに 1 ~ 2 分かかることがあります。

Cisco Tomcat サービスの再起動

SAML シングルサインオンの有効化または無効化の前後には、シングルサインオンが実行されているすべての Cisco Unified CM クラスタノードと IM and Presence Service クラスタノードで、Cisco Tomcat サービスを再起動します。

手順

ステップ 1 コマンドライン インターフェイスにログインします。

ステップ 2 `utils service restart Cisco Tomcat` CLI コマンドを実行します。

ステップ3 シングルサインオンが有効化されているすべてのクラスタ ノードで、この手順を繰り返します。

SAML SSO 設定の検証

サービスプロバイダー (ユニファイドコミュニケーションマネージャ) と IdP の両方で SAML SSOを設定した後、ユニファイドコミュニケーションマネージャで次の手順を使用して、設定が機能していることを確認します。

始める前に

次の内容を確認します。

- Unified CM Administration の [SAMLシングルサインオンの設定 (SAML Single Sign-On Configuration)] ウィンドウに、**IdP メタデータ信頼**ファイルが正常にインポートされたことが表示されます。
- サービスプロバイダーのメタデータファイルは、IdP にインストールされます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスで、[システム (System)] > [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] を選択して [SAMLシングルサインオンの設定 (SAML Single Sign-On Configuration)] ウィンドウを開き、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ2 [有効な管理者のユーザ名 (Valid Administrator Usernames)] 領域から管理ユーザを選択し、[SSO テストの実行... (Run SSO Test...)] ボタンをクリックします。

(注) テスト用のユーザには管理者権限が必要であり、IdP サーバではユーザとして追加されています。[Valid Administrator Usernames (有効な管理者のユーザ名)] 領域には、テストの実行を指示できるユーザのリストが表示されます。

テストが成功すると、SAML SSO が正常に設定されます。



第 8 章

デバイス プールのコア設定の設定

- [デバイスプールの概要 \(75 ページ\)](#)
- [デバイス プールの前提条件 \(82 ページ\)](#)
- [デバイス プールのコア設定の設定タスク フロー \(83 ページ\)](#)
- [コール保持 \(94 ページ\)](#)

デバイスプールの概要

デバイスプールは、デバイスのグループに対して一連の共通設定を提供します。デバイスプールは、電話、ゲートウェイ、トランク、CTIルートポイントなどのデバイスに割り当てることができます。デバイスプールを作成すると、各デバイスを個別に設定する代わりに、各デバイスがデバイスプールの設定を継承するように関連付けることができます。

デバイスプールを使用すると、日時グループ、リージョン、電話用 NTP リファレンスなど、ロケーションに関連した情報を割り当てることによって、デバイスをロケーションに応じて設定できます。デバイスプールは必要なだけ作成できますが、通常はロケーションごとに1つです。ただし、デバイスプールを適用することで、職務に応じて設定を適用することもできます（たとえば会社にコールセンターがある場合、コールセンターの電話と事務管理部門の電話を別々のデバイスプールに割り当てることが考えられます）。

このセクションでは、次のように、デバイスプールのコア設定を設定するために必要な手順について説明します。

- **Network Time Protocol** : 電話用 NTP リファレンスを設定して、デバイスプール内の SIP デバイスに NTP サポートを提供します。
- **リージョン** : 特定のリージョンとの間のコールに使用する帯域幅とサポートされる音声コーデックを管理します。
- **Cisco Unified Communications Manager グループ** : デバイスに対してコール処理の冗長性と分散コール処理を設定します。

ネットワーク タイム プロトコル

NTPを使用すると、ネットワーク デバイスは、そのクロックをネットワーク タイム サーバまたはネットワーク対応のクロックと同期させることができます。NTPは、すべてのネットワーク デバイスの時刻を同じにし、監査ログのタイムスタンプがネットワーク時間と一致するようにするために重要です。請求およびコール詳細レコードなどの機能は、ネットワーク上の正確なタイムスタンプに依存します。また、システム管理者は、トラブルシューティングのために監査ログに正確なタイムスタンプを必要とします。これによって、異なるシステムの監査ログを比較し、信頼できるタイムラインと一連のイベントを作成できます。

インストール時に、**Unified Communications Manager** パブリッシャ ノード用の NTP サーバをセットアップする必要があります。その後、サーバノードは、リリースサーバノードからそれらの時間を同期させます。

最大 5 個の NTP サーバを割り当てることができます。

電話用 NTP リファレンス

- **SIP 電話**の場合: 電話機の NTP 参照を設定し、デバイスプールを使用してそれらを割り当てる必要があります。これらの参照により、ネットワーク時間を提供できる適切な NTP サーバに SIP 電話が送信されます。プロビジョニングされた電話用 NTP リファレンスから SIP 電話が日時を取得できない場合、電話は **Unified Communications Manager** に登録したときにこの情報を受信します。
- **SCCP 電話機**の場合: 電話機は、**sccp** 電話機から、**sccp** 信号によって直接ネットワーク時間を取得できるため、電話機の NTP 参照は必要ありません。

認証済み NTP

ネットワークの NTP の領域についてネットワークセキュリティを強化するために、認証済み NTP を設定できます。認証済み NTP は、**Cisco Unified Communications Manager** パブリッシャ ノードで設定します。サブスクリバノードと **IM and Presence** ノードは、**Unified CM** パブリッシャノードから時刻を同期します。

次の認証方式のいずれかを選択できます。

- **対称キー**を使用した認証: このオプションを選択すると、ネットワーク内のデバイスは、対称キーを使用して NTP メッセージの暗号化と認証を行います。このオプションは、RedHat などのベンダーで推奨されています。
- **Autokey (PKI ベースのインフラストラクチャ)**を使用した認証: このオプションを選択すると、ネットワーク内のデバイスは、オートキープロトコルを使用して NTP メッセージを暗号化および認証します。この方法は、共通の条件に準拠するために必須です。
- **認証なし**: オートキー メソッドを使用した対称キーまたは認証を使用して認証を設定しない場合、NTP メッセージは認証されません。

リージョンの概要

リージョンは、特定のコールについて帯域幅を制限する可能性がある Unified Communications Manager のマルチサイト導入環境向けに、キャパシティ管理を提供します。たとえば、リージョンを使用して、内部コールには高い帯域幅を維持しながら、WAN リンク経由で送信されるコールの帯域幅を制限することができます。リージョンを使用すると、リージョン内またはリージョン間のコールの最大ビットレートを設定することにより、音声コールとビデオコールの帯域幅を制限できます。

また、特定のコーデックのみをサポートするアプリケーションを使用している場合、システムはリージョンを使用してオーディオコーデックの優先順位を設定します。サポートされているオーディオコーデックの優先順位付きリストを設定し、特定のリージョンとの間のコールに適用することができます。

[リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウで最大オーディオビットレートを設定する場合 (または [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウのサービスパラメータを使用して)、この設定はフィルタとして機能します。コールでオーディオコーデックが選択されると、Unified Communications Manager が、適合するコーデックをコールレグの両側から選択し、設定された最大オーディオビットレートを超えるコーデックを除外して、リストに残ったコーデックの中から優先されるコーデックを選択します。

Unified Communications Manager は、最大 2000 のリージョンをサポートします。

サポートされているオーディオコーデック

Unified Communications Manager は、ビデオストリームの暗号化および次の音声コーデックをサポートしています

オーディオコーデック	説明
G.711	最も一般的にサポートされているコーデックで、Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) 経由で使用されます。
G.722	ビデオ会議でよく使用されるワイドバンドコーデックです。Unified Communications Manager では常に G.711 に優先されます。ただし、G.722 が無効になっている場合を除きます。
G.722.1	24 kb/s および 32 kb/s で動作する、低複雑度のワイドバンドコーデックです。G.722 と同様のオーディオ品質を、半分以下のビットレートで実現します。
G.728	ビデオエンドポイントがサポートする低ビットレートコーデックです。
G.729	Cisco IP 電話 7900 にサポートされる 8 kb/s 圧縮を使用する低ビットレートコーデックで、通常 WAN リンクでの発信に使用されます。

オーディオコーデック	説明
GSM	Global System for Mobile Communications (GSM) コーデックです。GSM は Unified Communications Manager で動作するように、GSM ワイヤレス ハンドセットに対して MNET システムを有効にします。
L16	Advanced Audio Coding-Low Delay (AAC-LD) は、優れた品質の音声や音楽を提供する超広帯域オーディオコーデックです。このコーデックは、低ビットレートの古いコーデックに対してさえ同等あるいはより良い音質を提供します。
AAC-LD (mpeg4-generic)	SIP (Session Initiation Protocol) デバイス、特に Cisco TelePresence Systems でサポートされます。
AAC-LD (MP4A-LATM)	Low-overhead MPEG-4 Audio Transport Multiplex (LATM) は、優れた音質を提供する超広帯域オーディオコーデックです。Tandberg やいくつかのサードパーティ エンドポイントを含む SIP (Session Initiation Protocol) デバイスでサポートされます。 (注) AAC-LD (mpeg4-generic) や AAC-LD (MP4A-LATM) とは互換性がありません。
Internet Speech Audio Codec (iSAC)	特に低ビットレートと中ビットレートのアプリケーション両方で、低遅延のワイドバンド音質を提供するように設計された適応型広帯域オーディオコーデックです。
インターネット低ビットレートコーデック (iLBC)	独立してエンコードされた音声フレームが原因の損失性ネットワークにおいて音声品質のグレースフルデグラデーションを可能にしつつ、15.2 kb/s と 13.3 kb/s のビットレートで G.711 から G.729 の間の音声品質を提供します。iLBC は、SIP、SCCP、H323、MGCP デバイスでサポートされています。 (注) H.323 アウトバンド FastStart は、iLBC コーデックをサポートしません。
アダプティブ マルチレート (AMR)	GSM に基づく、2.5G/3G ワイヤレス ネットワークで必須の標準規格コーデックです (WCDMA、EDGE、GPRS)。このコーデックは、7.4 kb/s 以上のツール品質音声により、4.75 kb/s から 12.2 kb/s の範囲の可変ビットレートでナローバンド (200 ~ 3400 Hz) 信号をエンコードします。AMR は SIP (Session Initiation Protocol) デバイスでのみサポートされます。

オーディオ コーデック	説明
アダプティブ マルチレート ワイドバンド (AMR-WB)	G.722.2 として体系化されており、公式にはワイドバンドとして知られる ITU-T 標準規格音声コーデックは、音声を約 16 kb/s で符号化します。このコーデックは、50 Hz から 7000 Hz の広い音声帯域幅により、優れた音声品質を提供するので、AMR や G.711 などの他のナローバンド音声コーデックに優先されます。AMR-WB は SIP (Session Initiation Protocol) デバイスでのみサポートされます。
Opus	<p>Opus コーデックは、インタラクティブな音声およびオーディオコーデックで、特に Voice over IP、ビデオ会議、ゲーム内チャットやライブ配信される音楽演奏などの多様なインタラクティブオーディオアプリケーションを処理するために設計されています。</p> <p>このコーデックは、6 kb/s から 510 kb/s までのナローバンド低ビットレートから超高ビットレートまでをサポートします。</p> <p>Opus codec のサポートは、すべての SIP デバイスでデフォルトで有効になっています。 Opus Codec Enabled サービスパラメータを使用して Opus サポートを再構成できます (デフォルト設定は、すべてのデバイスで有効になっています)。このパラメータを再設定することで、Opus codec のサポートを無効にしたり、非録音デバイスのみのサポートを有効にしたりできます。</p> <p>(注) Opus には g.722 コーデックへの依存関係があります。SIP デバイスで Opus を使用するためには、[G.722 コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 Codec)] エンタープライズパラメータも [有効 (Enabled)] に設定する必要があります。</p>

Cisco Unified CM グループの概要

Unified Communications Manager グループは、デバイスが登録できる最大 3 台の冗長構成のサーバについての、優先順位付きリストです。各グループには、1 個のプライマリ ノードと最大 2 個のバックアップ ノードが含まれます。ノードをリストする順序によって、1 番目のノードがプライマリ ノード、2 番目のノードがバックアップ ノード、3 番目のノードが第 3 ノードとして優先順位が決定されます。[デバイスプールの設定 (Device Pool Configuration)] を使用して、Cisco Unified Communications Manager グループにデバイスを割り当てることができます。

Unified Communications Manager グループは、システムに 2 つの重要な機能を提供します。

- コール処理の冗長性：デバイスが登録するときに、そのデバイスプールに割り当てられているグループ内のプライマリ (1 番目) Unified Communications Manager への接続を試みます。プライマリ Unified Communications Manager が使用可能ではない場合、デバイスは最初のバックアップ ノードに接続しようとし、そのノードが使用可能ではない場合は、第 3 のノードに接続を試みます。各デバイスプールには Unified Communications Manager グループが 1 つ割り当てられます。

- 分散コール処理：複数のデバイスプールと Unified Communications Manager グループを作成することで、デバイスの登録を複数の Unified Communications Manager に均等に分散できます。

ほとんどのシステムでは、より適切な負荷分散と冗長性を実現するために、複数のグループに対して Unified Communications Manager を割り当てます。

コール処理の冗長性

Unified Communications Manager グループは、コール処理の冗長性と回復の機能を提供します。

- フェールオーバー：グループのプライマリ Unified Communications Manager で障害が発生し、そのグループのバックアップ Unified Communications Manager にデバイスが再登録するときに実行されます。
- フォールバック：障害が発生したプライマリ Unified Communications Manager が復旧し、そのグループのデバイスがプライマリ Unified Communications Manager に再登録されるときに実行されます。

通常動作では、グループ内のプライマリ Unified Communications Manager は、電話およびゲートウェイなど、そのグループに関連付けられたすべての登録デバイスのコール処理を制御します。

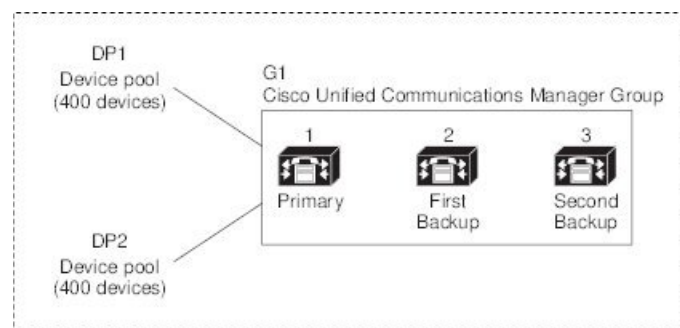
プライマリの Unified Communications Manager で何らかの理由で障害が発生した場合、グループの1番目のバックアップ Unified Communications Manager が、プライマリ Unified Communications Manager に登録されたデバイスを制御します。グループに2番目のバックアップ Unified Communications Manager を指定する場合、プライマリと1番目のバックアップ両方の Unified Communications Manager で障害が発生した場合には、2番目がデバイスを制御します。

障害が発生したプライマリ Unified Communications Manager の機能が回復すると、グループの制御が戻り、そのグループのデバイスは自動的にプライマリ Unified Communications Manager に再登録されます。

例

たとえば、次の図は、1つのグループに3つの Unified Communications Manager があり、800台のデバイスを制御しているシンプルなシステムを示しています。

図 4: Unified Communications Manager グループ



この図には、DP1 と DP2 の 2 つのデバイスプールが割り当てられた Unified Communications Manager グループ G1 が示されています。Unified Communications Manager 1 は、グループ G1 のプライマリ Unified Communications Manager として、通常動作時には DP1 と DP2 の 800 台のデバイスをすべて制御します。Unified Communications Manager 1 で障害が発生すると、800 台のデバイスの制御は Unified Communications Manager 2 に移ります。Unified Communications Manager 2 でも障害が発生すると、800 台のデバイスの制御は Unified Communications Manager 3 に移ります。

この構成ではコール処理に冗長性が提供されますが、この例の 3 つの Unified Communications Manager 間では、コール処理の負荷はうまく分散されていません。Unified Communications Manager グループとデバイスプールを使用して、クラスタ内で分散コール処理を提供する方法については、次のトピックを参照してください。



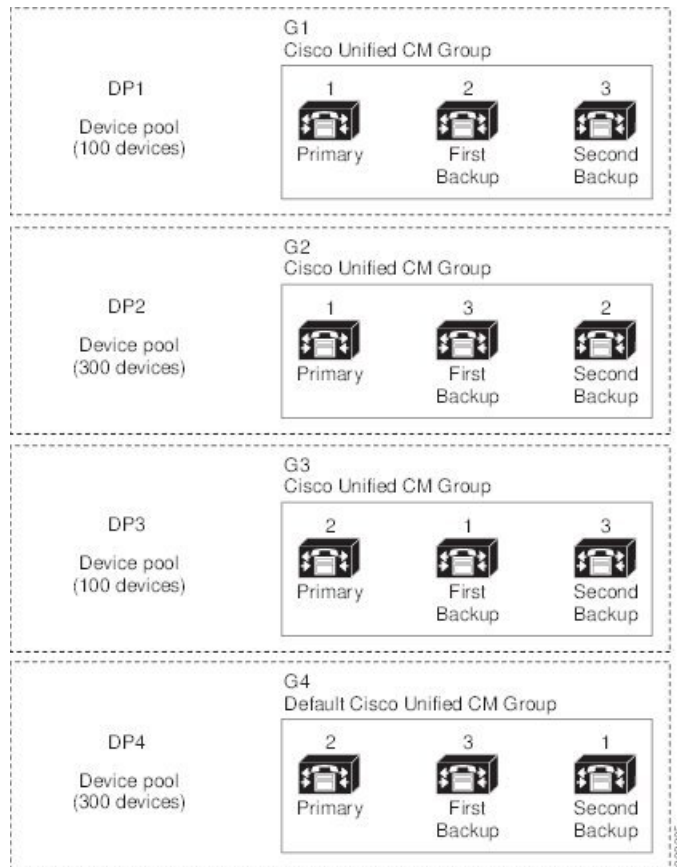
(注) 空の Unified Communications Manager グループは機能しません。

分散コール処理

Unified Communications Manager グループは、コール処理の冗長化と分散型コール処理の両方を実現します。デバイス、デバイスプール、および Unified Communications Manager をどのようにグループに割り当てるかによって、システムの冗長性とロードバランシングのレベルが決まります。

多くの場合、グループ内の 1 つの Unified Communications Manager に障害が起きたら、他の Unified Communications Manager が過負荷にならないようにデバイスを分散する必要があります。次の図は、3 つの Unified Communications Manager と 800 台のデバイスから成るシステムで分散型コール処理と冗長化を実現するために、Unified Communications Manager グループとデバイスプールを設定する方法の一例を示しています。

図 5: 分散型コール処理と組み合わせた冗長化



この図は、設定されてデバイスプールに割り当てられた Unified Communications Manager グループを表します。Unified Communications Manager 1 は、G1 と G2 の 2 つのグループでプライマリコントローラとして機能します。Unified Communications Manager 1 で障害が発生した場合、デバイスプール DP1 の 100 台のデバイスは Unified Communications Manager 2 に再登録され、DP2 の 300 台のデバイスは Unified Communications Manager 3 に再登録されます。同様に、Unified Communications Manager 2 は、グループ G3 と G4 のプライマリコントローラとして機能します。Unified Communications Manager 2 で障害が発生した場合、DP3 の 100 台のデバイスは Unified Communications Manager 1 に再登録され、DP4 の 300 台のデバイスは Unified Communications Manager 3 に再登録されます。Unified Communications Manager 1 と Unified Communications Manager 2 の両方で障害が発生した場合は、すべてのデバイスが Unified Communications Manager 3 に再登録されます。

デバイス プールの前提条件

デバイスプールは、設定する前に、適切に計画してください。デバイスプールおよび冗長構成の Unified Communications Manager グループを設定する場合は、電話機向けにサーバの冗長性を提供すると同時に、登録を複数のクラスタに均等に分散させることを推奨します。システムについて計画を立てる際に使用できる詳細情報については、『Cisco Collaboration システム ソ

リューション リファレンス ネットワーク デザイン』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-implementation-design-guides-list.html>) を参照してください。

Unified Communications Manager に最新のタイムゾーン情報が含まれるようにするには、Unified Communications Manager のインストール後に、タイムゾーン情報を更新する Cisco Options Package (COP) ファイルをインストールすることができます。大規模なタイムゾーン変更イベント後には、最新の COP ファイルを <https://software.cisco.com/download/navigator.html> でダウンロードできることをお知らせします。

CMLocal の設定をローカルの日付と時刻に変更します。

デバイス プールの追加設定

この章では、Unified Communications Manager グループを使用した、電話用 NTP リファレンス、リージョン、コール処理の冗長性などの主な設定について説明します。ただし、デバイスプール設定を使用して次のオプション機能とコンポーネントをデバイスに適用することもできます。

- **メディア リソース**：会議ブリッジなどのメディア リソースと、保留音 (MOH) を、デバイスプール内のデバイスに割り当てます。詳細については、本ドキュメントの「メディア リソース構成タスクフロー」のセクションを参照してください。
- **Survivable Remote Site Telephony (SRST)**：導入環境で WAN 接続を使用している場合は、SRST を設定することで、WAN が停止した場合に IP ゲートウェイが限定的なコールサポートを提供できるようになります。詳細については、本ドキュメントの「*Survivable Remote Site Telephony* の設定タスク フロー」のセクションを参照してください。
- **コールルーティング情報**：クラスタ間でコールをルーティングする方法の詳細については、本ドキュメントの「コールルーティングの設定タスク フロー」のセクションを参照してください。
- **デバイス モビリティ**：デバイス モビリティ グループを設定することで、デバイスが物理的な場所に基づいて設定を使用できるようになります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』の「デバイス モビリティの設定」の章を参照してください。

デバイス プールのコア設定の設定タスク フロー

デバイス プールをセットアップし、リージョン、電話用 NTP リファレンス、およびそのデバイスプールを使用するデバイスの冗長性などの設定を適用するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Network Time Protocol の設定 (84 ページ)	このタスクフローのタスクを実行して、システムに NTP をセットアップします。

	コマンドまたはアクション	目的
		電話機の NTP 参照を設定し、デバイスプールに割り当てることができる日付/時刻グループにそれらを適用します。
ステップ 2	リージョンの関係の設定 (91 ページ)	これらのタスクを実行して、システムのリージョンを設定します。最大で 2,000 のリージョンを作成し、リージョンで提供できる内容に基づいて、カスタマイズしたオーディオコーデック設定やビットレート制限など、カスタマイズした設定を指定できます。
ステップ 3	Cisco Unified CM グループの設定 (92 ページ)	コール処理の冗長性と負荷分散のための Unified Communications Manager グループを構成します。
ステップ 4	デバイスプールの設定 (93 ページ)	システム デバイスのデバイスプールを設定します。設定された他のコア設定をデバイスプールに適用します。これらの設定をこのデバイスプールを使用するデバイスに適用します。

Network Time Protocol の設定

システムの Network Time Protocol (NTP) を設定するには、次のタスクを完了します。電話機の NTP 参照を設定し、これらの参照を日付/時刻グループに適用して、デバイスプールに適用できるようにします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	NTP サーバの追加 (85 ページ)	<p>(省略可) NTP サーバを追加する必要がある場合は、この手順を使用します。最大5台のNTPサーバーを追加できます。</p> <p>(注) システムのインストール時に、Unified Communications Manager を 1 台の NTP サーバにポイントするように要求されました。NTP サーバを追加する場合は、この手順を使用することができます。その他の場合は、このタスクをスキップします。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	次のいずれかの方法を選択して、NTP メッセージを認証します。 <ul style="list-style-type: none"> 対称キー経由での NTP 認証キーの設定 (86 ページ) オートキー経由での NTP 認証キーの設定 (86 ページ) 	(省略可) セキュリティを強化するには、認証済み NTP を設定します。認証を設定するには、対称キーを使用するか、またはキーを使用する必要があります。オートキーメソッドは、共通の条件に準拠するために必要です。
ステップ 3	電話用 NTP リファレンスの設定 (87 ページ)	SIP 電話では、電話用 NTP リファレンスを設定してから、日時グループとデバイスプールを介してそれらを適用する必要があります。
ステップ 4	日時グループの追加 (88 ページ)	システムに接続されているさまざまなデバイスのタイムゾーンを定義し、設定した電話用 NTP リファレンスを適切な日時グループに割り当てます。



(注) `utils ntp*` コマンドセットなど、NTP のトラブルシューティングと設定に使用する CLI コマンドの詳細については、『コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

NTP サーバの追加

NTP サーバを Unified Communications Manager に追加します。



(注) [Cisco Unified OSの管理 (Cisco Unified OS Administration)] ウィンドウで [設定 (Settings)] > [NTサーバ (NTP Servers)] を選択して、[NTP サーバの設定 (NTP Server Configuration)] ウィンドウで NTP サーバを追加することもできます。

手順

- ステップ 1 コマンドライン インターフェイスにログインします。
- ステップ 2 パブリッシュャ ノードが NTP サーバに到達できることを確認するには、**`utils network ping <ip_address>`** を実行します。このとき、`ip_address` は NTP サーバのアドレスを表します。
- ステップ 3 サーバに到達可能であれば、`utils ntp server add <ip_address>` を実行してサーバを追加します。

ステップ 4 `utils ntp restart` コマンドを使用して NTP サービスを再起動します。

対称キー経由での NTP 認証キーの設定

対称キーを使用してネットワークで NTP メッセージを認証するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager パブリッシュノードで、コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ 2 `utils ntp auth-symmetric key status` コマンドを実行して、現在の NTP 認証設定のステータスを確認します。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- 対称キーによる NTP 認証を有効化するには、CLI コマンド `utils ntp auth symmetric-key enable` を実行します。
- 対称キーによる NTP 認証を無効化するには、CLI コマンド `utils ntp auth symmetric-key disable` を実行します。

ステップ 4 プロンプトに従って、NTP サーバのキー ID と対称キーを入力します。

オートキー経由での NTP 認証キーの設定

PKI ベースの自動キーを使用して NTP 認証を設定する場合は、次の手順を使用します。



- (注) 対称キーを使用した NTP 認証が有効になっている場合は、自動キーによる認証を有効にする前に、その設定を無効にする必要があります。対称キーを使用した NTP 認証を無効化するには、「[対称キー経由での NTP 認証キーの設定 \(86 ページ\)](#)」を参照してください。

始める前に

オートキー を介した NTP 認証を有効にするには、共通条件モードを有効にする必要があります。コモンクライテリア モードを有効にする方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』の「FIPS セットアップ」の章を参照してください。

手順

ステップ 1 コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ 2 `utils ntp auth auto-key status` コマンドを実行して、現在の NTP 認証設定を確認します。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- NTP 認証を有効化するには、CLI コマンド **utils ntp auth auto-key enable** を実行します。
- NTP 認証を無効化するには、CLI コマンド **utils ntp auth auto-key disable** を実行します。

ステップ 4 NTP 認証を有効または無効にする NTP サーバの番号を入力します。

ステップ 5 認証を有効にする場合は、IFF クライアントキーを入力します。NTP サーバのクライアントキーを貼り付けます。

電話用 NTP リファレンスの設定

SIP 電話に必須の電話用 NTP リファレンスを設定するには、この手順を使用します。作成した NTP リファレンスは、日時グループを使用してデバイスプールに割り当てることができます。このリファレンスは、ネットワーク時刻を提供できる適切な NTP サーバに SIP 電話をポイントします。SCCP 電話機の場合、この設定は必要ありません。



(注) Unified Communications Manager は、マルチキャストモードおよびユニキャストモードをサポートしていません。これらのモードを選択した場合はデフォルトのダイレクトブロードキャストモードに設定されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [電話用 NTP リファレンス (Phone NTP Reference)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 電話機が使用するアドレス方式に従って、NTP サーバの IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスを入力します。

(注) 電話用 NTP リファレンスの保存には、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかの入力が必要です。IPv4 電話と IPv6 電話の両方を展開している場合、NTP サーバに、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を設定します。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、電話用 NTP リファレンスの説明を入力します。

ステップ 5 [モード (Mode)] ドロップダウンリストで、電話用 NTP リファレンスのモードを次のオプションから選択します。

- [ユニキャスト (Unicast)] : このモードを選択すると、電話機は、指定した NTP サーバに NTP クエリ パケットを送信します。
- [ダイレクトブロードキャスト (Directed Broadcast)] : このデフォルトの NTP モードを選択すると、電話機は任意の NTP サーバの日時情報を利用しますが、リストされている NTP サーバ (1 番目 = プライマリ、2 番目 = セカンダリ) を優先します。

(注) Cisco TelePresence および Cisco Spark デバイス タイプは、ユニキャスト モードのみをサポートします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

電話用 NTP リファレンスを日時グループに割り当てます。詳細については、「[日時グループの追加 \(88 ページ\)](#)」を参照してください。

日時グループの追加

システムのタイムゾーンを定義するための日時グループを設定します。設定した電話用 NTP リファレンスを、適切なグループに割り当てます。新しい日時グループをデータベースに追加した後で、そのグループをデバイス プールに割り当てることで、デバイス プール内のすべてのデバイスで日付と時刻の情報を設定することができます。

変更を適用するには、デバイスをリセットする必要があります。



ヒント Cisco IP Phone が世界中に分布している場合は、タイムゾーンごとに日時グループを作成します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [日時グループ (Date/Time Group)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 このグループに NTP リファレンスを割り当てます。

- a) [電話用NTPリファレンスの追加 (Add Phone NTP References)] をクリックします。
- b) [電話用NTPリファレンスの検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ポップアップウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックして、前のタスクで設定した電話用 NTP リファレンスを選択します。
- c) [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- d) 複数の参照を追加した場合は、上下の矢印を使用して優先順位を変更します。上部にある参照は、優先順位が高くなります。

ステップ 4 残りのフィールドを日付と時刻のセットウィンドウに設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

リージョンの設定

デバイスプールのリージョンを設定するには、次のタスクを実行します。リージョン間の関係を設定して、より適切に帯域幅を管理します。リージョンを使用して、特定のタイプのコール（ビデオコールなど）の最大ビット レートを制御し、特定のオーディオコーデックに優先順位を設定することができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	音声コーデック設定のカスタマイズ (89 ページ)	(省略可) この手順は、使用しているオーディオコーデックの優先順位をカスタマイズする場合に使用します。このようにして、特定のオーディオコーデックを他のコーデックの先で優先することができます。それ以外の場合は、デフォルトのオーディオコーデックリストのいずれかをデバイスプールに割り当てることができます。
ステップ 2	リージョンにおけるクラスタ全体のデフォルト値の設定 (90 ページ)	リージョンにおけるクラスタ全体のデフォルト値を設定します。[リージョンの設定 (Region Configuration)] で異なる値を設定しない限り、すべてのリージョンでこのデフォルト値が使用されます。
ステップ 3	リージョンの関係の設定 (91 ページ)	新しいリージョンを設定するか、既存のリージョンの設定を編集します。リージョン間およびリージョン内の両方のコールについて、関係を設定します。

音声コーデック設定のカスタマイズ

オーディオコーデックの優先順位をカスタマイズするには、この手順を使用します。既存のリストから設定をコピーして新しいオーディオコーデックの初期設定リストを作成し、新しいリストで優先順位を編集します。



(注) オーディオコーデックの優先順位をカスタマイズする必要がない場合は、このタスクを省略できます。デバイス プールを設定するときに、デフォルトのオーディオコーデックの初期設定リストのいずれかを割り当てるすることができます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [リージョン情報 (Region Information)] > [オーディオコーデックの初期設定リスト (Audio Codec Preference List)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [オーディオコーデックの初期設定リスト (Audio Codec Preference Lists)] ドロップダウンリストボックスから、既存のオーディオコーデックの初期設定リストのいずれかを選択します。選択したリストに対して、優先順位付きのオーディオコーデックリストが表示されます。
- ステップ 4 [コピー (Copy)] をクリックします。コピー元のリストでの優先順位付きリストが、新しく作成したリストに適用されます。
- ステップ 5 新しいオーディオコーデックリストの [名前 (Name)] を編集します。たとえば、`customizedCodecList` のように設定します。
- ステップ 6 [説明 (Description)] を編集します。
- ステップ 7 [リスト内のコーデック (Codecs in List)] リストボックスに表示される優先順位内でコーデックを移動させるには、上向き矢印と下向き矢印を使用します。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

新しいリストをリージョンに適用してから、そのリージョンをデバイスプールに適用する必要があります。デバイスプール内のすべてのデバイスで、このオーディオコーデックの初期設定リストが使用されます。

リージョンにおけるクラスタ全体のデフォルト値の設定

リージョンのデフォルト値を設定するには、次の手順を使用します。これらの設定は、[リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウ内の個々のリージョンに対してリージョンの関係を設定していない限り、デフォルトですべてのリージョンに対するコールに適用されます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager パブリッシャノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、**Cisco CallManager** サービスを選択します。
[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (システム-ロケーションとリージョン) (Clusterwide Parameters (System Location and Region))] で、必要な新しいサービスパラメータ設定を入力します。サー

ビスパラメータの説明については、パラメータ名をクリックしてヘルプの説明を参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

リージョンの関係の設定

リージョンを作成し、特定のリージョン間のコールにカスタム設定を割り当てるには、この手順を使用します。優先するオーディオコーデックおよび最大ビットレートなどの設定を編集できます。たとえば、ネットワークの他の部分よりも帯域幅が小さいリージョンがある場合は、そのリージョンに対するビデオ コールセッションのビットレートの最大値を編集することができます。この値は、そのリージョンで提供可能な値にリセットすることができます。



(注) 拡張性を高めるため、また、システムが使用するリソースを少なくするために、[サービスパラメータの設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウでは、できるだけデフォルト値を使用することを推奨します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [リージョン情報 (Region Information)] > [リージョン (Regions)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [検索 (Find)] をクリックします。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- リージョンの [名前 (Name)] を入力します。たとえば「NewYork」と入力します。
- [保存 (Save)] をクリックします。

読み取り専用の [リージョンの関係 (Region Relationships)] 領域には、選択したリージョンと別のリージョンの間で設定したカスタマイズ済みの設定が表示されます。

ステップ 3 このリージョンと別のリージョンの間（またはリージョン内コールの場合は同一リージョン）の設定を変更するには、[他のリージョンとの関係を変更 (Modify Relationships to other Regions)] 領域の設定を編集します。

- a) [リージョン (Region)] 領域で、他方のリージョンを強調表示します（リージョン内コールの場合は、設定中の同じリージョンを強調表示します）。
- b) 隣接するフィールドの設定を編集します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- c) [保存 (Save)] をクリックします。
新しい設定が、[リージョンの関係 (Region Relationships)] 領域にカスタムルールとして表示されます。

- (注) 一方のリージョン内でリージョンの関係を編集すると、その設定が他方のリージョンで自動的に更新されるため、他のリージョンにその設定を複製する必要はありません。たとえば、[リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウでリージョン 1 を開き、リージョン 2 とのカスタム関係を設定するとします。次にリージョン 2 を開くと、[リージョンの関係 (Region Relationships)] 領域にカスタム関係が表示されます。

Cisco Unified CM グループの設定

デバイス プール内のデバイスに対して、コール処理の冗長性、ロード バランシング、およびフェールオーバーを行うための Unified Communications Manager グループを設定するには、この手順を使用します。



- ヒント** クラスタノード間でデバイス登録が均等に分散される分散コール処理を提供するために、複数のグループとデバイスプールを設定して、各グループのプライマリサーバがそれぞれ異なるようにします。



- (注) デフォルトサーバグループは名前から内容がわからず、混乱が起きる可能性があるため、使用しないでください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] を選択します。
- ステップ 2** [名前 (Name)] にグループの名前を入力します。
- (注) グループを簡単に区別できるように、名前でもノードの順序を識別することを検討してください。たとえば、CUCM_PUB-SUB のような名前になります。
- ステップ 3** この Unified Communications Manager グループを、自動登録を有効化したときのデフォルトの Unified Communications Manager グループにする場合は、[自動登録の Cisco Unified Communications Manager グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [使用可能な Cisco Unified Communications Manager (Available Cisco Unified Communications Managers)] のリストから、このグループに追加するノードを選択し、下向き矢印をクリックして選択します。グループには最大 3 台のサーバを追加できます。

このグループのサーバは、[選択されたCisco Unified Communications Manager (Selected Cisco Unified Communications Managers)] リスト ボックスに表示されます。リストの1番上にあるサーバがプライマリ サーバです。

ステップ 5 プライマリ サーバおよびバックアップ サーバを変更するには、[選択されたCisco Unified Communications Manager (Selected Cisco Unified Communications Managers)] リスト ボックスの横にある矢印を使用します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

デバイス プールの設定

システム デバイスのデバイス プールを設定します。設定された他のコア設定をデバイス プールに適用します。これらの設定をこのデバイス プールを使用するデバイスに適用します。導入のニーズに合わせて、複数のデバイス プールを設定できます。

始める前に

SRST 設定を割り当てる場合は、「[Survivable Remote Site Telephony の設定タスク フロー \(130 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイス プール (Device Pool)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいデバイス プールを作成します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のデバイス グループを選択します。
- ステップ 3** [デバイス プール名 (Device Pool Name)] フィールドに、デバイス プールの名前を入力します。
- ステップ 4** [Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] ドロップダウンで、コール処理の冗長性と負荷分散を処理するように設定したグループを選択します。
- ステップ 5** [日時グループ (Date/Time Group)] ドロップダウン リストから、このデバイス プールを使用するデバイスの日付、時刻、および電話用 NTP リファレンスを処理するように設定したグループを選択します。
- ステップ 6** [リージョン (Region)] ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プールに適用するリージョンを選択します。
- ステップ 7** [メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] ドロップダウン リストから、このデバイス プールに適用するメディア リソースが含まれるリストを選択します。
- ステップ 8** このデバイス プールに SRST 設定を適用します。
- a) [SRST リファレンス (SRST Reference)] ドロップダウン リストから、SRST リファレンスを割り当てます。

- b) [接続モニタ時間 (Connection Monitor Duration)]フィールドに値を割り当てます。この設定では、電話機が SRST から登録解除して Unified Communications Manager に再登録するまでに、Unified Communications Manager との接続をモニタする時間を定義します。

ステップ 9 [デバイスプールの設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

導入要件に応じて、複数のデバイス プールを設定します。

基本的なデバイス プール設定フィールド

表 4: 基本的なデバイス プール設定フィールド

フィールド	説明
[デバイスプール名 (Device Pool Name)]	新しいデバイスプールの名前を入力します。名前は最大 50 文字までで、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、および空白を使用できます。
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。Cisco Unified Communications Manager グループでは、最大 3 つの Unified Communications Manager ノードについて優先順位を設定したリストを指定します。リストの最初のノードはそのグループのプライマリ ノードとして動作し、グループの他のメンバーは、冗長性のためのバックアップ ノードとして動作します。
[日時グループ (Date/Time Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日時グループを選択します。日時グループは、タイムゾーンと日時の表示形式を指定します。
[リージョン (Region)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てるリージョンを選択します。リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。

コール保持

Unified Communications Manager のコール保留機能は、Unified Communications Manager で障害が発生したとき、またはコールをセットアップする Unified Communications Manager とデバイス間の通信で障害が発生したときに、コールが中断しないようにするものです。

Unified Communications Manager は、幅広い Cisco Unified Communications デバイスに対してコール保存を完全にサポートしています。このサポートには、Cisco Unified IP Phone、Foreign Exchange Office (FXO) (非ループスタート トランク) および Foreign Exchange Station (FXS) インターフェイスをサポートする Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイが含まれ、会議ブリッジ、MTP、およびトランスコーディング リソース デバイス間のコール保持もある程度含まれます。

高度なサービスパラメータ、[ピアがH.323コールを保持できるようにする (Allow Peer to Preserve H.323 Calls)] を [True] に設定することで、H.323 コール保持を有効にします。

次のデバイスおよびアプリケーションは、コール保持をサポートしています。双方が以下のいずれかのデバイスを介して接続すると、Unified Communications Manager はコール保存を維持します。

- Cisco Unified IP Phone
- SIP トランク
- ソフトウェア会議ブリッジ
- ソフトウェア MTP
- ハードウェア会議ブリッジ (Cisco Catalyst 6000 8 Port Voice E1/T1 and Services Module、Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module)
- トランスコーダ (Cisco Catalyst 6000 8 Port Voice E1/T1 and Services Module、Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module)
- 非 IOS の MGCP ゲートウェイ (Catalyst 6000 24 Port FXS Analog Interface Module、Cisco DT24+、Cisco DE30+、Cisco VG200)
- Cisco IOS H.323 ゲートウェイ (Cisco 2800 シリーズ、Cisco 3800 シリーズなど)
- Cisco IOS MGCP ゲートウェイ (Cisco VG200、Catalyst 4000 Access Gateway Module、Cisco 2620、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 3810)
- Cisco VG248 Analog Phone Gateway

次のデバイスとアプリケーションでは、コール保存をサポートしていません。

- アナウンサー
- H.323 エンドポイント (NetMeeting またはサードパーティの H.323 エンドポイントなど)
- CTI アプリケーション
- TAPI アプリケーション
- JTAPI アプリケーション

コール保持のシナリオ

次の表で、さまざまなシナリオでコール保存がどのように処理されるのかを説明します。

表 5: コール保持のシナリオ

シナリオ	コール保持の処理
Unified Communications Manager で障害が発生した場合。	<p>Unified Communications Manager で障害が発生すると、障害が発生した Unified Communications Manager によってセットアップされたすべてのコールのコール処理機能が失われます。</p> <p>Unified Communications Manager は、エンドユーザがコールを終了するか、メディア接続の解放をデバイスが判別できるまで、影響を受けるアクティブなコールを維持します。ユーザは、この障害の結果として維持されているコールに対して、コール処理機能呼び出すことはできません。</p>
Unified Communications Manager とデバイス間で通信障害が発生した場合。	<p>デバイスとそれを制御する Unified Communications Manager との間で通信障害が発生すると、デバイスが障害を認識し、アクティブな接続を維持します。Unified Communications Manager が通信障害を認識し、通信が失われたデバイスでのコールに関連付けられているコール処理エンティティを消去します。</p> <p>Unified Communications Manager は、影響を受けるコールに関連付けられている、障害が発生していないデバイスの制御を維持します。Unified Communications Manager は、エンドユーザがコールを終了するか、メディア接続の解放をデバイスが判別できるまで、影響を受けるアクティブなコールを維持します。ユーザは、この障害の結果として維持されているコールに対して、コール処理機能呼び出すことはできません。</p> <p>(注) フェールオーバーが実行された場合、キープアライブ タイマー内で Unified CM ノードを表示すると、コールが保存モードになっていても、電話機は現在のノードに登録されたままになります。これは、キープアライブ タイマーが有効である場合に発生する可能性があります。</p>

シナリオ	コール保持の処理
<p>デバイスの故障</p> <p>(電話機、ゲートウェイ、会議ブリッジ、トランスコーダ、MTP)</p>	<p>デバイスに障害が発生すると、デバイス経由で存在する接続によってストリーミングメディアが停止します。アクティブな Unified Communications Manager は、デバイスの障害を認識し、障害が発生したデバイスでのコールに関連付けられているコール処理エンティティを消去します。</p> <p>Unified Communications Manager は、影響を受けるコールに関連付けられている、障害が発生していないデバイスの制御を維持します。問題が発生していないユーザがコールを終了するか、問題が発生していないデバイスがメディア接続の解放を判別できるまで、Unified Communications Manager が、問題が発生していないデバイスに関連付けられているアクティブな接続（コール）を維持します。</p>



第 9 章

トランクの設定

- [SIP トランクの概要 \(99 ページ\)](#)
- [SIP トランクの前提条件 \(99 ページ\)](#)
- [SIP トランクの設定タスク フロー \(100 ページ\)](#)
- [SIP トランクの連携動作および制限 \(103 ページ\)](#)
- [H.323 トランクの概要 \(104 ページ\)](#)
- [H.323 トランクの前提条件 \(105 ページ\)](#)
- [H.323 トランクの設定 \(106 ページ\)](#)

SIP トランクの概要

コール制御シグナリング用に SIP を展開する場合、SIP ゲートウェイ、SIP プロキシサーバ、Unified Communications アプリケーション、会議ブリッジ、リモートクラスタ、または Session Management Edition などの外部デバイスに Cisco Unified Communications Manager を接続するための SIP トランクを設定します。

Cisco Unified CM Administration の内部では、[SIP トランクの設定 (SIP Trunk Configuration)] ウィンドウに、Cisco Unified Communications Manager が SIP コールの管理に使用する SIP シグナリング設定が含まれています。

1つの SIP トランクに、IPv4 または IPv6 のアドレッシング、完全修飾ドメイン名、または単一の DNS SRV レコードを使用して、最大 16 個の異なる宛先アドレスを割り当てることができます。

SIP トランクの前提条件

SIP トランクを設定する前に、次の操作を実行してください。

- トランク接続を理解できるようにネットワークトポロジを計画します。
- トランクを接続するデバイスと、それらのデバイスが SIP を実装する方法を理解していることを確認します。

- トランク用に設定されたデバイスプールがあることを確認してください。
- トランクに IPv6 を導入する場合は、クラスタ全体のエンタープライズパラメータを使用して、またはトランクに適用できる共通デバイス設定を使用して、トランクのアドレッシングプリファレンスを設定する必要があります。
- トランクを使用するアプリケーションと SIP 相互運用性の問題がある場合は、デフォルトの SIP 正規化または透明性スクリプトのいずれかを使用する必要があります。デフォルトのスクリプトのいずれも要件に合わない場合は、独自のスクリプトを作成できます。カスタマイズされた SIP 正規化および透過性スクリプトの作成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』を参照してください。

SIP トランクの設定タスク フロー

SIP トランクを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SIP プロファイルの設定 (100 ページ)	SIP トランクに適用する共通の SIP 設定を行います。
ステップ 2	SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定 (101 ページ)	TLS シグナリングまたはダイジェスト認証などのセキュリティ設定を使用して、セキュリティプロファイルを設定します。
ステップ 3	SIP トランクの設定 (102 ページ)	SIP トランクをセットアップして、そのトランクに SIP プロファイルとセキュリティプロファイルを適用します。

SIP プロファイルの設定

共通 SIP 設定を使用して SIP プロファイルを設定するには、この手順を使用します。設定した SIP プロファイルは、このプロファイルを使用する SIP デバイスおよびトランクに割り当てることができます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 既存のプロファイルを編集するには、[検索 (Find)] をクリックし、SIP プロファイルを選択して既存のプロファイルを編集します。
- 新しいプロファイルを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ 3** SIP 電話とトランクで IPv4 と IPv6 のスタックをサポートする場合は、[ANATの有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** SDP の相互運用性を解決するために SDP 透過性プロファイルを割り当てる場合は、[SDP透過性プロファイル (SDP Transparency Profile)] ドロップダウンリストから割り当てます。
- ステップ 5** SIP の相互運用性の問題を解決するために正規化スクリプトまたは透過性スクリプトを割り当てる場合は、[正規化スクリプト (Normalization Script)] ドロップダウンリストからスクリプトを選択します。
- ステップ 6** (任意) Cisco Unified Border Element 全体にコールをルーティングする必要がある場合は、グローバル ダイアル プラン レプリケーションの導入環境向けに、[ILS学習送信先ルート文字列を送信 (Send ILS Learned Destination Route String)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [SIPプロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定

ダイジェスト認証や TLS シグナリング暗号化などのセキュリティ設定を使用して、SIP トランクのセキュリティプロファイルを設定します。プロファイルを SIP トランクに割り当てると、トランクはセキュリティプロファイルの設定を取得します。



- (注) SIP トランクに SIP トランクのセキュリティプロファイルを割り当てない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デフォルトで非セキュアプロファイルを割り当てます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [SIPトランクのセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** TLS を使用した SIP シグナリング暗号化を有効化するには、次の手順を実行します。
- a) [デバイスのセキュリティモード (Device Security Mode)] ドロップダウンリストから、[暗号化 (Encrypted)] を選択します。
 - b) [着信転送タイプ (Incoming Transport Type)] および [発信転送タイプ (Outgoing Transport Type)] のドロップダウンリストから、[TLS] を選択します。

- c) デバイスの認証用に、[X.509 のサブジェクト名 (X.509 Subject Name)]フィールドに X.509 証明書のサブジェクト名を入力します。
- d) [着信ポート (Incoming Port)]フィールドに、TLS リクエストを受信するポートを入力します。TLS のデフォルトは 5061 です。

ステップ 4 ダイジェスト認証を有効にするには、次の内容を実行します。

- a) [ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)]チェックボックスをオンにします。
- b) システムが新しいナンスを生成するまでの時間 (秒数) を [ナンス有効時間 (Nonce Validity Time)]に入力します。デフォルトは 600 (10 分) です。
- c) アプリケーションのダイジェスト認証を有効にするには、[アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)]チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [SIP トランク セキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)]ウィンドウで追加フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)]をクリックします。

- (注) トランクが設定を使用できるように、[トランクの設定 (Trunk Configuration)]ウィンドウで、このプロファイルをトランクに割り当てる必要があります。

SIP トランクの設定

SIP トランクを設定するには、この手順を使用します。1 つの SIP トランクには最大 16 個の宛先アドレスを割り当てることができます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)]>[トランク (Trunk)]を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)]をクリックします。
- ステップ 3** [トランクタイプ (Trunk Type)]ドロップダウンリストから [SIP トランク (SIP Trunk)]を選択します。
- ステップ 4** [プロトコルタイプ (Protocol Type)]ドロップダウンリストから、導入環境に適した SIP トランクのタイプを選択し、[次へ (Next)]をクリックします。
 - [なし (None)] (デフォルト)
 - [Call Control Discovery (コール制御検出)]
 - [クラスタ間のエクステンション モビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)]
 - [Cisco Intercompany Media Engine]
 - [IP マルチメディア システム サービス コントロール (IP Multimedia System Service Control)]

- ステップ 5** (任意) このトランクに**共通デバイス設定**を適用する場合は、ドロップダウンリストから設定を選択します。
- ステップ 6** 暗号化されたメディアをトランクを介して送信する場合は、[SRTPを許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** すべてのクラスタ ノードに対してトランクを有効化する場合は、[すべてのアクティブなUnified CMノードで実行 (Run on All Active Unified CM Nodes)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** SIP トランクの宛先アドレスを設定します。
- [宛先アドレス (Destination Address)] テキストボックスに、トランクに接続するサーバまたはエンドポイントの IPv4 アドレス、完全修飾ドメイン名、または DNS SRV レコードを入力します。
 - トランクがデュアル スタック トランクの場合は、[宛先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)] テキストボックスに、トランクに接続するサーバまたはエンドポイントの IPv6 アドレス、完全修飾ドメイン名、または DNS SRV レコードを入力します。
 - 宛先が DNS SRV レコードの場合は、[宛先アドレスは SRV (Destination Address is an SRV)] チェック ボックスをオンにします。
 - 接続先を追加するには、[+] をクリックします。
- ステップ 9** [SIP トランク セキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] ドロップダウン リストボックスから、このトランクに SIP トランク セキュリティプロファイルを割り当てます。このオプションを選択しない場合は、非セキュアプロファイルが割り当てられます。
- ステップ 10** [SIPプロファイル (SIP Profile)] ドロップダウン リストから、SIP プロファイルを割り当てます。
- ステップ 11** (任意) この SIP トランクに正規化スクリプトを割り当てる場合は、[正規化スクリプト (Normalization Script)] ドロップダウン リストから、割り当てるスクリプトを選択します。
- ステップ 12** [Trunk Configuration] ウィンドウのその他のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

SIP トランクの連携動作および制限

特長	説明
同じ宛先に対する複数のセキュアな SIP トランク	リリース 12.5(1) では、Cisco Unified Communications Manager は、同じ宛先 IP アドレスと宛先ポート番号に対する複数のセキュア SIP トランクの設定をサポートします。これには、以下の新しい機能や利点があります。 <ul style="list-style-type: none"> 帯域幅の最適化：緊急コール用に帯域幅が制限されないルートを提供します。 特定のリージョンまたはコーリング サーチ スペースの設定に基づく選択的ルーティング

特長	説明
SIP 180 Ringing を受信すると、Unified Communications Manager は、SIP-UPDATE メッセージを送信します	「UPDATE」値がコールフローでサポートされている場合、SIP トランクは、「183 Session Progress」の後に「180 Ringing」を受信すると、「UPDATE」SIP メッセージを送信します。
BFCP を使用したプレゼンテーション共有	シスコのエンドポイント向けにプレゼンテーション共有を導入する場合は、すべての中継 SIP トランクの SIP プロファイルで [BFCP を使用したプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing with BFCP)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。 (注) サードパーティ SIP エンドポイントの場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでも同じチェックボックスがオンになっていることを確認してください。
iX チャネル	iX メディア チャネルを導入する場合は、すべての中継 SIP トランクで使用する SIP プロファイルで [iX アプリケーションメディアを許可 (Allow iX Application Media)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。 (注) 暗号化された iX チャネルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

H.323 トランクの概要

H.323 を導入している場合は、H.323 トランクがリモート クラスタと、ゲートウェイなどのその他の H.323 デバイスに接続を提供します。H.323 トランクは、Unified Communications Manager がクラスタ内通信でサポートするオーディオコーデックおよびビデオコーデックのほとんどをサポートします。ただし、広帯域オーディオおよび広帯域ビデオについてはサポートしません。H.323 トランクは、コール制御シグナリング用に H.225 プロトコルを使用し、メディアシグナリング用に H.245 プロトコルを使用します。

Cisco Unified CM Administration で、クラスタ間トランク (ゲートキーパー非制御) トランクタイプとプロトコル オプションを使用して H.323 トランクを設定できます。

非ゲートキーパー H.323 導入環境の場合は、Unified Communications Manager が IP WAN 経由でコールできるように、リモート クラスタ内の各デバイス プールに個別のクラスタ間トランクを設定する必要があります。クラスタ間トランクは、リモート デバイスの IPv4 アドレスまたはホスト名を静的に指定します。

単一のトランクには最大 16 件の宛先アドレスを設定できます。

クラスタ間トランク

2つのリモートクラスタ間にクラスタ間トランク接続を設定する場合は、一方のトランクが使用する宛先アドレスがリモートクラスタのトランクが使用するコール処理ノードと一致するように、クラスタごとにクラスタ間トランクを設定し、トランク設定を一致させる必要があります。次に例を示します。

- リモートクラスタトランクが[すべてのアクティブノードで実行 (Run on all Active Nodes)]を使用する：リモートクラスタトランクは、コール処理とロードバランシングにすべてのノードを使用します。ローカルクラスタ内から始まるローカルクラスタ間トランクでは、リモートクラスタ内の各サーバのIPアドレスまたはホスト名を追加します。
- リモートクラスタで[すべてのアクティブノードで実行 (Run on all Active Nodes)]を使用しない：リモートクラスタトランクは、コール処理およびロードバランシング用にトランクのデバイスプールに割り当てられた Unified Communications Manager グループのサーバを使用します。ローカルのクラスタ間トランク設定では、リモートクラスタトランクのデバイスプールで使用される Unified Communications Manager グループから各ノードのIPアドレスまたはホスト名を追加する必要があります。

セキュアなトランク

H.323 トランクのセキュアなシグナリングを設定するには、トランクに IPSec を設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。メディア暗号化を許可するようにトランクを設定するには、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [SRTP を許可する (SRTP allowed)] チェックボックスをオンにします。



- (注) ゲートキーパーは今では広く使用されていませんが、ゲートキーパー制御のトランクを使用するように H.323 導入を設定することもできます。ゲートキーパー制御のトランクを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0(1) アドミニストレーションガイド』を参照してください。

H.323 トランクの前提条件

H.323 導入トポロジを計画します。クラスタ間トランクの場合は、対応するリモートクラスタトランクがコール処理とロードバランシングにどのサーバを使用するかを明確化します。リモートクラスタ内のトランクによって使用される各コール処理サーバに接続するように、ローカルクラスタ間トランクを設定する必要があります。

トランクでのロードバランシングのためにトランクデバイスプールに割り当てられた Cisco Unified Communications Manager を使用している場合は、「[デバイスプールのコア設定の設定タスクフロー \(83 ページ\)](#)」セクションの設定を実行します。

H.323 トランクの設定

H.323 を導入したトランクを設定するには、次の手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] を選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [トランクタイプ (Trunk Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[クラスタ間トランク (ゲートキーパー制御なし) (Inter-Cluster Trunk (Non-Gatekeeper Controlled))] を選択します。
 - ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[クラスタ間トランク (Inter-Cluster Trunk)] を選択します。
 - ステップ 5 [デバイス名 (Device Name)] テキストボックスに、トランクの一意の識別子を入力します。
 - ステップ 6 [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウン リスト ボックスから、このトランクに設定したデバイスプールを選択します。
 - ステップ 7 このトランクの処理のためにローカルクラスタのすべてのノードを使用するには、[すべてのアクティブな Unified CM ノードで実行する (Run on all Active Unified CM Nodes)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 8 暗号化されたメディアをトランクで許可するには、[SRTP の許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 9 H.235 パススルーを設定するには、[H.235 パススルーを許可 (H.235 Pass Through Allowed)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 10 [リモートの Cisco Unified CM 情報 (Remote Cisco Unified Communications Manager Information)] セクションで、このトランクの接続先のリモートサーバごとに 1 つの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
-



第 10 章

ゲートウェイの設定

- [ゲートウェイの概要 \(107 ページ\)](#)
- [音声ゲートウェイのセットアップ要件 \(108 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定タスク フロー \(109 ページ\)](#)

ゲートウェイの概要

シスコは広範な音声およびビデオ ゲートウェイを提供しています。ゲートウェイは、Unified Communications ネットワークと外部ネットワークとの通信を可能にするインターフェイスを提供します。従来、ゲートウェイは、PSTN、構内交換機 (PBX)、またはアナログ電話や FAX 装置を含むレガシー デバイスなどのレガシー電話インターフェイスに IP ベースの Unified Communications ネットワークを接続するために使用されてきました。最も単純な形では、音声ゲートウェイが IP インターフェイスとレガシー電話インターフェイスを備え、2つのネットワークが通信できるようにゲートウェイが2つのネットワーク間でメッセージを変換します。

ゲートウェイ プロトコル

大半のシスコのゲートウェイには、複数の導入オプションがあり、多数のプロトコルのいずれかを使用して導入できます。導入するゲートウェイに応じて、次の通信プロトコルのいずれかを使用してゲートウェイを設定できます。

- メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP)
- Skinny Call Control Policy (SCCP)
- Session Initiation Protocol (SIP)
- H.323

インターフェイス カード

外部ネットワークに接続インターフェイスを提供するには、ベンダーインターフェイスカード (VIC) をゲートウェイにインストールする必要があります。ほとんどのゲートウェイには複数の VIC オプションが用意されており、各 VIC ではアナログ接続とデジタル接続に対して、さまざまなポートや接続タイプを提供できます。

ゲートウェイで提供されているプロトコル、カード、および接続については、ゲートウェイのマニュアルを参照してください。

音声ゲートウェイのセットアップ要件

ハードウェアのインストール

Cisco Unified Communications Manager にゲートウェイを設定する前に、ゲートウェイハードウェアに対して次の作業を行う必要があります。

- ゲートウェイのインストールと設定
- ゲートウェイに任意のベンダーインターフェイスカード (VIC) をインストールします。
- CLI を使用して、ゲートウェイの IOS を設定します。

詳細については、ご使用のゲートウェイに付属しているハードウェアとソフトウェアのマニュアルを参照してください。



- (注) 多くのゲートウェイデバイスの場合、デフォルトの Web ページは、そのゲートウェイの IP アドレスを使用して表示できます。ハイパーリンクの URL を `http://x.x.x.x/` にします。ここで、`x.x.x.x` はデバイスのドット形式の IP アドレスです。各ゲートウェイの Web ページには、ゲートウェイのデバイス情報とリアルタイムのステータスが含まれています。

ゲートウェイの導入計画

Cisco Unified Communications Manager にゲートウェイを設定する前に、ゲートウェイに設定する接続のタイプを十分に考慮してください。多くのゲートウェイは、MGCP、SIP、H.323、または SCCP のいずれかをゲートウェイプロトコルとして使用して設定できます。各導入タイプの接続タイプは、選択するプロトコルおよびゲートウェイにインストールされている VIC によって異なります。次の点を確認してください。

- 使用ゲートウェイでサポートされているゲートウェイプロトコル。
- ゲートウェイの VIC でサポートされているポート接続のタイプ。
- 設定予定の接続のタイプ。
- アナログ接続の場合、PSTN、レガシー PBX、またはレガシーデバイスに接続しているか。
- デジタルアクセス接続の場合、T1 CAS インターフェイスまたは PRI インターフェイスに接続しているか。
- FXO 接続の場合、着信コールをどのように転送するか。着信コールを IVR や自動応答機能に転送しているか。

ゲートウェイの設定タスク フロー

Unified Communications Manager にネットワークゲートウェイを追加するには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>導入するプロトコルに応じて、次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MGCPゲートウェイの設定 (109 ページ) • SCCP ゲートウェイの設定 (118 ページ) • SIP ゲートウェイの設定 (122 ページ) • H.323 ゲートウェイの設定 (125 ページ) 	Unified Communications Manager でゲートウェイを設定します。多くの Cisco ゲートウェイは、ALP および SCCP、SIP、または H のいずれかを使用して展開できます。ゲートウェイプロトコルとして使用できます。ゲートウェイのマニュアルを参照して、お使いのゲートウェイがサポートしているプロトコルと導入に最適なプロトコルを確認してください。
ステップ 2	ゲートウェイに対するクラスタ全体のコール分類の設定 (126 ページ)	(省略可) ネットワーク内のゲートウェイポートから着信するすべてのコールを内部 (OnNet) または外部 (OffNet) に分類するように、クラスタサービスのパラメータを設定します。
ステップ 3	オフネット ゲートウェイ転送のブロック (127 ページ)	(省略可) 外部 (オフネット) ゲートウェイ間のコールを Unified Communications Manager が転送しないようにブロックし、[オフネット間の転送をブロック (Block OffNet to Offnet Transfer)]パラメータを設定します。

MGCPゲートウェイの設定

MGCP 設定を使用するためにシスコのゲートウェイを設定するには、次のタスクを実行します。

始める前に

MGCP ゲートウェイの Unified CM ポート接続を確認します。Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM] に移動し、サーバを選択して、MGCP リッスンポートと MGP キープアライブポートの設定を確認します。ほとんどの場合、デフォルトのポート設定を変更する必要はありません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	MGCP (IOS) ゲートウェイの設定 (110 ページ)	Cisco Unified CM Administration にゲートウェイを追加し、ゲートウェイ プロトコルとして [MGCP] を選択します。適切なスロットとベンダーのインターフェイスカード (VIC) でゲートウェイを設定します。
ステップ 2	ゲートウェイ ポート インターフェイスの設定 (111 ページ)	<p>ゲートウェイにインストールされている VIC に接続するデバイス用のゲートウェイ ポート インターフェイスを設定します。ほとんどの VICs には、複数のポート接続とオプションが含まれているため、いくつかの異なるポート インターフェイス タイプを設定する必要があります。</p> <p>ヒント ポート インターフェイスの設定後に、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [BGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] オプションを選択し、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに戻ります。そのウィンドウで、別のポート インターフェイスを選択して設定できます。</p>
ステップ 3	MGCP ゲートウェイでのデジタル アクセス T1 ポートの追加 (116 ページ)	オプション デジタル アクセス T1 CAS ポート インターフェイスを設定したら、ゲートウェイに T1 CAS ポートを追加します。個別にポートを追加したり、同時にポート範囲を追加したりできます。
ステップ 4	ゲートウェイのリセット (118 ページ)	設定の変更は、ゲートウェイをリセットした後に反映されます

MGCP (IOS) ゲートウェイの設定

Unified Communications Manager に MGCP (IOS) ゲートウェイを追加して設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストからゲートウェイを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5 [設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] 領域で次の手順を実行します。
 - a) 各 [モジュール (Module)] ドロップダウンリストで、ゲートウェイにインストールされているネットワーク インターフェイス モジュール ハードウェアに対応するスロットを選択します。
 - b) 各 [サブユニット (Subunit)] ドロップダウンリストで、ゲートウェイにインストールされている VIC を選択します。
 - c) [保存 (Save)] をクリックします。
[ポート (Port)] アイコンが表示されます。各ポート アイコンは、ゲートウェイで使用可能なポート インターフェイスに対応しています。ポート インターフェイスを設定するには、該当するポートのアイコンをクリックします。
- ステップ 6 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ゲートウェイポートインターフェイスの設定

ゲートウェイにインストールされている VIC に接続するデバイスのポート接続を設定できます。ほとんどの VICs には、複数のポート接続とオプションが含まれているため、いくつかの異なるポートインターフェイスタイプを設定する必要があります。

設定するインターフェイスのタイプに応じて、次のいずれかのタスクを選択します。

- [デジタルアクセス優先ポートの設定 \(112 ページ\)](#)
- [MGCP ゲートウェイのデジタルアクセス T1 ポートの設定 \(112 ページ\)](#)
- [FXS ポートの設定 \(113 ページ\)](#)
- [FXO ポートの設定 \(114 ページ\)](#)
- [BRI ポートの設定 \(115 ページ\)](#)

デジタルアクセス優先ポートの設定

MGCP (IOS) ゲートウェイの PRI ポート インターフェイスを設定します。

始める前に

[MGCP \(IOS\) ゲートウェイの設定 \(110 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]** を選択します。

ステップ 2 **[検索 (Find)]** をクリックし、PRI ポートを設定するゲートウェイを選択します。

ステップ 3 **[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs, and Endpoints)]** 領域で、設定する BRI ポートを含むモジュールとサブユニットを見つけ、設定する BRI ポートに対応する **[ポート (Port)]** アイコンをクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、BRI ポート インターフェイスが表示されます。

ステップ 4 **[デバイスプール (Device Pool)]** ドロップダウンリストから、デバイスプールを選択します。

ステップ 5 **[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]** ウィンドウでその他のフィールドを設定します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 6 **[保存 (Save)]** をクリックします。

ステップ 7 (任意) ゲートウェイ用にさらにポート インターフェイスを設定するには、**[関連リンク (Related Links)]** ドロップダウンリストから **[MGCP の設定に戻る (Back to MGCP Configuration)]** を選択し、**[移動 (Go)]** をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、ゲートウェイで使用可能なポート インターフェイスが表示されます。

ポート インターフェイスの設定が完了したら、「[ゲートウェイのリセット \(118 ページ\)](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイのデジタルアクセス T1 ポートの設定

MGCP (IOS) ゲートウェイでデジタルアクセス T1 CAS ポートのポート インターフェイスを設定します。

始める前に

[MGCP \(IOS\) ゲートウェイの設定 \(110 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)]** > **[ゲートウェイ (Gateway)]** を選択します。
- ステップ 2 **[検索 (Find)]** をクリックして、T1 ポートを設定するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3 **[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]** 領域で、デジタルアクセス T1 (T1-CAS) ポートを設定するモジュールとサブユニットを探し、対応する **[ポート (Port)]** アイコンをクリックします。
- ステップ 4 **[デバイスプロトコル (Device Protocol)]** ドロップダウンリストから **[デジタルアクセス T1 (Digital Access T1)]** を選択して、**[Next (次へ)]** をクリックします。
- ステップ 5 適切なゲートウェイ設定を入力します。

フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

- ステップ 6 **[保存 (Save)]** をクリックします。

デジタルアクセス T1 CAS ポートインターフェイスに対するポートの追加の詳細については、「[MGCP ゲートウェイでのデジタルアクセス T1 ポートの追加 \(116 ページ\)](#)」を参照してください。

FXS ポートの設定

MGCP ゲートウェイで Foreign Exchange Station (FXS) のポートを設定します。FXS ポートを使用して、単純な旧式の電話サービス (POTS) の従来型の電話や、ファックス装置、スピーカーフォン、従来型のボイスメッセージングシステム、自動音声応答 (IVR) などの従来型のデバイスに、ゲートウェイを接続することができます。

始める前に

ポートを設定する前に、ゲートウェイを追加する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、**[デバイス (Device)]** > **[ゲートウェイ (Gateway)]** を選択します。
- ステップ 2 **[検索 (Find)]** をクリックして、FXS ポートを設定するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3 **[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs, and Endpoints)]** 領域で、設定するポートに対応する **[FXS ポート (FXS Port)]** アイコンをクリックします。**[ポートの選択 (Port Selection)]** エリアが表示されます。
- ステップ 4 **[ポートタイプ (Port Type)]** ドロップダウンリストから、設定する接続タイプを選択します。

- [POTS] : 従来の電話機などの POTS デバイスにこのポートを接続する場合は、このオプションを選択します。
- [グラウンドスタート (Ground Start)] : グラウンドスタート シグナリングを使用して、ファックス装置、従来型のボイスメッセージングシステム、IVR などの従来型の無人デバイスにこのポートを接続する場合は、このオプションを選択します。
- [ループスタート (Loop Start)] : ループスタート シグナリングを使用して、ファックス装置、従来型のボイスメッセージングシステム、IVR などの従来型の無人デバイスにこのポートを接続する場合は、このオプションを選択します。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

[ポートの設定 (Port Configuration)] ウィンドウには、デバイスプロトコルとしてアナログアクセスを使用するポート インターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 6 [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストから、デバイスプールを選択します。

ステップ 7 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。

フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 9 (任意) MGCP IOS ゲートウェイでさらにポート インターフェイスを設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [ゲートウェイに戻る (Back to Gateway)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、ゲートウェイで使用可能なポートが表示されます。

ポート インターフェイスの設定が完了したら、「[ゲートウェイのリセット \(118 ページ\)](#)」を参照してください。

FXO ポートの設定

MGCP (IOS) ゲートウェイの Foreign Exchange Office (FXO) を設定します。FXO ポートを使用して、ゲートウェイを PSTN またはレガシー PBX に接続できます。



- (注) Unified Communications Manager は、すべてのループスタート トランクに確実な接続解除監視がないと見なします。サーバのフェールオーバー中もアクティブなコールを維持できるように、確実な接続解除監視をグラウンドスタートに指定してトランクを設定します。

始める前に

[MGCP \(IOS\) ゲートウェイの設定 \(110 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、ルート クラス シグナリングを設定するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3 [設定済みのスロット、VICおよびエンドポイント (Configured Slots, VICs, and Endpoints)] 領域で、FXO ポート インターフェイスをセットアップする FXO ポートを含むモジュールおよびサブユニットを見つけて、設定するポートに対応する [ポート (Port)] アイコンをクリックします。
- ステップ 4 [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリストから、[グラウンドスタート (Ground-Start)] または [ループスタート (Loop-Start)] を選択します。

(注) VIC-2 FXO ポートを設定している場合は、サブユニット モジュールの両方のポートに同じポートタイプを選択する必要があります。

- ステップ 5 [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストから、デバイスプールを選択します。
- ステップ 6 [アテンダント DN (Attendant DN)] ボックスに、このポート接続からのすべての着信コールをルーティングする電話番号を入力します。たとえば、1つのアテンダントの場合は、0 または ディレクトリ番号が表示されます。
- ステップ 7 [ポートの設定 (Port Configuration)] ウィンドウの他のフィールドに入力します。フィールドの説明については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9 (任意) MGCP IOS ゲートウェイでさらにポート インターフェイスを設定するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ゲートウェイに戻る (Back to Gateway)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、ゲートウェイで使用可能なポートが表示されます。

ポート インターフェイスの設定が完了したら、「[ゲートウェイのリセット \(118 ページ\)](#)」を参照してください。

BRI ポートの設定

MGCP (IOS) ゲートウェイの BRI ポート インターフェイスを設定します。

始める前に

[MGCP \(IOS\) ゲートウェイの設定 \(110 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]** を選択します。
- ステップ 2** BRI ポートを設定するゲートウェイを選択するには、**[検索 (Find)]** をクリックします。
- ステップ 3** [設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs, and Endpoints)] セクションで、BRI ポートを使用するサブユニットを探し、設定するポートに対応する **[ポート (Port)]** アイコンをクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、BRI ポート インターフェイスの情報が表示されます。
- ステップ 4** [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストから、デバイスプールを選択します。
- ステップ 5** 適切なゲートウェイおよびポートの設定情報を入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** (任意) ゲートウェイ用にさらにポート インターフェイスを設定するには、**[関連リンク (Related Links)]** ドロップダウンリストから **[MGCP の設定に戻る (Back to MGCP Configuration)]** を選択し、**[移動 (Go)]** をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、MGCP ゲートウェイで使用可能なポート インターフェイスが表示されます。
ポート インターフェイスの設定が完了したら、**[ゲートウェイのリセット (118 ページ)]** を参照してください。
-

MGCP ゲートウェイでのデジタル アクセス T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイで、T1 CAS ポートを T1 デジタル アクセス ポート インターフェイスに追加および設定します。最大 24 の T1 CAS ポートを追加および設定できます。ポートを単独に追加したり、一連のポートを追加したり構成したりすることもできます。特定のポート範囲を入力する場合、Unified Communications Manager がそのポート範囲全体に設定を適用します。

始める前に

[MGCP ゲートウェイのデジタル アクセス T1 ポートの設定 \(112 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]** を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックし、T1 CAS ポート インターフェイスを含むゲートウェイを選択します。
- ステップ 3** [新規ポートの追加 (Add a New Port)] をクリックします。

- ステップ 4** [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリストボックスから、追加するポートのタイプを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドにポート番号を入力し、追加と設定を行うポート範囲を指定します。
- たとえば、1 から 10 のポートを、ポート インターフェイスに同時に追加するには、1 と 10 を入力します。
- ステップ 6** [通信の方向 (Port Direction)] ドロップダウンリストボックスから、このポートを通過するコールの方向を設定します。
- [双方 (Bothways)] : 発着信コールの両方を許可する場合、このオプションを選択します。
 - [インバウンド (Inbound)] : 着信コールのみを許可する場合、このオプションを選択します。
 - [アウトバウンド (Outbound)] : アウトバウンド コールのみを許可する場合、このオプションを選択します。
- ステップ 7** EANDM ポートの場合、[発信者の選択 (Calling Party Selection)] ドロップダウンリストで、このポートに接続されているデバイスからの発信コールの発信者番号をどのように表示するかを選択します。
- [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。
 - [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
 - [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの電話番号を送信します。
 - [最初のリダイレクト番号 (外線) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最初のデバイスの電話番号を送信します。
 - [最後のリダイレクト番号 (外線) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最後のデバイスの電話番号を送信します。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** MGCP ゲートウェイ用に追加のポートを設定するには、[関連リンク (Related Links)] から、[ゲートウェイに戻る (Back to Gateway)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。デジタル アクセス T1 ポート インターフェイスが表示されたら、次のいずれかの手順を実行します。
- このポート インターフェイスに追加のデジタル アクセス T1 CAS ポートを追加するには、この手順のステップ 3 (「新規ポートの追加」) に戻ります。
 - ゲートウェイでさらにポート インターフェイスを設定するには、[関連リンク (Related Links)] から、[MGCP の設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに、ゲートウェイのサブユニット モジュールで使用可能なポートが表示されます。
 - ポート インターフェイスの設定が完了したら、「[ゲートウェイのリセット \(118 ページ\)](#)」を参照してください。

ゲートウェイのリセット

ほとんどのゲートウェイは、設定の変更が適用されるようにリセットする必要があります。リセットを行う前に、必要なゲートウェイ設定をすべて完了することをお勧めします。



(注) H.323 ゲートウェイをリセットしても、Unified Communications Manager にロードされた設定が再初期化されるだけで、ゲートウェイの物理的な再起動やリセットは行われません。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、ゲートウェイを選択します。
- ステップ 3 リセットするゲートウェイの横のチェックボックスをクリックして、[リセット選択済み (Reset Selected)] をクリックします。[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスが表示されます。次のいずれか 1 つの処理を実行します。
- ステップ 4 [リセット (Reset)] をクリックします。

MGCP 発信者 ID 制限

着信 SIP リクエストの FROM ヘッダーに特殊文字が含まれている場合、SIP-MGCP/323 コールフローに影響を与え、システムが通話を切断するか、問題を表示します。したがって、リクエストが Unified Communications Manager に到達するネットワークノードを修正します。

次に例を示します。

- 「Per%cent」など、アルファベットに含まれる特殊文字は、表示名に影響します。
- 「0%09%0A%01%05%0A%01%03%0A%01%04」のような多くの特殊文字は、CRCX に問題が発生する可能性があるため、MGCP 側に送信されるリモート名としての通話を切断する場合があります。

SCCP ゲートウェイの設定

SCCP 設定を使用するように Cisco ゲートウェイを設定するには、このタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ゲートウェイプロトコルとしての SCCP の設定 (119 ページ)	ゲートウェイプロトコルとして SCCP を使用するように、Cisco ゲートウェイを設定します。
ステップ 2	未設定のアナログ FXS ポートの自動登録の有効化	未設定のアナログ FXS ポートの自動登録を有効にします。
ステップ 3	アナログ電話の自動登録の有効化 (120 ページ)	指定したポートで自動登録を有効化にして、自動登録 DN のプールから DN を取得します。

ゲートウェイプロトコルとしての SCCP の設定

ゲートウェイプロトコルとして SCCP を使用するように、Cisco ゲートウェイを設定できます。この導入オプションを使用して、FXS または BRI ポートを使用して、Unified Communications Manager をアナログアクセスデバイスまたは ISDN BRI デバイスに接続できます。SCCP ゲートウェイをデジタルアクセスの T1 トランクまたは E1 トランクに接続することはできません。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストボックスで、[Cisco VG200] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから、[SCCP] を選択します。
- ステップ 5 [設定済みのスロット、VIC およびサブユニット (Configured Slots, VICs and Subunits)] セクションで、次の手順を実行します。
 - a) 個々の [モジュール (Module)] ドロップダウンリストで、ゲートウェイにインストールされているネットワーク インターフェイス モジュールのハードウェアに対応するスロットを選択します。
 - b) 各 [サブユニット (Subunit)] で、ゲートウェイにインストールされている VIC を選択します。
- ステップ 6 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドを設定します。
フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

[ポート (Port)]アイコンは、サブユニットモジュールの横に表示されます。各ポートのアイコンは、ゲートウェイで設定可能なポートのインターフェイスに対応します。該当するポートのアイコンをクリックして、ポートのアナログアクセスまたは ISDN BRI 電話を設定できます。

ステップ 8 更新を完了したときに、ゲートウェイに変更を適用します。

- a) [ゲートウェイのリセット (Reset Gateway)]をクリックします。[ゲートウェイの再起動 (Restart Gateway)]ポップアップが表示されます。
- b) [リセット (Reset)]をクリックします。

アナログ電話の自動登録の有効化

自動登録 Dn のプールから電話番号を取得するために、指定されたポートの自動登録を有効にします。デフォルトでは、ユニファイドコミュニケーションマネージャはアナログ電話の自動登録を許可しません。管理者は、SCCP プロトコルを使用して、対応するゲートウェイを介して、アナログ電話機を自動登録するようにゲートウェイモジュールを設定する必要があります。



- (注) サポートされているゲートウェイタイプは、VG310、VG350、VG400、VG450、および ISR4K シリーズです。

始める前に

- 自動登録を有効化して、新しいエンドポイントがネットワークに接続している間に割り当てられる DN の範囲を指定します。詳細については、「[自動登録の有効化 \(456 ページ\)](#)」の項を参照してください。
- ゲートウェイで SCCP プロトコルを使用して自動設定を有効にします。詳細については、『[SCCP ゲートウェイのための CUCM 自動設定](#)』ガイドを参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストボックスで、[Cisco VG200] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから、[SCCP] を選択します。

ステップ 5 [ゲートウェイの詳細 (Gateway Details)] セクションで、次の手順を実行します。

- a) テキストボックスに、**MAC アドレス**の最後の 10 桁を入力します。MAC アドレスを入力すると、[説明 (Description)] フィールドの値が自動的に入力されます。

- (注) ゲートウェイのMACアドレスは、イーサネットMACアドレスか、またはSCCPゲートウェイのインターフェイスで割り当てられた仮想MACアドレスであり、Unified Communications Manager と通信します。

MACアドレスを指定すると、各FXSポートは、設定されたMACアドレスとそのポート番号からポート名を取得します。対応するアナログ電話機が自動的にこのゲートウェイに登録されます。

たとえば、[スロット0のモジュール (Module in Slot 0)] ドロップダウンリストで[NM-4VWIC-MBRD]が選択され、[サブユニット0 (Subunit 0)] ドロップダウンリストで[VIC3-4FXS/DID-SCCP]が選択された場合、4個のFXSポートの値はそれぞれ[0/0/0]、[0/0/1]、[0/0/2]、[0/0/3]と表示されます。各ポートをクリックすると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの[説明 (Description)] フィールドに、対応するポート名が表示されます。表示されるポート名は、MACアドレスとポート値の組み合わせです。

ゲートウェイは、設定に基づいて、仮想MACアドレスまたはイーサネットMACアドレスを使用してUnified Communication Manager と通信します。仮想MACアドレスは、破損したゲートウェイを交換した場合でも使用できるため、Unified Communication Manager アプリケーションで設定を変更する必要はありません。

- b) 必要なCisco Unified Communications Manager グループをドロップダウンリストから選択して、自動登録を有効化します。

ステップ 6 [設定済みのスロット、VICおよびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] セクションで、次の手順を実行します。

- a) 各[モジュール (Module)] ドロップダウンリストで、ゲートウェイにインストールされているネットワーク インターフェイス モジュールハードウェアに対応するスロットを選択し、[保存 (Save)] をクリックして、それぞれのサブユニットを有効化します。
- b) 1つ以上のサブユニットについて、ゲートウェイにインストールされている対応するVICを選択して、[保存 (Save)] をクリックします。

- (注) スロットとモジュールは、どのスロットとモジュールにFXSポートが設定されているかを示します。また、FXSポートの数も示します。

ポートは自動登録されて自動DNを取得するため、ゲートウェイの設定は、ポートレベルまでではなくサブユニットレベルまでとします。たとえば、FXSに対してサブユニットが選択されている場合、対応するFXSポートが自動登録DNプールで使用可能なDNを1つ選択して、選択されたポートにDNを割り当てます。

ステップ 7 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ゲートウェイは、ポートが電話に接続されているかどうかに関係なく、FXSで設定されたすべてのポートに登録要求を送信します。

未設定のアナログ FXS ポートの自動登録の有効化

未設定のアナログ FXS ポートの自動登録を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、実行中の目的のサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Call Manager (アクティブ) (Cisco CallManager(Active))] を選択します。
- ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (デバイス-PRIおよびMGCPゲートウェイ) (Clusterwide Parameters (Device-PRI and MGCP Gateway))] セクションで、[FXSポートの自動登録の有効化 (Enable Auto Registration for FXS Ports)] ドロップダウンリストが [はい (True)] に設定されていることを確認します。
- (注) 未設定のアナログ FXS ポートの自動登録を無効にするには、[FXSポートの自動登録の有効化 (Enable Auto Registration for FXS Ports)] の値を [いいえ (False)] に設定します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

トラブルシューティングのヒント

ポートが登録されていることを確認し、自動 DN を取得するには、Unified Communications Manager で次の手順を実行します。

1. SCCP をゲートウェイタイプとして設定します。
2. 自動登録を有効にします。
3. デバイスタイプとしてアナログ電話を選択します。
4. 音声ポートの数に対応できる十分な数の DN がプール内にあることを確認します。

SIP ゲートウェイの設定

次のタスクを実行して、Unified Communication Manager で SIP ゲートウェイを設定します。多くの Cisco ゲートウェイとサードパーティゲートウェイは、SIP を使用するように設定することができます。Unified Communication Manager には、SIP ゲートウェイ用のゲートウェイデバイスタイプが含まれていません。

始める前に

ネットワークにゲートウェイハードウェアをインストールし、Unified Communication Manager にゲートウェイを追加する前に、ゲートウェイ上でIOS ソフトウェアを設定する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SIP プロファイルの設定 (123 ページ)	Sip プロファイルを設定し、sip プロファイルに適用します。トランクはこの設定を使用して SIP ゲートウェイに接続します。
ステップ 2	SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定 (124 ページ)	SIP トランクセキュリティプロファイルを設定して、トランクが SIP ゲートウェイに接続するためにこれを使用するようにします。デバイスのセキュリティモード、要約されたアイデンティティの検証、および着信/転送タイプの設定などのセキュリティ設定ができます。
ステップ 3	SIP ゲートウェイ向け SIP トランクの設定 (124 ページ)	SIP ゲートウェイを指すようにすべての SIP トランクを設定する SIP トランク セキュリティ プロファイルをトランクに適用します。

SIP プロファイルの設定

SIP ゲートウェイ接続の SIP プロファイルを設定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいプロファイルを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存の SIP プロファイルを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 [SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。

フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定

SIP ゲートウェイに接続するトランクのセキュリティ設定とともに SIP トランクセキュリティ プロファイルを設定します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)]>[セキュリティ (Security)]>[SIP トランク セキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)]を選択します。

ステップ2 次のいずれかの手順を実行します。

- 既存のプロファイルを選択するには、[検索 (Find)]をクリックします。
- 新しいプロファイルを作成するには、[新規追加 (Add New)]をクリックします。

ステップ3 [SIP トランク セキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)]ウィンドウの各フィールドに入力します。

フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

SIP ゲートウェイ向け SIP トランクの設定

SIP を使用するシスコまたはサードパーティのゲートウェイに Unified Communications Manager を接続するように、SIP トランクを設定します。この設定では、[ゲートウェイの設定 (gateway configuration)] ウィンドウでゲートウェイをデバイスとして入力しないでください。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)]>[トランク (Trunk)]を選択します。

ステップ2 [新規追加 (Add New)]をクリックして、新しい SIP トランクを設定します。

ステップ3 [トランクタイプ (Trunk Type)] ドロップダウンリストから、[SIP トランク (SIP Trunk)]を選択します。

ステップ4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [なし (None)]を選択します。

ステップ5 [SIP 情報 (SIP Information)] ペインの [宛先アドレス (Destination Address)] フィールドに、SIP ゲートウェイの IP アドレス、完全修飾ドメイン名、または DNS SRV レコードを入力します。

- ステップ 6** [SIP トランクのセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] ドロップダウンリストから、このゲートウェイ用に設定した SIP トランクのセキュリティプロファイルを選択します。
- ステップ 7** [SIP プロファイル (SIP Profile)] ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイに設定した SIP プロファイルを選択します。
- ステップ 8** [SIP トランク設定 (SIP Trunk Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドの説明については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

H.323 ゲートウェイの設定

Unified Communications Manager で、非ゲートキーパー H.323 の導入環境に対する H.323 ゲートウェイを設定します。



- (注) H.323 ゲートキーパーを導入しない場合は、ゲートキーパー制御の H.225 トランクをセットアップして、H.323 ゲートウェイを追加することもできます。ゲートキーパーの使用率は、近年減少傾向にあるため、このシナリオは本書には記載していません。ゲートキーパーおよび H.225 ゲートキーパー制御のトランクを設定する場合は、『Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0(1) アドミニストレーションガイド』を参照してください。



- (注) ゲートウェイを Unified Communications Manager に登録した後に Unified Communications Manager でゲートウェイの登録ステータスが「不明」と表示される場合があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストから、[H.323ゲートウェイ (H.323 Gateway)] を選択します。
- ステップ 4** [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 5** H.235 を使用してセキュア チャネルを設定するには、[H.235 データのパススルー (H.235 Data Passthrough)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。

フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 8 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ほとんどのゲートウェイでは、設定の変更を適用するためにリセットする必要があります。リセットを行う前に、必要なゲートウェイ設定をすべて完了することをお勧めします。

ゲートウェイに対するクラスタ全体のコール分類の設定

ネットワーク ゲートウェイの [コールの分類 (Call Classification)] を設定します。この設定は、システムがネットワークでゲートウェイが内部 (OnNet) 、または外部 (OffNet) であるかを見なすかどうかを決定します。

[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが、個々のゲートウェイ ポート インターフェイスの設定ウィンドウに表示されます。デフォルトでは、各ゲートウェイ ポート インターフェイスはクラスタ全体のサービス パラメータの設定を使用するように設定されています。ただし、ポートでの [コールの分類 (Call Classification)] の設定がクラスタ全体のサービス パラメータとは異なる場合、ポートでの設定がサービス パラメータの設定よりも優先されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。

ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 概要) (Clusterwide Parameters (Device - General))] で、[コールの分類 (Call Classification)] サービス パラメータに次の値のいずれかを設定します。

- [オンネット (OnNet)] : このゲートウェイからのコールが、企業ネットワーク内から発信されているものと分類されます。
- [オフネット (OffNet)] : このゲートウェイからのコールが、企業ネットワーク外から発信されているものと分類されます。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

オフネット ゲートウェイ転送のブロック

外部（オフネット）ゲートウェイ間で転送されるコールをブロックするようにシステムを設定する場合は、この手順を使用します。デフォルトでは、ある外部ゲートウェイから別の外部ゲートウェイへの転送は許可されます。

ゲートウェイが外部（OffNet）であるか内線（OnNet）であるかどうかを判別する設定は、コール分類設定によって決定されます。これは、クラスタ全体のサービスパラメータを使用するか、次のいずれかのポート インターフェイスを設定することで設定します。

- MGCP T1/E1 ポート インターフェイス
- MGCP FXO ポート インターフェイス
- H.323 ゲートウェイ
- SIP トランク

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4** [オフネットからオフネットへの転送をブロック (Block OffNet to Offnet Transfer)] サービスパラメータを設定します。
 - **True** : 2つの外部（オフネット）ゲートウェイ間の転送をキャンセルするには、このオプションを選択します。
 - **False** : 2つの外部（オフネット）ゲートウェイ間の転送を許可するには、このオプションを選択します。これがデフォルトのオプションです。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

(注) ゲートウェイをルートパターンに関連付け、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで[コールの分類 (Call Classification)] を設定することで、ゲートウェイを介してコールをオンネットまたはオフネットに分類することもできます。



第 11 章

SRST の設定

- [Survivable Remote Site Telephony の概要 \(129 ページ\)](#)
- [Survivable Remote Site Telephony の設定タスク フロー \(130 ページ\)](#)
- [SRST の制限 \(134 ページ\)](#)

Survivable Remote Site Telephony の概要

Survivable Remote Site Telephony (SRST) は、Unified Communications Manager ノードとのワイドエリアネットワーク (WAN) 接続に依存するサイト用のオプション機能です。SRST リファレンスは、Unified Communications Manager 管理インターフェイスで構成されています。WAN の故障が発生した場合、IP ゲートウェイは、次のようにリモートサイトの IP 電話に限定されたテレフォニーサービスを提供することができます。

- リモート サイトの IP 電話は互いにコールできます。
- PSTN からのコールは IP 電話に到達できます。
- IP 電話からのコールは PSTN を介して外部に到達できます。

リモート サイトの電話が、関連付けられているすべての Unified Communications Manager ノードに接続できない場合、SRST リファレンスの IP ゲートウェイに接続します。IP 電話のステータス行には、IP 電話がバックアップ SRST ゲートウェイにフェールオーバーしたことが示されます。Unified Communications Manager への接続が復元されると、Unified Communications Manager と完全なテレフォニーサービスに再登録された IP 電話が復元されます。

SRST は、PSTN ゲートウェイ アクセスに加えて、SCCP および SIP エンドポイントが混在している可能性があるリモート サイトをサポートします。

接続モニタ間隔

ワイドエリアネットワーク (WAN) を介して SRST ゲートウェイに接続する IP 電話は、WAN リンクを介した Unified Communications Manager との接続を確立できると直ちに Unified Communications Manager に再接続します。ただし、WAN リンクが不安定な場合、IP 電話は SRST に切り替えたり、Unified Communications Manager に切り替えたりします。このため、電話サービスが一時的に失われます (ダイヤルトーンが聞こえません)。このような再接続の試

行は、WAN リンク フラッピング問題と呼ばれ、IP 電話が Unified Communications Manager に正常に再接続するまで続きます。

Unified Communications Manager と SRST ゲートウェイの間での WAN リンク フラッピングの問題を解決するために、IP 電話が Unified Communications Manager から SRST ゲートウェイを登録解除して再登録するまでに、IP 電話が Unified Communications Manager との接続をモニタする秒数（接続モニタ間隔）を定義することができます。IP 電話は、XML 設定ファイルに指定された接続モニタ間隔の値を受信します。

Survivable Remote Site Telephony の設定タスク フロー

始める前に

ダイヤルプランを検証します。ダイヤルプランに 7 か 8 桁の数字があるとき、場合によりトランスレーションルールを設定する必要があります。トランスレーションルールの詳細については、「[トランスレーションパターンの設定 \(215 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SRST 参照の設定 (131 ページ)	他のすべての Unified Communications Manager ノードに到達できない場合に、制限付きのコール制御機能を提供するゲートウェイを設定します。
ステップ 2	デバイス プールへの SRST リファレンスの割り当て (131 ページ)	各デバイスプールに対して、Unified Communications Manager を使用できない場合に、コールの完了を試みる発信側デバイスが検索するゲートウェイを割り当てます。
ステップ 3	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • クラスタの接続モニタ期間の設定 (132 ページ) • デバイス プールの接続モニタ期間の設定 (132 ページ) 	任意： 接続モニタ期間を設定します。クラスタ全体のデフォルト値を適用することも、デバイス プール内のデバイスに設定を適用することもできます。
ステップ 4	SRST ゲートウェイでの SRST の有効化 (133 ページ)	ゲートウェイで SRST パラメータを設定します。

SRST 参照の設定

SRST リファレンスは、デバイスのその他すべての Cisco Unified Communications Manager ノードが到達不能の場合に、Cisco Unified Communications Manager の一部機能を利用できるゲートウェイで構成されます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration にログインし、[システム (System)] > [SRST (SRST)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [SRSTリファレンスの設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

デバイス プールへの SRST リファレンスの割り当て

電話機の各デバイス プールに SRST を設定できます。デバイス プールに SRST リファレンスを割り当てると、デバイス プールのすべての電話機が、Cisco Unified Communications Manager のノードに到達できない場合、割り当てた SRST に接続を試みます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックし、リモート IP 電話が登録されているデバイス プールを選択します。
- ステップ 3** [ローミングに合わせて変化する設定 (Roaming Sensitive Settings)] エリアの [SRST リファレンス (SRST Reference)] ドロップダウン リストから SRST を選択します。
[SRST リファレンス (SRST Reference)] ドロップダウン リストには次のオプションがあります。
 - [無効 (Disable)] : 電話機は、Cisco Unified Communications Manager のいずれのノードにも到達できない場合、SRST ゲートウェイへの接続を試みません。
 - [デフォルト ゲートウェイを使用 (Use Default Gateway)] : 電話機は、Cisco Unified Communications Manager のいずれのノードにも到達できない場合、IP ゲートウェイを SRST ゲートウェイとして接続を試みます。
 - [ユーザ定義 (User-Defined)] : 電話が任意の Cisco Unified Communications Manager ノードに接続できない場合、SRST ゲートウェイへの接続を試みます。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

クラスタの接続モニタ期間の設定

この手順は省略可能です。接続モニタ間隔のシステム値（エンタープライズパラメータ）を変更する場合だけ、この手順を完了します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドに値を入力します。デフォルト値は 120 秒です。フィールドに入力できる最大秒数は、2592000 秒です。
- ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) 変更を有効にするにはすべてのサービスを再起動する必要があります。

このエンタープライズパラメータには、接続モニタ期間に対するクラスタのデフォルトを設定します。ただし、それよりも優先される設定がデバイスプールに存在する場合、その設定が、デバイスプールを使用するデバイスのエンタープライズパラメータ設定よりも優先されます。

デバイス プールの接続モニタ期間の設定

この手順は省略可能です。この操作は、次の項目に該当する場合に限り実行します。

- 接続モニタの期間について、クラスタ全体の値を使用しない場合。
- このデバイス プールの接続モニタ期間の値を個別に定義する場合。



ヒント デバイス プールの接続モニタ間隔の値を変更する場合、値は更新されるデバイス プールだけに適用されます。その他すべてのデバイス プールは、各自の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値を使用するか、[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] エンタープライズパラメータで設定されたクラスタ全体用の値を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、リモート IP 電話が登録されているデバイス プールを選択します。

ステップ 3 [ローミングに合わせて変化する設定 (Roaming Sensitive Settings)] エリアで、[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドに値を入力します。フィールドに入力できる最大秒数は、2592000 秒です。

(注) この設定は、エンタープライズパラメータの接続モニタ間隔設定をオーバーライドします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

SRST ゲートウェイでの SRST の有効化

始める前に

- [デバイス プールへの SRST リファレンスの割り当て \(131 ページ\)](#)
- (オプション) 次のいずれかのタスクを実行します。
 - [クラスタの接続モニタ期間の設定 \(132 ページ\)](#)
 - [デバイス プールの接続モニタ期間の設定 \(132 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 SRST ゲートウェイ (ルータ) にログインします。

ステップ 2 **Call-manager-fallback** コマンドを入力します。
このコマンドは、ルータの SRST を有効にします。

ステップ 3 **max-ephones max-phones** コマンドを入力します。ここで、**max-phones** は、サポート対象の Cisco IP Phone の最大数です。

ステップ 4 **max-dn max-directory-numbers** コマンドを入力します。ここで、**max-directory-numbers** は、ルータでサポートできる電話番号 (DN) または仮想化音声ポートの最大数です。

ステップ 5 **ip source-address ip-address** コマンドを入力します。ここで、**ip-address** は既存のルータ IP アドレスで、通常はルータのイーサネットポートのアドレスの 1 つです。
このコマンドにより、SRST ルータは、指定された IP アドレスを介してシスコ IP 電話からメッセージを受信することができます。

SRST の制限

制限事項	説明
SRST リファレンスの削除	<p>デバイスプールまたはその他の項目によって使用されている SRST リファレンスは削除できません。SRST リファレンスを使用しているデバイスプールを特定するには、[SRST リファレンスの設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコードサマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。使用中の SRST リファレンスを削除しようとする、Unified Communications Manager にエラーメッセージが表示されます。現在使用中の SRST リファレンスを削除する前に、次のタスクのいずれかまたは両方を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 削除する SRST リファレンスを使用しているすべてのデバイスプールに別の SRST リファレンスを割り当てます。 • 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイスプールを削除します。 <p>(注) SRST リファレンスを削除するときは、削除する SRST リファレンスが正しいかどうかを慎重に確認してください。削除した SRST リファレンスを元に戻すことはできません。SRST リファレンスを誤って削除した場合は、再作成する必要があります。</p>



第 12 章

メディアリソースの設定

- [メディアリソースについて \(135 ページ\)](#)
- [メディアリソース構成タスクフロー \(153 ページ\)](#)

メディアリソースについて

Cisco Unified Communications Manager の機能では、メディアリソースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager には次のようなメディアリソースが含まれます。

- アナンシエータ
- 音声自動応答 (IVR)
- メディア ターミネーション ポイント (MTP)
- トランスコーダ
- トラストドリレー ポイント
- 会議ブリッジ
- 保留音または保留中ビデオ

メディアリソースをメディアリソースグループの一覧に割り当て、そのリストをデバイスプールまたは個々のデバイスに割り当てることによって、電話で利用可能にすることができます。個々のデバイスのデフォルト設定では、デバイスが使用しているデバイスプールに割り当てられているメディアリソースを使用します。



(注) 保留音の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』を参照してください。

メディアターミネーションポイント

メディアターミネーションポイント (MTP) は、2つの全二重メディアストリームを受信して、それらをまとめてブリッジし、個別に設定と分解を行えるようにするためのエンティティです。Cisco Unified Communications Manager は、MTP をメディアパスに挿入して、次のようなさまざまな状況を解決できます。

- Trusted Relay Point (TRP) として動作する場合
- RTP ストリームに対して IPv4 と IPv6 の変換を提供する場合
- SIP トランク経由で SIP アーリーオファーを配信する場合
- DTMF トランスポートの不一致に対処する場合
- RSVP エージェントとして動作する場合

H.323 コールの MTP

メディアターミネーションポイントを H.323 コールのメディアパスに挿入することで、H.323 エンドポイントにコールがルーティングされた場合に通常は利用できない補完的サービス (コール保留、コール転送、コールパーク、会議など) を拡張できます。H.323 補完サービスで MTP が必要となるのは、Empty Capability Set (ECS) または FastStart をサポートしていないエンドポイントのみです。ECS および FastStart をサポートしているすべての Cisco および他のサードパーティ製エンドポイントでは、MTP は必要ありません。

MTP タイプ

Cisco Unified Communications Manager では、次の MTP タイプがサポートされています。

- IOS ゲートウェイのソフトウェア MTP
- IOS ゲートウェイのハードウェア MTP
- Cisco IP Voice Media Streaming サービスが提供するソフトウェア MTP

シスコメディアターミネーションポイントソフトウェアの MTP タイプでは、ネットワークの速度とネットワークインターフェイスカード (NIC) に応じて、デフォルトで 48 個のユーザ設定可能な MTP リソースが提供されます。たとえば、100 MB のネットワーク/NIC カードが 48 の MTP リソースをサポートできるのに対して、10 MB の NIC カードは同数のリソースをサポートできません。

10 MB のネットワーク/NIC カードの場合は、約 24 の MTP リソースを提供できます。ただし、使用可能な MTP リソースの正確な数は、PC 上の他のアプリケーションが消費しているリソース、プロセッサの速度、ネットワーク負荷、その他のさまざまな要因によって異なります。

MTP 登録

MTP デバイスは、プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用可能である場合は常にその Cisco Unified Communications Manager に登録され、サポートしている MTP リソースの

数を Cisco Unified Communications Manager に通知します。同じ Cisco Unified Communications Manager に複数の MTP を登録できます。特定の Unified Communications Manager に複数の MTP が登録されている場合、その Cisco Unified Communications Manager は、MTP ごとのリソース セットを制御します。

たとえば、MTP サーバ 1 が 48 の MTP リソース用に設定され、MTP サーバ 2 は 24 のリソース用に設定されているとします。両方の MTP が同じ Unified Communications Manager を登録する場合、その Unified Communications Manager は両方のリソースセット、つまり、合計 72 の登録済み MTP リソースを保持します。

Unified Communications Manager は、コールエンドポイントで MTP が必要であると判定すると、アクティブストリームが最も少ない MTP から MTP リソースを割り当てます。その MTP リソースは、エンドポイントの代わりにコールに挿入されます。MTP リソースの使用は、システムのユーザにも、リソースが代わりに挿入されたエンドポイントにも見えない形で行われます。MTP リソースが必要なときに、そのリソースが使用できない場合、コールは MTP リソースを使用せずに接続されるため、そのコールは補足サービスを利用できないこととなります。

メディア ターミネーション ポイントの連携動作と制限事項

表 6: メディア ターミネーション ポイントの連携動作と制限事項

制限事項	説明
Cisco IP 音声ストリームアプリケーション	1 台のサーバでアクティブにできる Cisco IP Voice Streaming Application は 1 つに限定されます。追加の MTP リソースを提供するには、ネットワーク上にある他のサーバで Cisco IP Voice Streaming アプリケーションをアクティブにすることができます。 Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスに悪影響を与える可能性があるため、コール処理の負荷が大きい Cisco Unified Communications Manager 上では Cisco IP Voice Streaming Media Application をアクティブにしないようにすることを強くお勧めします。
Cisco Unified Communications Manager への登録	各 MTP が一度に登録できる Cisco Unified Communications Manager は 1 つに限定されます。システム内には、設定内容に応じて、複数の MTP を存在させることができます。各 MTP は、1 つの Cisco Unified Communications Manager に登録できます。

制限事項	説明
フェールオーバーとフォールバック	<p>ここでは、MTP デバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager が到達不能になったときの、MTP デバイスのフェールオーバーとフォールバックの方法について説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プライマリ Cisco Unified Communications Manager に障害が発生した場合、MTP は、MTP が属するデバイスプールに対して指定された Cisco Unified Communications Manager グループ内で、次に使用可能な Cisco Unified Communications Manager への登録を試みます。 • プライマリ Cisco Unified Communications Manager が障害後に使用可能な状態に戻り、現在まだ使用されていない場合、MTP デバイスはただちにプライマリ Cisco Unified Communications Manager に再登録されます。 • コール保存モードでアクティブだったコールまたは会議は、すべてのパーティが切断されるまで、システムによって保持されます。システムは、補足サービスを使用可能にしません。 • MTP が新しい Cisco Unified Communications Manager への登録を試み、登録確認応答を受信しなかった場合、MTP は次の Cisco Unified Communications Manager に登録されます。 <p>MTP デバイスは、ハードリセットまたはソフトリセット後に登録を解除し、続いて接続を解除します。リセットが完了すると、デバイスは Cisco Unified Communications Manager に再登録されます。</p>

トランスコーダ

トランスコーダは、コーデック変換を実行するデバイスで、あるコーデックからの入力ストリームを、別のコーデックを使用する出力ストリームに変換します。たとえば、トランスコーダは G.711 コーデックのストリームを取り込み、それを G.729 ストリームにリアルタイムで変換できます。通話中にエンドポイントが異なる音声コーデックを使用すると、Cisco Unified Communications Manager が、そのメディアパスでトランスコーダを呼び出します。トランスコーダは、2つの互換性のないコーデック間でデータストリームを変換して、デバイス間で通信をできるようにします。トランスコーダは、その通話に関するユーザーやエンドポイントには表示されません。

トランスコーダのリソースは、メディアリソースマネージャー(MRM)によって管理されます。



(注) トランスコーダは、G.711 とすべてのコーデック（トランスコーダとして機能している G.711 や MTP/TRP 機能を提供している G.711 を含む）の間のトランスコーディングをサポートします。

MTP 機能を使用したトランスコーダ

コーデック変換に加えて、トランスコーダは、メディアターミネーションポイント(MTP)と同じ機能を提供できます。コーデック機能と MTP 機能が両方とも必要な場合、システムは、両方の機能セットを同時に提供できるため、トランスコーダを割り当てます。MTP 機能のみが必要な場合は、システムはリソースプールからトランスコーダまたは MTP のいずれかを割り当てます。リソースの選択は、メディアリソースグループによって決定されます。

ソフトウェア MTP リソースが必要なときに利用できない場合、コールは、[Cisco Unified CM Administration]>[システム (System)]>[サービスパラメータ (Service Parameters)]>[サービスパラメータ構成 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [信頼されるリレーポイントの割り当てに失敗した場合通話も失敗 (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] フィールドと [MTP割り当てに失敗した場合通話も失敗 (Fail Call If MTP Allocation Fails)] フィールドが「False」に設定されている場合、MTP リソースと MTP/TRP サービスを使用せずに接続を試行します。ハードウェアトランスコーダ機能が (あるコーデックを別のコーデックに変換するために) 必要であり、トランスコーダが使用できない場合、コールは失敗します。

トランスコーダ タイプ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおけるトランスコーダ タイプは次の表のとおりです。



- (注) トランスコーダは、G.711 とすべてのコーデック (トランスコーダとして機能している G.711 や MTP/TRP 機能を提供している G.711 を含む) の間のトランスコーディングをサポートします。

表 7: トランスコーダ タイプ

トランスコーダタイプ	説明
Cisco Media Termination Point Hardware	<p>このタイプは Cisco Catalyst 4000 WS-X4604-GWY および Cisco Catalyst 6000 WS-6608-T1 または WS-6608-E1 をサポートし、次のトランスコーディングセッション数を提供します。</p> <p>Cisco Catalyst 4000 WS-X4604-GWY の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 へのトランスコーディング : 16 の MTP トランスコーディングセッション <p>Cisco Catalyst 6000 WS-6608-T1 または WS-6608-E1 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.723 から G.711 へのトランスコーディング/G.729 から G.711 へのトランスコーディング : 1つの物理ポート当たり 24 の MTP トランスコーディングセッション、1つのモジュール当たり 192 セッション

トランスコーダタイプ	説明
Cisco IOS Media Termination Point (ハードウェア)	<p>このタイプは Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3725、Cisco 3745、Cisco 3660、Cisco 3640、Cisco 3620、Cisco 2600、および Cisco VG200 ゲートウェイをサポートし、次のトランスコーディングセッション数を提供します。</p> <p>NM-HDV 単位</p> <ul style="list-style-type: none">• G.711 から G.729-60 へのトランスコーディング• G.711 から GSM FR/GSM EFR へのトランスコーディング : 45

トランスコーダタイプ	説明
Cisco IOS Enhanced Media Termination Point (ハードウェア)	

トランスコーダタイプ	説明
	<p>NM-HD 単位</p> <p>このタイプは Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco 3660 アクセスルータをサポートし、次のトランスコーディングセッション数を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 から G.729a/G.729ab/GSMFR へのトランスコーディング : 24 • G.711 から G.729/G.729b/GSM EFR へのトランスコーディング : 18 <p>NM-HDV2 単位</p> <p>このタイプは Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco 3660 アクセスルータをサポートし、次のトランスコーディングセッション数を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 から G.729a/G.729ab/GSMFR へのトランスコーディング : 128 • G.711 から G.729/G.729b/GSM EFR へのトランスコーディング : 96 <p>PVDM4</p> <ul style="list-style-type: none"> • オンボード PVDM4 モジュール (PVDM4-32、PVDM4-64、PVDM4-128、PVDM4-256) • T1/E1 モジュールの DSP モジュール (PVDM4-32、PVDM4-64、PVDM4-128、PVDM4-256) • DSP NIM (NIM-PVDM4-32、NIM-PVDM4-64、NIM-PVDM4-128、NIM-PVDM4-256) <p>これらのタイプは ISR4K (ISR44xx、ISR43xx)、C83xx、および C82xx プラットフォームをサポートし、次の数のトランスコーディングセッションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 から G.729a/G.729ab/GSMFR へのトランスコーディング : 24 • G.711 から G.729/G.729b/GSM EFR へのトランスコーディング : 18 • G.711 から G.729a/G.729ab/GSMFR へのトランスコーディング : 128 • G.711 から G.729/G.729b/GSM EFR へのトランスコーディング : 96 • G.711/G.729/G.729ab/G.729a/G.729b から Opus へのトランスコー

トランスコーダタイプ	説明
	ディング
Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)	<p>このタイプは、装着されているドーターカード当たり 64 のトランスコーディングセッションを提供します。1 枚のドーターカードでは 64 のトランスコーディングセッション、2 枚のドーターカードでは 128 のトランスコーディングセッション、3 枚のドーターカードでは 192 のトランスコーディングセッション、4 枚のドーターカード（最大）では 256 のトランスコーディングセッションを提供します。</p> <p>このタイプは、次のコーデックの任意の組み合わせの間でトランスコーディングを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 a-law および G.711 mu-law • G.729 annex A および annex B • G.723.1 • GSM (FR) • GSM (EFR)

トランスコーダの連携動作と制限事項

トランスコーダの連携動作と制限事項

連携動作または制限事項	説明
トランスコーダの削除	<p>メディアリソースグループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディアリソースグループを検索するには、[トランスコーダの設定(Transcoder Configuration)] ウィンドウの [関連リンク(Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード(Dependency Records)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。[依存関係レコードサマリー(Dependency Records Summary)] ウィンドウに、トランスコーダを使用しているメディアリソースグループに関する情報が表示されます。メディアリソースグループに関するより詳細な情報を見つけるには、メディアリソースグループをクリックして [依存関係レコード詳細(Dependency Records Detail)] ウィンドウを表示します。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコードサマリー(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。使用中のトランスコーダを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディアリソースグループからトランスコーダを削除する必要があります。</p>

連携動作または制限事項	説明
フェールオーバーとフォールバック	<p>トランスコーダのフェールオーバーとフォールバックは以下のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プライマリ Unified Communications Manager ノードに障害が発生した場合、トランスコーダは、トランスコーダに属するデバイスプールに指定された Unified Communications Manager Group で利用可能な次のノードで登録を試行します。 • プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用可能な状態に戻ると、そのトランスコーダは、ただちにプライマリ Cisco Unified Communications Manager に登録されます。 • トランスコーダデバイスは、到達不能になった Unified Communications Manager ノードの登録を解除します。トランスコーディングにこのトランスコーディングプロファイルを使用していた通話は保存状態に移行し、トランスコーダは次に使用可能なノードの登録を試行します。ゲートウェイは、RTP/RTCP タイムアウトを使用して、登録済みの Unified Communications Manager にリソースの解放を通知します。 • トランスコーダが新規 Unified Communications Manager ノードの登録を試行したが、登録確認応答を受信しない場合は、トランスコーダはリスト内の次のノードを登録します。 <p>トランスコーダ デバイスは、ハードリセットまたはソフトリセット後に登録を解除し、続いて接続を解除します。リセットが完了すると、デバイスはプライマリ Cisco Unified Communications Manager ノードに再登録されます。</p>

トラステッドリレーポイントの概要

トラステッドリレーポイント (TRP) は、Cisco Unified Communications Manager がメディアストリームに挿入してコールメディアの制御ポイントとして機能する MTP またはトランスコーダです。TRP は、ストリームに対してさらなる処理を提供し、ストリームが特定のパスに従っていることを確認できます。

コールにトラステッドリレーポイントが必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP 機能で有効になっている MTP またはトランスコーダを割り当てます。

構成

MTP およびトランスコーダは、[メディアターミネーションポイントの設定] または [トランザクションの設定] ウィンドウの [トラステッドリレーポイント] チェックボックスをオンにすることによって TRP 機能を提供するように設定できます。

個々のコールの TRP 要件を設定するには、次の設定ウィンドウの [トラステッドリレーポイントを使用する] フィールドを [オン] に設定します。

- [電話の設定 (Phone Configuration)]
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]
- [ボイスメールポート設定 (Voicemail Port Configuration)]
- [トランクの設定 (Trunk Configuration)]
- [CTIルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]
- [ユニバーサルデバイステンプレートの設定 (Universal Device Template Configuration)]
- さまざまなメディアリソースの設定 (アナンシエータ、IVR、MTP、トランスコーダ、会議ブリッジ、保留音)

トラステッドリレー ポイントの連携動作と制限事項

機能	連携動作と制限事項
Resource Reservation Protocol (RSVP)	コールで RSVP が有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP のラベルも付いている RSVPAgent を割り当てようとしています。それ以外の場合は、別の TRP デバイスが RSVPAgent とエンドポイントの間に挿入されます。
コールのトランスコーダ	トランスコーダがコールに必要であり、それを TRP を必要とするエンドポイントと同じ側に割り当てる必要がある場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP のラベルも付いているトランスコーダを割り当てようとしています。それ以外の場合は、別の TRP デバイスがトランスコーダとエンドポイントの間に挿入されます。
エンドポイントの MTP 割り当て	エンドポイント向けに、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスおよび [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、TRP を兼ねる MTP を割り当てます。管理者がそのような MTP または TRP の割り当てに失敗すると、コールの状態が表示されます。
TRP 割り当て	ほとんどの場合、TRP はユーザがコールに応答した後に割り当てられるため、TRP の割り当てに失敗したためにコールが失敗すると、ユーザがコールに応答した後に速いビジー トーンが聞こえる可能性があります (MTP が必要な SIP アウトバウンド レッグ、つまり H.323 アウトバウンド FastStart は例外です)。

機能	連携動作と制限事項
エンドポイントのTRP挿入	エンドポイントまたはデバイスに関連付けられているデバイスプールのいずれかで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにした場合、Cisco Unified Communications Managerはそのエンドポイント向けにTRPを挿入する必要があります。[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] サービスパラメータが、 True に設定されている場合、Cisco Unified Communications ManagerがTRPの割り当てに失敗すると、コールが失敗することがあります。

TRP リソースが不足したときのコール動作

次の項では、十分なMTPリソースが割り当てられていない場合にCisco Unified Communications Managerがコールを処理する方法の例について説明します。最終的なコール動作は、これらのエンドポイントにMTPおよびTRPが必要かどうかと、MTPまたはTRPSの割り当てが失敗したときに自動的にコールを終了するようにシステムが設定されているかどうかによって異なります。

MTP と TRP の両方が必要な場合

次の表に、エンドポイントで[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] と [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の両方のオプションが選択されており、MTP と TRP のリソースが不足した場合に、コールが終了するかどうかを示します。

最終的なコールのステータスは、[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] と [MTPの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call if MTP Allocation Fails)] サービスパラメータが、コールの自動終了に設定されているかどうかによって異なります。

[TRPの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call If TRP Allocation Fails)] サービスパラメータ	[MTPの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call If MTP Allocation Fails)] サービスパラメータ	Unified CMがコールを終了するかどうか
True	[はい (True)]	はい
True	False	はい
False	True	はい (MTPがH.323エンドポイントに必要な場合)。いいえ (MTPがSIPエンドポイントに必要な場合)
False	False	いいえ

MTP/TRP リソースが不足した場合のコールの自動終了が有効化されていない場合

次の表に、MTP または TRP のリソースが不足しており、[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] と [MTPの割り当てに失敗したらコールを終了 (Fail Call If MTP Allocation Fails)] のサービス パラメータが [False] に設定されている場合のコール動作を示します。

MTP が必須 = はい (Yes)	TRP を使用 = はい (Yes)	リソース割り当てのステータス	コールの動作
Y	Y	TRP 割り当て済み	パススルーのサポートが存在しないため、オーディオ コールのみ。
Y	Y または N	MTP のみ	オーディオ コールのみ。TRP のサポートは存在しません。
Y	Y または N	割り当てなし	H.323 エンドポイントで [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンになっている場合、補足サービスは無効になります。
N	Y	TRP 割り当て済み	エンドポイントの機能に応じてオーディオまたはビデオコール、およびコール アドミッション制御 (CAC)。補足サービスは引き続き機能します。
N	Y	割り当てなし	オーディオまたはビデオコール。補足サービスは引き続き機能しますが、TRP のサポートは存在しません。

アナンシエータの概要

アナンシエータは、Cisco Unified Communications Manager で動作し、録音されたメッセージやトーンを Cisco IP Phone およびゲートウェイに送信することが可能な、SCCP ソフトウェアデバイスです。そのノード上で Cisco IP Voice Media Streaming service をオンにすると、アナンシエータがクラスタノード上でアクティブ化されます。MLPP、SIP トランク、IOS ゲートウェイ、ソフトウェア会議ブリッジなどの機能は、定義済みのメッセージを一方のメディアストリーム経由で電話機またはゲートウェイに送信するように、アナンシエータに依存しています。さらに、

- IPv4 と IPv6 の両方がサポートされています。アナンシエータは、システムのプラットフォームが IPv6 に対して設定されており、IPv6 エンタープライズパラメータが有効化されている場合、自動的にデュアルモードに設定されます。

- SRTP がサポートされています

アナウンサーのスケラビリティ

デフォルトでは、アナウンサーは 48 のメディアストリームを同時にサポートしています。追加ノードでアナウンサーをアクティブにするか、[コール数 (Call Count)] サービスパラメータを使用してアナウンサーのメディアストリームのデフォルト数を変更することで、キャパシティを増やすことができます。ただし、当該のノードで **Cisco CallManager** サービスが非アクティブ化されていない限り、ノードでこの値を増やすことは推奨しません。

Cisco CallManager サービスが実行されていない専用のサブスクリバノードでアナウンサーを実行する場合、アナウンサーは最大 255 の同時アナウンスストリームをサポートできます。専用のサブスクリバノードが 1 万ユーザの OVA バーチャルマシン設定に適合する場合、警報装置は最大 400 の同時アナウンスストリームをサポートできます。



注意 コール処理の負荷が高い Unified Communications Manager ノードではアナウンサーをアクティブにしないでください。

会議ブリッジを使用したアナウンサー

このアナウンサーは、次の条件の下で会議ブリッジに使用できます。

- アナウンサーを含むメディアリソースグループリストが、会議ブリッジが存在するデバイスプールに割り当てられている場合。
- アナウンサーがデフォルトのメディアリソースとして設定されている場合。

メディアリソースグループリストが会議を制御するデバイスに直接割り当てられている場合は、会議ブリッジでアナウンサーを使用できません。

会議ごとにアナウンスを 1 つだけサポートします。現在のアナウンスの再生中に、システムが別のアナウンスを要求した場合は、新しいアナウンスによって再生中のアナウンスがプリエンプション処理されます。

デフォルトのアナウンサーのアナウンスおよびトーン

Cisco Unified Communications Manager では Cisco IP Media Streaming Application サービスが有効になると、録音されたアナウンサーアナウンスを自動的に提供します。アナウンスまたはトーンは、次の条件で再生されます。

- アナウンス：Cisco Multilevel Precedence and Preemption 用に設定されたデバイス向けに再生されます。
- 割り込み音：参加者がアドホック会議に参加する前に聞こえます。
- リングバックトーン:IOS ゲートウェイを介して PSTN 経由でコールを転送する場合、コールがアクティブになっていてもゲートウェイが音を再生できないため、アナウンサーがトーンを再生します。

- リングバックトーン：H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送するときに、トーンを再生します。
- リングバックトーン：SCCP を実行している電話機から SIP クライアントにコールを転送するとき、トーンを再生します。

デフォルトの事前に録音されたアナシエータアナウンスを変更したり、アナウンスを追加したりすることはできません。Cisco Unified Communications Manager ロケールインストーラがインストールされており、Cisco Unified IP Phone またはデバイスプールにロケールが設定されている場合は、アナウンスのローカリゼーションがサポートされます。ロケールインストーラと、ユーザおよび（対応する）ネットワーク ロケール用にインストールするファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager のインストール』を参照してください。ロケールインストーラをダウンロードするには、www.cisco.com のサポートページを参照してください。

表 8: 録音済みのアナシエータアナウンス

条件	アナウンス
同等またはそれ以上の優先コールが進行中です。	緊急度の高い電話が使用中のため、電話をおつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
優先順位のアクセス制限が存在します。	緊急度の高い電話が使用中のため、電話をおつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
許可されない優先順位の使用を試みた人物がいます。	ご使用になった優先度は、回線で認証されていません。認証された優先度をお使いになるか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。
コールがビジー状態です。または管理者がコール待機用または優先処理用の電話番号を設定していません。	おかけになった番号は、大変込み合っており、この番号には割り込み機能が備わっておりません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
システムがコールを確立できません。	おかけになった電話番号では、正しくおつなぎできません。番号を確認してからもう一度おかけ直しいただくか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。
サービスが中断されました。	サービス障害のため、電話をおつなぎできません。緊急の場合は、交換手までお電話ください。これは録音メッセージです。

次の表に、アナシエータでサポートされるトーンを示します。

表 9: トーンの説明

タイプ	説明
話中音	ダイヤルされた番号が使用中の場合は、ビジー音が聞こえます。
割り込みトーン	参加者がアドホック会議に参加する前に会議割り込み音が聞こえます。
リングバック トーン	次のシナリオでは、アラート音が聞こえます。 <ul style="list-style-type: none"> • IOS ゲートウェイ経由で PSTN を介してコールを転送する場合。 • H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送する場合。 • SCCP 電話機から SIP クライアントにコールを転送する場合。

自動音声応答の概要

自動音声応答 (IVR) 装置を使用すれば、Cisco Unified Communications Manager で、事前に録音した機能アナウンス (.wav ファイル) を Cisco Unified IP Phone やゲートウェイなどのデバイスに出力することができます。これらのアナウンスは、開催中の会議のように IVR アナウンスを必要とする機能を使用しているデバイスで再生されます。

ノードを追加すると、IVR 装置が自動的にそのノードに追加されます。IVR 装置は、そのノード上で Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスがアクティブになるまで非アクティブのままです。

IVR は、デフォルトで、48 の同時発信者をサポートします。IVR 発信者の数は、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスパラメータを使用して変更できます。ただし、1 つのノードの IVR 発信者数を 48 より多くしないことをお勧めします。IVR 発信者数は、Conference Now に参加する場合に想定される IVR への同時コール数に基づいて設定できます。



注意 コール処理負荷の高い Cisco Unified Communications Manager ノードでは IVR デバイスを有効化しないでください。

デフォルトの IVR アナウンスとトーン

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco IP Media Streaming Application サービスが有効化されたときに、一連の事前に録音された自動音声応答 (IVR) アナウンスを自動的に提供します。デフォルトの録音済みの IVR アナウンスを置き換えることができます。アナウンスは、次の条件で再生されます。

表 10: 録音済みの IVR アナウンス

アナウンス	条件
ConferenceNowAccessCodeFailed アナウンス	出席者が誤ったアクセスコードを入力し最大試行回数を超えた場合に再生されます。
ConferenceNowAccessCodeInvalid アナウンス	出席者が誤ったアクセスコードを入力したときに再生されま す。
ConferenceNowCFBFailed アナ ウンス	会議の開始中に会議ブリッジのキャパシティ制限を超える場 合に再生されます。
ConferenceNowEnterAccessCode アナウンス	出席者が会議に参加しホストが出席者のアクセスコードを設 定するときに再生されます。
ConferenceNowEnterPIN アナウ ンス	主催者または出席者がミーティングに参加しようとするとき に再生されます。
ConferenceNowFailedPIN アナ ウンス	ホストが、正しい PIN を入力するための最大試行回数を超え た後に再生されます。
ConferenceNowGreeting アナウ ンス	今すぐ会議用のグリーティングプロンプトを再生します。
ConferenceNowInvalidPIN アナ ウンス	ホストが間違っ PIN を入力したときに再生されます。
ConferenceNowNumberFailed ア ナウンス	ホストまたは出席者が誤ったアクセスコードを入力し最大試 行回数を超えた場合に再生されます。
ConferenceNowNumberInvalid アナウンス	ホストまたは出席者が間違っ ミーティング番号を入力した ときに再生されます。

自動音声応答制限

機能	制限事項
ロード バランシング	<p>自動音声応答 (IVR) は、共通のメディアデバイスドライバを介して Real-Time Protocol (RTP) ストリームを使用します。このデバイスドライバは、保留音 (MOH)、ソフトウェアメディアターミネーションポイント (MTP)、ソフトウェア会議ブリッジ (CFB)、アナンシエータなど、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスによって提供される他のソフトウェアメディアデバイスによっても使用されます。</p> <p>通話音量を大きくすると、システムのパフォーマンスに影響します。これは、同じサーバード上で CallManager サービスがアクティブになっている場合のコール処理にも影響します。</p>

機能	制限事項
DTMF デジタル	IVR は、帯域外 (OOB) の DTMF デジタルコレクション方式のみをサポートしています。通話デバイスと IVR の間に DTMF 機能の不一致がある場合、MTP が割り当てられます。
コーデック	IVR がサポートしているのは、G.711 (つまり、a-law と mu-law)、G.729、ワイド帯域 256 mb のみです。発信側デバイスと IVR の間でコーデックが一致していない場合、トランスコーダが割り当てられます。

アナウンスの概要

Cisco Unified Communications Manager Administration で、メニューパス [メニューリソース] > [アナウンス (Announcements)] を使用して、アナウンスを設定します。アナウンスには次の 2 つの分類があります。

- [システム アナウンス (System Announcements)] : 通常のコール処理で使用されるか、機能アナウンスのサンプルとして提供される、事前定義されたアナウンス。
- [機能アナウンス (Feature Announcements)] : 保留音 (MOH)、コールキューイングまたは外部コール制御を伴うハントパイロットなどの特定の機能で使用されます。シスコが提供するオーディオ ファイルをアップロードするか、またはカスタムの .wav ファイルをアップロードすることで、機能アナウンスをカスタマイズできます。すべてのカスタムアナウンスの .wav ファイルを、クラスタ内のすべてのサーバにアップロードします。



- (注) トランクまたはゲートウェイ経由で接続している場合は、警告やリオーダー音などのカスタムアナウンスが再生されることがあります。ただし、2 台の IP 電話間、または IP 電話と Jabber クライアントの間のコールでは、カスタム アナウンスは再生されません。

形式

アナウンスに推奨される形式には次の仕様が含まれます。

- 16 ビット PCM wav ファイル
- ステレオまたはモノラル
- 48 kHz、44.1 kHz、32 kHz、16 kHz、8 kHz のサンプル レート

デフォルトのアナウンス

カスタムアナウンス wav ファイルをアップロード、またはシステムアナウンス用にシスコが提供したファイルを変更することは可能です。ただし、アナウンス識別子を変更することはできません。たとえば、発信者が無効な番号をダイヤルすると、システムアナウンス (VCA_00121) が再生されます。これは一般に「空席コールのアナウンス」として知られています。

表 11: [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス

アナウンス ID	説明
Gone_00126	システム：現在使用されていない
MLPP-BNEA_00123	システム：MLPP ビジーが備わっていない
MLPP-BPA_00122	システム：MLPP 以上の優先レベル
MLPP-ICA_00120	システム：MLPP サービス障害
MLPP-PALA_00119	システム：MLPP 優先順位のアクセス制限
MLPP-UPA_00124	システム：MLPP で許可されていない優先レベル
Mobility_VMA	接続するには 1 を押ししてください
MonitoringWarning_00055	システム：モニタリングまたは録音中
RecordingWarning_00038	システム：録音中
TemporaryUnavailable_00125	システム：一時的に利用不可
VCA_00121	システム：欠番/無効な番号がダイヤルされた
Wait_In_Queue_Sample	ビルトイン：キューに入った発信者用の定期的なアナウンス（サンプル）
Welcome_Greeting_Sample	ビルトイン：発信者へのグリーティング（サンプル）

メディアリソース構成タスクフロー

システムのメディアリソースを設定するには、この手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ソフトウェアメディアリソースのアクティブ化 (154 ページ)	IPVMS サービスをオンにすると、サーバ上のソフトウェアメディアリソースがアクティブになります。
ステップ 2	メディアターミネーションポイントの設定 (155 ページ)	システムのメディアターミネーションポイント (MTP) を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	トランスコーダの設定 (155 ページ)	システムにトランスプログラマリソースを追加します。
ステップ 4	自動音声応答 (IVR) の設定 (156 ページ)	システム IVR のデフォルト設定を行います。
ステップ 5	アナウンサーの設定 (157 ページ)	アナウンサーのシステム設定を指定します。
ステップ 6	メディアリソースグループの設定 (157 ページ)	メディアリソースをメディアリソースグループに追加します。リソースのさまざまな組み合わせで複数のグループを設定します。
ステップ 7	メディアリソースグループリストの設定 (158 ページ)	エンドポイントまたはエンドポイントのクラスに割り当てることができるメディアリソースグループのリストを作成します。
ステップ 8	デバイスまたはデバイスプールへのメディアリソースの割り当て (158 ページ)	デバイスまたはデバイスプールにメディアリソースを割り当てることによって、エンドポイントでメディアリソースを使用できるようにします。
ステップ 9	アナウンスの設定 (159 ページ)	(省略可) 特定のアナウンスメントの設定を行います。アナウンスメントは、通常の処理、または保留音や IVR などの機能に使用されます。
ステップ 10	カスタマイズされたアナウンスのアップロード (160 ページ)	(省略可) 事前に録音したアナウンスをアップロードします。新規または既存のアナウンスメントにファイルを割り当てます。

ソフトウェアメディアリソースのアクティブ化

次のソフトウェアメディアリソースを有効にするには、**Cisco IP Voice Media Streaming** サービスをアクティブ化します。

- アナウンサー
- 音声自動応答 (IVR)
- メディアターミネーションポイント (MTP)
- ソフトウェア会議ブリッジ

- 保留音

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] から、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを選択します。
 - ステップ 3 [Cisco IP Voice Media Streaming Service] をオンにして [保存 (Save)] をクリックします。
-

メディア ターミネーション ポイントの設定

ソフトウェアメディアポイント (MTP) を設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

ソフトウェアのメディアターミネーションポイント (MTP) をアクティブ化するには、Cisco IP Voice Media サービスが実行されている必要があります。

必要な MTP リソース数と、これらのリソースの提供に必要な MTP デバイス数を決定します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)] を選択します。
 - ステップ 2 次のいずれかを実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存の MTP を選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックし、新規 MTP を作成します。
 - ステップ 3 [メディアターミネーションポイント名 (Media Termination Point Name)] を割り当てます。
 - ステップ 4 デバイスプールを割り当てます。
 - ステップ 5 この MTP をトラステッドリレーポイント (TRP) として指定する場合は、[トラステッドリレーポイント] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
-

トランスコーダの設定

トランスコーダは、あるコーデックからの入力ストリームを、別のコーデックを使用し出力ストリームに変換するデバイスです。

始める前に

IVR がアクティブになるためには、Cisco IP Voice Media Streaming サービスが実行されている必要があります。

必要なトランスコーダ リソースの数とリソースの提供に必要なトランスコーダ デバイスの数を決定します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration にログインし、[メディア リソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] を選択します。
 - ステップ 2 次のいずれかを実行します。
 - 既存のトランスコーダを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [トランスコーダタイプ (Transcoder Type)] を選択します。
 - ステップ 4 トランスコーダの [MAC アドレス (MAC Address)] を入力します。
 - ステップ 5 ドロップダウンメニューから [デバイスプール (Device Pool)] を割り当てます。
 - ステップ 6 このトランスコーダをトラステッドリレー ポイントとして使用する場合は、[トラステッドリレーポイント (Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

自動音声応答 (IVR) の設定

IVR の設定項目を指定するには、この手順を使用します。

始める前に

自動音声応答 (IVR) がアクティブになるためには、Cisco IP Voice Media Streaming サービスが実行されている必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[メディアリソース (Media Resources)] > [自動音声応答 (Interactive Voice Response)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、IVR を選択します。
 - ステップ 3 [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。
 - ステップ 4 IVR コールが信頼できるリレーポイントを使用するには、[Use Trusted Relay point] ドロップダウンを [On] に設定します。

ステップ 5 [自動音声応答の設定 (Interactive Voice Response Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

アナンシエータの設定

アナンシエータのシステム設定を指定します。

始める前に

アナンシエータがアクティブになるためには、Cisco IP Voice Media Streaming サービスが実行されている必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[メディア リソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] を選択します。
 - ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、アナンシエータを選択します。
 - ステップ 3** [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。
 - ステップ 4** [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。
 - ステップ 5** アナンシエータでトラステッドリレー ポイントを使用する場合は、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウンを [オン (On)] に設定します。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

メディア リソース グループの設定

メディアリソースグループには、エンドポイントまたはエンドポイントのグループに割り当てるメディアリソースの一覧が含まれています。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[メディアリソース (Media Resources)] > [メディアリソースグループ (Media Resource Group)] を選択します。
 - ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
 - 既存のメディア リソース グループを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいメディアリソースグループを作成するには、[新規追加 (AddNew)] をクリックします。

- ステップ3** [メディアリソースグループの設定 (Media Resource Group Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ4** グループの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ5** [使用可能なメディアリソース (Available Media Resources)] から、このグループに追加するリソースを選択し、矢印を使用してリソースを [選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)] に移動します。
- ステップ6** (省略可) 保留音オーディオにマルチキャストを使用するには、[MOHオーディオにマルチキャストを使用 (Use Multi-cast for MOH Audio)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ7** [保存 (Save)] をクリックします。

メディアリソースグループリストの設定

メディアリソースグループの優先順位付けされたリストの作成このリストは、個々のデバイスまたはデバイスプールに割り当てることができます。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM Administration で [メディアリソース (Media Resources)] > [メディアリソースのグループリスト (Media Resource Group List)] を選択します。
- ステップ2** 次のいずれかを実行します。
- 既存のリストを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいリストを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ3** メディアリソースグループリストの [名前 (Name)] を入力します。
- ステップ4** [使用可能なメディアリソースグループ (Available Media Resource Groups)] から、追加するグループを選択し、矢印を使用して [選択されたメディアリソースグループ (Selected Media Resource Groups)] に移動させます。
- ステップ5** [保存 (Save)] をクリックします。
- (注) エンドポイントでこれらのメディアリソースを使用するには、デバイスプール、ゲートウェイポート、またはデバイスにリストを割り当てる必要があります。

デバイスまたはデバイスプールへのメディアリソースの割り当て

優先順位付きのメディアリソースグループのリストをデバイスプールまたは個別のデバイスに関連付けることで、エンドポイントにメディアリソースを割り当てます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- デバイス プールにメディア リソースを追加するには、[システム (System)] > [デバイス プール (Device Pools)] を選択します。
 - エンドポイントにメディア リソースを直接追加するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、これらのメディア リソースを割り当てるデバイス プールまたはデバイスを 選択します。
- ステップ 3** [メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)] ドロップダウン リストから、リストを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。デバイス名および適切な設定変更を示した [設定の適用 (Apply Configuration)] ウィンドウが表示されます。
-

アナウンスの設定

システムアナウンスまたは機能アナウンスとして使用できるアナウンスを設定することができます。システムアナウンスは、コール処理またはサンプル機能アナウンスを使用するために使用されますが、機能アナウンスは、ハントパイロットのコールキューまたは外部コール制御と関連付けられた特定の機能 (MOH) などに使用されます。

既存のアナウンスを変更したり、Cisco Unified Communications Manager で新しいアナウンスを設定したりすることができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[メディア リソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcement)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、編集する既存のアナウンスを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいアナウンスを追加します。
- ステップ 3** [アナウンスの設定] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

カスタマイズされたアナウンスのアップロード

別のアナウンスを使用して、アップロードしたカスタム .wav ファイルを伴うデフォルトのアナウンスを変更することができます。音声ソースファイルをインポートすると、Unified Communications Manager がファイル进行处理し、保留音(MOH)サーバでの使用に適した形式にファイルを変換します。



(注) アナウンスはロケール（言語）で特定されます。インストールに複数の言語ロケールが使用されている場合、各カスタムアナウンスは各言語で別個の .wav ファイルとして録音し、正しいロケール指定でアップロードする必要があります。また、米国英語以外の言語のカスタムアナウンス .wav ファイルをアップロードする前に、正しいロケールパッケージを各サーバにインストールする必要もあります。

MoH オーディオ ソースなど、アナウンスに推奨される形式には次の仕様が含まれます。

- 16 ビット PCM .wav ファイル
- ステレオまたはモノラル
- 48 kHz、44.1 kHz、32 kHz、16 kHz、8 kHz のサンプル レート

Unified Communications Manager の [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウで、ハイパーリンクが設定されていないアナウンスは更新できません。このウィンドウでハイパーリンクされた下線付きのシスコ提供のアナウンスの場合は、カスタマイズされたアナウンスを追加できます。たとえば、MLPP-ICA_00120 と MonitoringWarning_00055 があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[メディア リソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcement)] を選択します。
 - ステップ 2** [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウで、検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックし、結果リストからアナウンスのハイパーリンクをクリックします。
 - ステップ 3** [アナウンスの設定 (Announcement Configuration)] ウィンドウで、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
 - ステップ 4** [ファイルのアップロード (Upload Files)] ポップアップウィンドウから、ロケールを選択し、ファイル名を入力して参照し、.wav ファイルを選択して、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
- アップロードプロセスが始まり、処理が完了した後にステータスが更新されます。[閉じる (Close)] を選択して [ファイルのアップロード (Upload File)] ウィンドウを閉じます。
- ステップ 5** (任意) Unified Communications Manager でシスコが提供するアナウンスを再生する代わりに、カスタマイズしたアナウンスを再生する場合は、[アナウンスの設定 (Announcements

Configuration)] ウィンドウの [ロケール別のアナウンス (Announcement by Locale)] ペインで [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにします。

[有効 (Enable)] チェックボックスがオフになっている場合、Unified Communications Manager は、シスコが提供するアナウンスを再生します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

クラスタ内のサーバ間ではアナウンスファイルが伝搬されないため、クラスタ内の各ノードにアナウンスをアップロードします。クラスタ内の各サーバで Cisco Unified Communications Manager の管理を参照し、アップロードプロセスを繰り返します。



第 13 章

会議ブリッジの設定

- [会議ブリッジの概要](#) (163 ページ)
- [会議ブリッジタイプ](#) (163 ページ)
- [会議ブリッジの設定タスクフロー](#) (168 ページ)

会議ブリッジの概要

Cisco Unified Communications Manager の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアアプリケーションで、アドホックおよびミーティングの両方式の音声会議を可能にするように設計されています。追加の会議ブリッジタイプは、ビデオ会議など、その他の会議タイプをサポートします。各会議ブリッジは、複数のマルチパーティ会議を同時にホストできます。ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができます。ソフトウェアの会議デバイスとハードウェアの会議ブリッジでは、サポートするストリームの数とコーデックのタイプについて違いがあります。新しいサーバを追加すると、システムによってソフトウェア会議ブリッジが自動的に追加されます。



(注) Cisco Unified Communications Managerサーバが作成されると、ソフトウェア会議ブリッジも自動的に作成され、削除できません。Cisco Unified Communications Manager Administration に会議ブリッジソフトウェアを追加することはできません。

会議ブリッジタイプ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページには、次の会議ブリッジタイプが存在します。

表 12: 会議ブリッジタイプ

会議ブリッジタイプ	説明
シスコ会議ブリッジハードウェア	<p>このタイプは Cisco Catalyst 4000 および 6000 音声ゲートウェイ モジュールをサポートし、次の会議セッション数をサポートします。</p> <p>Cisco Catalyst 6000</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 または G.729a 会議：1 ポート当たりの参加者数 32 人、1 会議当たりの最大参加者数 6 人、1 モジュール当たりの合計参加者数 256 人、参加者数 3 人でのブリッジの数は 10。 • GSM：1 ポート当たりの参加者数 24 人、1 会議当たりの最大参加者数 6 人、1 モジュール当たりの合計参加者数 192 人。 <p>Cisco Catalyst 4000</p> <p>G.711 会議のみ：会議参加者数 24 人。各会議の参加者が 6 人の場合、会議の最大数は 4。</p>
シスコ会議ブリッジソフトウェア	<p>ソフトウェア会議デバイスは、デフォルトで G.711 コーデックをサポートします。</p> <p>このタイプの発信者の最大数は 256 です。256 の設定では、ソフトウェア会議ブリッジがそれぞれ 4 当事者の 64 会議セッションをサポートできます。会議セッションの発信者の最大数は、[最大アドホック会議 (Maximum Ad Hoc Conference)] および [最大ミーティングユニキャスト (Maximum MeetMe Conference Unicast)] サービスパラメータによって指定します。</p> <p>注意 このタイプの会議ブリッジ (SW 会議ブリッジ) は、実装が簡単です。参加者の数が多い場合は、単純な合計アルゴリズムを使用している当事者を識別できないので、会議の音声品質が低下する可能性があります。</p>
Cisco IOS 会議ブリッジ	<ul style="list-style-type: none"> • NM-HDV または NM-HDV-FARM ネットワーク モジュールを使用。 • G.711 a/mu-law、G.729、G.729a、G.729b、および G.729ab の参加者が 1 つの会議に参加可能です。 • 最大 6 人の参加者が 1 つの会議コールに参加可能です。 <p>Cisco Unified Communications Manager は、会議リソースをコールに動的に割り当てます。</p> <p>Cisco IOS Conferencing and Transcoding for Voice Gateway Router の詳細については、この製品に付属の Cisco IOS のドキュメントを参照してください。</p>

会議ブリッジタイプ	説明
Cisco IOS 拡張ブリッジ	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco 2800 シリーズおよび 3800 シリーズの音声ゲートウェイルータ上でオンボードの Cisco Packet Voice/Fax Digital Signal Processor Modules (PVDM2) を使用、あるいは NM-HD ネットワーク モジュールまたは NM-HDV2 ネットワーク モジュールを使用。 • G.711 a-law/mu-law、G.729、G.729a、G.729b、G.729ab、GSMFR、および GSM EFR の参加者が 1 つの会議に参加可能です。 • 最大 8 人の参加者が 1 つのコールに参加可能です。 <p>(注) ISR4000 ルータおよび SM-X-PVDM-3000/ SM-X-PVDM-2000/ SM-X-PVDM-1000/ SM-X-PVDM-500 では、Unified Communications Manager の最大ストリームは 4096 に制限されているため、各会議ブリッジプロファイルで最大 512 のセッションを登録できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、会議リソースをコールに動的に割り当てます。</p> <p>Cisco IOS Enhanced Conferencing and Transcoding for Voice Gateway Router の詳細については、この製品に付属の Cisco IOS のドキュメントを参照してください。</p> <p>この会議ブリッジタイプでは、ISR 4000 シリーズゲートウェイが展開されている場合に、サポートされている SIP 電話の AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 での SRTP メディア暗号化をサポートしています。SCCP 電話とサポートされていない SIP 電話は、AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 暗号化にフォールバックします。</p> <p>(注) ゲートウェイのロードが暗号化をサポートしていることを確認してください。サポートの詳細については、ゲートウェイのドキュメントを参照してください。</p>
シスコ会議ブリッジ (WS-SVC-CMM)	<p>この会議ブリッジタイプは、Cisco Catalyst 6500 シリーズおよび Cisco 7600 シリーズの Communication Media Module (CMM) をサポートします。</p> <p>これは、会議ごとに最大 8 人の参加者、ポートアダプタごとに最大 64 の会議をサポートします。この会議ブリッジタイプでは、次のコーデックをサポートしています。この会議ブリッジタイプでは、アドホック会議をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 a-law/mu-law • G.729 annex A および annex B • G.723.1

会議ブリッジタイプ	説明
シスコ ビデオ会議ブリッジ (IPVC-35xx)	Cisco Video Conference Bridge は、Cisco IP Video Phone、H.323 エンドポイント、および音声専用の Cisco Unified IP Phone にオーディオおよびビデオによる会議機能を提供します。Cisco Video Conference Bridge はビデオの H.261、H.263、および H.264 コーデックに対応しています。
Cisco TelePresence MCU	<p>Cisco TelePresence MCU は、Cisco Unified Communications Manager 用のハードウェア会議ブリッジのセットです。</p> <p>Cisco TelePresence MCU は、高解像度 (HD) のマルチポイントビデオ会議ブリッジです。毎秒 30 フレームで最大 1080p の性能を持ち、あらゆる会議で十分な連続表示を実現し、フルトランスコーディング機能を備えているため、マルチベンダーの HD エンドポイント環境に最適です。</p> <p>Cisco TelePresence MCU では、シグナリングコール制御プロトコルとして SIP をサポートしています。詳細に設定でき、システムおよび会議を制御およびモニタする、ビルトイン Web サーバを装備しています。Cisco TelePresence MCU には、HTTP 通信による XML 管理 API が用意されています。</p> <p>Cisco TelePresence MCU は、アドホックおよびミーティング音声会議とビデオ会議の両方ができます。各会議ブリッジは、複数のマルチパーティ会議を同時にホストできます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、Unified Communications Manager と Cisco TelePresence MCU の間で Binary Floor Control Protocol によるプレゼンテーション共有をサポートします。</p> <p>Cisco TelePresence MCU は、ポート予約モードで設定する必要があります。詳細については、『Cisco TelePresence MCU コンフィギュレーションガイド』を参照してください。</p> <p>(注) Cisco TelePresence MCU は、一般的なアウトオブバンド DTMF 方式をサポートしていません。デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager はメディアターミネーションポイント (MTP) を必要としません。ただし、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンになっている場合は、Cisco Unified Communications Manager によって MTP が割り当てられ、SIP トランクは RFC 2833 に従って DTMF をネゴシエートします。</p>

会議ブリッジタイプ	説明
Cisco TelePresence Conductor	<p>Cisco TelePresence Conductor はインテリジェントな電話会議管理制御を提供します。複数の MCU 間にわたるロードバランシングと複数デバイスの可用性を高めるためのクラスタ化を実現する、スケラブルなサポートデバイスです。管理者は Cisco TelePresence Conductor を、Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) プラットフォームまたはサードパーティ ベースのプラットフォームをサポートするアプライアンス、または、VMware 上の仮想アプライアンスとして実装できます。</p> <p>Cisco TelePresence Conductor は、新しい会議ごとに最適な Cisco TelePresence リソースを動的に選択します。アドホック、「ミーティング」、およびスケジュールされた音声およびビデオ会議は動的に拡大し、個々の MCU のキャパシティを超えることがあります。最大 3 つの Cisco TelePresence Conductor アプライアンスまたは仮想アプリケーションをクラスタ化して、復元力をさらに高めることができます。1 つの Cisco TelePresence Conductor アプライアンスまたは Cisco TelePresence Conductor クラスタには 30 の MCU または 2400 の MCU ポートがあります。</p>

会議ブリッジタイプ	説明
Cisco Meeting Server	<p>Cisco Meeting Server 会議ブリッジソリューションにより、アドホック会議、ミーティング会議、開催中の会議、ランデブー会議が可能になります。会議ブリッジは、施設内での音声、ビデオ、ウェブ会議を実現し、サードパーティのオンプレミス インフラストラクチャと連携します。あらゆる規模の導入に拡張できるほか、必要に応じて徐々に容量を増やすこともでき、組織の現在および将来のニーズに確実に対応することができます。この会議ブリッジは高度な相互運用性を提供します。任意の数の参加者が会議を作成し、参加することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコまたはサードパーティの会議室システムまたはデスクトップビデオシステム • Cisco Jabber クライアント • Cisco ミーティング アプリケーション（ネイティブ、または WebRTC 互換ブラウザを使用可能） • Skype for Business <p>Cisco Meeting Server 会議ブリッジを使用するには、Cisco Meeting Server 2.0 以上のリリースが必要です。</p> <p>Cisco Meeting Server は、シグナリング コール制御プロトコルとして SIP をサポートしています。詳細に設定でき、システムおよび会議を制御およびモニタする、ビルトイン Web サーバを装備しています。Cisco Meeting Server は、HTTP に対する XML 管理 API を提供します。</p> <p>(注) Cisco Meeting Server は、H.265 ビデオコーデックと遠端カメラ制御をサポートしていません。</p>

会議ブリッジの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	会議ブリッジの設定 (169 ページ)	アドホック音声会議とミーティング音声会議を可能にするためにハードウェアまたはソフトウェア会議ブリッジを設定します。
ステップ 2	会議ブリッジのサービスパラメータの設定 (169 ページ)	ネットワークに Cisco IOS コンファレンスブリッジと Cisco IOS 拡張会議ブリッ

	コマンドまたはアクション	目的
		ジの両方が含まれている場合は、次の手順を実行します。
ステップ 3	会議ブリッジへの SIP トランク接続の設定 (170 ページ)	この手順を実行して、会議ブリッジへの SIP トランク接続を設定する

会議ブリッジの設定

アドホック音声会議とミートミー音声会議を可能にするためにハードウェアまたはソフトウェア会議ブリッジを設定する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[メディアリソース (Media Resources)] > [会議ブリッジ (Conference Bridge)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドの説明の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

ネットワークに Cisco IOS 会議ブリッジおよび Cisco IOS の拡張会議ブリッジが含まれる場合、[会議ブリッジのサービスパラメータの設定 \(169 ページ\)](#) を実行します。

会議ブリッジのサービスパラメータの設定

ネットワークに Cisco IOS コンファレンスブリッジと Cisco IOS 拡張会議ブリッジの両方が含まれている場合は、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
- ステップ 3 [クラスタ全体のパラメータ (機能 - 会議) (Clusterwide Parameters (Features - Conference))] セクションで、次のパラメータを 6 に設定します。
 - [アドホック会議の最大参加者数 (Maximum Ad Hoc Conference)]

- [ミーティング会議の最大ユニキャスト数 (Maximum MeetMe Conference Unicast)]

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

会議ブリッジへの SIP トランク接続の設定

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しい SIP トランクを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- その接続を既存のトランクに追加するには、[検索 (Find)] をクリックし、適切なトランクを選択します。

ステップ 3 [デバイスプロトコル (Device Protocol)] で、[SIP] を選択します。

ステップ 4 [トランクサービスの種類 (Trunk Service Type)] で、[なし (None)] を選択します。

ステップ 5 [接続先 (Destination)] 領域で、会議ブリッジの IP アドレスまたはホスト名を追加して、会議ブリッジのエントリを作成します。新しい回線が必要な場合は、(+) をクリックして追加することができます。

ステップ 6 [正規化スクリプト (Normalization Script)] ドロップダウンリストボックスから、正規化スクリプトを選択します。たとえば、次のスクリプトは必須です。

- **cisco-telepresence-conductor-interop** : このトランクを Cisco TelePresence Conductor に接続している場合は、このスクリプトを選択します。
- **cisco-telepresence-mcu-ts-direct-interop** : このトランクを Cisco TelePresence Conductor MCU に接続している場合は、このスクリプトを選択します。
- **cisco-meeting-server-interop** : このトランクを Cisco Meeting Server に接続している場合は、このスクリプトを選択します。

ステップ 7 [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。



第 14 章

拡張ロケーション コール アドミSSION 制御の設定

- [拡張ロケーション コール アドミSSION 制御の概要 \(171 ページ\)](#)
- [拡張ロケーション CAC の前提条件 \(174 ページ\)](#)
- [拡張ロケーション CAC のタスク フロー \(174 ページ\)](#)
- [拡張ロケーション CAC の連携動作の制限 \(178 ページ\)](#)

拡張ロケーション コール アドミSSION 制御の概要

拡張ロケーション コール アドミSSION 制御 (CAC) を使用すると、複雑な WAN トポロジおよびクラスタ間ネットワークで、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。これには、多層ネットワークとマルチホップ ネットワークが含まれます。

ネットワークトポロジ全体のモデルを作成して、さまざまなロケーション (LAN) と、それらのロケーションを接続する WAN リンクを示すことができます。個々のロケーションと WAN リンクについて、そのリンク経由のすべてのコールで一度に使用可能な合計帯域幅を表す、帯域幅の制限を割り当てます。特定のコールで帯域幅を使用できない場合、コールはビジー信号で拒否されます。これにより、WAN リンクがオーバーサブスクライブ状態になった結果として、音声およびビデオの品質が低下するのを防ぎます。

ロケーション帯域幅マネージャ (LBM) レプリケーショングループのクラスタ間レプリケーション機能を使用すると、クラスタ間ネットワーク全体でロケーション設定を複製できるため、大規模なクラスタ間ネットワークでの管理が容易になります。

拡張ロケーション CAC のコンポーネント

この機能では、次のコンポーネントを使用します。

- **ロケーション**：ロケーションは LAN を表します。これは、エンドポイントを含み、または単に WAN ネットワークのモデル化に対してリンク間の中継場所として機能します。Cisco Unified Communications Manager では、最大 2,000 のロケーションがサポートされません。

- リンク：2つのロケーション間の接続です。この機能を設定する場合は、各リンクに帯域幅の割り当てと重みを割り当てます。
- 重み付け：ロケーションの任意のペアの間で有効なパスを形成する、リンクの相対的な優先順位。重みは、2つのロケーション間に複数のパスが存在する場合にのみ使用されます。重みは、有効なパス (最小の重み値を持つパス) を計算するために使用されます。
- 帯域幅割り当て：特定のタイプのトラフィック（オーディオ、デスクトップビデオ、イマーシブビデオ）に割り当てられた合計帯域幅。帯域幅は、ロケーション内のコールにも割り当てることができます（デフォルト設定は [無制限 (Unlimited)] ）。
- ロケーション帯域幅マネージャ (LBM)：拡張ロケーション CAC を機能させるために、Cisco Unified Serviceability でアクティブ化する必要のある機能サービス。このサービスは、ネットワークモデルを組み立て、送信元と宛先の間すべてのリンクとロケーションの重みを追加し、最小の累積重みを持つパスを選択することによって、ロケーション間の効果的なパスを計算します。

ロケーションとリージョンの関係

拡張ロケーション コール アドミッション制御のロケーション設定は、リージョンと連動してコールの帯域幅を管理します。

- リージョン設定内の帯域幅割り当てでは、2つの地域間のコールのエンドポイントが使用できる帯域幅の合計量が割り当てられます。
- ロケーション内の帯域幅割り当ては、それらのロケーション間のすべてのコールが使用できる帯域幅の総量を割り当てます。個々のコールの場合、リージョン設定内の帯域幅は、ロケーション設定で使用可能な帯域幅の量から差し引かれます。たとえば、ロケーション設定で、特定のリンク上で 160 kb/s の帯域幅が使用可能であることが指定されている場合、そのリンクは2つの G を同時に 80 kb/s でサポートできます。



(注) 実稼働時間中に Location Bandwidth Manager の帯域幅やリンク構成を変更しないでください。変更すると、サーバの CPU 使用率が不必要に急増する可能性があります。

Cisco Unified Communications Manager は、クラスタごとに最大 2,000 のロケーションと 2,000 のリージョンをサポートします。

クラスタ間 LBM のレプリケーション

ロケーション帯域幅マネージャハブグループのクラスタ間レプリケーション機能を使用すると、より大規模なクラスタ間ネットワーク全体でロケーションとリンクの割り当てを複製できます。LBM を LBM ハブのロールに割り当てることで、メッシュされたクラスタ間ネットワーク全体で、ロケーションおよびリンク情報をアクティブに複製できます。LBM ハブは、共通の接続を介して互いに探索し、フルメッシュ構造のレプリケーションネットワークを形成し

ます。スポークのロールが割り当てられた LBM は、そのクラスタの LBM ハブを介してクラスタ間レプリケーションに間接的に参加できます。

クラスタ間トポロジの管理

クラスタ間ネットワークを設定および管理するには、複数の方法があります。次の表に、クラスタ間トポロジを設定および管理するための2つのアプローチを要約します。

設計へのアプローチ	説明
ロケーションおよびリンク管理	<p>クラスタ間ネットワーク全体のすべてのリンクの帯域幅割り当てを設定および管理するには、単一のクラスタを使用します。このアプローチにより、特に多くの共通ロケーションを持つ導入での設定のオーバーヘッドが簡素化されます。クラスタ間の設定方法は次のとおりです。</p> <p>管理クラスタで、トポロジ全体のすべてのロケーションとリンク (帯域幅の割り当てと重みを含む) を設定します。この情報はクラスタ間ネットワークに複製されます。</p> <p>トポロジ内の他のクラスタの場合は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルクラスタのロケーションのみを設定します。これは、デバイスをロケーションに関連付けるためだけです。 リンク情報は設定しないでください。 ローカルクラスタ内のすべての帯域幅割り当てを無制限のままにします。管理クラスタがローカルクラスタよりも少ない帯域幅割り当てを複製すると、より制限の厳しい設定が適用されます。
クラスタ間拡張ロケーション CAC	<p>このアプローチでは、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラスタ内で、ローカルロケーションとリンク情報を隣接クラスタにのみ設定します。 Weighth と帯域幅の割り当てを含むリンク情報を隣接クラスタにのみ割り当てます。トポロジの残りの部分は、 Hub_None の場所は、クラスタごとに名前を変更する必要があります。そうしないと、クラスタ間で共通の場所になります。 各クラスタには一意のクラスタ ID が必要です。 <p>(注) これは、すべてのクラスタに consistenly 名前クラスタのレプリケーションにとって重要です。</p>

拡張ロケーション CAC の前提条件

この機能を設定する前に、LANおよびWANネットワークトポロジを理解していることを確認してください。これは、ロケーションとリンクの帯域幅を割り当てるために必要です。

拡張ロケーション CAC のタスク フロー

ご使用のシステムで拡張ロケーション コールアドミッション制御を設定するには、この手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ロケーション帯域幅マネージャのアクティブ化 (175 ページ)	少なくとも 1 つのクラスタ ノードで、シスコロケーション帯域幅マネージャ機能サービスが実行されている必要があります。
ステップ 2	LBM グループの設定 (175 ページ)	デフォルトでは、Cisco CallManager サービスはローカル LBM サービスと通信します。ただし、LBM グループを使用してこの通信を管理し、冗長性を確保するためにアクティブおよびスタンバイの LBM を提供できます。
ステップ 3	ロケーションとリンクの設定 (176 ページ)	ネットワークのロケーション (LAN) を作成し、それらのロケーションを接続する WAN リンクに帯域幅を割り当てます。
ステップ 4	LBM クラスタ間レプリケーション グループの設定 (177 ページ)	設定された CAC 情報を他のクラスタに複製するクラスタ間レプリケーショングループを作成します。
ステップ 5	SIP クラスタ間トランクの設定 (177 ページ)	ネットワーク内の SIP クラスタ間トランクにシャドウロケーションを割り当てます。
ステップ 6	コールアドミッション制御のサービスパラメータの設定 (178 ページ)	(任意) コールアドミッション制御のサービスパラメータの設定を指定します。ほとんどの展開では、デフォルト設定で十分です。

ロケーション帯域幅マネージャのアクティブ化

拡張ロケーションコールの制御については、クラスタ内の少なくとも1つのノードで Cisco Location 帯域幅マネージャ機能サービスをアクティブにする必要があります。このサービスはデフォルトでオフになっています。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、サービスを実行するクラスタノードを選択して [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 [CMサービス (CM Services)] で、[シスコロケーション帯域幅マネージャ (Cisco Location Bandwidth Manager)] サービスをオンにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5 さらに他のノードでサービスを開始する場合は、このタスクを繰り返します。

(注) シスコでは、Cisco CallManager サービスも実行しているクラスタ内の各サブスクリバノードで、シスコロケーション帯域幅マネージャサービスを実行することを推奨しています。

LBM グループの設定

LBM グループを設定するには、次の手順を使用します。デフォルトでは、Cisco CallManager サービスはローカルLBMサービスと通信します。ただし、LBMグループを使用してこの通信を管理し、冗長性を確保するためにアクティブおよびスタンバイのLBMを提供できます。



(注) Cisco CallManager サービスが LBM を使用する順序は次のとおりです。

- LBM グループの指定
- ローカル LBM (共存)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ロケーション (Locations)] > [ロケーション帯域幅マネージャグループ (Location Bandwidth Manager Group)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ3 グループに [名前 (Name)] を割り当てます。
- ステップ4 [アクティブメンバー (Active Member)] ドロップダウンから、このグループのアクティブなメンバーを選択します。
- ステップ5 [スタンバイメンバー (Standby member)] ドロップダウンから、アクティブなメンバーが使用できない場合に使用する必要があるスタンバイを選択します。
- ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

ロケーションとリンクの設定

ネットワーク内にロケーション (LAN) を作成するには、この手順を使用します。これらのロケーション間で WAN リンクを使用するコールに、合計帯域幅と重み付けを割り当てます。フィールドおよびその設定についてのヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ロケーション情報 (Location Info)] > [ロケーション (Location)] を選択します。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックし、新しいロケーションを作成します。
- ステップ3 ロケーションに [名前 (Name)] を割り当てます。
- ステップ4 [リンク-このロケーションと隣接ロケーション間の帯域幅 (Links - Bandwidth Between This Location and Adjacent Locations)] 領域で、別のロケーションに対する WAN リンクの設定を指定します。
 - a) [ロケーション (Location)] リストボックスから、2つ目のロケーションを選択します。
 - b) 有効なパスの形成する際のこのリンクの相対的な優先順位を反映した [重み付け (Weight)] を設定します。
 - c) オーディオ、ビデオ、イマーシブビデオ (TelePresence) の各コールの合計帯域幅を設定します。
 - d) さらに別のロケーションに対するリンクを設定するには、この手順を繰り返します。
- ステップ5 (任意) [ロケーション内-このロケーション内のデバイスの帯域幅 (Intra-location - Bandwidth for Devices Within This Location)] 領域を展開し、新しく作成したロケーションのロケーション内コールに対する帯域幅の割り当てを設定します。これらのコールについては、すべてのメディアタイプでデフォルト設定が [無制限 (Unlimited)] になっています。
- ステップ6 [他のロケーションの設定を変更 (Modify Settings to Other Locations)] 領域で、他のロケーションに対する RSVP 設定を指定します。
 - a) [ロケーション (Location)] 列で、他のロケーションを選択します。
 - b) これらのロケーション間でのコールに関する [RSVP設定 (RSVP Setting)] を選択します。
 - c) さらに他のロケーションとのコールについて RSVP 設定を追加するには、これらのサブステップを繰り返します。
- ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 8** 追加のロケーションを作成し、それらの新しいロケーションとの間のリンクを設定するには、この手順を繰り返します。

LBM クラスタ間レプリケーショングループの設定

LBM クラスタ間レプリケーショングループを設定するには、次の手順を使用します。これは、クラスタ間ネットワーク全体に拡張ロケーションアドミッション制御の帯域幅情報を複製するために必要です。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [ロケーション情報 (Location Info)] > [ロケーション帯域幅マネージャ (LBM) のクラスタ間レプリケーショングループ (Location Bandwidth Manager (LBM) Intercluster Replication Group)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [名前 (Name)] にグループの名前を入力します。
- ステップ 4** [ブートストラップサーバ (Bootstrap Servers)] 領域で、他のハブに接続情報を複製する責任を負う LBM サーバを 1 台以上割り当てます。
- ステップ 5** [ロールの割り当て (Role Assignments)] 領域で、上向き矢印と下向き矢印を使用して、ハブとして機能するローカル LBM サーバと、スポークのままにする LBM サーバを選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

SIP クラスタ間トランクの設定

拡張位置のコールの呼制御を使用する場合は、クラスタ間ネットワーク内の SIP クラスタ間トランクにシャドウロケーションを割り当てる必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunks)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、適切なクラスタ間トランクを選択します。
- ステップ 3** [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストから [シャドウ (Shadow)] を選択します。
- ステップ 4** [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、その他の必要なフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 6** 拡張ロケーション コールアドミッション制御の情報を複製するクラスタ間トランクが他にもあれば、この手順を繰り返します。

コールアドミッション制御のサービスパラメータの設定

拡張ロケーション コールアドミッション制御に関するオプションのサービスパラメータを設定するには、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム(System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、クラスタ ノードを選択します。
- ステップ 3** Cisco CallManager サービスのサービスパラメータを設定します。
- [サービス] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
 - [クラスタ全体のパラメータ (コールアドミッション制御) (Clusterwide Parameters (Call Admission Control))] 領域で、任意のサービスパラメータを設定します。パラメータに関するヘルプの説明を参照するには、GUI でパラメータの名前をクリックします。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** シスコロケーション帯域幅マネージャサービスの設定を指定します。
- [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[シスコロケーション帯域幅マネージャ (Cisco Location Bandwidth Manager)] を選択します。
 - 目的のサービスパラメータを設定します。パラメータに関するヘルプの説明を参照するには、GUI でパラメータの名前をクリックします。
 - [保存 (Save)] をクリックします。

拡張ロケーション CAC の連携動作の制限

次の表に、拡張ロケーションコールアドミッション制御の機能の連携動作と制限を示します。

機能	連携動作と制限事項
LBM セキュリティモード	<p>デフォルトでは、LBM セキュリティモードはセキュアではありません。この設定は、[LBMセキュリティモード (LBM Security Mode)] エンタープライズパラメータを使用して再設定できます。このパラメータは、[セキュア (Secure)]、[非セキュア (Insecure)]、または [混合 (Mixed)] に設定できます。</p> <p>[混合 (Mixed)] 設定は、すべてのクラスタをセキュアにする間も通信を維持するために一時的に使用し、後で [セキュア (Secure)] に変更することができます。</p> <p>このパラメータを変更した後は、設定を反映させるために、クラスタ内のすべての Cisco LBM サービス ハブをリセットする必要があります。</p>
ビデオコールでのオーディオ帯域幅の差し引き	<p>デフォルトでは、ビデオコールのオーディオ部分の帯域幅はビデオプールから差し引かれます。[ビデオコールのオーディオ部分をオーディオプールから差し引く (Deduct Audio Portion from Audio Pool for Video Calls)] サービスパラメータを True に設定することで (デフォルト設定は False)、ビデオ コール のオーディオ部分をオーディオプールから差し引くようにシステムを再設定できます。</p>
ビデオ コールの分類	<p>Cisco TelePresence エンドポイントには、設定を変更できないビデオコール分類である イマーシブ が用意されています。</p> <p>その他のエンドポイントには、設定を変更できないビデオコール分類である デスクトップ が用意されています。</p> <p>SIP トランクについては、関連付けられた SIP プロファイルで [ビデオコールのトラフィッククラス (Video Call Traffic Class)] を設定することで、ビデオ分類 (デスクトップ、イマーシブ、または混合) を設定できます。</p>
メディア リソース	<p>メディアリソースの帯域幅は、コールの入園制御によって割り当てられません。</p>
ロケーションの有用性	<p>シスコユニファイドサービスインターフェイスには、ロケーショントポロジを管理およびモニタリングするための追加のツールが含まれています。詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』の「ロケーション」のトピックを参照してください。</p>
セッション帯域幅修飾子	<p>[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、SIP エンドポイントで使用されるセッション帯域幅修飾子を割り当てることができます。</p>

機能	連携動作と制限事項
帯域幅の割り当ての競合	共通のリンクまたはロケーションで帯域幅容量または重み付け割り当ての競合が発生した場合は、ローカルクラスタが割り当てられた最小値を使用します。
デバイスサポート	Unified CM と LBM は、IP 電話、ゲートウェイ、H.323 トランク接続先、および SIP トランク接続先を含む、あらゆるタイプのエンドデバイスの帯域幅を管理します。ただし、クラスタ間拡張ロケーション CAC には、システム ロケーションのシャドウに割り当てられた SIP ICT が必要です。他のタイプのデバイスは、一般（固定）ロケーションに割り当てられている場合にのみサポートされます。
ネットワーク障害	ネットワーク障害が発生した場合は、Unified CM が計算した帯域幅予約経路にネットワーク状態が正確に反映されない可能性があります。このシナリオを許可する申し分のない方法はモデル内に存在しません。
同期に関する問題	システムによって作成されたモデルは常に完全に同期されるわけではありません。保守的な帯域幅割り当てを使用して、この制約に適応できます。
WAN を介したクラスタリング	WAN およびローカルフェールオーバーを介したクラスタリングを使用した展開では、クラスタ内 LBM トラフィックはすでに WAN 帯域幅の計算によって計算されています。
フレキシブル DSCP マーキング	<p>追加の QoS の場合、DSCP マーキングを使用して、特定のタイプのコールフローに優先順位付けされたマーキングを他のユーザに割り当てることができます。たとえば、ネットワークが輻輳している場合でも、ビデオメディアがブロックされている場合でも、基本的な通信は音声を通じて継続できるように、音声に優先順位を付けることができます。</p> <p>DSCP マーキングは、次の2つの方法で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービス パラメータ：[サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [クラスタ全体のパラメータ (システム-QoS) (Clusterwide Parameters (System - QoS))] セクションで、クラスタ全体の DSCP のデフォルト値を設定します。 • SIP プロファイル：SIP プロファイルでカスタマイズされた DSCP 設定項目を設定し、それを特定の SIP デバイスのグループに割り当てます。この設定は、クラスタ全体のデフォルトを上書きします。

機能	連携動作と制限事項
APIC-EM コントローラ	APIC_EM コントローラを使用して、外部 QoS 管理用の SIP メディアフローを管理できます。詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager</i> 機能設定ガイド』を参照してください。



第 15 章

Resource Reservation Protocol (RSVP) の設定

- [RSVP コールアドミッション制御の概要 \(183 ページ\)](#)
- [RSVP コールアドミッション制御の前提条件 \(183 ページ\)](#)
- [RSVP の設定タスクフロー \(183 ページ\)](#)

RSVP コールアドミッション制御の概要

Resource Reservation Protocol (RSVP) は、IP ネットワーク内のリソースを予約するための、トランスポート レベルのリソース予約プロトコルです。拡張ロケーションコールアドミッション制御 (CAC) の代わりに RSVP を使用できます。RSVP は、特定のセッションにリソースを予約します。セッションとは、特定の宛先アドレス、宛先ポート、およびプロトコル識別子 (TCP または UDP) を持つフローです。

RSVP コールアドミッション制御の前提条件

IPv4 アドレッシングを使用する必要があります。RSVP は IPv6 をサポートしていません。

RSVP の設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシーの設定 (184 ページ)	クラスタ内の全ノードについて RSVP ポリシーを設定します。
ステップ 2	ロケーション ペア RSVP ポリシーの設定 (185 ページ)	(省略可) ロケーション ペアにクラスタの他とは別のポリシーを使用する場

	コマンドまたはアクション	目的
		合、特定のロケーション ペアの RSVP ポリシーを設定できます。
ステップ 3	RSVP の再試行の設定 (186 ページ)	RSVP の再試行の頻度と番号を設定します。
ステップ 4	コール中の RSVP エラー処理の設定 (187 ページ)	コール中に RSVP が失敗したときにシステムがどのように応答するかを設定します。
ステップ 5	MLPP から RSVP への優先レベル マッピングの設定 (188 ページ)	(省略可) 複数レベルの優先順位およびプリエンプト (MLPP) を使用する場合は、発信者 MLPP 優先レベルを RSVP 優先順位にマップします。
ステップ 6	RSVP エージェントの設定	ゲートウェイ デバイスで次の IOS 手順を実行します。RSVP エージェントの設定方法については、デバイスのドキュメントを参照してください。
ステップ 7	アプリケーション ID の設定 (189 ページ)	RSVP アプリケーション ID を設定すると、音声およびビデオトラフィックの両方に ID が追加され、受信した ID をもとに、Cisco RSVP エージェントは、それぞれのトラフィック タイプに帯域幅の制限を設定できます。
ステップ 8	DSCP マーキングの設定 (190 ページ)	DSCP マーキングを設定して、RSVP の予約が失敗した場合、システムが RSVP エージェントまたはエンドポイント デバイスに指示してメディアの差別化サービス コントロール ポイントのマーキングをベストエフォートに変更できるようにします。そうでないと、EF マークの付いた過度のメディア パケットにより、たとえ予約のあるフローの場合でも Quality of Service (QoS) が劣化する可能性があります。

クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシーの設定

クラスタ内の全ノードについて RSVP ポリシーを設定します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
- ステップ 3 [クラスタ全体のパラメータ (システム-RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで、Default interlocation RSVP Policy サービスパラメータを設定します。

このサービスパラメータを次の値に設定できます。

- [予約なし (No Reservation)] : どの 2 つのロケーション間にも RSVP 予約は作成されません。
- [オプション (ビデオ優先) (Optional (Video Desired))] : オーディオストリームおよびビデオストリームの両方の予約を取得できない場合は、ベストエフォートとして、オーディオのみのコールを継続できます。RSVP エージェントはオーディオに関する RSVP 予約を引き続き試み、予約が成功した場合は、Cisco Unified Communication Manager に通知します。
- [必須 (Mandatory)] : Cisco Unified Communications Manager は、オーディオストリームに対する (コールがビデオコールの場合はビデオストリームに対する) RSVP 予約が成功するまで、終了デバイスを呼び出しません。
- [必須 (ビデオ優先) (Mandatory (Video Desired))] : オーディオストリームの予約は成功したが、ビデオストリームの予約に失敗する場合は、音声のみでビデオ通話を行うことができます。

次のタスク

次のいずれかのオプションを選択します。

- ロケーションペアで、残りのクラスタと異なるポリシーを使用する場合は、「[ロケーションペア RSVP ポリシーの設定 \(185 ページ\)](#)」に進みます。
- クラスタ内の全ノードに同一の RSVP ポリシーを使用している場合は、「[RSVP の再試行の設定 \(186 ページ\)](#)」に進みます。

ロケーションペア RSVP ポリシーの設定

ロケーションペアにクラスタの他とは別のポリシーを使用する場合、特定のロケーションペアの RSVP ポリシーを設定できます。次の手順を使用するとき、ロケーションペアに設定する RSVP ポリシーは、クラスタに設定したポリシーをオーバーライドします。

手順

- ステップ1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションを選択します。
- ステップ2 ロケーション ペア の一方のロケーションを検索し、そのロケーションを選択します。
- ステップ3 選択したロケーションと別のロケーション間の RSVP ポリシーを変更するには、ロケーションペアのもう一方のロケーションを選択します。
- ステップ4 [RSVP 設定 (RSVP Settings)] ドロップダウンリストで、このロケーションペアの RSVP ポリシーを選択します。

このフィールドに次の値を設定できます。

- [システム デフォルトを使用 (Use System Default)] : ロケーションペアの RSVP ポリシーが、クラスタ全体の RSVP ポリシーと一致します。
- [予約なし (No Reservation)] : 任意の 2 つのロケーション間で RSVP 予約が作られません。
- [音声優先 (オプション) (Video Desired (Optional))] : 音声およびビデオ ストリームの予約を取得できない場合、ベストエフォート、音声のみのコールとして処理されます。RSVP エージェントは、音声の RSVP の予約を引き続き試行し、予約が成功すると Cisco Unified Communications Manager に通知します。オーディオ ストリームに対する (コールがビデオ コールの場合はビデオ ストリームに対する) RSVP 予約が成功するまで、終端デバイス を呼び出しません。
- [音声優先 (Video Desired)] - オーディオ ストリームの予約は成功したが、ビデオ ストリームの予約が成功しない場合、ビデオ コールは音声のみコールとして処理されます。

次のタスク

[RSVP の再試行の設定 \(186 ページ\)](#)

RSVP の再試行の設定

RSVP の再試行の頻度および回数を設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

- [クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシーの設定 \(184 ページ\)](#)
- (省略可) [ロケーション ペア RSVP ポリシーの設定 \(185 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
- ステップ 3** [クラスタ全体のパラメータ Clusterwide (System - RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで指定されたサービス パラメータを設定します。

これらのサービス パラメータを次の値に設定できます。

- [RSVP 再試行タイマー (RSVP Retry Timer)] : RSVP 再試行タイマーの値を秒単位で指定します。このパラメータを 0 に設定すると、システムで RSVP の再試行が無効になります。
- [必須RSVPミッドコール再試行カウンタ (Mandatory RSVP Midcall Retry Counter)] : RSVP ポリシーが [必須 (Mandatory)] に指定され、ミッドコールエラー処理オプションが「次の再試行カウンタを超えるとコールは失敗する (call fails following retry counter exceeds)」に設定されているときに、ミッドコールRSVP再試行カウンタを指定します。デフォルト値は 1 回です。サービス パラメータを -1 に設定すると、予約が成功するか、コールが切断されるまで、いつまでも再試行が続行されます。

次のタスク

[コール中の RSVP エラー処理の設定 \(187 ページ\)](#)

コール中の RSVP エラー処理の設定

コール中の RSVP エラー処理の設定には、次の手順を使用します。

始める前に

[RSVP の再試行の設定 \(186 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
- ステップ 3** [クラスタ全体のパラメータ (システム - RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで、指定されたサービス パラメータを設定します。

通話中の強制 RSVP エラー処理のオプション サービス パラメータに次の値を設定できます。

- [Call becomes best effort] : コール中に RSVP が失敗した場合、コールはベストエフォート型のコールになります。再試行を有効にすると、RSVP の再試行が同時に開始されます。
- [Call fails following retry counter exceeded] : Mandatory RSVP Mid-call Retry Counter サービス パラメータに数値「N」を指定し、コール中に RSVP が失敗した場合、RSVP の再試行を N 回実行した後に、コールは失敗します。

次のタスク

ゲートウェイのデバイスに RSVP エージェントを設定します。RSVP エージェントの設定方法については、デバイスのドキュメントを参照してください。ゲートウェイで RSVP エージェントを設定した後は、Cisco Unified Communications Manager Administration に戻り、次のいずれかのオプションを選択します。

- (省略可) ネットワーク内でマルチレベルの優先順位とプリエンプションを使用している場合は、「[MLPP から RSVP への優先レベル マッピングの設定 \(188 ページ\)](#)」に進みます。
- [アプリケーション ID の設定 \(189 ページ\)](#)

MLPP から RSVP への優先レベル マッピングの設定

(省略可) 発信者の MLPP 優先順位から RSVP 優先レベルへのマッピングを設定するには、次に示すクラスタ全体 (システム - RSVP) のサービス パラメータを使用します。

- MLPP EXECUTIVE OVERRIDE To RSVP Priority Mapping
- MLPP FLASH OVERRIDE To RSVP Priority Mapping
- MLPP FLASH To RSVP Priority Mapping
- MLPP IMMEDIATE To RSVP Priority Mapping
- MLPP PL PRIORITY To RSVP Priority Mapping
- MLPP PL ROUTINE To RSVP Priority Mapping

これらのサービス パラメータを選択し、設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
 - ステップ 3** [クラスタ全体のパラメータ Clusterwide (System - RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで指定されたサービス パラメータを設定します。

これらのサービス パラメータは、次のように機能します。

- サービスパラメータ値が高いほど、優先度を上げるという設定に基づいて RSVP 予約を開始するとき、Cisco Unified Communications Manager は発信者の優先度レベルを RSVP 優先度にマップします。
- IOS ルータは RSVP 優先度に基づいてコールをプリエンブション処理します。
- RSVP エージェントは、プリエンブションの理由を含め、RSVP 予約の失敗の理由について Cisco Unified Communications Manager に通知する必要があります。
- Cisco Unified Communication Manager は、既存の MLPP メカニズムを使用して、優先処理の対象となった発信側と着信側に優先処理に関する通知を行います。

次のタスク

ゲートウェイのデバイスに RSVP エージェントを設定します。RSVP エージェントの設定方法については、デバイスのドキュメントを参照してください。ゲートウェイで RSVP のエージェントを設定した後は、Cisco Unified Communications Manager Administration と「[アプリケーション ID の設定 \(189 ページ\)](#)」に戻ります。

アプリケーション ID の設定

RSVP アプリケーション ID を設定すると、音声およびビデオトラフィックの両方に ID が追加され、受信した ID をもとに、Cisco RSVP エージェントは、それぞれのトラフィック タイプに帯域幅の制限を設定できます。

この手順を開始する前に、ゲートウェイデバイスで RSVP のエージェントを設定します。RSVP エージェントの設定方法については、デバイスのドキュメントを参照してください。

始める前に

ネットワークに RSVP アプリケーション ID を導入するには、Cisco RSVP Agent ルータで、Cisco IOS Release 12.4(6)T 以降を使用する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
 - ステップ 3** [クラスタ全体のパラメータ (システム - RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで、RSVP Audio Application ID サービス パラメータを設定します。

デフォルトは AudioStream です。

ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (システム - RSVP) (Clusterwide Parameters (System - RSVP))] セクションで、RSVP Video Application ID を設定します。

デフォルトは VideoStream です。

次のタスク

[DSCP マーキングの設定 \(190 ページ\)](#)

DSCP マーキングの設定

RSVP 予約が失敗した場合、は RSVP エージェントまたはエンドポイント (RSVP エージェントの割り当てに失敗した場合) に、メディアの Differentiated Services Control Point (DSCP) マークをベストエフォート型に変更するよう指示します。そうでないと、EF マークの付いた過度のメディア パケットにより、たとえ予約のあるフローの場合でも Quality of Service (QoS) が劣化する可能性があります。

始める前に

[アプリケーション ID の設定 \(189 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
 - ステップ 3** [クラスタ全体のパラメータ (システム - QoS) (Clusterwide Parameters (System - QoS))] セクションで、**DSCP for Audio Calls When RSVP Fails** のサービス パラメータを設定します。
 - ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (システム - QoS) (Clusterwide Parameters (System - QoS))] セクションで、**DSCP for Video Calls When RSVP Fails** のサービス パラメータを設定します。
-



第 16 章

プッシュ通知の設定

- [プッシュ通知の概要 \(191 ページ\)](#)
- [プッシュ通知の設定 \(195 ページ\)](#)

プッシュ通知の概要

クラスターでプッシュ通知が有効になっている場合、Unified Communications Manager および IM and Presence Service は、一時停止モード（バックグラウンドモードとも呼ばれます）で動作している Android および iOS 用 Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに音声通話、ビデオ通話、インスタントメッセージの通知をプッシュするために、Google と Apple のクラウドベースのプッシュ通知サービスを使用します。プッシュ通知によって、システムは Cisco Jabber または Cisco Webex と永続的な通信を維持できます。プッシュ通知は、エンタープライズネットワーク内から接続する Android および iOS 用 Cisco Jabber および Cisco Webex クライアントと、Expressway のモバイルおよびリモートアクセス機能を通じてオンプレミス展開に登録するクライアントの両方で必要となります。

プッシュ通知の動作

Android および iOS プラットフォームデバイスにインストールされているクライアントは、起動時に Unified Communications Manager、IM and Presence Service、および Google と Apple のクラウドに登録します。モバイルおよびリモートアクセス展開では、クライアントは Expressway 経由でオンプレミスサーバに登録します。Cisco Jabber および Cisco Webex クライアントがフォアグラウンドモードになっている限り、Unified Communications Manager および IM and Presence Service は、コールとインスタントメッセージをクライアントに直接送信することができます。

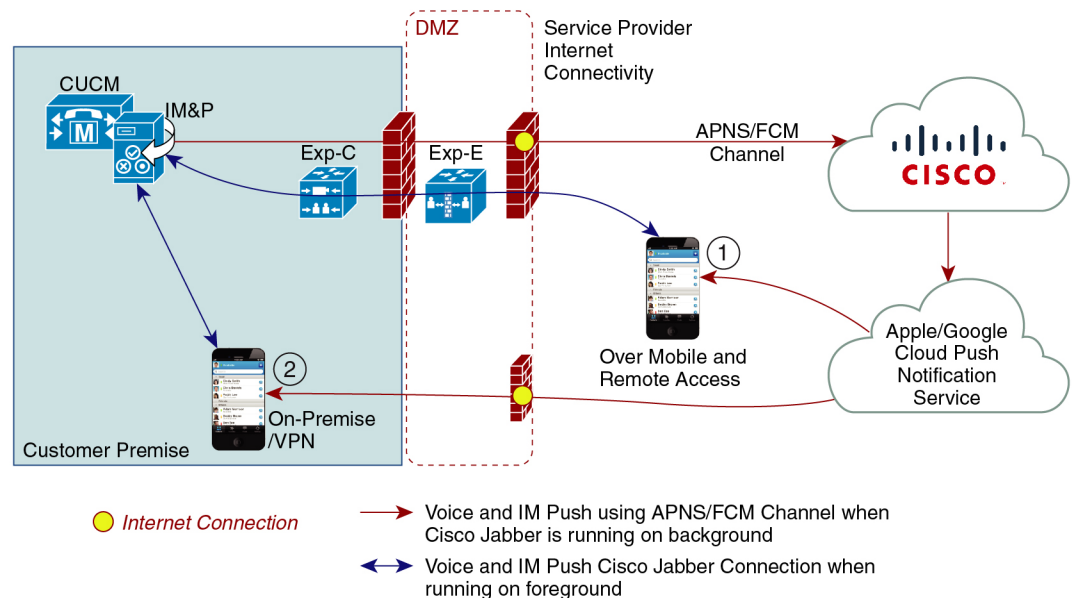
ただし、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントが（たとえばバッテリー寿命を長持ちさせるために）サスペンドモードに移行すると、標準の通信チャンネルは使用不可となり、Unified Communications Manager および IM and Presence Service がクライアントと直接通信することはできなくなります。プッシュ通知は、パートナークラウドを介してクライアントに到達するための別のチャンネルを提供します。



(注) 次の条件のいずれかに当てはまる場合、Cisco Jabber と Cisco Webex はサスペンドモードで動作していると見なされます。

- Cisco Jabber または Cisco Webex アプリケーションがオフスクリーン（バックグラウンド）で実行されている。
- Android または iOS デバイスがロックされている。
- Android または iOS デバイスの画面がオフになっている。

図 6: プッシュ通知アーキテクチャ



449023

上の図は、Android および iOS 用 Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントが、バックグラウンドで動作している場合と停止している場合の動作を示したものです。この図では、(1) クライアントが Expressway 経由でオンプレミスの Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service 展開に接続するモバイルおよびリモートアクセス展開と、(2) エンタープライズネットワーク内からオンプレミス展開に直接接続する Android および iOS 用 Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントを示しています。



(注) iOS13 の Apple クライアントおよびサポートされている Android クライアントでは、音声通話とメッセージは別々のプッシュ通知チャネル（「VoIP」と「Message」）を使用して、バックグラウンドモードで動作しているクライアントに到達します。ただし、全般的なフローはどちらのチャネルでも同じです。iOS12では、音声通話とメッセージは同じチャネルを使用して配信されます。

Cisco Jabber および Cisco Webex のプッシュ通知の動作

次の表は、Unified Communications Manager および IM and Presence Service に登録された iOS 用 Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントの iOS 12 および iOS 13 での動作を説明したものです。

Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントの動作モード	Cisco Jabber が iOS12 デバイスで実行されている場合	Cisco Jabber が iOS13 デバイスまたは Android デバイスで実行されている場合
フォアグラウンドモード	<p>音声/ビデオ通話</p> <p>Unified Communications Manager は、標準の SIP 通信チャネルを使用して、音声通話とビデオ通話を Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに直接送信します。</p> <p>通話の場合、Unified Communications Manager はプッシュ通知もフォアグラウンドモードの Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに送信します。ただし、通話の確立には、プッシュ通知チャネルではなく標準の SIP チャネルが使用されます。</p> <p>メッセージ</p> <p>IM and Presence Service は、標準の SIP 通信チャネルを使用してメッセージをクライアントに直接送信します。メッセージの場合、フォアグラウンドモードのクライアントにプッシュ通知は送信されません。</p>	動作は iOS12 の場合と同じです。

Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントの動作モード	Cisco Jabber が iOS12 デバイスで実行されている場合	Cisco Jabber が iOS13 デバイスまたは Android デバイスで実行されている場合
<p>サスペンドモード (バックグラウンドモード)</p>	<p>ビデオまたはビデオ コール</p> <p>標準の通信チャンネルは使用できません。Unified CM はプッシュ通知チャンネルを使用します。</p> <p>通知を受信すると、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントは自動的にフォアグラウンドモードに戻り、クライアントが呼出音を鳴らします。</p> <p>メッセージ</p> <p>標準の通信チャンネルは使用できません。IM and Presence サービスは、プッシュ通知チャンネルを使用して、次のように IM 通知を送信します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IM and Presence サービスは、Cisco Cloud のプッシュ REST サービスに IM 通知を送信します。これにより、通知が Apple クラウドに転送されます。 2. Apple クラウドは Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに IM 通知をプッシュし、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに通知が表示されます。 3. ユーザが通知をクリックすると、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントは再びフォアグラウンドに移行します。Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントは、IM and Presence Service とのセッションを再開し、インスタントメッセージをダウンロードします。 <p>(注) Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントがサスペンドモードの間、ユーザのプレゼンスステータスは「退席中 (Away)」と表示されません。</p>	<p>iOS13 では、コールトラフィックとメッセージトラフィックは別々のプッシュ通知チャンネルに分けられます。コールには「VoIP」チャンネル、メッセージングには「Message」チャンネルが使用されます。</p> <p>ビデオまたはビデオ コール</p> <p>標準の通信チャンネルは使用できません。Unified CM は「VoIP」プッシュ通知チャンネルを使用します。</p> <p>VoIP 通知を受け取ると、Jabber は発信者 ID を使用して CallKit を起動します。</p> <p>この動作は、Cisco Jabber または Cisco Webex iOS クライアントに適用されます。</p> <p>メッセージ</p> <p>標準の通信チャンネルは使用できません。IM and Presence Service は、「Message」プッシュ通知チャンネルを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IM and Presence サービスは、Cisco Cloud のプッシュ REST サービスに IM 通知を送信します。これにより、通知が Apple クラウドに転送されます。 2. Apple クラウドは、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントに IM 通知をプッシュします。 3. ユーザが通知をクリックすると、Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントはフォアグラウンドモードに移行します。Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントは、IM and Presence Service とのセッションを再開し、メッセージをダウンロードします。 <p>(注) Cisco Jabber または Cisco Webex クライアントがサスペンドモードの間、ユーザのプレゼンスは「退席中 (Away)」と表示されます。</p>

プッシュ通知がサポートされるクライアント

クライアント	OS	プラットフォームクラウド	クラウドサービス
iPhone および iPad の Cisco Jabber	iOS	Apple	Apple プッシュ通知サービス (APNS)
Android の Cisco Jabber	Android	Google	Android PNS サービス
iOS での Webex	iOS	Apple	Apple プッシュ通知サービス (APNS)
Android での Webex	Android	Google	Android PNS サービス

プッシュ通知の設定

プッシュ通知の設定および導入の方法の詳細は、『*iPhone* および *iPad* での *Cisco Jabber* のプッシュ通知の導入』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。



第 II 部

ダイヤルプラン

- [パーティションの設定 \(199 ページ\)](#)
- [国内番号計画のインストール \(207 ページ\)](#)
- [コールルーティングの設定 \(211 ページ\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(253 ページ\)](#)
- [クラスタ間ルックアップサービスの設定 \(263 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定 \(273 ページ\)](#)
- [発信側の正規化 \(295 ページ\)](#)
- [ダイヤルルールの設定 \(307 ページ\)](#)



第 17 章

パーティションの設定

- [パーティションの概要 \(199 ページ\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの概要 \(199 ページ\)](#)
- [サービスクラス \(200 ページ\)](#)
- [パーティションの設定タスクフロー \(201 ページ\)](#)
- [パーティションの連携動作と制限 \(204 ページ\)](#)

パーティションの概要

パーティションは、次のいずれかの論理グループです。

- ルート パターン
- ボイス メール の ディレクトリ 番号 (DN)
- トランスレーション パターン
- トランスフォーメーション パターン
- ユニバーサル リソース 識別子 (URI)
- ハント パイロット

パーティションによって組織、ロケーション、コールタイプを基にルートプランを論理サブセットに分割することで、コールルーティングが容易になります。

コーリング サーチ スペースの概要

呼び出し先の検索スペース (CSS) は、パーティションの優先順位リストです。検索スペースの呼び出しによって、発信者がコールするために使用できるコール通知先が決定されます。コール先は、発信者の呼び出し用検索スペースで利用可能なパーティションに存在する必要があります。また、発信者はその通知先を呼び出すことができません。コール検索スペースは、ディレクトリ番号と、電話やゲートウェイなどのデバイスに割り当てることができます。

発信者の電話機と発信者のディレクトリ番号の両方に、検索スペースが割り当てられている場合、システムはその2つを連結して、発信者のためのCSSを提供します。

コール権限に従って、パーティションを使用し、検索スペースを呼び出すことによってシステムを編成できます。たとえば、次のようにすることができます。

- 一部の従業員が長距離通話に対応しないように制限する
- ロビー電話からCEOへの直接コールの発信者を制限する

サービスクラス

パーティションを使用して、検索スペース(CSS)を呼び出して、サービスのクラスを設定することができます。次の表に、PSTNアクセスを提供するサービスクラスのために作成できる、パーティションの例と、検索スペースの発信スペースを示します。

- 緊急コール
- ローカルコール
- ナショナルコール
- 国際通話

表 13: パーティションとコーリングサーチスペース

コーリングサーチスペース	ルートパーティション1	ルートパーティション2	ルートパーティション3	機能
Base_CSS	Base_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット
LocalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット •ローカル
NationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット •ローカル •国内

コーリングサーチスペース	ルートパーティション1	ルートパーティション2	ルートパーティション3	機能
InternationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	PSTN_Intl_PT	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 • オンネット • ローカル • 国内 • 国際

デバイスは、Base_CSS のようなコール対象の検索スペースに自動的に登録されます。これにより、すべてのデバイスでオフネット番号と緊急オンネット番号の両方にダイヤルできるようになります。ローカル7桁またはローカル10桁、国内、および国際ダイヤリング機能を提供するには、ユーザデバイスプロファイルで残りのコーリングサーチスペースを電話番号に割り当てる必要があります。

パーティションの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	パーティションの設定 (201 ページ)	パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似したシステムリソースの論理グループを作成します。
ステップ2	コーリングサーチスペースの設定 (203 ページ)	コーリングサーチスペースは、コールを完了しようとする発信側デバイスが検索するパーティションを決定します。

パーティションの設定

パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似したシステムリソースの論理グループを作成します。次のいずれに対してもパーティションを作成できます。

- ルートパターン
- ボイスメールのディレクトリ番号 (DN)
- トランスレーションパターン
- トランスフォーメーションパターン
- ユニバーサルリソース識別子 (URI)

- ハントパイロット

パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、コールタイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- ステップ 3** [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
- パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。
- 説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。
- ステップ 5** 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。
- ステップ 6** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
- スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- ステップ 7** 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。
- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
 - [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
-

パーティション名のガイドライン

コーリング検索スペースのパーティションのリストは最大 1024 文字に制限されています。つまり、CSS内のパーティションの最大数は、パーティション名の長さによって異なります。次の表を使用して、パーティション名が固定長である場合のコーリング検索スペースに追加できるパーティションの最大数を決定します。

表 14: パーティション名のガイドライン

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	340
3 文字	256
4 文字	204
5 文字	172
...	...
10 文字	92
15 文字	64

コーリング検索スペースの設定

コーリング検索スペースは、通常はデバイスに割り当てられるルートパーティションの番号付きリストです。コーリング検索スペースでは、発信側デバイスが電話を終了しようとする際に検索できるパーティションが決定されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリング検索スペース (Calling Search Space)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリング検索スペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ 5 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが 1 つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、Ctrl キーを押した状態で適切なパーティションを選択します。

ステップ 6 ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。

ステップ 7 (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

パーティションの連携動作と制限

表 15: パーティション制限

機能またはアクション	制限事項
パーティションの削除	<p>パーティションを削除する前に、次のいずれかのタスクを完了してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目に異なるパーティションを割り当てる。 • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目を削除する。 <p>削除されたパーティションは取得できなくなるため、正しいパーティションを削除していることを慎重に確認してください。誤ってパーティションを削除した場合は、それを再構築する必要があります。</p>
トランスレーションパターン	<p>トランスレーションパターンにはディジット操作が含まれており、パーティションに割り当てられます。コールがトランスレーションパターンと一致する場合、Unified CM が変換を実行し、そのトランスレーションパターンで指定されるコーリングサーチスペースを使用してコールを再ルーティングします。トランスレーションパターンの詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。</p>
時間帯ルーティング	<p>パーティションが着信コールを受け入れ可能なスケジュールを設定します。ルーティングの時間設定の詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。</p>

機能またはアクション	制限事項
論理パーティション設定	<p>任意：ゲートウェイおよびトランク アクセスを使用して内部 VoIP ネットワークを外部ネットワークから分割できます。ほとんどの導入環境では論理パーティションの使用は任意ですが、インドのように、内部ネットワークから外部へのコールをすべてローカル PSTN ゲートウェイに接続することが規制により必須となっている国では必須です。論理パーティショニングの設定の詳細については、『<i>Cisco Unified Communication Manager 機能設定ガイド</i>』の「論理パーティション分割の設定」のセクションを参照してください。</p>



第 18 章

国内番号計画のインストール

- [国内番号計画の概要](#) (207 ページ)
- [国内番号計画の前提条件](#) (207 ページ)
- [国内番号計画のインストールタスクフロー](#) (208 ページ)

国内番号計画の概要

Unified Communications Manager では、デフォルトで北米電話番号計画 (NANP) を提供しています。設定されているダイヤルプラン要件が異なる国の場合は、シスコの国際ダイヤルプランをインストールし、それを使用して、要件特有の一意の番号計画を作成できます。

番号計画には、数字破棄命令 (DDI) と、その番号計画に固有のタグが含まれています。これらの項目は、コールルーティングを設定するときに、番号計画に適したルーティングルールを作成するために使用できます。

この章では、国内番号計画をインストールする方法について説明します。国内番号計画の使用の詳細については、『*Unified Communications Manager* ダイヤルプラン導入ガイド』

(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

国内番号計画の前提条件

北米以外の国の国内番号計画をインストールする場合は、現在のリリース用の国際ダイヤルプランが含まれている Cisco Option Package (COP) ファイルをダウンロードします。COP ファイルでは、IDP v.x という命名規則が使用されています。このファイルは、シスコの Web サイトから入手できます。

- <https://software.cisco.com/download/navigator.html>

このファイルを、Unified Communications Manager がアクセスできる外部 FTP サーバまたは SFTP サーバに配置します。

国内番号計画のインストールタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	COP ファイルのインストール (208 ページ)	(省略可) 北米以外の国における番号計画をインストールするには、現在のリリース用の国際ダイヤルプランを含む Cisco Option Package (COP) ファイルをダウンロードします。
ステップ 2	国内番号計画のインストール (209 ページ)	クラスタ内のそれぞれの Unified Communications Manager ノードに国内の番号計画をインストールします。北米以外の国の国内番号計画をインストールする場合場合にのみ、次の手順を実行します。
ステップ 3	CallManager サービスの再起動 (210 ページ)	変更は、サービスを再起動した後に有効になります。

COP ファイルのインストール

国際ダイヤルプランを含む Cisco Option Package (COP) ファイルをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Unified Communication Manager のパブリッシャノードで、この手順を開始します。Cisco Unified Communications OS の管理で、[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [インストール (Install)] を選択します。
[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ソース (Source)] フィールドで、[リモートファイルシステム (Remote File System)] を選択します。
- ステップ 3** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウで、フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」を参照してください。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
ウィンドウが更新され、使用可能なソフトウェアのオプションとアップグレードのリストが表示されます。

- ステップ 5** [オプション/アップグレード (Options/Upgrades)] ドロップダウンリストで、[DP COP] ファイルを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[インストールファイル (Installation File)] ウィンドウが開き、FTP サーバからファイルをダウンロードします。ウィンドウにダウンロードの進捗が表示されます。
- ステップ 6** [チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されたら、そのチェックサムの値をダウンロードしたファイルのチェックサムの値と比較検証します。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックして、ソフトウェアアップグレードに進みます。
警告メッセージとして、インストールするために選択した DP COP ファイルが表示されます。
- ステップ 8** [インストール (Install)] をクリックします。
[インストール状況 (Install Status)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [完了 (Finish)] をクリックします。
- ステップ 10** Unified Communication Manager サブスクリバノードで、この手順を繰り返します。クラスタ内の全ノードに COP ファイルをインストールする必要があります。

関連トピック

[COP ファイルインストールのフィールド \(209 ページ\)](#)

COP ファイルインストールのフィールド

フィールド	説明
ディレクトリ (Directory)	COP ファイルが配置されているディレクトリを入力します。
リモート サーバ (Remote Server)	COP ファイルが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
リモート ユーザ (Remote User)	リモート サーバのユーザ名を入力します。
リモート パスワード (Remote Password)	リモート サーバのパスワードを入力します。
転送プロトコル (Transfer Protocol)	リモート サーバと接続する場合に使用するプロトコルを選択します。

国内番号計画のインストール

北米以外の国の国内番号計画をインストールする場合場合にのみ、次の手順を実行します。

クラスタ内のそれぞれの Unified Communications Manager ノードに国内の番号計画をインストールします。Unified Communication Manager publisher ノードから始めます。

手順

-
- ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルプラン インストーラ (Dial Plan Installer)] を選択します。
 - ステップ2 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ3 インストールするダイヤルプランのバージョンを [利用可能なバージョン (Available Version)] ドロップダウンリストから選択します。
 - ステップ4 [インストール (Install)] をクリックします。
ステータスに、ダイヤルプランがインストールされたことが表示されます。
 - ステップ5 クラスターのサブスクライバノードごとにこの手順を繰り返します。
-

CallManager サービスの再起動

手順

-
- ステップ1 Cisco Unified Serviceability インターフェイスで、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
 - ステップ2 [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
CM の [サービス (Services)] 領域で、[サービス名 (Service Name)] 列に Cisco CallManager が表示されます。
 - ステップ3 Cisco CallManager サービスに対応するラジオ ボタンをクリックします。
 - ステップ4 [再起動 (Restart)] をクリックします。
サービスが再起動し、「サービスは正常に再起動しました (Service Successfully Restarted)」というメッセージが表示されます。
-



第 19 章

コール ルーティングの設定

- [コール ルーティングの概要 \(211 ページ\)](#)
- [コールルーティングの前提条件 \(213 ページ\)](#)
- [コールルーティングの設定タスクフロー \(213 ページ\)](#)
- [コールルーティングの制限 \(233 ページ\)](#)
- [Dialed Number Analyzer によるトラブルシューティング \(234 ページ\)](#)
- [回線グループの設定 \(235 ページ\)](#)

コール ルーティングの概要

このシステムでは、クラスタ間でのコールのルーティング方法、およびプライベート ネットワークまたは公衆電話交換網 (PSTN) に対する外部コールのルーティング方法を決定するために、ルートプランを使用します。設定したルートプランにより、各コールタイプをルーティングするためにシステムが使用するパスが指定されます。たとえば、オンネット コールに IP ネットワークを使用するルートプランや、ローカル PSTN コールと国際コールに別々のキャリアを使用するルートプランを作成できます。

トランスレーションパターン

トランスレーションパターンを設定すると、任意のタイプのコールの数字を操作できます。トランスレーションパターンは、ルートパターンと同じ一般規則に従い、同じワイルドカードを使用します。ルートパターンと同じように、トランスレーションパターンをパーティションに割り当てます。ただし、ダイヤルされた数字がトランスレーションパターンと一致する場合、Unified CM は、ゲートウェイなどの外部エンティティにコールをルーティングしません。代わりに、まず変換を実行した後、トランスレーションパターン内で設定されたコーディング検索スペースを使用して、コールを再度ルーティングします。



- (注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するトランスレーションパターンが固有であることを確認してください。それには、ルートパターン/ハントパイロット、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、またはミーティング番号の設定ウィンドウを確認して、重複するエントリがあることを示すエラーを受け取っていないかどうかを調べます。

トランスフォーメーションパターン

トランスフォーメーションパターンを使用すると、数字の破棄、プレフィックス番号の追加、発信側トランスフォーメーションマスクの追加を行えます。また、システムが電話機またはPSTNにコールを送信する前に発信者番号の表示を制御することもできます。

変換パターンを設定し、それらをルートパーティションに関連付けて、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースにパターンを割り当てます。[設定(configuration)]ウィンドウの発呼側変換CSSまたは着信側変換CSSフィールドを使用して、特定のデバイス、デバイスプール、ゲートウェイ、またはトランクのコール設定にパターンを割り当てることができます。

次のトランスフォーメーションパターンを設定できます。

- **発信側トランスフォーメーションパターン**：発信者番号のグローバル形式を、ゲートウェイまたはトランクなどのルートグループデバイスに接続されているクラスタ外のネットワークで必要となるローカルの形式に適応させることができます。
- **着信側トランスフォーメーションパターン**：着信番号のグローバル形式を、ルートグループデバイスに接続されているクラスタ外のネットワークで必要となるローカル形式に適応させることができます。

ルートパターン

このシステムには、次のコンポーネントを使用するルーティングを計画するための3階層方式があります。

- **ルートパターン**：システムは、外部向けのダイヤル文字列と合致する設定済みのルートパターンを検索し、それを使用して、ゲートウェイまたはルートリストにコールを転送します。ルートパターンは、ゲートウェイ、トランク、または1つ以上のルートグループを含むルートリストに割り当てることができます。
- **ルートリスト**：コールで使用可能なパスの優先順位付きリスト。
- **ルートグループ**：使用可能なパス。ルートグループは、ゲートウェイとトランクにコールを分配します。

追加のコールルーティング

ルートプランには、次のオプションコンポーネントを含めることもできます。

- **ローカルルートグループ**: 複数のサイトがある場合は、ローカルルートグループを使用して、ルートパターンの設定ではなく、デバイスプールで指定されたゲートウェイにオフネットコールをルーティングできるようにすることができます。これにより、複数のロケーションに単一のルートパターンセットを使用できます。
- **ルートフィルタ**: ルートフィルタを作成し、ルートパターンまたはハントパイロットに追加して、ユーザによるパターンの使用を制限します。ルートフィルタは必須ですが、ダイヤルプランインストーラファイルを使用していますが、手動のダイヤルプラン設定ではオプションです。手動設定では、パターンが@ワイルドカードを使用している場合にのみ、ルートフィルタが適用されます。
- **自動代替ルーティング**: 帯域幅不足のためシステムがコールをブロックしたときに、PSTNまたは別のネットワークを介してコールを自動的に再ルーティングします。
- **時間指定ルーティング**: 特定のパーティションが着信コールを受信できる時間を指定するスケジュールを作成します。

コールルーティングの前提条件

- [パーティションの設定タスクフロー \(201 ページ\)](#) の操作を実行します。
- 次の情報が用意されていることを確認してください。
 - 内部番号 (内線)
 - 各ゲートウェイに転送されるコールをリストしているプラン

コールルーティングの計画の詳細については、『シスココラボレーションシステムソリューションリファレンスネットワーク設計』の「コール制御とルーティング」のトピックを参照してください。

コールルーティングの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	トランスレーションパターンの設定 (215 ページ)	トランスレーションパターンを設定して、特定のパーティション内のコールのディジット変換を完了する方法を指定します。
ステップ 2	発信側トランスフォーメーションパターンの設定 (215 ページ)	このプロセスを使って呼び出し元の番号を変換します。例えば、PSTNを呼び出したときに、発信者の内線番号をオ

	コマンドまたはアクション	目的
		フィスのマスター番号で置き換える変換モードを設定しても良い。
ステップ 3	着信側トランスフォーメーションパターンの設定 (216 ページ)	この手順を使用して、着信側の番号を変換します。たとえば、10桁の発信者の最後の5桁のみを保持するトランスフォーメーションパターンを設定できます。
ステップ 4	ローカルルートグループの設定 (217 ページ)	(省略可) ローカルルートグループを使用すると、複数のロケーションに対して単一のルートパターンセットを使用できます。ユニファイド CM は、ルートパターンではなく、発信側デバイスの場所に基づいてゲートウェイを割り当てます。
ステップ 5	ルートグループの設定 (219 ページ)	(省略可) ゲートウェイのデバイスの選択順序を設定するようにルートグループを設定します。ルートグループには、1つ以上のデバイスが含まれています。
ステップ 6	ルートリストの設定 (220 ページ)	(省略可) ルートリストには、1つ以上のルートグループが含まれています。ルートグループの選択順序を制御するためにルートリストを設定します。
ステップ 7	ルートフィルタの設定 (221 ページ)	(省略可) ルートパターンが許可する特定の数字を制限するためにルーティングのフィルタを使用します。
ステップ 8	ルートパターンの設定 (225 ページ)	ルーティングモードを設定し、特定の装置に呼を向け、特定のデジタルモードを含むかまたは除外する。
ステップ 9	クラスタ全体の自動代替ルーティングの有効化 (230 ページ)	(省略可) 自動代替ルーティング (AAR) を有効化すると、帯域幅不足のためにコールがブロックされたときに、システムは PSTN または別のネットワークを介してコールを再ルーティングします。
ステップ 10	AAR グループの設定 (230 ページ)	(省略可) 自動代替ルーティングに適用するディジット変換を使用して、AAR グループを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	時間帯ルーティングの設定 (231 ページ)	(省略可) 特定のパーティションが着信コールに応答可能な時間を指定するタイムスケジュールを作成します。

トランスレーションパターンの設定

ダイヤル文字列がパターンと一致したときに発信番号と着信番号にディジット操作を適用するには、トランスレーションパターンを設定します。システムは数字の変換を完了してから、コールを再ルーティングします。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] を選択します。
- ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 新しいトランスレーションパターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - 既存のトランスレーションパターンを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] フィールドに、このパターンを使用するダイヤル文字列と照合するパターンを入力します。
- ステップ 4 [パーティション (Partition)] ドロップダウンリストから、このパターンを割り当てるパーティションを選択します。
- ステップ 5 [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

発信側トランスフォーメーションパターンの設定

このプロセスを使って呼び出し元の番号を変換します。例えば、PSTNを呼び出したときに、発信者の内線番号をオフィスのマスター番号で置き換える変換モードを設定しても良い。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[Call Routing (コールルーティング)] > [トランスフォーメーション (Transformation)] > [トラン

スフォーメーションパターン (Transformation Pattern)]>[着信側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)]。

ステップ2 次のいずれかのオプションを選択します。

- 新しい変換後のパターンを追加するには、[新規追加 (Add New)]をクリックします。
- 既存のパターンを選択するには、[検索 (Find)]をクリックします。

ステップ3 [パターン (pattern)] フィールドで、発信者番号と一致させるパターンを入力します。

(注) 発信コールの場合：

事前トランスフォーメーション発信側番号に基づいて、発信者のトランスフォーメーションマスクが選択されます。(IP電話に割り当てられた内線番号)。

SIP トランクで発信側トランスフォーメーションマスクを選択する間に、ルートパターンまたはグループで発信側番号が別の番号に変換された場合、発信側トランスフォーメーションマスクの選択には常に事前トランスフォーメーション発信側番号が使用されます。

Dialed Number Analyzer (DNA) に従っている限り、変換された番号を使用して発信側トランスフォーメーションマスクが選択されます。ただし、これはDNAの動作としては正しくありません。

ステップ4 [関係者の変換パターンの設定] ウィンドウで、残りのすべてのフィールドに入力します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

着信側トランスフォーメーションパターンの設定

この手順を使用して、着信側の番号を変換します。着信番号の変換：たとえば、10桁の番号としてダイヤルされたコールの最後の5桁のみを保持する。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)]>[トランスフォーメーション (Transformation)]>[トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)]>[着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)]を選択します。

ステップ2 次のいずれかのオプションを選択します。

- 新しい着信側トランスフォーメーションパターンを追加するには、[新規追加 (AddNew)]をクリックします。
- 既存のパターンを選択するには、[検索 (Find)]をクリックします。

ステップ3 [パターン (Pattern)] フィールドで、着信番号と一致させるパターンを入力します。

ステップ 4 [着信側トランスフォーメーションパターンの設定 (Called Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ローカルルートグループの設定

(省略可) ローカルルートグループを設定して、必要なルートリストの数を減らすことができます。リストのポイントを、PSTN ゲートウェイのロケーションに基づいて、システムが発信をルーティングするのに使用する PSTN ゲートウェイにルーティングします。代替として、ゲートウェイへのアクセスに使用されるルートパターンから PSTN ゲートウェイのロケーションを分離するためにローカルルートグループを使用できます。この設定により、異なるロケーションにある電話やその他のデバイスが単一セットのルートパターンを使用できますが、Cisco Unified Communications Manager が適切なゲートウェイを選択してコールをルーティングします。

たとえば、ローカルルートグループを使用すると、国のすべての市で別々のダイヤルプランを持つのではなく、国全体で単一のダイヤルプランを持つことができます。このアプローチが有効なのは、一元化されたコール導入のシナリオについてだけです。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ローカルルートグループの設定 (218 ページ)	(省略可) システムは、標準ローカルルートグループと呼ばれるデフォルトのローカルルートグループを提供しますが、追加のローカルルートグループを設定できます。追加のローカルルートグループを指定するには、次の手順を使用します。
ステップ 2	ローカルルートグループとデバイスプールの関連付け (218 ページ)	システムの各デバイスがそのローカルルートグループを知るためにプロビジョニングされることを確認するためには、ローカルルートグループをデバイスプールに関連付けます。
ステップ 3	ローカルルートグループのルートリストへの追加 (218 ページ)	(省略可) ルートリストに追加できるローカルルートグループを設定します。ローカルルートグループを作成すると、システムはデバイスプールレベルのユーザに対して定義されたゲートウェイに発信コールをルーティングします。

ローカルルートグループの設定

(省略可) システムは、標準ローカルルートグループと呼ばれるデフォルトのローカルルートグループを提供しますが、追加のローカルルートグループを設定できます。追加のローカルルートグループを指定するには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] を選択します。
- ステップ 2 [行の追加 (Add Row)] をクリックします。
- ステップ 3 新しいローカルルートグループの名前と説明を入力します。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ローカルルートグループとデバイスプールの関連付け

発信側デバイスのデバイスプールの設定に基づいて、ローカルルートグループが既存のルートグループを使用するよう割り当てることができます。この設定により、異なるロケーションにある電話やその他のデバイスが単一セットのルートパターンを使用できますが、Unified Communications Manager が適切なゲートウェイを選択してコールをルーティングします。

システムの各デバイスがそのローカルルートグループを知るためにプロビジョニングされることを確認するためには、ローカルルートグループをデバイスプールに関連付けます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。
- ステップ 2 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、結果のリストからデバイスプールを選択します。
- ステップ 3 [ローカルルートグループの設定 (Local Route Group Settings)] 領域で、[標準ローカルルートグループ (Standard Local Route Group)] ドロップダウンリストからルートグループを選択します。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ローカルルートグループのルートリストへの追加

ルートリストに追加できるローカルルートグループを設定します。ローカルルートグループを作成すると、システムはデバイスプールレベルのユーザに対して定義されたゲートウェイに発信コールをルーティングします。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいルートリストを追加します。
- 既存のルートリストの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックし、結果のリストからルートリストを選択します。

[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ルートリストにローカルルートグループを追加するには、[ルートグループの追加 (Add Route Group)] ボタンをクリックします。

ステップ 4 [ルートグループ (Route Group)] ドロップダウンリストから、ルートリストを追加するローカルルートグループを選択します。標準ローカルルートグループの追加、または作成したカスタムローカルルートグループの追加ができます。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 6 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ルートグループの設定

システムが発信コール用ゲートウェイを選択するときの優先順位を示したルートグループを設定します。グループ内の任意のゲートウェイでコールを発信できるように、同様の特性を持つゲートウェイをグループ化するには、次の手順を使用します。ルートグループを設定したときに指定した順序で、システムは使用するゲートウェイを選択します。

1つのデバイスを複数のルートグループに割り当てることができます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] を選択します。

[ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- 新しいルートグループを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存のルートグループの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックし、結果のリストからルートグループを選択します。

[ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

ルートリストの設定

一連のルートグループを特定し、優先順位を付けるには、ルートリストを設定します。Unified Communications Manager は、ルートリストの順序を使用して、発信コールに使用可能なデバイスを検索します。

ルートリストを設定すると、少なくとも1つのルートグループを設定する必要があります。ルートリストに含まれるのは、ルートグループとローカルルートグループだけです。



(注) 発信コールがルートリストを介して送信される場合、ルートリストのプロセスは、発信デバイスをロックして、コールが完了する前にアラートメッセージが送信されないようにします。発信デバイスがロックされた後は、ハントリストが着信コールの追跡を停止します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかのオプションを選択します。

- 新しいルートリストを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存のルートリストの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックし、結果のリストからルートリストを選択します。

ステップ3 [ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 ルートグループをルートリストに追加するには、[ルートグループの追加 (Add Route Group)] ボタンをクリックします。

ステップ5 [ルートグループ (Route Group)] ドロップダウンリストから、ルートリストに追加するルートグループを選択します。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ7 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ルートフィルタの設定

ルートフィルタは、コールの処理方法を決定するためにダイヤル数字列を使用します。ルートフィルタは、ワイルドカード@を含むルートパターンを設定するときのみ適用されます。ルートパターンが@ワイルドカードを含む場合、Unified Communications Manager は、この手順で指定する番号計画に従ってコールをルーティングします。

ダイヤルプランインストーラを使用している場合、ルートフィルタは必須です。つまり、ダイヤルプランファイルをインストールして、その番号計画に基づいてルートパターンを設定します。ダイヤルプランを手動で設定する場合は、ルートプランの使用は任意です。

ダイヤルプランを手動で設定すると、@ワイルドカードを含むルートパターンがあるたびにルートフィルタを設定する必要があります。ルートパターンに@ワイルドカードが含まれていると、システムは、ルートフィルタで指定する番号計画に応じて、コールをルーティングします。



(注) コールルーティングを設定するときは、1つのルートフィルタを多数のルートパターンに割り当てないでください。数百のルートパターンが関連付けられたルートフィルタを編集した場合、システムコアに発生します。これは、ルートフィルタを使用するすべてのルートパターンのコールルーティングの更新に新たなシステム処理が必要になるためです。重複するルートフィルタを作成し、1つのルートフィルタを250を超えるルートパターンに関連付けないようにします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] を選択します。
- ステップ 2** [番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストからダイヤルプランを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 3** [ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。
各ルートフィルタ名がルートプランに一意であることを確認します。
- ステップ 4** ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力して、このルートフィルタ用の句を作成します。

使用可能なルートフィルタのタグの詳細については、「[ルートフィルタタグ \(222ページ\)](#)」を参照してください。

(注) EXISTS、DOES-NOT-EXIST、NOT-SELECTED の演算子を使用するタグにはルートフィルタのタグ値を入力しないでください。
- ステップ 5** ルートフィルタの演算子を選択し、該当する場合は、このルートフィルタのフレーズを作成するためにデータを入力します。

使用可能なルートフィルタの演算子の詳細については、「[ルートフィルタの演算子 \(224 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ルートフィルタの設定項目

ルートフィルタは、特定のルートがローカルのルートデータベースに含めるように考慮されていないプロセスです。ルートパターンが設定されている場合にのみ適用されます。

ルートフィルタの設定に関する情報を次のトピックに示します。

- [ルートフィルタタグ \(222 ページ\)](#)
- [ルートフィルタの演算子 \(224 ページ\)](#)
- [ルートフィルタの例 \(225 ページ\)](#)

ルートフィルタタグ

タグは、ルートフィルタのコアコンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルートフィルタタグで構成されています。

ルートフィルタタグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルートフィルタタグフィールドの値には、ワイルドカード文字 X、*、#、[、]、-、^、および 0～9 の数字を使用できます。次の表の説明では、表記 [2-9] と XXXX を使用して、実際の数字を表しています。この表記では、[2-9] は、2～9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0～9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9]XX の形式の 3 桁のエリアコード」という記述は、実際の数字 200～999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルートフィルタタグは、[ルートフィルタの設定(Route Filter Configuration)] ウィンドウの [番号計画(Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。次の表に、北米計画番号のルートフィルタタグを示します。

表 16: ルートフィルタタグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のエリアコードは、長距離コールのエリアコードを指定します。

タグ	説明
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されません。
INTERNATIONAL ACCESS	この 2 桁のアクセスコードは、国際ダイヤルを指定します。日本国内で発信するコールは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL DIRECT DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。日本国内で発信するコールは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のローカルエリアコードは、10 桁のローカルコールのローカルエリアコードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。
LONG-DISTANCE DIRECT DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LONG-DISTANCE OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分を指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7 桁の電話番号の最初の 3 桁 ([2-9]XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この 1 桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この 3 桁のコードは、緊急用の 911、修理サービス用の 611、問い合わせ用の 411 を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7 桁の電話番号の最後の 4 桁 (XXXX の形式) を指定します。

タグ	説明
TRANSIT-NETWORK	この 4 桁の値は、長距離通信事業者を識別します。 TRANSIT-NETWORK 値には、先行する 101 通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK-ESCAPE を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この 3 桁の値は、長距離通信事業者 ID に先行します。このフィールドの値には 101 が指定されています。TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4 桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK を参照してください。

ルートフィルタの演算子

ルートフィルタ タグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を、指定された値またはパターンと突き合わせます。次の表に、ルートフィルタ タグと共に使用できる演算子を示します。

表 17: ルートフィルタの演算子

演算子	説明
NOT-SELECTED	このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。 (注) 演算子が関連付けられるタグの有無によって、Cisco Unified Communications Manager がコールをルーティングすることが妨げられることはありません。
EXISTS	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager は、タグに関連付けられている任意の数字シーケンスがダイヤル数字列に含まれる場合のみ、コールをルーティングするかブロックします。
DOES-NOT-EXIST	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager は、タグに関連付けられている任意の数字シーケンスがダイヤル数字列に含まれない場合のみ、コールをルーティングするかブロックします。

演算子	説明
==	このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager は、タグに関連付けられていて、関連するフィールドで指定された番号範囲内である任意の数字シーケンスがダイヤル数字列に含まれる場合のみ、コールをルーティングするかブロックします。

ルートフィルタの例

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルートフィルタは、エリアコードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルートフィルタは、エリアコード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5[2-9]X を使用するルートフィルタは、520～599 の範囲のエリアコードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルートフィルタは、通信用事業者アクセスコード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。

ルートパターンの設定

Unified Communication Manager は、ルートパターンを使用して、内部と外部のコールをルーティングまたはブロックします。ゲートウェイ、トランク、1つ以上のルートグループを含むルートリストにルートパターンを割り当てることができます。



- (注) ルートパターンでゲートウェイを直接指定することもできますが、ルートリストおよびルートグループを設定することを推奨します。このアプローチでは、コールルーティングの柔軟性に加え、拡張性を最大限に発揮します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を行います。

- 新しいルートパターンを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存のルートパターンを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。

[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [ルートパターン (Route Pattern)] フィールドに、ダイヤル文字列が一致する必要がある番号パターンを入力します。
- ステップ 4** [ゲートウェイ/ルート (Gateway/Route)] ドロップダウンリストから、このルートパターンに一致するコール送信先を選択します。
- ステップ 5** [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

ルートパターンの設定項目

ルートパターンは、数字列 (アドレス) とルートリストへのコールまたはゲートウェイへのコールを指定する関連番号操作セットから構成されます。

設定するルートパターンの種類の例を以下に示します。

- [ルートパターンのワイルドカードと特殊文字 \(226 ページ\)](#)
- [ドットの前の数字を削除する例 \(229 ページ\)](#)
- [プレフィックス番号の例 \(229 ページ\)](#)
- [オンネットパターンとオフネットパターンの例 \(229 ページ\)](#)
- [ブロックおよびルートパターンの例 \(230 ページ\)](#)

ルートパターンのワイルドカードと特殊文字

ルートパターンにワイルドカードおよび特殊文字を使用すると、1つのルートパターンで、電話番号 (アドレス) の範囲に一致させることができます。これらのワイルドカードと特殊文字を使用して、Unified Communications Manager が隣接システムに送信する前に番号を操作できるようにする指示も作成できます。

次の表に、Unified Communications Manager がサポートするワイルドカードと特殊文字を示します。

表 18: ワイルドカードおよび特殊文字

文字	説明	例
@	<p>アットマーク (@) ワイルドカードは、国別番号計画のすべての番号に一致します。</p> <p>各ルートパターンで、@ ワイルドカードは 1 文字だけ使用できます。</p>	<p>ルートパターン 9.@ は、国別番号計画が認識するすべての電話番号をルーティングまたはブロックします。</p> <p>@ ワイルドカードが含む、国別番号計画の番号のルートパターンの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [0] • 1411 • 19725551234 • 101028819725551234 • 01133123456789
X	X ワイルドカードは、0～9 の範囲にある数字の任意の 1 桁に一致します。	ルートパターン 9XXX は、9000～9999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
!	感嘆符 (!) ワイルドカードは、0～9 の範囲にある数字の 1 桁以上に一致します。	ルートパターン 91! は、910～9199999999999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
?	<p>疑問符 (?) ワイルドカードは、直前の数字またはワイルドカード値の 0 回以上の繰り返しに一致します。</p> <p>(注) 疑問符 (??) ワイルドカードを使用した場合、2 つ目の疑問符は空の入力には一致しません。ルートパターンの例： *33X?*X?*X?#</p>	ルートパターン 91X? は、91～9199999999999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
+	プラス記号 (+) ワイルドカードは、直前の数字またはワイルドカード値の 1 回以上の繰り返しに一致します。	ルートパターン 91X+ は、910～9199999999999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。

文字	説明	例
[]	角カッコ ([]) 文字は、値の範囲を囲みます。	ルートパターン 813510[012345] は、8135100 ~ 8135105 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
-	ハイフン (-) 文字は、角カッコと一緒に使用して値の範囲を示します。	ルートパターン 813510[0-5] は、8135100 ~ 8135105 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
^	ハット (^) 文字は、角カッコと一緒に使用して値の範囲外を示します。この文字は、開始角カッコ ([) の直後に配置してください。 各ルートパターンで、^ 文字は 1 文字だけ使用できます。	ルートパターン 813510[^0-5] は、8135106 ~ 8135109 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
.	デリミタとして使用されるドット (.) 文字は、Cisco Unified Communications Manager のアクセスコードをディレクトリ番号から分離します。 この特殊文字を、桁を無視する指定と一緒に使用すると、隣接システムに番号を送信する前に Cisco Unified Communications Manager のアクセスコードを削除できます。 各ルートパターンで、(.) 文字は 1 文字だけ使用できます。	ルートパターン 9.@ は、最初の 9 を、国別番号計画に発信する Cisco Unified Communications Manager アクセスコードとして認識します。
*	アスタリスク (*) 文字は、特別な着信番号の追加の桁として利用できます。	ルートパターン *411 を設定して、内部オペレータのディレクトリ案内の利用を可能にします。
#	シャープ (#) 文字は、一般にダイヤルシーケンスの終了を特定します。 # 文字がパターンの最後の文字になるようにします。	ルートパターン 901181910555# は、国別番号計画内からダイヤルされる国際番号をルーティングまたはブロックします。末尾の 5 の後の # 文字は、この桁をシーケンスの最後の桁として特定します。

文字	説明	例
\+	\+のように、バックスラッシュにプラス記号が続くと、国際番号用エスケープ文字+の設定を示します。	\+の使用は、国際番号用エスケープ文字+がワイルドカードではなく、ダイヤル可能な桁であることを意味します。

ドットの前の数字を削除する例

ルートパターンでのドット単位の数字の削除を使用する1つの例は、電話機のユーザが外線に接続するためにアクセスコードをダイヤルする場合です。北米では、通常、ユーザは9をダイヤルして外部回線にアクセスします。次のルートパターンを使用して指定できます。

- ローカルコール：9.@ または 9.[2-9]XXXXXX
- 国内コール：9.1[2-9]XX
- 国際コール：9.011!#

これらのパターンでは、9は外線用のアクセスコードであり、ドット(.)は、どれがネットワーク内の番号でどれが外線番号なのかを示すことによって、ルートパターンの形式指定を可能にする区切り文字です。システムがダイヤルされた番号をPSTNへ送信する場合は、PSTNがコールをルーティングできるように、[番号の削除(Discard Digits)]オプションを使用して、ドットの前の番号をダイヤルされた文字列から取り除くことができます。

プレフィックス番号の例

ルートパターンでプレフィックス番号を使用する例として、サイト間のオンネットダイヤリングを設定する場合があります。ルートパターンを作成して、組織内のユーザがサイト間でコールする際に8+XXX-XXXXをダイヤルするように設定できます。オフネットコールの場合は、プレフィックス番号(8)を外して、新しいプレフィックス1<area code>を追加することで、E.164形式でコールをPSTNにルーティングできます。

オンネットパターンとオフネットパターンの例

[コールの分類(Call Classification)]フィールドを使用して、ルートパターンをオンネットまたはオフネットとして設定できます。コールを組織外に接続中であることをユーザに知らせるために2番目のダイヤルトーンを聞かせる場合は、コールをオフネットに分類できます。たとえば、ユーザが外線にダイヤルする際に9をダイヤルさせるルートパターンを作成し、それをオフネットのパターンとして分類した場合、システムは次のダイヤルトーンを鳴らします。

- 電話機がオフフック状態で、9をダイヤルする前のダイヤルトーン。
- 9をダイヤルした後に、公衆交換電話網(PSTN)番号にコールできる状態であることを示す、2番目のダイヤルトーン。

このオプションを使用する場合は、必ず、[デバイスのオーバーライドを許可(Allow Device Override)]チェックボックスをオフにしてください。

ブロックおよびルートパターンの例

ブロックパターンとルートパターンを使用すると、ルーティングする必要のない発信コールまたは着信コールを阻止できます。ブロックパターンは、次のような目的に使用します。

- 特定のパターンをブロックする。たとえば、パターン 91900XXXXXXX をブロックすると、ユーザが 900 サービスに対してコールを発信するのを防ぐことができます。
- 特定の市外局番とロケーションに対するコールをブロックすることで、通信料金詐欺を防止する。

クラスタ全体の自動代替ルーティングの有効化

クラスタに対して自動代替ルーティング（AAR）を有効化します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム（System）]>[サービスパラメータ（Service Parameters）]の順に選択します。
 - ステップ 2** [サーバ（Server）]ドロップダウンリストでノードを選択します。
 - ステップ 3** [サービス（Service）]ドロップダウンリストから、[Cisco Call Manager]を選択します。
 - ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ（システム-CCM自動代替ルーティング）（Clusterwide Parameters (System - CCM Automated Alternate Routing)）]領域で、[自動代替ルーティングの有効化（Automated Alternate Routing Enable）]パラメータを[True]に設定します。
-

AAR グループの設定

自動代替ルーティング（AAR）を設定することで、ロケーションの帯域幅不足のためシステムがコールをブロックしたときに、PSTNまたはその他のネットワークを通じてコールを自動的に再ルーティングすることができます。AARを使用すると、発信者は電話を切って着信側をダイヤルし直す必要がなくなります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング（Call Routing）]>[AARグループ（AAR Group）]を選択します。
 - ステップ 2** 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 新しい AAR グループを追加するには、[新規追加（Add New）]をクリックします。
 - 既存の AAR グループの設定を変更するには、[検索（Find）]をクリックし、結果のリストから AAR グループを選択します。

[AAR グループの設定（AAR Group Configuration）]ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [名前 (Name)] フィールドに、新しい AAR グループに割り当てる名前を入力します。

この名前には、最長 20 文字の英数字を指定でき、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせることが可能です。

ウィンドウが更新され、その他のフィールドが表示されます。

ステップ4 [AAR グループの設定 (AAR Group Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) (省略可) AAR がハントパイロットと連携できるようにするには、「[ハントパイロットの設定タスクフロー \(254 ページ\)](#)」を参照してください。

時間帯ルーティングの設定

(省略可) 着信コールを受信するためにパーティションが利用可能となる時間帯を指定するスケジュールを作成します。



(注) 時間帯ルーティングは、メッセージ待機インジケータ (MWI) の代行に対しては機能しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	時間帯の設定 (232 ページ)	時間帯を定義するには、この手順を使用します。開始時刻および終了時刻を定義し、さらに年次カレンダーで指定日または曜日として繰り返し間隔を指定します。
ステップ2	タイムスケジュールの設定 (232 ページ)	スケジュールを作成するには、この手順を実行します。上記の手順で設定した時間帯は、このスケジュールの構成要素です。時間帯は、複数のスケジュールに割り当てることができます。
ステップ3	パーティションとスケジュールの関連付け (232 ページ)	パーティションとスケジュールを関連付けて、発信側デバイスが特定の時間帯にコールの完了を試みたときに検索する場所を決定します。

時間帯の設定

時間帯を定義するには、この手順を使用します。開始時刻および終了時刻を定義し、さらに年次カレンダーで指定日または曜日として繰り返し間隔を指定します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュールの設定 (Time Schedule)] を選択します。
 - ステップ 2** [時間帯の設定 (Time Period Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
-

タイムスケジュールの設定

スケジュールを作成するには、この手順を実行します。上記の手順で設定した時間帯は、このスケジュールの構成要素です。時間帯は、複数のスケジュールに割り当てることができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュールの設定 (Time Schedule)] を選択します。
 - ステップ 2** [スケジュールの設定 (Time Schedule)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
-

パーティションとスケジュールの関連付け

パーティションとスケジュールを関連付けて、発信側デバイスが特定の時間帯にコールの完了を試みたときに検索する場所を決定します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
 - ステップ 2** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。
[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。

ステップ3 [保存 (Save)]をクリックします。

コールルーティングの制限

機能	制限事項
ルートフィルターの関連付け	<p>コールルーティングを設定する場合、単一ルートフィルタを多くのルートパターンに割り当てないようにしてください。数百個のルートパターンが関連付けられているルートフィルタを編集しようとする、システムコアクラッシュが発生する可能性があります。これは、ルートフィルタを使用するすべてのルートパターンのコールルーティングの更新に新たなシステム処理が必要になるためです。発生しないようにするには、重複するルートフィルタを作成します。</p>
外部コール制御	<p>外部コール制御によって、アジャнктルートサーバは、Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して Unified Communications Manager のコールルーティングを決定できます。外部コール制御を設定すると、Unified Communications Manager が、発信側および着信側の情報が入ったルート要求をアジャнктルートサーバに発行します。そのサーバは、要求を受信し、適切なビジネスロジックを適用し、コールのルーティング方法と適用すべきその他のコール処理方法をお使いのシステムに指示するルート応答を返します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「外部コール制御」の章を参照してください。</p>

機能	制限事項
コール制御検出	<p>コール制御検出を使用すると、Service Advertisement Framework (SAF) と呼ばれる Cisco IOS サービス ルーティング プロトコルに登録することによって、Unified Communications Manager クラスタがホストする DN 範囲を自動的に交換できます。SAF CCD によって、クラスタは、それぞれにホストされた DN 範囲をネットワークにアドバタイズし、ネットワーク内の他のコールエージェントによって生成されたアドバタイズメントにサブスクライブできます。</p> <p>SAF CCD を使用することの主な利点は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じ SAF CCD ネットワークに参加するコールエージェント間でコールルーティング情報を自動的に配布でき、したがって新しいコールエージェントが追加されたり、コールエージェントに新しい DN 範囲が追加されたりした場合に設定作業が徐々に増大することがなくなります。 • 集中型ダイヤルプラン解決コントロールポイントに依存しなくなります。 • 複数の Unified CM クラスタが組み合わせられた場合を含め、ルーティングが変更された場合に、コールエージェント間のコールルーティング情報が自動的に回復されます。 <p>コール制御検出を設定するには、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「コール制御検出の設定」の章を参照してください。</p>
ルートプランレポート	<p>詳細なルートプランは、Cisco Unified CM Administration ([コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)]) の [ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウで表示できます。ルーティング計画の報告により、ルーティング計画の一部または全部のリストを確認し、レポートのモード/ディレクトリ番号、パーティションまたはルーティングの詳細情報列の項目をクリックして、直接に関連する設定ウィンドウに移動します。</p> <p>さらに、ルートプランレポートを使用してレポートデータを .csv ファイルに保存し、そのファイルを他のアプリケーションにインポートすることもできます。保存される .csv ファイルには、ウェブページより詳細な情報（電話機の電話番号、ルートパターン、パターン使用法、デバイス名、デバイスの説明など）が含まれます。</p>

Dialed Number Analyzer によるトラブルシューティング

Dialed Number Analyzer は、Cisco Unified Communications Manager とともに、機能サービスの 1 つとしてインストールできます。このツールにより、Cisco Unified Communications Manager の

ダイヤルプラン設定を展開前にテストできます。また、このツールを使用して、展開後のダイヤルプランを分析することもできます。

ダイヤルプランが複雑になり、複数のデバイス、トランスレーションパターン、ルートパターン、ルートリスト、ルートグループ、発信側および着信側の変換、およびデバイスレベルの変換が関係すると、ダイヤルプランに誤りが含まれる場合があります。Dial Number Analyzerを使用してダイヤルプランをテストするには、ダイヤルされた番号を入力に使用します。ダイヤルされた番号が分析され、コールの詳細が表示されます。その結果を使用してダイヤルプランを診断し、問題があれば特定し、ダイヤルプランを調整してから展開できます。

Dial Number Analyzer のセットアップと使用の方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Dial Number Analyzer ガイド』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

回線グループの設定

この章では、回線グループの追加または削除、または回線グループからの電話番号の追加または削除を行う方法について説明します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の、ルートプランの理解に関するトピックを参照してください。

回線グループの設定について

Cisco Unified Communications Manager Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] メニューパスを使用して回線グループを設定します。

回線グループを使用して、電話番号を選択する順序を指定できます。Cisco Unified Communications Manager は、コール分配アルゴリズムと無応答 (RNA) 予約のタイムアウト設定に基づいて、回線グループのアイドル状態のまたは対応可能なメンバーにコールを分配します。



(注) 回線グループに属する DN へのコールは、ダイレクトコールピックアップ機能を使用してピックアップできません。



ヒント メンバー (電話番号) のない空の回線グループを設定することはできますが、Cisco Unified Communications Manager はコールのルーティングに対してこの設定をサポートしません。回線グループにメンバーが含まれていない場合は、コールが空の回線グループにルーティングされたときにハントリストがハンティングを停止します。このような状況を回避するために、回線グループ内に 1 つ以上のメンバーが設定されていることを確認してください。

回線グループの設定に関するヒント

回線グループを設定する前に、1つ以上の電話番号を定義する必要があります。

回線グループを設定または更新したら、その回線グループに対してメンバーを追加または削除することができます。

回線グループの削除

1つ以上のルート/ハントリストが参照している回線グループを削除できます。使用中の回線グループを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラーメッセージが表示されます。



ヒント 依存関係レコードは回線グループではサポートされていません。ベストプラクティスとして、回線グループを削除する前に、必ず設定を確認してください。

回線グループの設定項目

フィールド	説明
回線グループ情報	
[回線グループ名 (Line Group Name)]	<p>この回線グループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定でき、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。回線グループ名は、そのルートプランで一意的な名前にしてください。</p> <p>ワンポイントアドバイス 回線グループの名前は、簡潔で分かりやすいものにします。通常は、CompanynameLocationGroup の形式を使用すると、十分な詳細さでありながら、回線グループをすばやく簡単に識別できる簡潔さを実現できます。たとえば CiscoDallasAA1 は、ダラスにあるシスコオフィスの Cisco Access Analog という回線グループを示します。</p>

フィールド	説明
[RNA復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)]	コールに応答がない場合、かつ、1つ目のハンド オプションである [次のメンバーを試し、続いてハントリスト内の次のグループを試します (Try next member; then, try next group in Hunt List)] が選択されている場合に、Unified Communications Manager がこの回線グループの次に応答可能なメンバーまたはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループにコールを分配するまでの時間を、秒単位で入力します。[RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] は、回線グループ レベルですべてのメンバに適用されます。

フィールド	説明
[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)]	

フィールド	説明
	<p>回線グループ レベルで適用する分配アルゴリズムを、ドロップダウンリストボックスのオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [上から (Top Down)]: この分配アルゴリズムを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで順番にコールを分配します。 • [循環 (Circular)]: この配布アルゴリズムを選択すると、Unified Communications Manager は、ルートグループ内でアイドル状態または応答可能である (n+1) 番目のメンバーから順番にコールを配布します。このとき、n 番目のメンバーは、リスト内で次の順番にあたり、アイドル状態であるかビジー状態ではあるものの「停止状態」「」ではないメンバーです。n 番目のメンバーがルートグループ内の最後のメンバーである場合、Unified Communications Manager は、そのルートグループの先頭からコールを配布します。 • [最長アイドル時間 (Longest Idle Time)]: この分配アルゴリズムを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態が最も長いメンバーから最も短いメンバーの順番で、コールを配布します。 • [ブロードキャスト (Broadcast)]: この配布アルゴリズムを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内のアイドル状態または応答可能であるすべてのメンバーに対して同時にコールを配布します。[ブロードキャスト (Broadcast)] 分配アルゴリズムを使用する場合の制約事項については、[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] フィールドの説明にある「注」を参照してください。 <p>デフォルト値は [最長アイドル時間 (Longest</p>

フィールド	説明
	Idle Time)] です。
[ハント オプション (Hunt Options)]	

フィールド	説明
[無応答 (No Answer)]	

フィールド	説明
	<p>特定の分配アルゴリズムで、コールが分配された回線グループのメンバーが応答しない場合に Unified Communications Manager が使用するハント オプションを選択します。このオプションはメンバー レベルで適用されます。ドロップダウンリストボックスのオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバーを試し、続いてハントリスト内の次のグループを試します (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを分配します。分配がうまくいかない場合、Unified Communications Manager は、ハントリスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • [次のメンバーを試しますが、次のグループに進みません (Try next member, but do not go to next group)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを割り当てます。現在の回線グループ内で最後のメンバーに到達すると、Unified Communications Manager は試行を中止します。 • [残りのメンバーをスキップし、次のグループに直接進みます (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択した場合、最初のメンバーのRNA 復帰タイムアウト値が経過したときに、Unified Communications Manager はその回線グループの残りのメンバーをスキップし、Unified Communications Manager はハントリスト内の次の回線グループに直接進みます。 • [追跡を停止します (Stop hunting)] : こ

フィールド	説明
	のハントオプションを選択した場合、 Unified Communications Manager は、その回線グループ内の最初のメンバーにコールの分配を試みたがメンバーがコールに応答しなかったとき、ハントを停止します。
[無応答時にハントメンバーを自動的にログアウト (Automatically Logout Hunt Member on No Answer)]	このチェックボックスをオンにした場合、回線メンバーはハントリストから自動的にログオフします。回線メンバーを再度ログインさせるには、「HLOG」ソフトキーまたはPLKを使用します。

フィールド	説明
[ビジー (Busy)]	

フィールド	説明
	<p>特定の分配アルゴリズムについて、コールが分配された回線グループのメンバーがビジュー状態だった場合に Unified Communications Manager が使用するハント オプションを選択します。ドロップダウンリストボックスのオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバーを試し、続いてハントリスト内の次のグループを試します (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Managerは、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを分配します。分配がうまくいかない場合、Unified Communications Manager は、ハントリスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • [次のメンバーを試しますが、次のグループに進みません (Try next member, but do not go to next group)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Managerは、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを割り当てます。現在の回線グループ内で最後のメンバーに到達すると、Unified Communications Manager は試行を中止します。 • [残りのメンバーをスキップし、次のグループに直接進みます (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Managerは、ビジュー状態のメンバーに当たったときにその回線グループの残りのメンバーをスキップし、Unified Communications Managerはハントリスト内の次の回線グループに直接進みます。 • [追跡を停止します (Stop hunting)] : このハント オプションを選択した場合、

フィールド	説明
	Unified Communications Managerは、その回線グループ内でコールの分配を試みた際にビジー状態のメンバーに最初にあたった時点でハントを停止します。

フィールド	説明
[使用不可 (Not Available)]	

フィールド	説明
	<p>特定の分配アルゴリズムについて、コールが分配された回線グループのメンバーが使用不可だった場合に Unified Communications Manager が使用するハント オプションを選択します。</p> <p>[使用不可 (Not Available)]状態が発生するのは、該当する DN に関連付けられている電話機がいずれも登録されていない場合です。エクステンションモビリティが使用されていて、DN/ユーザがログインしていない場合にも [使用不可 (Not Available)]状態になります。ドロップダウンリストボックスのオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバーを試し、続いてハントリスト内の次のグループを試します (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを分配します。分配がうまくいかない場合、Unified Communications Manager は、ハントリスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • [次のメンバーを試しますが、次のグループに進みません (Try next member, but do not go to next group)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Manager は、回線グループ内でアイドル状態または応答可能である最初のメンバーから最後のメンバーまで、順番にコールを割り当てます。現在の回線グループ内で最後のメンバーに到達すると、Unified Communications Manager は試行を中止します。 • [残りのメンバーをスキップし、次のグループに直接進みます (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Manager は、使用不可のメンバーに最初にあたった時点でその回線グループの残りのメンバーをス

フィールド	説明
	<p>キップし、Unified Communications Manager はハントリストの次の回線グループに直接進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [追跡を停止します (Stop hunting)] : このハント オプションを選択した場合、Unified Communications Managerは、その回線グループ内で分配を試みた際に使用不可のメンバーに最初に当たった時点でハントを停止します。
[回線グループメンバー情報 (Line Group Member Information)]	
[回線グループに追加するディレクトリ番号の検索 (Find Directory Numbers to Add to Line Group)]	
[パーティション (Partition)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この回線グループのルートパーティションを選択します。デフォルト値は、<なし (None) >です。</p> <p>[検索 (Find)] をクリックすると、[使用可能DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストボックスに、選択したパーティションに属するすべてのDNが表示されます。</p>
[次を含むディレクトリ番号 (Directory Number Contains)]	<p>探しているディレクトリ番号に含まれる文字を入力し、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。入力した文字と一致する電話番号が[使用可能DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] ボックスに表示されます。</p>
[使用可能DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)]	<p>[使用可能DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストボックスでディレクトリ番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] をクリックして、[選択されたDN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスに追加します。</p>
[現在の回線グループメンバー (Current Line Group Members)]	

フィールド	説明
[共有回線DNを使用したブロードキャストアルゴリズム (Broadcast algorithm with shared line DN)]	<p>ディレクトリ番号の優先度を変更するには、 [選択されたDN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスでディレクトリ番号を選択します。リストボックスの右側にある矢印をクリックして、そのディレクトリ番号をリスト内で上下に移動します。</p> <p>[選択されたDN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスでディレクトリ番号の優先順位を逆にするには、[選択されたDN/ルートパーティションの順番を逆にする (Reverse Order of Selected DN/Route Partitions)] をクリックします。</p> <p>(注) DN およびルートパーティションを回線グループに追加する際は、共有回線であるDNを、ブロードキャスト分配アルゴリズムを使用する回線グループに入れないでください。ブロードキャスト配信アルゴリズムを使用する回線グループのメンバーになっているDNを共有回線として設定したデバイスでは、Unified Communications Managerは、共有回線であるすべてのDNを表示できません。</p>
[削除されたDN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)]	<p>[選択されたDN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスでディレクトリ番号を選択し、[削除されたDN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リストボックスに追加するには、2つのリストボックスの間にある下向き矢印をクリックします。</p>
[ディレクトリ番号 (Directory Numbers)]	

フィールド	説明
(この回線グループに現在属している DN のリスト)	<p>特定のディレクトリ番号の[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)]ウィンドウに移動するには、このリストでディレクトリ番号をクリックします。</p> <p>(注) 新しい回線グループを追加しても、回線グループを保存するまでは、このリストに表示されません。</p>

回線グループへのメンバーの追加

新しい回線グループまたは既存の回線グループにメンバーを追加できます。次の手順では、既存の回線グループにメンバーを追加する方法を説明します。

始める前に

この手順を実行する前に、1つ以上の電話番号を定義する必要があります。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)]>[ルート/ハント (Route/Hunt)]>[回線グループ (Line Group)]を選択します。
- ステップ 2** メンバーを追加する回線グループを見つけます。
- ステップ 3** 電話番号を検索する必要がある場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウンリストボックスからルートパーティションを選択し、[電話番号を含む (Directory Number Contains)] フィールドに検索文字列を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。パーティションに属するすべての電話番号を検索するには、[Directory Number Contains] フィールドを空白のままにして [Find] をクリックします。
一致するディレクトリ番号のリストが [使用可能な DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストボックスに表示されます。
- ステップ 4** [使用可能な DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストボックスで、追加するディレクトリ番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] をクリックして、そのディレクトリ番号を [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスに移動します。この回線グループに追加するメンバーごとに、この手順を繰り返します。
- ステップ 5** [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスで、この回線グループで新しい電話番号にアクセスする順序を選択します。順序を変更するには、電話番号をクリックし、リストボックスの右側にある上下の矢印を使用して、電話番号の順序を変更します。

- ステップ 6** 新しい電話番号を追加し、この回線グループの電話番号の順序を更新するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

回線グループからのメンバーの削除

新しい回線グループから、または既存の回線グループからメンバーを削除できます。次の手順では、既存の回線グループからの電話番号の削除について説明します。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] を選択します。
- ステップ 2** 電話番号を削除する回線グループを見つけます。
- ステップ 3** [選択されたDN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスで、削除するディレクトリ番号を選択し、リストボックスの下にある下向き矢印をクリックして、[削除されたDN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リストボックスにそのディレクトリ番号を移動します。この回線グループから削除するメンバーごとに、この手順を繰り返します。
- ステップ 4** メンバーを削除するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-



第 20 章

ハントパイロットの設定

- [ハントパイロットの概要 \(253 ページ\)](#)
- [ハントパイロットの設定タスク フロー \(254 ページ\)](#)
- [ハントパイロットの連携動作と制限 \(260 ページ\)](#)

ハントパイロットの概要

ハントパイロットは、数値またはパターンと、回線グループ内の電話のグループまたはディレクトリ番号へのコールをルーティングできる関連付けられた一連のディジット操作で構成されています。

ハントパイロットは、着信コールの優先順位を付けられたパス(回線グループ)の優先順位リストを使用して、ハントリストと連携します。ハントパイロットの DN にコールが発信されると、システムは、ハントリストで指定されている最初の回線グループにコールを提供します。最初の回線グループのいずれかの人がコールに応答しない場合、システムは、ハントリストで指定されている次の回線グループにコールを提供します。回線グループは、コールがグループ内の電話に配信される順序を制御します。回線グループは、特定の内線番号（通常は、IP Phone 内線番号またはボイスメール ポート）を指しています。回線グループは、コンピュータ テレフォニー インテグレーション (CTI) ポートと CTI ルートポイントを指すことができないため、ハントパイロットを使用して、Cisco Customer Response Solution (CRS) や IP 自動音声応答 (IP IVR) などの CTI アプリケーションによって制御されるエンドポイントにコールを配信することはできません。

ハントパイロットは、回線グループとハントパイロットが異なるパーティションに存在する場合でも、割り当てられた回線グループのいずれかにコールを配信できます。ハントパイロットが分配するコールは、すべてのパーティションおよびコーリング サーチ スペース制限を上書きします。

ハントパイロットの設定タスクフロー

システムのハントパイロットを設定するには、次のタスクを完了します。ハントパイロットは、回線グループ内の電話またはディレクトリ番号のグループにコールをルーティングするために使用できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	回線グループの設定 (254 ページ)	回線グループを作成して、複数の電話機が単一のディレクトリ番号 (DN) に送信されたコールに応答できるようにします。
ステップ 2	ハントリストの設定 (255 ページ)	回線グループの優先順位に従って、ハントリストを設定します。
ステップ 3	ハントパイロットの設定 (256 ページ)	ハントパイロット番号またはシステムがハントリストへのコールを指示するために使用するパターンを設定します。

回線グループの設定

回線グループを使用すると、1つのディレクトリ番号に送信されるコールに複数の電話で応答できます。グループ内の電話に着信コールが分配される順序は、分配アルゴリズムが制御します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- 新しい回線グループを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存の回線グループを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 [回線グループ名 (Line Group Name)] を入力します。

ステップ 4 [分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)] フィールドで、コールの分配に使用するアルゴリズムのタイプを選択します。

ステップ 5 回線グループにディレクトリ番号を追加するには、[回線グループに追加する回線グループメンバー (Line Group Members to Add to Line Group)] セクションのフィールドを設定します。

- a) 追加するディレクトリ番号が存在する [パーティション (Partition)] を選択します。

- b) (省略可) [次を含むディレクトリ番号 (Directory Number Contains)] フィールドを入力して、検索にフィルタを適用します。
- c) [検索 (Find)] をクリックします。指定したパーティションからのディレクトリ番号のリストがボックスに表示されます。
- d) [使用可能なDN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストボックスで、グループに追加する個別のディレクトリ番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] をクリックします。

ステップ 6 [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ハントリストの設定

ハントリストは、回線グループの優先順位リストです。ハントリストを介してコールをルーティングする場合、システムは、ハントリストで定義されている順序で回線グループを使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいルートリストを作成します。
- 既存のリストを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 ハントリストの名前を入力します。

ステップ 4 ハントリストを登録する **Cisco Unified Communications Manager** グループを選択します。

ステップ 5 [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List)] チェックボックスをオンにすると、[保存 (Save)] をクリックしたときに即座にハントリストが有効になります。

ステップ 6 このハントリストがボイスメール用である場合は、[ボイスメール用 (For Voice Mail Usage)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 8 ハントリストへの回線グループの追加

- a) [回線グループの追加 (Add Line Group)] をクリックします。
- b) [回線グループ (Line Group)] ドロップダウンリストから、ハントリストに追加する回線グループを選択します。
- c) [保存 (Save)] をクリックします。

- d) さらに回線グループを追加するには、この手順を繰り返します。

ハントパイロットの設定

回線グループに対してコールをルーティングするためにシステムが使用するハントパイロット番号またはパターンを設定します。



- (注) ハントパイロットで使用できるワイルドカードと特殊文字の詳細については、「[ハントパイロットのワイルドカードと特殊文字 \(256 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかのオプションを選択します。
- 新しいハントパイロットを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - 既存のハントパイロットを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [ハントパイロット (Hunt Pilot)] フィールドに、コールのルーティングに使用する番号またはパターンを入力します。
- ステップ 4** [ハントリスト (Hunt List)] ドロップダウンから、ハントパイロット番号に一致するコールを送信するためのハントリストを選択します。
- ステップ 5** [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6** コールキューイングを有効化する場合は、[コールをキューイング (Queue Calls)] チェックボックスをオンにし、[キューイング (Queuing)] セクションのフィールドを設定します。
- ステップ 7** 発信者、接続先、着信者に適用するディジットトランスフォーメーションパターンを割り当てます。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

ハントパイロットのワイルドカードと特殊文字

ルートパターンおよびハントパイロットでワイルドカードおよび特殊文字を使用すると、単一ルートパターンまたはハントパイロットをある範囲の番号 (アドレス) と一致させることができます。また、これらのワイルドカードおよび特殊文字を使って指示を組み立てると、Cisco Unified Communications Manager が処理した番号を隣接システムに送信できます。

Cisco Unified Communications Manager がサポートするワイルドカードおよび特殊文字を次の表で説明します。

表 19: ワイルドカードおよび特殊文字

文字	説明	例
@	<p>アットマーク (@) ワイルドカードは、国別番号計画のすべての番号に一致します。</p> <p>各ルートパターンで、@ ワイルドカードは 1 文字だけ使用できます。</p>	<p>ルートパターン 9.@ は、国別番号計画が認識するすべての電話番号をルーティングまたはブロックします。</p> <p>@ ワイルドカードが含む、国別番号計画の番号のルートパターンの例を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [0] • 1411 • 19725551234 • 101028819725551234 • 01133123456789
X	X ワイルドカードは、0～9 の範囲にある数字の任意の 1 桁に一致します。	ルートパターン 9XXX は、9000～9999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
!	感嘆符 (!) ワイルドカードは、0～9 の範囲にある数字の 1 桁以上に一致します。	ルートパターン 91! は、910～91999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
?	<p>疑問符 (?) ワイルドカードは、直前の数字またはワイルドカード値の 0 回以上の繰り返しに一致します。</p> <p>(注) 疑問符 (??) ワイルドカードを使用した場合、2 つ目の疑問符は空の入力には一致しません。ルートパターンの例： *33X?*X?*X?#</p>	ルートパターン 91X? は、91～91999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
+	プラス記号 (+) ワイルドカードは、直前の数字またはワイルドカード値の 1 回以上の繰り返しに一致します。	ルートパターン 91X+ は、910～91999999999999999999 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。

文字	説明	例
[]	角カッコ ([]) 文字は、値の範囲を囲みます。	ルートパターン 813510[012345] は、8135100 ~ 8135105 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
-	ハイフン (-) 文字は、角カッコと一緒に使用して値の範囲を示します。	ルートパターン 813510[0-5] は、8135100 ~ 8135105 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
^	ハット (^) 文字は、角カッコと一緒に使用して値の範囲外を示します。この文字は、開始角カッコ ([) の直後に配置してください。 各ルートパターンで、^ 文字は 1 文字だけ使用できます。	ルートパターン 813510[^0-5] は、8135106 ~ 8135109 の範囲のすべての数字をルーティングするか、またはブロックします。
.	デリミタとして使用されるドット (.) 文字は、Cisco Unified Communications Manager のアクセスコードをディレクトリ番号から分離します。 この特殊文字を、桁を無視する指定と一緒に使用すると、隣接システムに番号を送信する前に Cisco Unified Communications Manager のアクセスコードを削除できます。 各ルートパターンで、(.) 文字は 1 文字だけ使用できます。	ルートパターン 9.@ は、最初の 9 を、国別番号計画に発信する Cisco Unified Communications Manager アクセスコードとして認識します。
*	アスタリスク (*) 文字は、特別な着信番号の追加の桁として利用できます。	ルートパターン *411 を設定して、内部オペレータのディレクトリ案内の利用を可能にします。
#	シャープ (#) 文字は、一般にダイヤルシーケンスの終了を特定します。 # 文字がパターンの最後の文字になるようにします。	ルートパターン 901181910555# は、国別番号計画内からダイヤルされる国際番号をルーティングまたはブロックします。末尾の 5 の後の # 文字は、この桁をシーケンスの最後の桁として特定します。

文字	説明	例
\+	\+のように、バックスラッシュにプラス記号が続くと、国際番号用エスケープ文字+の設定を示します。	\+の使用は、国際番号用エスケープ文字+がワイルドカードではなく、ダイヤル可能な桁であることを意味します。

ハントパイロットのパフォーマンスと拡張性

次のようなパフォーマンスおよび拡張性の制限が適用されます。

- 単一の Cisco Unified Communications Manager クラスタは、最大で 15,000 個のハントリストデバイスをサポートします。
- 単一の Cisco Unified Communications Manager サブスクリバは、ノードごとにコールキューイングが有効にされたハントパイロットを最大で 100 個サポートします。
- ハントリストデバイスは、各ハントリストに 10 台の IP 電話を含む 1500 のハントリスト、各ハントリストに 20 台の IP 電話を含む 750 のハントリストの組み合わせ、または同様の組み合わせにすることができます。



注 コールカバレッジにブロードキャストアルゴリズムを使用する場合、ハントリストデバイスの数は、Busy Hour Call Attempts (BHCA) の数によって制限されます。ブロードキャストアルゴリズムを使用して、10 台の電話機を含むハントリストまたはハントグループを指すハントパイロットに対して 10 回の BHCA を行うことは、10 回の BHCA を行う 10 台の電話機と同じです。

- コールキューを有効にしたハントパイロットの最大数は、Unified CM サブスクリバノードあたり 100 個です。キューで許可される発信者数が 32 に設定されている場合、ノードあたりのキュースロットの合計数（ノード上のコールキューが有効なすべてのハントパイロットの [キューで許可されている最大発信者数] を合わせた値）は、3200 に制限されます。各ハントパイロットのキューに同時に含まれる発信者の最大数は 100 です。つまり、ハントパイロットごとにキューで許可される発信者数は 100 となり、ハントパイロットの最大数は 32 に減少します。すべてのハントリストに含まれるメンバの最大数は、コールキューイングがイネーブルのときには変更されません。
- 設定できる各ハントパイロットのキュー内にある最大待ち時間は、0~3600 秒（デフォルトは 900）です。ハントリストの数が増えると、Unified Communications Manager サービスパラメータで指定するダイヤルプラン初期化タイマーを増やす必要があります。シスコでは、1500 個のハントリストを設定している場合、ダイヤルプラン初期化タイマーを 600 秒に設定することをお勧めします。

- コールキューを使用したブロードキャストアルゴリズムを使用する場合は、1つの回線グループに対して35ディレクトリ番号が含まれないようにすることを推奨します。また、ブロードキャスト回線グループの数は、BHCCによって決まります。Unified CMシステム内に複数のブロードキャスト回線グループがある場合、回線グループ内のディレクトリ番号の数は、35よりも少なくする必要があります。すべてのブロードキャスト回線グループの最繁忙呼数（BHCA）の数が、1秒あたり35コールセットアップを超えないようにします。

ハントパイロットの連携動作と制限

機能	連携動作と制限事項
ハントグループのシングルナンバーリーチ	<p>ハントグループが設定済みで、ハンドグループが指し示す1つ以上の電話番号でシングルナンバーリーチ（SNR）が有効な場合には、ハントグループのすべてのデバイスがログインしない限り、SNRリモート接続先にコールが転送されません。</p> <p>ハントグループ内の各デバイスについて、[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで [ハントグループにログイン（Logged into Hunt Group）] チェックボックスをオンにする必要があります。</p>
コールキューイング	<p>コールキューイングは、ハントパイロットのサブ機能です。コールキューが有効になっていて、特定のハントパイロットに着信コールの要求がコールを応答するために使用可能なハントメンバーの数を超える場合、システムは、ハントメンバーが応答できるようになるまで着信コールをキューにキューに転送します。待機中に発信者とその音楽を再生するように、保留中のアナウンスと音楽を設定することができます。</p> <p>追加の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「コールキューイングの設定」の章を参照してください。</p>
Unified Mobility	ハントパイロットで Unified Mobility デバイスを設定することはお勧めしません。

分配されないコール

表 20: 循環アルゴリズムでコールが分配されない

制限事項	説明
BOT および TCT デバイスを含む回線グループの循環アルゴリズムで、コールが正しく配布されていません。	ログオフ状態にあるエージェントにコールが到達し、そのコールが "Huntlogout" タイプ以外の拒否タイプで拒否された場合。その後、インデックスが 1 つ増加しないため、前のコールに応答したのと同じエージェントにコールが送られます。
回線グループの循環アルゴリズムで、コールが正しく分配されません。	循環アルゴリズムでコールを分配している間、1 人のエージェントがビジー状態のとき、コールは次に使用可能なエージェントに到達します（つまり、ビジー状態のエージェントの代わりに次のエージェントがコールに応答します）。 (注) 複数のコールが同時に実行された場合、次に対応可能なエージェントがそのコールに応答します。



第 21 章

クラスタ間ルックアップサービスの設定

- [ILS の概要 \(263 ページ\)](#)
- [ILS の設定タスクフロー \(265 ページ\)](#)
- [ILS の連携動作および制限 \(269 ページ\)](#)

ILS の概要

シスコクラスタ間検索サービス (ILS) を使用すると、データを共有するリモート Cisco Unified Communications Manager クラスタで構成されるマルチクラスタ ネットワークを簡単に作成できます。

ILS を使用すると、管理者がクラスタ間の接続を手動で設定する必要がなくなります。ハブクラスタで ILS を設定したら、新しいクラスタで ILS を有効にし、新しいクラスタを既存のハブに向けることによって、新しいクラスタに接続できます。ILS はクラスタを自動的に接続し、両方のクラスタがより大規模な ILS ネットワークのトポロジを認識できるようにします。

ILS ネットワークコンポーネント

ILS ネットワークは次のコンポーネントで構成されます。

- **ハブクラスタ** : ハブクラスタは、自動メッシュ機能を使用して ILS ネットワークのバックボーンを形成し、他のハブクラスタとのフルメッシュトポロジを作成します。ハブクラスタは、さまざまな機能のために ILS ネットワーク全体で情報をリレーおよび共有します。
- **スポーク クラスタ** : スポーク クラスタはそれぞれのローカルのハブ クラスタにのみ接続し、他のハブ クラスタやスポーク クラスタに直接接続することはありません。スポーク クラスタは、ローカルハブに依存して、ネットワーク全体で情報を共有およびリレーします。
- **グローバルダイヤルプランのインポートされたカタログ** : このオプションのコンポーネントは、グローバルダイヤルプランレプリケーションが設定されており、Cisco TelePresence Video Communications Server またはサードパーティのコール制御システムと相互運用している場合に適用されます。他のシステムからエクスポートされた CSV ファイルからディレクトリ URI または +E.164 番号のカタログを手動でインポートすると、ILS ネットワーク内のユーザが別のシステムのユーザにコールできるようになります。

クラスタビュー

ILS のリモートクラスタビュー機能を使用して、ネットワークをマッピングすることができます。各クラスタは、ピア情報ベクターと呼ばれる更新メッセージを交換します。これは、ネットワーク内の各クラスタのステータスをリモートクラスタに通知するものです。更新メッセージには、ネットワーク内の既知のクラスタに関する次の情報が含まれます。

- クラスタ ID
- パブリッシャーのピア Id
- クラスタの説明とバージョン
- ホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
- ILS がアクティブ化されているクラスタ ノードの IP アドレスとホスト名

機能サポート

グローバルダイヤルプランレプリケーションやエクステンションモビリティローミングなどの機能は、ILS に依存して、クラスタがダイヤルプラン情報を共有するクラスタ間ネットワークを作成します。これにより、ビデオコール、URI ダイヤリング、およびクラスタ間モビリティを使用してクラスタ間コールネットワークを設定できます。

ILS は、im and プレゼンスの中央クラスタを複数のテレフォニークラスタに接続している場合に、IM and プレゼンスサービスの集中展開によっても使用されます。ILS は、IM and プレゼンス中央クラスタとテレフォニークラスタ間の接続を作成するために使用されます。

ILS ネットワーキング キャパシティ

ILS ネットワークを計画する際に念頭に置くべき推奨キャパシティは以下のとおりです。

- ILS ネットワーキングは最大 10 個のハブ クラスタをサポートしており、ハブあたりのスポーク クラスタ数は 20 個であるため、合計で最大 200 個のクラスタを使用できます。ハブとスポークの組み合わせによるトポロジは、各クラスタ内で多数の TCP 接続が作成されるのを回避するために使用します。
- ハブ クラスタとスポーク クラスタを最大数まで、またはそれを超えて使用すると、パフォーマンスに影響が出る可能性があります。1つのハブに多数のスポーク クラスタを追加すると余分な接続が作成され、メモリまたは CPU の処理量が増加する可能性があります。1つのハブクラスタに接続するスポーククラスタは 20 個以下にすることを推奨します。
- ILS ネットワーキングは、追加の CPU 処理をシステムに追加します。CPU 使用率と同期時間は、クラスタ全体で同期されているレコードの数によって異なります。ハブアンドスポークトポロジを計画する場合は、ハブクラスタの CPU が負荷を処理するように設定されていることを確認します。



- (注) これらの推奨事項は、システムテストに基づいており、リソース使用率を考慮しています。システムでは、これらの推奨事項を超えないようにすることはできませんが、リソースの過大な負荷にさらされるリスクがあります。最適なパフォーマンスを得るには、上記のキャパシティを推奨します。

ILS の設定タスクフロー

ILS ネットワークを設定するには、次のタスクを実行します。

始める前に

どのクラスタがハブクラスタであり、スポーククラスタになるかを把握できるように、ILS トポロジを計画してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クラスタ ID の設定 (265 ページ)	ILS ネットワーク内の各クラスタには、一意のクラスタ ID が必要です。
ステップ 2	ILS の設定 (266 ページ)	ネットワークのさまざまなクラスタで ILS を設定し、アクティブにします。
ステップ 3	ILS の実行状態の確認 (267 ページ)	ILS ネットワークが実行中であることを確認します。
ステップ 4	リモート クラスタ ビューの設定 (268 ページ)	ILS ネットワークのリモート クラスタ ビューを設定します。

クラスタ ID の設定

ILS ネットワーク内の各クラスタには、一意のクラスタ ID が必要です。リモートクラスタがクラスタ ID のデフォルトの **StandAloneCluster** 値を保持している場合、ILS は機能しません。

手順

- ステップ 1 パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM Administration にログインします。
- ステップ 2 [システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] と選択します。
- ステップ 3 クラスタ ID の値を、クラスタを一意に識別する値に設定します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 各クラスタのパブリッシャ ノードで、この手順を繰り返します。

ILS の設定

ネットワーク内のクラスタ間検索サービス (ILS) をアクティブ化して設定するには、次の手順を実行します。



(注) 設定する最初のクラスタは、ハブクラスタである必要があります。

手順

ステップ 1 パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM Administration にログインします。

ステップ 2 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ILS設定 (ILS Configuration)] を選択します。

ステップ 3 [ロール (Role)] ドロップダウンリストボックスから、設定するクラスタのタイプに応じて、[ハブクラスタ (Hub Cluster)] または [スポーククラスタ (Spoke Cluster)] を選択します。

ステップ 4 グローバルダイヤルプランレプリケーションを有効化する場合は、[リモートクラスタとグローバルダイヤルプランレプリケーションデータを交換 (Exchange Global Dial Plan Replication Data with Remote Clusters)] チェックボックスをオンにします。

(注) URI パターン (user@domain) をアドバタイズするときは、[SIPプロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] フィールドが [常にすべてのダイヤル文字列をURIアドレスとして処理 (Always treat all dial strings as URI addresses)] に設定されていることを確認します。これは、デバイスがディレクトリ番号パターンとしてユーザセクションの数字のみを使用してURI学習パターンにダイヤルするのを防ぐことが目的です。その代わりに、ILSを介して、ユーザセクションのテキスト文字列を使用してURIパターンのみをアドバタイズすることもできます。

ステップ 5 ネットワーク内のさまざまなクラスタ間で [ILS認証の詳細 (ILS Authentication Details)] を設定します。

- TLS 認証の場合は、[TLS証明書の使用 (Use TLS Certificates)] チェックボックスをオンにします。このオプションを選択する場合、クラスタ内のノード間で CA 署名付き証明書も交換する必要があります。
- パスワード認証 (TLS を使用するかどうかに関係なく) については、[パスワードの使用 (Use Password)] チェックボックスをオンにして、パスワードの詳細を入力します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [ILSクラスタ登録 (ILS Cluster Registration)] ポップアップで、登録の詳細を設定します。

- a) [登録サーバ (Registration Server)] テキストボックスに、このクラスタに接続するハブクラスタのパブリッシャノードのIPアドレスまたはFQDNを入力します。これがネットワーク内の最初のハブクラスタであれば、このフィールドを空白のままにしておくことができます。
- b) [このクラスタにあるパブリッシャでクラスタ間検索サービスをアクティブ化 (Activate the Intercluster Lookup Service on the publisher in this cluster)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- c) [OK] をクリックします。

ステップ 8 ILS ネットワークに追加する各クラスタのパブリッシャ ノードでこの手順を繰り返します。新しいクラスタをハブまたはスポーククラスタとして追加します。

(注) 設定した同期値によっては、クラスタ情報がネットワーク全体に伝播する間に遅延が生じることがあります。

クラスタ間で Transport Layer Security (TLS) 認証を使用するには、ILS ネットワークの各クラスタのパブリッシャ ノード間で、Tomcat 証明書を交換する必要があります。Cisco Unified オペレーティング システムの管理から、証明書の一括管理機能を使用して、以下を行います。

- 証明書を各クラスタのパブリッシャ ノードから中央の場所にエクスポートします
- エクスポートされた証明書を ILS ネットワークに統合します
- ネットワークの各クラスタのパブリッシャ ノードに証明書をインポートします

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「証明書の管理」の章を参照してください。

ILS の実行状態の確認

ILS ネットワークが実行中であることを確認します。

手順

-
- ステップ 1** 任意のテレフォニー クラスタでパブリッシャ ノードにログインします。
 - ステップ 2** Cisco Unified CM Administration から、[詳細機能 (Advanced Features)] > [ILS設定 (ILS Configuration)] を選択します。
 - ステップ 3** [ILSクラスタとグローバルダイヤルプランインポート済みカタログ (ILS Clusters and Global Dial Plan Imported Catalogs)] セクションをオンにします。ILS ネットワーク トポロジが表示されます。
-

リモート クラスタ ビューの設定

ILS ネットワークのリモートクラスタビューを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[高度な機能 (Advanced Features)] > [クラスタビュー (Cluster View)] を選択します。
 - ステップ 2 [リモートクラスタの検索と一覧表示] ウィンドウで、以前作成したリモートクラスタを選択します。
 - ステップ 3 このウィンドウから、クラスタ間のエクステンション モビリティ、TFTP、RSVP エージェントといったサービスをリモート クラスタ用に設定できます。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

ILS の連携動作および制限

ILS の連携動作

表 21: ILS の連携動作

機能	連携動作
クラスタの検出	<p>ILS のクラスタ検出を使用すると、管理者がそれらのクラスタ間の接続を手動で設定しなくても Cisco Unified Communications Manager はリモートクラスタの詳細を動的に学習できます。</p> <p>ILS ネットワークの各クラスタは更新メッセージをやり取りします。これはピア情報ベクターと呼ばれ、ネットワーク内の各クラスタのステータスをリモートクラスタに知らせることを目的としています。更新メッセージには、ネットワーク内の既知のクラスタに関する次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラスタ ID • クラスタの説明とバージョン • ホストの完全修飾ドメイン名 • ILS がアクティブ化されているクラスタ ノードの IP アドレスとホスト名 <p>[詳細機能 (Advanced Features)] > [クラスタビュー (Cluster View)] を選択すると、ILS クラスタ検出機能が Cisco Unified CM Administration で表示できるリモートクラスタのリストを自動的に読み込みます。このウィンドウから、リモートクラスタの Extension Mobility Cross Cluster、TFTP、RSVP エージェントなどのサービスを設定できます。</p> <p>(注) [クラスタビュー (Cluster View)] に表示されるリモートクラスタの完全修飾ドメイン名には、ILS 検出で解決可能な DNS を指定する必要があります。</p>
グローバルダイヤルプランレプリケーション	<p>ILS ネットワークでグローバルダイヤルプランレプリケーションが有効な場合、ILS ネットワーク内のリモートクラスタは次のデータを含め、グローバルダイヤルプランデータを共有します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディレクトリ URI • 代替番号 • 代替番号パターン • ルート文字列 • PSTN フェールオーバー番号

機能	連携動作
着信コール	ILS ベースのネットワークで、発信者番号に基づいて着信コールをブロックするには、SIP ルートパターンのパーティションを発信者の CSS に含める必要があります。たとえば、コールが SIP トランクから発信される場合、SIP トランク受信 CSS には sip ルートパターンのパーティションが含まれている必要があります。

ILS の制限

表 22: ILS の制限

制限事項	説明
ILS サービス	ILS サービスは、Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードでのみ動作します。
クラスタ	ハブクラスタは複数のスポークを持つことができますが、スポーククラスタは 1 つのハブクラスタしか持つことができません。
ILS ネットワーク	サードパーティ コール制御システムを ILS ネットワークに接続することはできません。
クラスタインポート	サードパーティのカatalogは、ハブクラスタにのみインポートできます。
重複した URI	取得した ILS クラスタに、別のリモートクラスタからの重複した Uri が含まれている場合、その URI にコールが配置されると、その uri が取得されてデータベースに挿入されているクラスタにルーティングされます。
データベースの複製ステータス	グローバルダイヤルプランデータは ILS ネットワーク上で正常に交換されますが、ILS 受信クラスタはデータベースレプリケーションステータスを完了するまで、学習した情報をデータベースに書き込みません。
インポート	インポートするサードパーティのディレクトリ URI およびパターンでは、その CSV ファイル形式が、管理ウィンドウのサンプルファイルが示すような正確なシンタックスと一致する必要があります。一致しない場合は、インポートに失敗します。

制限事項	説明
ILS ハブ	<p>ILS ネットワークに追加のハブクラスタを追加するときは、プライマリ ILS ハブノードで、次の条件が満たされていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none">• クラスタ ID が ILS クラスタ内のすべてのハブノードで一貫している。• 完全修飾ドメイン名 (FQDN) が設定されている。• UDS および EM サービスが、ILS クラスタのすべてのハブノードで動作している。• DNS プライマリと逆引きの名前解決が適切に機能している。• 統合された Tomcat 証明書をすべてのハブノードからインポートする。 <p>条件が満たされない場合は、クラスタの再起動やエラーの修正を行っても、[リモートクラスタの検索と一覧表示 (Find and List Remote Clusters)] ウィンドウに「バージョン」情報が表示されません。これを回避するには、ハブクラスタを ILS ネットワークから削除し、上記の条件を満たした後に、ILS ネットワークに再度追加します。</p>



第 22 章

グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定

- [グローバルダイヤルプラン複製の概要 \(273 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの前提条件 \(278 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定タスクフロー \(278 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの連携動作と制限事項 \(290 ページ\)](#)

グローバルダイヤルプラン複製の概要

グローバルダイヤルプランレプリケーションを使用すると、URI ダイヤリング、エンタープライズ番号、または E.164 番号のいずれかをダイヤリングに使用するビデオコールによって、クラスタ間 VoIP ネットワークを簡単にセットアップできます。

グローバルダイヤルプランレプリケーションでは、ILS ネットワーク内のリモートクラスタにグローバルダイヤルプランデータ要素を複製することによって、Cisco Intercluster Lookup サービスを活用します。ILS ネットワーク内の各クラスタは、ホームクラスタのルート文字列とともに、他のクラスタのグローバルダイヤルプラン要素を学習します。

ILS 経由のグローバルなアドバタイズ

グローバルダイヤルプランレプリケーションは、次のダイヤルプラン要素を ILS ネットワークにアドバタイズし、リモートクラスタにこのデータを複製します。

- **ディレクトリ URI** : ローカルクラスタで、電子メール形式のディレクトリ URI (alice@cisco.com など) をプロビジョニングします。URI ダイヤリングは、ユーザ中心のコールを発信する方法を提供します。グローバルダイヤルプランレプリケーションでは、ディレクトリ Uri のローカルカタログを ILS ネットワーク内の他のクラスタにアドバタイズして、クラスタ間 URI ダイヤリングを有効にすることができます。
- **エンタープライズおよび E.164 代替番号**: 代替番号は、先頭の番号の指示が付いたマスクを元の電話番号に適用することによって作成される元の内線番号のエイリアスです。代替番号は、ILS ネットワーク内のどこからでもダイヤルできます。代替番号には2つのタイプがあります。ローカルクラスタで代替番号をプロビジョニングし、各番号を ILS ネット

ワークにアドバタイズするか、または代替番号の範囲をまとめたアドバタイズされた番号パターンを設定して、ILS ネットワークにパターンをアドバタイズすることができます。

- アドバタイズされたパターン**：アドバタイズされたパターンは、エンタープライズ代替番号または E.164 代替番号の範囲を要約したものです。リモートクラスタにデータベーススペースを保存するために、個々の代替番号ではなく、ILS ネットワーク全体でパターンを複製できます。アドバタイズされたパターンは、ILS ネットワーク内のリモートクラスタからのみ使用されます。ローカルコールをルーティングするためにこれらのパターンを使用することはできません。
- PSTN フェールオーバー番号**：このオプションを使用すると、エンタープライズ代替番号または E.164 代替番号を PSTN フェールオーバー番号として割り当てることができます。グローバルダイヤルプラン要素へのコールルーティングが VoIP チャネル経由で失敗した場合、フェールオーバー番号によって代替ルーティング方式が提供されます。リモートクラスタでは、適切なゲートウェイに PSTN フェールオーバーをルーティングするルートパターンを設定する必要があります。
- ルート文字列**：各クラスタには、グローバルダイヤルプランカタログと共に複製されるルート文字列があります。ルート文字列は、ディレクトリ URI または代替番号のホームクラスタを識別します。クラスタ間コールの場合は、ルート文字列をそのホームクラスタにルーティングする各リモートクラスタで SIP ルートパターンを設定する必要があります。
- 学習されたグローバルダイヤルプランデータ**：複製されたデータが ILS ネットワーク内のすべてのクラスタに到達するように、各クラスタは、ローカルにプロビジョニングされたグローバルダイヤルプランデータを、他のクラスタから学習したカタログとともに複製します。
- インポートされたグローバルダイヤルプランデータ**：Cisco Unified Communications Manager を Cisco TelePresence Video Communications Server またはサードパーティのコール制御システムと相互運用する場合は、相手のシステムからグローバルダイヤルプランデータを csv ファイルにエクスポートし、その csv ファイルを ILS ネットワーク内のハブクラスタにインポートします。グローバルダイヤルプランレプリケーションは、インポートしたカタログを ILS ネットワーク内の他のクラスタに複製します。これにより、他のシステムに登録されているディレクトリ Uri と代替番号にコールを発信することができます。

グローバルダイヤルプランマッピングの例

次に、電話内線番号4001にマッピングされるグローバルダイヤルプランデータ要素の例を示します。コールルーティングが正しく設定されていることを前提として、これらの番号のいずれかをダイヤルすると内線番号4001が鳴ります。

- エンタープライズ代替番号**：番号マスク 5XXXX が内線 4001 に適用され、エンタープライズ代替番号 54001 が作成されます。
- E.164 代替番号**：番号マスク 1972555XXXX が内線 4001 に適用され、+E.164 代替番号 19725554001 が作成されます。
- PSTN フェールオーバー**：エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号を PSTN フェールオーバーとして割り当て、適切なゲートウェイにコールをルーティングします。

- アドバタイズされたパターン：パターン 54XXX を使用して、54000 ~ 54999 の範囲のすべてのエンタープライズ代替番号を集約できます。エンタープライズ代替番号と +E.164 代替番号用にパターンを作成できます。
- ディレクトリ URI : alice@cisco.com



注 ディレクトリ URI は、電話番号またはエンドユーザに割り当てることができます。エンドユーザに関連付けられたディレクトリ URI はユーザのプライマリ内線番号（ディレクトリ番号）にも関連付けられ、プライマリ内線番号が割り当てられている場合はその内線番号を呼び出します。

URI ダイヤル

URI ダイヤリングはグローバルダイヤルプランレプリケーションのサブ機能であり、発信者がディレクトリ URI をダイヤル文字列として使用してコールを発信できるようにします。ディレクトリ URI は、電子メールアドレスのように見える英数字の文字列です（たとえば、alice@cisco.com）。

URI は電子メールアドレスに似ていますが、ディレクトリ URI はルーティング可能なエンティティではありません。ローカルコールの場合、ディレクトリ URI が発信者のコーリングサーチスペース内のパーティションにある場合に限り、そのディレクトリ URI に対するコールをルーティングできます。クラスタ間コールの場合、システムはグローバルダイヤルプランレプリケーションで複製されたクラスタルート文字列をプルし、SIP ルートパターンをルート文字列と照合しようとします。

ディレクトリ URI のタイプ

ディレクトリ URI には次の2つのタイプがあり、ディレクトリ URI のプロビジョニング方法によってタイプが決定されます。

- ユーザベースの URI : このディレクトリ URI は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] でユーザに割り当てられます。これらの URI はすべて、ローカルのディレクトリ URI パーティションに自動的に割り当てられます。これは、ローカルにある削除できないパーティションです。ユーザにプライマリ内線番号も設定されている場合、URI はその内線番号のプライマリ URI として [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] にも表示されます。
- 回線ベースの URI : [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、1つの電話番号に最大5個のディレクトリ URI を直接割り当てることができます。これらの URI には、任意のローカルパーティションを割り当てることができます。

Directory URI の形式

ディレクトリ URI は、@ 記号で区切られたユーザとホストアドレスで構成される英数字の文字列です。

Cisco Unified Communications Manager は次のディレクトリ URI の形式をサポートしています。

- user@domain (例: joe@cisco.com)
- user@ip_address (例: joe@10.10.10.1)

システムはディレクトリ URI のユーザ部分 (@ 記号の前の部分) では次の形式をサポートします。

- 使用できる文字は次のとおりです。a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、!、\$、%、&、*、_、+、~、-、=、?、`、'、`、.、/、(および)。
- ユーザ部分は最大 47 文字までです。
- ディレクトリ URI がデータベースに保存されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、次の文字にパーセント エンコーディングを自動的に適用します。
% ^ ` { } | \ : " < > [] \ ` およびスペース。



- (注) デフォルトでは、ディレクトリ URI のユーザ部分で大文字と小文字が区別されます。[URI 検索ポリシー (URI Lookup Policy)] エンタープライズ パラメータを編集することで、ユーザの部分で大文字と小文字を区別しないように編集できます。

パーセントエンコーディングを適用すると、ディレクトリ URI の桁数が増えます。たとえば、joe.smith#@cisco.com (20 文字) をディレクトリ URI として入力した場合、Unified Communications Manager は、joe%20smith%23@cisco.com (24 文字) としてディレクトリ URI をデータベースに保存します。データベースの制限により、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドの最大長は 254 文字となります。

Cisco Unified Communications Manager は、ディレクトリ URI のホスト部分 (@ 記号の後の部分) で次の形式をサポートしています。

- IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名をサポートします。
- 使用可能な文字は、英数字、ハイフン (-)、ドット (.) です。
- ホスト部分をハイフン (-) で開始または終了することはできません。
- ホスト部分に、連続した 2 つのドットを含めることはできません。
- ホスト部分の最短の長さは 2 文字です。
- ホスト部分では、大文字と小文字は区別されません。



- (注) **Cisco Unified Communications Manager Administration** で、一括管理を使用して、二重引用符とカンマが埋め込まれたディレクトリ URI を含む CSV ファイルをインポートする場合は、ディレクトリ URI 全体を二重引用符 (") で囲む必要があります。

URI への通話転送

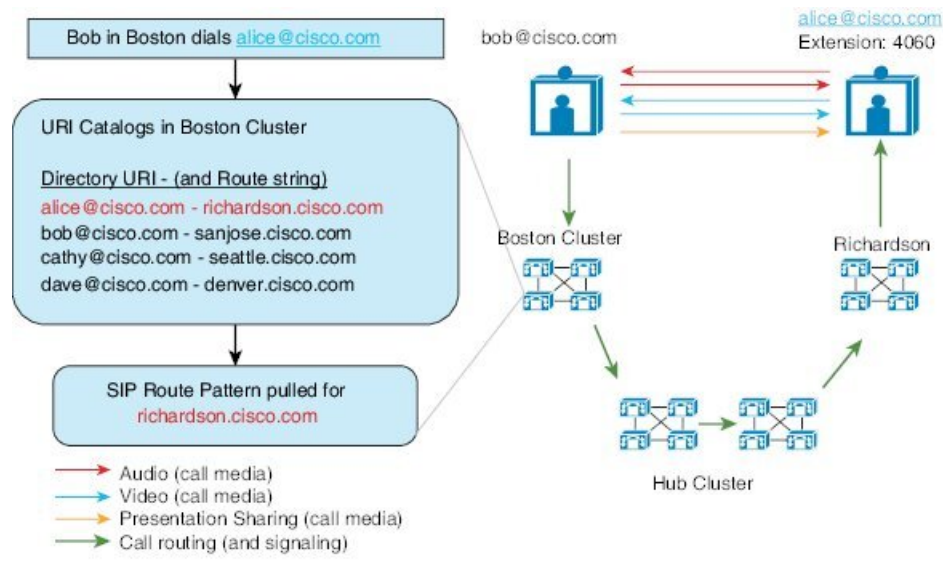
- URI への通話転送は、物理的な電話からはできません。
- URI への通話転送は、その URI がすでに Unified Communications Manager データベースにある場合にのみ、アプリケーションを介して構成できます。URI がデータベースにない場合、アプリケーションは、通話転送を構成しようとしているときに、「通話転送の設定に失敗しました /n 通話転送に失敗しました: 新しい番号」というエラーを出力します。
- 通話転送は、URI がデータベースに存在するかどうかに関係なく、Unified Communications Manager の管理ページで構成できます。
- URI への通話転送は、データベースに存在するかどうかに関係なく、**Cisco Unified Communications Self Care Portal > エンドユーザー** ページで構成できます。次の文字を入力する際は、「パーセントエンコーディング」を使用する必要があります。# % ^ ` { } | \ : ? < > [] \ '。たとえば、**%3A** は、: をメンションする際に使用され、**%20** は、スペースをメンションするために使用されます。
- 通話を URI 「mobile:12345@cisco.com」に転送する必要がある場合は、**Cisco Unified Communications Self Care Portal > エンドユーザー** ページの [通話転送 (Call-Forward)] セクションで「**mobile%3A%2012345@cisco.com**」を指定する必要があります。

グローバルダイヤルプランレプリケーションのコールルーティング

クラスタ内コールの場合、グローバルダイヤルプランデータはパーティションとコーリングサーチスペースを介してルーティングされます。ローカルディレクトリ URI へのコール、エンタープライズ代替番号または e.164 代替番号が機能するには、発信側が使用しているコーリングサーチスペース内のパーティションに URI または番号が存在している必要があります。

クラスタ間コールは、グローバルダイヤルプランレプリケーションがアドバタイズするクラスタールート文字列を使用して、着信側のホームクラスタにコールを送信します。発信者が別のクラスタをホームとするディレクトリ URI または代替番号にコールを発信すると、システムは関連付けられたルート文字列を取得し、そのルート文字列の SIP ルートパターンに一致させ、SIP ルートパターンが指定した宛先にコールを送信します。これを機能させるには、ルート文字列をホームクラスタにルーティングするために、リモートクラスタの SIP ルートパターンを設定する必要があります。

コールルーティングが失敗した場合、システムは関連付けられた PSTN フェールオーバー番号を使用することもできます。ただし、PSTN フェールオーバーコールを適切なゲートウェイに送信できるように、リモートクラスタにルートパターンを設定する必要があります。



グローバルダイヤルプランレプリケーションの前提条件

次の作業が必要です。

- シスコ クラスタ間検索サービス (ILS) の設定
- グローバルダイヤルプランの展開方法の計画
 - ユーザのディレクトリ URI をプロビジョニングすることで URI ダイヤリングを展開する場合、グローバルダイヤルプランレプリケーションを使用して、ILS ネットワーク全体にディレクトリ URI を複製できます。
 - 代替番号ダイヤリングを展開する場合、エンタープライズ代替番号と E.164 代替番号のどちらを使用し、PSTN フェールオーバーとして使用するのどちらかを計画します。
 - 代替番号を展開する場合は、番号計画を策定します。大規模なネットワークでは、個々の代替番号ではなく番号パターンを ILS ネットワークにアダプタイズすることで、データベースの領域と帯域幅を節約できます。

グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定タスクフロー

グローバルダイヤルプランのレプリケーションと URI ダイヤリングを設定するには、次のタスクを実行します。ILS ネットワークの各クラスタでこれらのタスクを実行する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	グローバルダイヤルプラン複製に対する ILS サポートの有効化 (280 ページ)	ローカルクラスタでグローバルダイヤルプランレプリケーションのサポートを有効化します。
ステップ 2	SIP プロファイルの設定 (280 ページ)	グローバルダイヤルプランのレプリケーションと URI ダイヤリングをサポートする SIP 設定を設定します。
ステップ 3	URI ダイヤリング用の SIP トランクの設定 (281 ページ)	URI ダイヤリングの場合は、システムが連絡先ヘッダーにディレクトリ URI、電話番号、または混合アドレスを挿入するかどうかを設定します。
ステップ 4	SIP ルート パターンの設定 (282 ページ)	クラスタ間ルーティングの場合は、学習したルート文字列をルーティングする各クラスタの SIP ルートパターンをホームクラスタに設定します。
ステップ 5	学習したデータに対するデータベース制限の設定 (283 ページ)	ILS がローカルデータベースに書き込むデータ量の上限を設定します。
ステップ 6	学習番号とパターンのパーティションの設定 (284 ページ)	エンタープライズ代替番号、+E.164 代替番号、および学習された番号パターンのルートパーティションを割り当てます。
ステップ 7	代替番号のアドバタイズパターンの設定 (285 ページ)	オプション。エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号の範囲を要約する番号パターンをアドバタイズします。
ステップ 8	学習したパターンのブロック (285 ページ)	オプション。特定の番号または番号パターンへのコールをブロックするパターンを設定します。この設定はローカルに適用され、ILS ネットワークには複製されません。
ステップ 9	グローバルダイヤルプランのデータをインポート (288 ページ)	オプション。Cisco TelePresence Video Communications Server またはサードパーティのコール制御システムと相互運用する場合は、そのシステムから ILS ネットワーク内のハブクラスタに、ディレクトリ URI、+E.164 番号、およ

	コマンドまたはアクション	目的
		び PSTN フェールオーバー番号のカタログをインポートします。
ステップ 10	グローバルダイヤルプランデータのプロビジョニング (286 ページ)	ディレクトリ URI、エンタープライズ代替番号、+E.164 代替番号を電話番号に割り当てます。 (注) 複数のユーザに対しては、LDAP ディレクトリ同期または一括管理を使用して、多数のユーザに対してグローバルダイヤルプランデータを1つの操作で割り当てることができます。このガイドの「ユーザのプロビジョニング」のセクションを参照してください。

グローバルダイヤルプラン複製に対する ILS サポートの有効化

ローカルクラスタのグローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified CM Administration から、[詳細機能 (Advanced Features)] > [ILS 設定 (ILS Configuration)] を選択します。
- ステップ 3 [リモートクラスタとのグローバルダイヤルプランのレプリケーションデータの交換 (Exchange Global Dial Plan Replication Data with Remote Clusters)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [アドバタイズルート文字列 (Advertised Route String)] テキストボックスで、ローカルクラスタのルート文字列を入力します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

SIP プロファイルの設定

この手順を使用して、グローバルダイヤルプランレプリケーションと URI ダイヤリングをサポートするようにネットワーク内の SIP プロファイルを編集します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、既存の SIP プロファイルを選択します。
- ステップ 3 [ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] ドロップダウンリストから、コールをディレクトリ URI または電話番号としてルーティングするかどうかを決定するためにシステムが使用するポリシーを設定します。
 - [常にすべてのダイヤル文字列を URI アドレスとして処理 (Always treat all dial strings as URI addresses)]
 - [電話番号は 0~9、A~D、*、+ で構成 (これ以外は URI アドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, A-D, *, and + (others treated as URI addresses))]
 - [電話番号は 0~9、*、+ で構成 (これ以外は URI アドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, *, and + (others treated as URI addresses))] : これがデフォルトのオプションです。
- ステップ 4 [SIP 要求で完全修飾ドメイン名を使用 (Use Fully Qualified Domain Name in SIP Requests)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 オプション。Cisco Unified Border Element 全体でクラスタ間コールをルーティングできるようにするには、[トランク固有の設定 (Trunk-Specific Configuration)] で、[ILS 学習接続先ルート文字列を送信 (Send ILS Learned Destination Route String)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

URI ダイヤリング用の SIP トランクの設定

URI ダイヤルを展開している場合は、ネットワークの SIP トランクの連絡先ヘッダーアドレス指定ポリシーを設定します。このオプションは、Cisco Unified Communications Manager が、ディレクトリ番号、ディレクトリ URI、またはディレクトリ番号とディレクトリ URI の両方を含む混合アドレスを、発信 SIP メッセージの SIP ID ヘッダーに挿入できるかどうかを決定します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、既存の SIP トランクを選択します。
- ステップ 3 [発信コール (Outbound Calls)] 領域で、[発呼側および接続側情報形式 (Calling and Connected Party Info Format)] ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - [接続側にのみ DN を配信 (Deliver DN only in connected party)] : 発信 SIP メッセージで、Unified Communications Manager が SIP コンタクトヘッダー情報に発信者の電話番号を挿入します。これがデフォルトの設定です。

- [接続側にURIのみを配信（使用可能な場合）（Deliver URI only in connected party, if available）]：発信 SIP メッセージで、Unified Communications Manager が SIP コンタクトヘッダーに発信者のディレクトリ URI を挿入します。ディレクトリ URI が利用可能でない場合、Unified Communication Manager は代わりに電話番号を挿入します。
- [接続側にURIおよびDNを配信（使用可能な場合）（Deliver URI and DN in connected party, if available）]：発信 SIP メッセージで、Unified Communications Manager が SIP コンタクトヘッダーに発信者のディレクトリ URI と電話番号を含む混合アドレスを挿入します。Directory URI が利用可能でない場合、Unified Communications Manager は電話番号だけを含めます。

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

SIP ルートパターンの設定

グローバルダイヤルプランレプリケーションとURIダイヤリングを使用したクラスタ間コールルーティングの場合は、学習したルート文字列をルーティングする SIP ルートパターンをホームクラスタに戻すように設定する必要があります。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)]> [SIPルートパターン (SIP Route Pattern)]を選択します。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)]をクリックします。
- ステップ3 [パターン使用率 (Pattern Usage)] ドロップダウンから、[ドメインルーティング (Domain Routing)] を選択します。
- ステップ4 IPv4 または IPv6 を展開しているかどうかに応じて、[IPv4 アドレス (Ipv4 address)]または [IPv6 アドレス (ipv6 address)] テキストボックスにルート文字列を入力します。
- ステップ5 [Sip trunk/Route list] で、ルート文字列のホームクラスタに戻るルートのネクストホップクラスタにつながる sip トランクまたはルートリストを選択します。
- ステップ6 [SIPルートパターンの設定 (SIP Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ7 [保存 (Save)]をクリックします。
- ステップ8 学習した各ルート文字列の SIP ルートパターンを作成します。
- ステップ9 ILS ネットワークの各クラスタに対してこれらのタスクを繰り返します。



(注) SIP ルートのパターン名にダッシュが含まれている場合は、ダッシュの間に数字がないことを確認する必要があります。ただし、ダッシュが2つ以上ある場合は、文字と数字の組み合わせか、文字のみを使用できます。SIP ルート パターンの良い例と悪い例は次のとおりです。

正しいパターン:

- abc-1d-efg.xyz.com
- 123-abc-456.xyz.com

無効なパターン:

- abc-123-def.xyz.com
- 1bc-2-3ef.xyz.com

学習したデータに対するデータベース制限の設定

データベースの制限を設定して、Unified Communications Manager がローカル データベースに書き込むことができる学習オブジェクトの数を決定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、パラメータを設定するサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[シスコ クラスタ間検索サービス (アクティブ) (Cisco Intercluster Lookup Service (Active))] を選択します。サービスがアクティブと表示されていない場合は、Cisco Unified Serviceability でサービスをアクティベートしたことを確認します。
- ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (ILS) (Clusterwide Parameters (ILS))] セクションで、[データベース内の学習オブジェクトの最大数 (ILS Max Number of Learned Objects in Database)] サービス パラメータの上限を設定します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。



(注) このサービスパラメータは、Unified Communications Manager が ILS によって学習するデータに対してデータベースに書き込むことができるエントリの最大数を決定します。このサービスパラメータのデフォルト値は 10 万個で、最大値は 100 万個です。

このサービスパラメータを、データベースに保存されている ILS 学習エントリの現在の数より小さい値に設定した場合、Unified Communications Manager は、ILS 学習オブジェクトをそれ以上データベースに書き込みません。ただし、既存のデータベース エントリはそのままです。

学習番号とパターンのパーティションの設定

パーティションに学習番号と学習パターンを割り当てる必要があります。独自のパーティションを定義することも、事前定義されたデフォルトのパーティションを使用することもできます。Unified Communication Manager は学習代替番号と番号パターンに対して、次の事前定義されたパーティションでインストールされます。

- グローバル学習エンタープライズ番号
- グローバル学習 E.164 番号
- グローバル学習エンタープライズパターン
- グローバル学習 E.164 パターン



(注) NULL パーティションに学習番号または学習パターンを割り当てることはできません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コール ルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプラン レプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [学習した番号とパターンのパーティション (Partitions for Learned Numbers and Patterns)] を選択します。

ステップ 2 [学習した番号とパターンのパーティション (Partitions for Learned Numbers and Patterns)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) また、パーティションの番号にコールを配置するために、発信者が使用する呼び出し先の検索スペースにもルートパーティションが存在する必要があります。

代替番号のアドバタイズパターンの設定

アドバタイズされたパターンを使用して、エンタープライズの代替番号の範囲または E.i の代替番号を要約します。このパターンを ILS ネットワークに通知して、クラスタ間でパターンに一致する番号への発信を可能にすることができます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コール ルーティング (Call Routing)] > [グローバル ダイヤル プラン レプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [アドバタイズ パターン (Advertised Patterns)] の順に選択します。
- ステップ 2** [アドバタイズされたパターンの検索と一覧表示 (Find and List Advertised Patterns)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - 既存のパターンを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいパターンを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [パターン (Pattern)] フィールドに、番号パターンを入力します。たとえば、54XXX は、54000 ~ 54999 の範囲の番号を要約しています。
- ステップ 4** [パターンタイプ (Pattern Type)] フィールドで、[エンタープライズ番号パターン (Enterprise Number Pattern)] または「E.164番号パターン (E.164 Number Pattern)] を選択します。
- ステップ 5** ラジオボタンで、PSTN フェールオーバーを適用するかどうかを選択します。
 - [PSTNフェールオーバーを使用しない (Don't use PSTN Failover)]
 - [パターンをPSTNフェールオーバーとして使用する (Use Pattern as PSTN Failover)]
 - [削除桁数および付加番号をパターンに適用してPSTNフェールオーバーに使用する (Apply Strip Digits and Prepend Digits to Pattern and Use for PSTN Failover)] : このオプションを選択する場合、[PSTNフェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] および [PSTNフェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドに数字を入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

学習したパターンのブロック

ローカル クラスタで、特定のエンタープライズ代替番号、+E.164 代替番号、または ILS を通じて学習された番号パターンに対するコール ルーティングを防止するブロッキング ルールを設定する場合は、このオプションのタスクを実行します。

コールを学習した番号または学習したパターンにルーティングする前に、ILS はローカル ブロッキング ルールがダイヤル文字列に一致するかどうかを確認します。ブロッキング ルールと一致する場合、Unified Communications Manager はコールをルーティングしません。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [学習した番号とパターンのブロック (Block Learned Numbers and Patterns)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- 既存のブロッキングルールを選択して編集するには、[検索 (Find)] をクリックして、します。
 - 新しいルートパターンを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [パターン (Pattern)] フィールドに、ブロックするパターンまたは番号を入力します。たとえば、2065551212 へのコールをブロックするのに、206XXXXXXX というパターンを使用できます。
- ステップ 4** ダイヤル文字列プリフィックスに基づいてコールをブロックする場合は、[プレフィックス (Prefix)] を入力します。
- ステップ 5** コールが特定のクラスタに送信されないようにブロックする場合は、そのクラスタの [クラスタ ID (Cluster ID)] を入力します。
- ステップ 6** [パターンタイプ (Pattern Type)] ドロップダウンリストから、ブロッキングルールを適用する方法を選択します。
- [任意 (Any)] : エンタープライズ番号パターンと +E.164 パターンの両方にブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。
 - [エンタープライズパターン (Enterprise Pattern)] : エンタープライズ番号パターンにのみブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。
 - [+E.164パターン (+E.164 Pattern)] : +E.164 番号パターンにのみブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

グローバルダイヤルプランデータのプロビジョニング

ディレクトリ URI、エンタープライズ代替番号、+E.164 代替番号、および PSTN フェールオーバー ルールをディレクトリ番号に追加するには、この手順を使用します。



- (注) ユーザの数が多く場合は、ユニバーサル回線テンプレートを設定し、LDAP 同期または一括管理などのプロビジョニングツールを使用してそれらを適用することで、多数のユーザのグローバルダイヤルプランデータを1回の操作でプロビジョニングできます。このマニュアルの「プロビジョニングユーザ」の項を参照してください。
-

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- グローバルダイヤルプラン データを追加する既存のディレクトリ番号を選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいディレクトリ番号を作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** 新しい番号を作成する場合は、[電話番号 (Directory Number)] を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** エンタープライズ代替番号を追加するには、[エンタープライズ代替番号の追加 (Add an Enterprise Alternate Number)] ボタンをクリックして、次の操作を実行します。
- a) [番号マスク (Number Mask)] を入力します。たとえば、4001 の代替番号として「5XXXX」と入力します。結果として生成されたエンタープライズ代替番号 (54001) が、[代替番号 (Alternate Number)] フィールドに表示されます。
 - b) ローカルルートパーティションに追加するには、[ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route Partition)] チェックボックスをオンにします。
 - c) [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンから、パーティションを選択します。
 - d) この代替番号を ILS ネットワークにアドバタイズする場合は、[ILS経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] をオンにします。
- (注) エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号がパターンの範囲内に収まるように、アドバタイズされたパターンを設定する場合は、代替番号を個別にアドバタイズする必要はありません。
- ステップ 5** +E.164 代替番号を追加するには、[+E.164 代替番号の追加 (Add an +E.164 Alternate Number)] をクリックして、次の操作を実行します。
- a) [番号マスク (Number Mask)] を入力します。たとえば、内線 4001 の代替番号として「1972555XXXX」と入力します。結果として生成された +E.164 代替番号 (19725554001) が、[代替番号 (Alternate Number)] フィールドに表示されます。
 - b) ローカルルートパーティションに追加するには、[ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route Partition)] チェックボックスをオンにします。
 - c) [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンから、パーティションを選択します。
 - d) この代替番号を ILS ネットワークにアドバタイズする場合は、[ILS経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] をオンにします。
- ステップ 6** [ディレクトリ URI (Directory URIs)] セクションで、この電話番号にディレクトリ URI を追加します。
- a) [URI] フィールドに、ディレクトリ URI の詳細情報を入力します。たとえば、alice@cisco.com のように入力します。

- b) [パーティション (Partition)] ドロップダウンから、ディレクトリ URI をローカルパーティションに割り当てます。
- c) アドバタイズされたカタログにこのディレクトリ URI を含めるには、[ILS経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] チェックボックスをオンにします。
- d) [行を追加 (Add Row)] をクリックし、ディレクトリ URI を追加します。最大 5 個のディレクトリ URI を追加できます。

ステップ 7 [アドバタイズされたフェールオーバー番号 (Advertised Failover Number)] フィールドで、エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号を PSTN フェールオーバーとして選択します。

ステップ 8 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

グローバルダイヤルプランのデータをインポート

Cisco TelePresence Video Communications Server、サードパーティのコール制御システム、または ILS を実行していない別のシステムと相互運用する場合に、この手順を使用します。ディレクトリ URI、+E.164 パターン、および PSTN フェールオーバー ルールのカタログを、他のシステムから ILS ネットワーク内のハブ クラスタにインポートできます。ILS が ILS ネットワーク全体にカタログを複製し、クラスタが他のシステムにコールを発信できるようになります。

始める前に

ダイヤルプラン カタログを他のシステムから CSV ファイルにエクスポートします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプラン レプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [グローバルダイヤルプラン レプリケーション (Imported Global Dial Plan Catalog)] を選択します。
- ステップ 2** [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログの検索とリスト (Find and List Imported Global Dial Plan Catalogs)] ウィンドウで、次のいずれかのタスクを実行します。
 - 結果のリストから既存のカタログを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいカタログを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog Settings)] ウィンドウの [名前 (Name)] フィールドに、インポートするカタログを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 4** (任意) [説明 (Description)] フィールドに、カタログの説明を入力します。
- ステップ 5** [ルート文字列 (Route String)] フィールドに、カタログをインポートしているシステムのルート文字列を作成します。

(注) ルート文字列は最大250文字長の英数字であり、ドットおよびダッシュを含めることができます。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするカタログの CSV ファイルを選択します。

(注) インポートに使用する CSV ファイルが Cisco Unified Communication Manager と互換性があることを確認します。たとえば、バージョン 9.0(1) へのインポートをサポートする CSV ファイルは、バージョン 10.0(1) とは互換性がありません。

ステップ 8 [ターゲットを選択 (Select the Target)] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターン (Imported Directory URIs and Patterns)] を選択します。

ステップ 9 [トランザクションタイプを選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)] を選択します。

ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 11 Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリ URI とパターン (Directory URIs and Patterns)] > [インポート済みディレクトリ URI およびパターンの挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)] の順に選択します。

ステップ 12 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストで、インポートするカタログを含む CSV ファイルを選択します。

ステップ 13 [インポートしたディレクトリ URI カタログ (Imported Directory URI Catalog)] ドロップダウンリストで、[インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog)] ウィンドウで名前を付けたカタログを選択します。

ステップ 14 [ジョブの説明 (Description)] テキストボックスで、実行するジョブの名前を入力します。

ステップ 15 次のいずれかの手順を実行します。

- ジョブをただちに実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプションを選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- 所定の時刻に実行するようにジョブをスケジュールするには、[後で実行 (Run Later)] ラジオ ボタンをオンにして、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) [後で実行 (Run Later)] オプションを選択した場合は、ジョブの実行時刻をスケジュールするのに、一括管理ジョブスケジューラーを使用する必要があります。

Cisco Unified Communication Manager は、インポートしたすべての +E.164 パターンを、グローバルな学習された +E.164 パターンパーティションに保存します。



- (注) この手順では、すべてのローカル設定されたディレクトリURI、+E.164番号パターン、および関連するPSTNフェールオーバールールを、他のコール制御システムにインポート可能なCSVファイル形式でエクスポートする方法について説明します。詳細については、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリURIとパターン (Directory URIs and Patterns)] > [ローカルディレクトリURIとパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] のメニューを参照してください。

グローバルダイヤルプランレプリケーションの連携動作と制限事項

次の表に、グローバルダイヤルプランレプリケーションとURIダイヤリングの機能インタラクションの一部を要約します。

機能	連携動作と制限事項
ディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート	<p>ローカルクラスタで設定されているすべてのディレクトリ URI と +E.164 番号パターンを csv ファイルにエクスポートして、別のシステムにインポートすることもできます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリURIとパターン (Directory URIs and Patterns)] > [ローカルディレクトリURINEとパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] を選択します。 2. 次のラジオボタンのいずれかをクリックして、エクスポートファイルに付加するドメイン名を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • [組織のトップレベルドメイン (Organizational Top Level Domain)] : [組織のトップレベルドメイン (Organizational Top Level Domain)] エンタープライズ パラメータの値をエクスポートファイルのドメイン名に使用する場合は、このラジオボタンをクリックします。 • [ルート文字列ドメイン (Route String Domain)] : [ILSの設定 (ILS Configuration)] で設定した [ルート文字列 (Route String)] フィールドの値をエクスポートファイルのドメイン名に使用する場合は、このラジオボタンをクリックします。 • [ユーザ定義ドメイン (User Defined Domain)] : エクスポートファイルに付加するカスタマイズされたドメイン名を作成する場合は、このラジオボタンをクリックします。このオプションを選択する場合は、[ドメイン名 (Domain Name)] テキストボックスにドメイン名を入力します。 3. [ローカルディレクトリ URI とパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] ボタンをクリックします。 4. CSV ファイルをローカル ドライブに保存します。

機能	連携動作と制限事項
URI ダイヤリングを使用したパーティション化	<p>ディレクトリ URI のパーティション分割は、ディレクトリ URI のプロビジョニング方法によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] でエンドユーザに割り当てたユーザベースのディレクトリ URI の場合、削除できないローカルのディレクトリ URI パーティションが自動的に URI に割り当てられます。別のパーティションを割り当てることはできませんが、[ディレクトリ URI エイリアスパーティション (Directory URI Alias Partition)] エンタプライズパラメータを設定することで、管理者が管理するパーティションをローカルディレクトリ URI パーティションのエイリアスとして使用できます。 • [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] で URI が電話番号に直接割り当てられている回線ベースのディレクトリ URI の場合、各 URI をローカルのパーティションに個別に割り当てることができます。 <p>LDAP 同期や一括管理などのツールを使用してディレクトリ URI をプロビジョニングする場合は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LDAP 同期によってプロビジョニングされるディレクトリ URI はユーザベースであり、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] でユーザに割り当てられます。これらの URI は、ローカルのディレクトリ URI パーティションに割り当てられます。ユーザにプライマリ内線番号が設定されている場合、この URI は、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] でもプライマリ URI として表示されます。ただし、割り当てられたパーティションはディレクトリ URI パーティションです。 • 一括管理でプロビジョニングされたディレクトリ URI の場合は、更新の適用方法によって異なります。たとえば、bat.xlt スプレッドシートを使用して csv インポートファイルを作成する場合、スプレッドシートの [ユーザ (Users)] タブまたは [ユーザの更新 (Update Users)] タブを使用してディレクトリ URI を追加すると、ユーザはユーザベースの URI になります。ただし、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると表示される [回線フィールド (Line Fields)] オプションを使用してディレクトリ URI を追加する場合は、その URI を電話番号に割り当て、ローカルパーティションを URI ディレクトリに割り当てることができます。
ディレクトリ URI の大文字と小文字の区別	<p>デフォルトでは、ディレクトリ URI のユーザ部分 (@ の前の部分) では、大文字と小文字が区別されます。[URI 検索ポリシー (URILookup Policy)] エンタプライズパラメータを編集することで、ユーザの部分で大文字と小文字を区別しないように設定できます。</p>

機能	連携動作と制限事項
コーリングサーチスペース	<p>ディレクトリ URI、エンタープライズ代替番号、および +E.164 代替番号がダイヤル可能になるためには、発信者のコーリングサーチスペースで使用可能なパーティションにそれらの URI または番号が存在する必要があります。</p>
URI ダイヤリングを使用したディジット変換	<p>番号変換を使用していて、クラスタ間 URI ダイヤリングを展開している場合は、電話機の設定または電話機が使用するデバイスプールに対してディジット変換を適用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個別の電話に対しては、[リモート番号 (Remote Number)]セクションの [発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)] フィールドで変換を適用します。 • デバイスプールの場合は、[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)]の下にある [発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)] フィールドで変換を適用できます。 <p>(注) ローミング デバイスの場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウの [デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスがオフの場合でも、デバイス プールの設定が電話の設定よりも優先されます。</p>



第 23 章

発信側の正規化

- [発信側の正規化の概要 \(295 ページ\)](#)
- [発信側の正規化の要件 \(296 ページ\)](#)
- [発信側の正規化の設定タスク フロー \(297 ページ\)](#)
- [発信側の正規化の連携動作と制限事項 \(301 ページ\)](#)

発信側の正規化の概要

発信側の正規化によって電話番号のグローバル化やローカライズが可能になるため、適切な発信番号が電話機に表示されます。発信側の正規化を使用して、一部の電話機のダイヤル機能を強化し、コールが複数の地理的ロケーションにルーティングされる場合の折返し機能を向上させます。この機能は、電話機のコールログディレクトリのディレクトリ番号を変更することなく電話機がコールバックできるよう、グローバル発信者番号をローカライズされた番号にマッピングできます。

発信者番号のグローバル化

Cisco Unified CM Administration で [発信者番号タイプ (Calling Party Number Type)] とプレフィックスを設定することで、着信側の電話に表示する発信者電話番号を、(国際国番号などのプレフィックスを含むグローバル化バージョンに) 再フォーマットするように Cisco Unified Communications Manager を設定できます。それによって、世界中のどこからでもその番号をダイヤルできます。

Cisco Unified Communications Manager は、[発信者番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値とともにルートパターンやトランスレーションパターンなどのさまざまな番号パターンを使用して、電話番号をグローバル化できます。たとえば、Cisco Unified Communications Manager は、サブスクライバ発信者番号タイプのローカライズされたドイツの電話番号 069XXXXXXX を、ドイツの国番号と都市コードを含む +49 40 69XXXXXXX にグローバル化するように設定できます。

複数の地理的場所にルーティングされるコールの場合、各ルーティングパスに適用される異なるトランスレーション設定によって、発信者番号は各コールパスで一意にグローバル化できません。Cisco Unified Communications Manager では、電話でローカライズされた発信者番号を電話画面に表示し、グローバル化された番号を電話の通話履歴ディレクトリに表示するように設定

することもできます。電話ユーザがコールを発信する前に、電話の通話履歴ディレクトリのエントリを編集する必要がないようにするため、グローバル発信者番号をそのローカルバージョンにマッピングします。

発信者番号のローカリゼーション

発信者番号の最終表示用に、発信者番号タイプ（国内、国際、サブスクライバ、不明）ごとに発信側トランスフォーメーションパターンを設定し、そのコールの発信者番号タイプに固有のストリップ桁数とプレフィックスの手順を適用できます。これによって、Cisco Unified Communications Manager は、着信側の電話に表示される発信者番号が不要な国コードや国際アクセスコードを含まないローカライズされた番号となるように、発信者番号を再フォーマットできます。

たとえば、PSTN から到着した着信番号が、グローバル化された番号 +49 40 69XXXXXXX で（+49 が国番号、40 が都市コードを表す）、発信者番号タイプがサブスクライバであるとしめます。Cisco Unified Communications Manager には、国番号、都市コードを取り除き、プレフィックス 0 を追加する手順とともに、発信側のトランスフォーメーションパターンを設定できます。手順が適用された後、発信者番号はダイヤルされた電話に 069XXXXXXX として表示されます。

グローバル化された発信者番号のローカライズバージョンへのマッピング

電話ユーザがコールを発信する前に、電話の通話履歴ディレクトリのエントリを編集する必要がないようにするため、ルートパターンと着信側トランスフォーメーションパターンを使用して、グローバル発信者番号をローカライズされたバージョンにマッピングできます。これによって、着信側がコールを返す場合に、Cisco Unified Communications Manager は確実に正しいゲートウェイにコールをルーティングできます。

グローバル発信者番号のマッピングによって、コールバック機能が改善され、着信側は電話の通話履歴ディレクトリ内の電話番号を変更する必要なく、コールバックできます。

発信側の正規化の要件

発信側の正規化を設定する前に、Cisco Unified Serviceability で **Cisco CallManager** サービスをアクティブにする必要があります。詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager に発信者番号タイプを判別させるには、想定するコールに一致する [発信者番号タイプ (Calling Party Number Type)] 値を割り当てるパターンを設定します。次の設定ウィンドウで、パターンを作成して適用することができます。

- ルートパターン
- ハントパイロット
- トランスレーションパターン
- 発信番号トランスフォーメーションパターン



- (注) 発信者による変換は、元の発信者に対してのみ機能します。番号をリダイレクトするために行った変更は、転送ヘッダーに対してのみ適用されます。[SIP トランク] チャプターから設定を確認し、SIP トランク自体に転送ヘッダーを追加します。

発信側の正規化の設定タスクフロー

発信側の正規化のプレフィックスと削除桁数ルールは、Unified Communications Manager でさまざまな場面で適用できます。たとえば、デバイスプール、ルートパターン、トランスレーションパターン、ハントパイロット、ゲートウェイ、およびトランクに桁数の変換を適用できます。桁数の変換を適用する方法は、ダイヤルプラン、デバイス、およびトランクの導入方法に応じて変わります。詳細については、ダイヤルプラン、ルートパターン、トランスレーションパターン、およびトランスフォーメーションパターンに関連するトピックを参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Unified Communications Manager に発信者番号タイプを判断させる場合は、予想されるコールと合致する発信者番号タイプを作成して設定する必要があります。次の設定ウィンドウで、パターンを作成して適用することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • ルートパターン • ハントパイロット • トランスレーションパターン • 発信番号トランスフォーメーションパターン 	
ステップ 2	発信側番号のグローバル化 (298 ページ)	PSTN 経由で受信する着信コールの場合は、発信者番号をグローバル化するための設定を構成します。
ステップ 3	コーリングサーチスペースの設定 (299 ページ)	パーティションとコーリングサーチスペースを設定する
ステップ 4	発信側トランスフォーメーションパターンの作成 (299 ページ)	発信者番号をグローバル化されたバージョンまたはローカライズされたバージョンに変換し、各パターンをパーティションに割り当てる、通話相手の変換のパターンを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	コーリング サーチ スペースへの発信側トランスフォーメーションパターンの適用 (300 ページ)	デバイスプール、ゲートウェイ、およびトランクのように、着信通話関係者変換 CSS をデバイスに適用します。

発信側番号のグローバル化

PSTN 経由で到達する着信コールの場合は、発信者番号をグローバル化する設定を行います。発信者番号をグローバル化し、それをデバイスプールまたは個々のデバイスに適用する設定できます。また、クラスタ全体に、発信者番号の正規化設定を適用するサービスパラメータを設定できます。

発信者番号をグローバル化するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 発信者番号の正規化設定を特定のデバイスに適用するには、次の手順を実行します。

- 設定を適用するデバイスの設定ウィンドウを開きます。たとえば、デバイスプール、ゲートウェイ、電話、トランクです。
- 設定ウィンドウの [着信コールの発信側の設定 (Incoming Calling Party Settings)] セクションで、各発信者番号タイプのプレフィックスおよび削除桁数の指示を適用します。

(注) Cisco Unified Communications Manager には、コール転送、コールパーク、ボイスメッセージング、CDR データなどの補足サービスのような、すべての追加アクションの発信者番号フィールドにプレフィックスが含まれます。

ステップ 2 サービスパラメータを使用して、クラスタ全体のすべてのデバイスの発信者番号をグローバル化するには、次の手順を実行します。

- Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、サービスを実行するサーバを選択します。
- [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- [詳細設定 (Advanced)] をクリックします。
- 以下のパラメータの値を設定します。この値は、クラスタ全体から電話、MGCP ゲートウェイ、H.323 ゲートウェイに適用できます。

- [発信者の国内番号プレフィックス (Incoming Calling Party National Number Prefix)]
- [発信者の国際番号プレフィックス (Incoming Calling Party International Number Prefix)]
- [発信者の不明な着信番号プレフィックス (Incoming Calling Party Unknown Number Prefix)]
- [発信者の加入者番号プレフィックス (Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix)]

- (注) Cisco Unified Communications Manager で、特定の電話のクラスタ全体のサービスパラメータ設定を適用するには、デバイスとデバイスプールレベルの両方で、その電話のプリフィックス設定をデフォルト オプションに設定する必要があります。

コーリングサーチスペースの設定

呼び出し側の正規化機能进行处理するためにコーリングサーチスペースを設定する場合は、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partitions)] の順に選択します。
- ステップ 2** ネットワークのパーティションを作成します。
- ステップ 3** Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択します。
- ステップ 4** 発信側トランスフォーメーションパターンのコーリングサーチスペースを作成します。
- ステップ 5** コーリングサーチスペースごとに、パーティションをコーリングサーチスペースに割り当てます。

発信側トランスフォーメーションパターンの作成

発信側の正規化機能进行处理するために発信側トランスフォーメーションパターンを設定している場合、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発信側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] を選択します。
- ステップ 2** トランスフォーメーションパターンを作成します。
- ステップ 3** 作成する発信側トランスフォーメーションパターンそれぞれには、発信側番号を国際対応または国内対応するために、先頭に付加または除外している番号コマンドを割り当てます。
- ステップ 4** それぞれの発信側トランスフォーメーションパターンには、コーリングサーチスペースの 1 つに関連付けられているパーティションを割り当てます。

コーリングサーチスペースへの発信側トランスフォーメーションパターンの適用

デバイスプール、ゲートウェイ、トランクなどのデバイスに、着信する発信側トランスフォーメーションCSSを割り当てます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、発信側トランスフォーメーションを適用するデバイスに該当する設定ウィンドウを選択します。

- [ゲートウェイ (Gateways)]
- [トランク (Trunks)]
- [デバイスプール (Device Pools)]

ステップ2 発信者番号をローカライズするには、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで、適用する発信側トランスフォーメーションパターンを含むCSSを選択します。

(注) デバイスプールに対してCSSを設定する場合、電話機にもそのデバイスプールを適用する必要があります。

ステップ3 発信者番号をグローバル化するには、[着信の発信者番号設定 (Incoming Calling Party Settings)] セクションで、適用する発信側トランスフォーメーションパターンを含むコーリングサーチスペースを選択します。

発信側の正規化サービスパラメータの例

次のパラメータは、電話機、MGCPゲートウェイ、またはH.323に対して、クラスタ全体に適用することができます。特定のデバイスでクラスタ全体パラメータを使用するためには、デバイス設定のプレフィックスをデフォルトに設定する必要があります。

- [発信者の国内番号プレフィックス (Incoming Calling Party National Number Prefix)]
- [発信者の国際番号プレフィックス (Incoming Calling Party International Number Prefix)]
- [発信者の不明な着信番号プレフィックス (Incoming Calling Party Unknown Number Prefix)]
- [発信者の加入者番号プレフィックス (Incoming Calling Party Subscriber Number Prefix)]

次の表に、プレフィックスとストリップディジットの設定の例と、これらの値を使用して、発信者番号の表示を変換する方法を示します。サービスパラメータの設定の場合、コロンの後の数字は、呼び出し者番号の先頭から除外する桁数を表し、コロンの後の数字は、発信者番号の先頭に追加されるプレフィックスを表します。

表 23: 発信側の正規化のサービスパラメータ例

元の着信番号	サービスパラメータ値	説明	最終着信番号
04423452345	+1	最初の桁を削除してから、+のプレフィックスを追加します	+4423452345
04423452345	:2	先頭2桁を取り除きます	423452345
552345	+1:6	先頭6桁を取り除き、プレフィックスとして+1を追加します	+1
552345	+1:8	使用可能な桁数より多くの桁数が取り除かれるため、最終的な番号は空白になります	
552345	123	プレフィックスとして123を追加します	123552345
空白	+1:2	発信者番号が空白の場合、プレフィックスは適用されません	空白
0442345	:26	発信者番号の正規化で取り除くことができる桁数は、24桁のみです	Cisco Unified Communications Manager では、この設定は許可されません

発信側の正規化の連携動作と制限事項

発信側の正規化の連携動作

発信側の正規化機能との連携動作を次の表で説明します。

機能	連携動作
転送コール	<p>転送機能は、発信時の更新と発信者の正規化に依存しており、各コールホップの初期コール設定が行われるため、発信者の正規化がサポートされない場合があります。次に示すのは、発信者の正規化を転送に使用する方法の一例です。</p> <p>内線番号 12345、電話番号 972 500 2345 の電話機 A が、内線番号 54321、電話番号 972 500 4321 の電話機 B にコールを発信します。電話 B では、発信者番号 12345 が表示されますが、電話 B はそのコールをサンホセゲートウェイを介して電話 C に転送します。最初の転送時には、電話 C は 972 500 4321 の発信者番号が表示されますが、転送が完了した後、電話機 C は電話 A の発信者番号を 12345 として表示します。</p>
コールの転送	<p>転送されたコールは、発信者側番号のグローバル化およびローカライズをサポートします。たとえば、ダラスの PSTN 経由で発信者が電話機 F を使用して電話機 G にコールを発信します。電話機 G では、すべてのコールがサンノゼにある電話機 H に自動転送されます。着信するダラスゲートウェイでは、発信者番号は 555-5555/Subscriber と表示されますが、そのコールはサンノゼのゲートウェイに転送されます。ダラスからの発信コールは 972 555 5555 として表示されず。サンホセゲートウェイでの受信時には、+1 がプリフィックスされ、電話 F は +1 972 555 5555 というコール番号を表示します。</p>
コール詳細レコード	<p>発信側の正規化が呼詳細 (CDR) と動作する方法の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records</i> アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
Cisco Unified Communications Manager Assistant	<p>発信側の正規化機能を設定すると、Cisco Unified Communications Manager Assistant により、ローカライズおよびグローバル化されたコールが自動的にサポートされます。Cisco Unified Communications Manager Assistant は、ローカライズされた発信側番号をユーザインターフェイスに表示できます。また、マネージャに対する着信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant は、フィルタパターンに一致したときに、ローカライズされた発信側番号とグローバル化された発信側番号を表示できます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定方法の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド</i>』 (http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html) を参照してください。</p>

機能	連携動作
Cisco Unity Connection	<p>Cisco Unity Connection は、国際エスケープ文字 (+) をサポートしていません。このため、ボイスメッセージング機能を正常に動作させるには、Cisco Unity Connection へのコールに (+) が含まれていないことを確認する必要があります。</p> <p>Cisco Unity Connection が予想どおりに動作するようにするには、このアプリケーションをデバイスとして扱い、発信側トランスフォーメーションを設定して、このボイスメールアプリケーションに+が送信されないようにする必要があります。Cisco Unity Connection サーバで北米ベースのダイヤルプランを使用している場合は、Cisco Unity Connection で発信側番号を受信する前に、その発信側番号を NANP 形式にローカライズします。Cisco Unified Communications Manager の管理ページにはボイスメールポート用の発信側トランスフォーメーションオプションがないため、ボイスメールポートに関連付けられているデバイスプールで発信側番号トランスフォーメーションを設定するようにしてください。発信側番号をローカライズするには、ボイスメールアプリケーションが特定の機能 (Live Reply など) 用の番号に容易にリダイヤルできるよう、アクセスコードにプレフィックスを付加することも検討してください。たとえば、+12225551234 を 912225551234 に変換したり、国際番号 +4423453456 に国際エスケープコードを含めて 90114423453456 のように変換したりできます。</p>
デバイス モビリティ	<p>ローミング用デバイスプールの発信側トランスフォーメーション CSS は、[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで [デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用(Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスがオフの場合でも、同じデバイスモビリティグループ内でローミングする電話機のデバイスレベルの設定をオーバーライドします。</p> <p>次の例は、発信者側の正規化が、ホームロケーションはダラスだけれども、現在はサンノゼにローミングしている電話のデバイスモビリティと動作するようすを示しています。</p> <p>電話機がサンノゼでローミングしているときに、ダラスの 972 500 1212 <国内> から PSTN 経由でコールを受けます。サンノゼの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 408 500 1212 に変換されます。現在サンノゼにある電話機では、発信側番号は 1 972 500 1212 として表示されます。</p> <p>電話機がサンノゼでローミングしているときに、サンノゼの7桁のダイヤルエリア内の 500 1212 <加入者> から PSTN 経由でコールを受けます。サンノゼの着信ゲートウェイでは、発信側番号がグローバル形式の +1 408 500 1212 に変換されます。現在サンノゼにある電話機では、発信側番号は 9 500 1212 として表示されます。</p>

発信側の正規化の制限事項

次の表は、通話相手の正規化機能が、Cisco Unified Communications Manager の特定の機能とシステムコンポーネントを使用している場合の制限を示しています。

表 24: 発信側の正規化の制限事項

機能	制限事項
共有回線	共有回線の場合に表示される発信側番号は、Cisco Unified Communications Manager 内の一連のコール制御イベントによって決まります。ローカライズされた正しくない発信側番号が共有回線に表示されるのを回避するため、特に、共有回線が地理的に異なる場所にまたがる場合は、同じ回線を共有する異なるデバイスに同じ発信側トランスフォーメーション CSS を設定する必要があります。
SIP トランクおよび MGCP ゲートウェイ	SIP トランクおよび MGCP ゲートウェイでは、コールごとに国際エスケープ文字 (+) の送信をサポートしています。H.323 ゲートウェイは、+をサポートしていません。QSIG トランクは、+の送信を試みません。+をサポートするゲートウェイ経由の発信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤルされた数字とともに+をゲートウェイに送信できます。+をサポートしないゲートウェイ経由の発信コールの場合、Cisco Unified Communications Manager がゲートウェイにコール情報を送信すると、国際エスケープ文字+が除去されます。
SIP	SIP は番号タイプをサポートしないため、SIP トランク経由のコールは、発信側番号の種類が不明 (Unknown) である [着信番号 (Incoming Number)] 設定のみをサポートします。
QSIG	QSIG 設定は、通常、均一のダイヤルプランをサポートします。QSIG を使用している場合、番号とプレフィックスの変換により機能の連携動作に問題が発生することがあります。
発信側トランスフォーメーション CSS	発信側番号をローカライズする場合、デバイスは、番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)] を [None] に設定した場合、変換は一致せず、適用されません。ルーティングに使用されない Null 以外のパーティションで、必ず [発信側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] を設定してください。

機能	制限事項
T1-CAS および FXO ポート	発信側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) 設定は、ゲートウェイ上の T1-CAS と FXO ポートには適用されません。
Cisco Unity Connection	<p>Cisco Unity Connection は、国際エスケープ文字 (+) をサポートしていません。このため、ボイスメッセージング機能を正常に動作させるには、Cisco Unity Connection へのコールに (+) が含まれていないことを確認する必要があります。</p> <p>Cisco Unity Connection の詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/unity-connection/index.html を参照してください。</p>



第 24 章

ダイヤル ルール の 設定

- [ダイヤル ルール の 概要 \(307 ページ\)](#)
- [ダイヤル ルール の 前提 条件 \(307 ページ\)](#)
- [ダイヤル ルール の 設定 タスク フロー \(308 ページ\)](#)
- [連携 動作 と 制限 事項 \(314 ページ\)](#)

ダイヤル ルール の 概要

Unified CM は、次のタイプのダイヤルルールをサポートしています。

- **アプリケーションダイヤルルール**：Cisco Web Dialer や Cisco Unified Communications Manager などのアプリケーション用にダイヤルルールを追加したり優先順位を並べ替えるには、管理者がアプリケーションダイヤルルールを使用します。
- **ディレクトリ検索ダイヤルルール**：発信者識別番号を変換したり、Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションでアシスタントコンソールからディレクトリ検索を実行したりするには、管理者がディレクトリ検索ダイヤルルールを使用します。
- **SIP ダイヤルルール**：システム番号の分析とルーティングを実行するには、管理者が SIP ダイヤルルールを使用します。管理者は SIP ダイヤルルールを設定し、コール処理が実行される前に、その SIP ダイヤルルールを Cisco Unified IP Phone に追加します。

ダイヤル ルール の 前提 条件

- SIP ダイヤルルール設定の場合は、デバイスが SIP を実行している必要があります。
- 管理者は、Cisco IP Phone 7911、7940、7941、7960、7961

ダイヤルルールの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アプリケーションダイヤルルールの設定 (308 ページ)	Cisco Web Dialer、Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションのダイヤルルールの優先順位を追加し並べ替える、アプリケーションダイヤルルールを設定します。
ステップ 2	ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 (309 ページ)	発信者の ID 番号をディレクトリで検索可能な番号に変換するには、ディレクトリ検索ダイヤルルールを設定します。
ステップ 3	SIP ダイヤルルールの設定 (310 ページ)	SIP を実行している電話のダイヤルプランを設定するには、SIP ダイヤルルールの設定を使用します。
ステップ 4	ダイヤルルールの優先順位の変更 (313 ページ)	(省略可) 複数のダイヤルルールがある場合は、[Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウでダイヤルルールの優先順位を変更します。

アプリケーションダイヤルルールの設定

Cisco Unified Communications Manager は、アプリケーションダイヤルルールをサポートし、Cisco Web Dialer や Cisco Unified Communications Manager Assistant のようなアプリケーションのダイヤルルールの優先順位の追加と並べ替えができます。アプリケーションダイヤルルールを適用すると、ユーザがダイヤルする電話番号に対して数字の追加と削除が自動的に行われます。たとえば、外線発信する場合にはアプリケーションのダイヤルルールにより、7桁の電話番号の先頭に番号 9 が自動で付加されます。



(注) Cisco Unified Communications Manager は自動的に、CTI リモート デバイスのすべてのリモート接続先番号にアプリケーションダイヤルルールを適用します。

新しいアプリケーションダイヤルルールを追加する、または既存のアプリケーションダイヤルルールを更新するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] を選択します。
- ステップ 2 [アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウで、次のいずれかの手順を実行します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のアプリケーションダイヤルルールを選択します。
- ステップ 3 [アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドの説明の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

次の作業を行います。

- [ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 \(309 ページ\)](#)
- [SIP ダイヤルルールの設定 \(310 ページ\)](#)

ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定

ディレクトリ検索ダイヤルルールは、発信者の識別情報を、ディレクトリで検索可能な番号に変換します。各ルールでは、先頭の数字および番号の長さに基づいて、変換する数字を指定します。たとえば、10桁の電話番号から市外局番と2桁の局番を自動的に削除するディレクトリ検索ダイヤルルールを作成できます。たとえば、4085551212 は、51212 になります。

新しいディレクトリ検索ダイヤルルールを追加するか、既存のディレクトリ検索ダイヤルルールを更新するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)] を選択します。
- ステップ 2 [ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウで、以下のいずれかの手順を実行します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のディレクトリ検索ダイヤルルールを選択します。

ステップ 3 [ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)] ウィンドウ内の各フィールドを設定します。フィールドの説明の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[SIP ダイヤル ルールの設定 \(310 ページ\)](#)

SIP ダイヤル ルールの設定

SIP ダイヤルルールによって、SIP を実行している Cisco IP 電話のローカルダイヤルプランが提供されるため、ユーザは、コールが処理される前にキーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。管理者が SIP ダイヤルルールを設定し、SIP を実行している電話機に適用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SIP ダイヤル ルールの設定 (311 ページ)	SIP ダイヤルルールを設定および更新し、それらを SIP を実行している電話機と関連付けます。
ステップ 2	SIP ダイヤル ルールのリセット (312 ページ)	SIP ダイヤルルールを更新したときに、SIP を実行している電話機をリセットまたは再起動して、電話機を新しい SIP ダイヤルルールで更新する手順は、次のとおりです。
ステップ 3	SIP ダイヤルルール設定と SIP 電話の同期 (313 ページ)	設定変更された SIP ダイヤルルールと SIP 電話を同期化するには、次の手順を行います。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受ける SIP 電話の中には、リセットまたは再起動が不要なものがあります)。

関連トピック

[パターンの形式 \(311 ページ\)](#)

パターンの形式

表 25: SIP ダイヤルルールのパターンフォーマット

ダイヤルルールパターン	値
7940_7960_OTHER	<ul style="list-style-type: none"> • ピリオド (.) は、すべての文字に一致します。 • シャープ記号 (#) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで>#にヒットした後だけです。または、終了キーとしてアスタリスク (*) を使用することもできます。 (注) シャープ記号を [7940_7960_OTHER] で有効にするには、パターンフィールドにシャープ記号を設定する必要があります。 • アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字に一致し、ワイルドカード文字として処理されます。* の前にバックスラッシュ (\) エスケープシーケンスを置いて * というシーケンスにすると、* を通常の文字として処理できます。\\ は電話機が自動的に削除するため、発信ダイヤル文字列には現れません。* は、ダイヤル番号として受信された場合、ワイルドカード文字 * とピリオド (.) に一致します。 • カンマ (,) を使用すると、電話機が第 2 発信音を生成します。 7 で始まるすべての 4 桁 DN に一致します。8,..... 8,..... 8 に一致し、第 2 発信音 (デフォルト値) を再生した後、すべての 5 桁 DN に一致します。

SIP ダイヤルルールの設定

SIP を実行している電話機のダイヤルプランを設定します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。
- ステップ 2 [SIPダイヤルルールの検索/一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウで、次のいずれかの手順を実行します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存の SIP ダイヤルルールを選択します。

ステップ 3 [SIP ダイアルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドの説明の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) Cisco Unified Communication Manager Administration で SIP ダイアルルールを追加または更新すると、Cisco TFTP サービスによってすべての電話機設定ファイルが再構築されます。そのため、Cisco TFTP サービスを実行するサーバ上の CPU にスパイクが発生することがあり、これは多くの電話が接続された大規模なシステムでは顕著になります。CPU にスパイクを発生させないためには、SIP ダイアルルールを追加や更新をメンテナンス時間枠内で行うか、または設定変更を行う前に Cisco Unified Serviceability で Cisco TFTP サービスを一時的に停止するかしてください。Cisco TFTP サービスを停止した場合は、SIP ダイアルルールを追加または更新した後、必ず Cisco Unified Serviceability でサービスを再開してください。

次のタスク

[SIP ダイアル ルールのリセット \(312 ページ\)](#)

関連トピック

[パターンの形式 \(311 ページ\)](#)

SIP ダイアル ルールのリセット

SIP ダイアルルールを更新したときに、新しい SIP ダイアルルールで電話機が更新されるよう、次の手順を実行して SIP を実行している電話機をリセットまたは再起動します。

始める前に

[SIP ダイアル ルールの設定 \(311 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] を選択します。

ステップ 2 [SIP ダイアルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックし、リセットする既存の SIP ダイアルルールを選択します。

ステップ 3 [SIP ダイアルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウで、[リセット (Reset)] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスで、次のタスクのいずれかを実行します。

- 選択したデバイスをシャットダウンせずに再起動し、Cisco Unified Communications Manager に登録するには、[再起動 (Restart)] をクリックします。

- デバイスをシャットダウンしてから再起動するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- 操作を実行せずに [デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスを閉じるには、[閉じる (Close)] をクリックします。

管理者が SIP ダイアルルールを設定して SIP を実行している電話機に適用すると、データベースから TFTP サーバに通知が送信されます。これによって、SIP を実行している電話機の新しい設定ファイルを作成できます。TFTP サーバは Cisco Unified Communications Manager に新しい設定ファイルについて通知し、更新された設定ファイルが電話機へ送られます。詳細については、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone の「**TFTP サーバの設定**」を参照してください。

次のタスク

[SIP ダイアルルール設定と SIP 電話の同期 \(313 ページ\)](#)

SIP ダイアルルール設定と SIP 電話の同期

SIP 電話機と設定が変更された SIP ダイアルルールを同期するには、次の手順を実行します。

始める前に

[SIP ダイアルルールのリセット \(312 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。
- ステップ 2** [SIP ダイアルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックし、適切な SIP 電話機を同期する既存の SIP ダイアルルールを選択します。
- ステップ 3** 追加の設定変更を行い、[SIP ダイアルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] で [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。

ダイヤルルールの優先順位の変更

[ダイヤルルールの設定 (Dial Rule Configuration)] ウィンドウでダイヤルルールの優先順位を追加およびソートするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 Cisco Unified Communications Manager の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] を選択します。
- ステップ2 次のいずれかを選択します。
- [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)]
 - [ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)]
 - [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)]
- ステップ3 [検索と一覧表示 (Find and List)] ウィンドウで、ダイヤルルールを選択し、ダイヤルルールの名前をクリックします。
[ダイヤルルールの設定 (Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ4 上矢印と下矢印を使用して、リスト内でダイヤルルールを上または下に移動します。
- ステップ5 順序の優先順位付けが完了したら、[保存 (Save)] をクリックします。

連携動作と制限事項

SIP ダイヤルルールの連携動作

SIP ダイヤルルールの連携動作

Cisco Unified IP Phone	連携動作
SIP を実行している 7911、7941、7961	これらの電話機は、7940_7960_OTHER ダイヤルルールパターンを使用します。キープレスマークアップ言語 (KPML) では、Cisco Unified Communications Manager に数字を 1 桁ごとに送信できます。SIP ダイヤルルールを使用すると、Cisco Unified Communications Manager に送信する前に、電話で数字のパターンをローカルに収集できます。SIP ダイヤルルールを設定しないと、KPML が使用されません。Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスを向上させるために (処理されるコール数の増加)、シスコは SIP ダイヤルルールを設定することをお勧めします。

Cisco Unified IP Phone	連携動作
SIP を実行している 7940 および 7960	これらの電話機は 7940_7960_OTHER ダイヤルルールパターンを使用し、KPML をサポートしていません。これらの電話機で SIP のダイヤルプランを設定していないと、ユーザは数字が Cisco Unified Communications Manager に送信されて処理される前に、指定された時間だけ待機する必要があります。その結果、実際のコールの処理が遅延します。

ディレクトリ検索ダイヤル ルールの制限

ディレクトリ検索ダイヤル ルールの制限

フィールド	制限事項
[開始番号 (Number Begins With)]	このフィールドでは、数字と文字 +、*、# のみを使用できます。長さは 100 文字以内でなければなりません。
[桁数 (Number of Digits)]	このフィールドは数字のみをサポートします。このフィールドの値は、パターンフィールドに指定されているパターンの長さより小さくすることはできません。
[削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]	このフィールドは数字のみをサポートします。このフィールドの値は、[桁数 (Number of Digits)]フィールドの値より大きくすることはできません。
[プレフィックス パターン (Prefix with Pattern)]	このフィールドでは、数字と文字 +、*、# のみを使用できます。長さは 100 文字以内でなければなりません。 (注) 1 つのダイヤル ルールの [削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]フィールドと [プレフィックス パターン (Prefix With Pattern)]フィールドの両方を空白にすることはできません。



第 III 部

アプリケーションの統合

- [シスコアプリケーションの統合 \(319 ページ\)](#)
- [CTIアプリケーションの設定 \(327 ページ\)](#)



第 25 章

シスコ アプリケーションの統合

- [Cisco Unity Connection](#) (319 ページ)
- [Cisco Expressway](#) (322 ページ)
- [Cisco Emergency Responder](#) (322 ページ)
- [Cisco Paging Server](#) (323 ページ)
- [Cisco Unified Contact Center Enterprise](#) (324 ページ)
- [Cisco Unified Contact Center Express](#) (324 ページ)
- [高度な QoS APIC-EM コントローラ](#) (325 ページ)
- [Cisco WebDialer サーバの設定](#) (325 ページ)

Cisco Unity Connection

ボイスメールとメッセージングのシステムを設定する時には、ユーザの追加、機能の有効化、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection との統合の各オプションに注意します。

Cisco Unity Communications Manager と統合されると、Cisco Unity Connection (ボイスメールおよびメッセージングシステム) は、AXL サービスまたは LDAP 統合を使用して手動で設定するユーザにボイスメッセージ機能を提供します。メールボックスにボイスメッセージを受信すると、ユーザの電話機にメッセージ受信のライトが点灯します。ユーザは内線または外線通話でボイスメッセージシステムにアクセスして、メッセージの取得、聞き取り、返信、転送、および削除ができます。

お客様のシステムは、直接接続されたメッセージシステムとゲートウェイベースのメッセージシステムをサポートしています。直接接続された音声メッセージシステムは、パケットプロトコルを使用してCisco Unified Communications Managerと通信します。ゲートウェイベースのボイスメッセージシステムは、シスコ ゲートウェイに接続するアナログまたはデジタルトランクを使用してCisco Unified Communications Managerに接続します。

Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection を統合すると、ユーザに次の機能を設定できます。

- パーソナル グリーティングへの自動転送
- 通話中グリーティングへの自動転送

- 発信者 ID
- 容易なメッセージアクセス（ユーザはIDを入力しなくてもメッセージを取得できます。Cisco Unity Connectionでは、通話発信元の内線番号に基づいてユーザを識別します。パスワードが必要になる場合があります）
- 識別されたユーザのメッセージ（Cisco Unity Connectionでは、転送された内線通話中にメッセージを残したユーザを、通話発信元の内線番号に基づいて自動的に識別します）
- メッセージ待機インジケータ（MWI）
- Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection サーバ間のセキュアな SIP トランクの統合の設定には、Cisco Unified Communications Manager クラスタが混合モードで設定されている必要があります。

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection は、次のいずれかのインターフェイスを介して連携します。

- SIP トランク：SIP を使用して Cisco Unity Connection と Unified Communications Manager を統合できます。SIP は、従来の統合に含まれている複数の SCCP ポートではなく、Unity Connection サーバにつき 1 個のトランクを使用します。SIP インテグレーションでは、ボイスメールポートとメッセージ待機インジケータ (MWI) のディレクトリ番号を設定する必要がなくなります。
- SCCP プロトコル：音声メールポートを作成することで、インタフェースを直接接続された音声メッセージシステムとして構成できます。これらは、Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection との間にリンクを確立します。

ボイスメッセージシステムへの複数の同時コールを処理するには、複数のボイスメールポートを作成し、それらのポートを回線グループに割り当て、その回線グループをルート/ハンドリストに割り当てます。

Cisco Unified Communications Manager は、SCCP メッセージを生成します。Cisco Unity Connection がそのメッセージを変換します。ボイスメールシステムは、メッセージ待機の on と off の番号をコールしてメッセージ受信兆候 (MWIs) を送信します。

ボイスメールポートやCisco Unity SCCPデバイスにセキュリティを設定すると、各デバイスが他のデバイスの証明書を受け付けた後、認証済みのデバイスに対してTLS接続（ハンドシェイク）が開きます。同様に、デバイスに暗号化を設定した場合、システムはデバイス間に SRTP ストリームを送信します。

デバイスのセキュリティモードが認証または暗号化に設定されている場合、Cisco Unity TSP は、Cisco Unified Communications Manager の TLS ポートを介して Unified Communications Manager に接続します。セキュリティモードが非セキュアの場合、Cisco Unity TSP は Cisco Unified Communications Manager の SCCP ポートを介して Unified Communications Manager に接続します。

Cisco Unity Connection をシステムに統合する設定の詳細については、『Cisco Unity Connection 向け Cisco Unified Communications Manager SCCP インテグレーションガイド』または『Cisco Unity Connection 向け Cisco Unified Communications Manager SIP トランク インテグレーション

ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

PIN同期の有効化

PIN 同期を有効にし、エンドユーザが、エクステンション モビリティ、開催中の会議、モバイル コネクト、および Cisco Unity Connection ボイスメールに同じ PIN を使用してログインできるようにするには、次の手順を実行します。



- (注) Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ データベース サーバが実行されており、そのデータベースのレプリケーションが完了した場合のみ、Cisco Unity Connection と Cisco Unified Communications Manager 間の PIN の同期に成功します。Cisco Unity Connection で PIN の同期に失敗すると、次のエラーメッセージが表示されます。「CUCMで暗証番号のアップデートに失敗しました。(Failed to update PIN on CUCM.) 原因: PIN の取得中にエラーが発生しています。(Reason: Error getting the pin.)」

PIN 同期が有効で、エンドユーザーが PIN を変更した場合は、Cisco Unified Communications Manager で PIN を更新します。この現象は、少なくとも 1 つの構成済みの Unity Connection アプリケーション サーバで、PIN の更新が成功している場合に発生します。



- (注) PIN の同期を有効にするには、機能が正常に有効化された後で、管理者がユーザに各自の PIN を変更するよう強制する必要があります。

始める前に

この手順では、すでにアプリケーションサーバが Cisco Unity Connection のセットアップに接続されていることを前提としています。使用していない場合、新しいアプリケーションサーバを追加する方法については、「関連項目」を参照してください。

PIN 同期機能を有効にするには、まず [Cisco Unified OSの管理 (Cisco Unified OS Administration)] ページから Cisco Unified Communications Manager tomcat-trust に、有効な証明書をアップロードする必要があります。証明書をアップロードする方法の詳細については、「Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド」 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) の「セキュリティ証明書の管理」の章を参照してください。

Cisco Unity Connection サーバのユーザ ID は、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ID と一致する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Servers)] を選択します。
- ステップ 2 Cisco Unity Connection をセットアップするアプリケーション サーバを選択します。
- ステップ 3 [エンドユーザのPIN同期 (Enable End User PIN Synchronization)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[アプリケーション サーバの設定](#)

Cisco Expressway

Cisco Unified Communications Manager は Cisco Expressway と統合して、Cisco Unified Communications Mobile & Remote Access を提供します。Cisco Unified Communications の Mobile & Remote Access は Cisco Collaboration Edge アーキテクチャの中核を成します。Cisco Jabber などのエンドポイントが企業ネットワーク外にある場合に、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) への登録、呼制御、プロビジョニング、メッセージング、およびプレゼンスの機能を使用することができるようになります。Expressway は、Unified CM 登録にセキュアなファイアウォールトラバーサルと回線側サポートを提供します。

ソリューション全体で、次の機能が提供されます。

- オフプレミスアクセス：ネットワーク外で、Cisco Jabber および EX/MX/SX シリーズクライアントに一貫性のあるエクスペリエンスを提供
- セキュリティ：セキュアな企業間 (B2B) 通信
- クラウドサービス：エンタープライズクラスの柔軟性と拡張性に優れたソリューションにより、Webex の統合とさまざまなサービスプロバイダーに対応
- ゲートウェイおよび相互運用性サービス：メディアおよびシグナリングの正規化、標準以外のエンドポイントのサポート

導入の詳細については、『Cisco Expressway 経由の Mobile and Remote Access 導入ガイド』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

Cisco Emergency Responder

Cisco Emergency Responder (Emergency Responder) は、緊急コールに効率的に応答したり、緊急コールの処理について地方自治体の規定を順守したりできるように、テレフォニー ネット

ワークで緊急コールを管理するのに役立ちます。北米では、これらの地方条例は「Enhanced 911 (E911)」と呼ばれています。同様の規定が他の国やロケールに存在します。

緊急コールに関する条例は、国、地域、州、または都市圏の中でも場所によって異なることがあるため、Emergency Responder は、特定のローカル要件に併せて緊急コール設定を指定できる柔軟性を備えています。ただし、条例は場所によって異なり、セキュリティ要件は会社によって異なるため、Emergency Responder を展開する前に、自社のセキュリティ上のニーズと法的なニーズを調査する必要があります。

Cisco Emergency Responder をインストールして Cisco Unified Communications Manager と統合する方法の詳細については、『Cisco Emergency Responder アドミニストレーションガイド』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/emergency-responder/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager での機能のサポート

Cisco Unified Communications Manager の次の機能は、Cisco Emergency Responder との統合をサポートしています。Cisco Unified Communications Manager でこれらの機能を設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

- ロケーション認識
- 緊急ハンドラ

Cisco Paging Server

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Paging Server と統合して Cisco IP Phone やさまざまなエンドポイントに基本的なページング サービスを提供するように設定できます。Cisco Paging Server 製品は、InformaCast 仮想アプライアンスを介して提供され、次の導入オプションを提供します。

- 基本的なページング：Cisco IP Phone に対して電話間およびグループでのライブオーディオページングを提供します。システムのすべてのユーザは、基本的なページの確立と受信に参加できます。
- 高度な通知：すべての機能を備えた緊急通知ソリューションを提供します。これにより、テキストと、ライブまたは事前に録音されたオーディオメッセージを使用して、無制限の数の電話機に到達できます。

Cisco Paging Server の詳細およびドキュメントについては、<https://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/paging-server/index.html> を参照してください。

設定

Cisco Unified Communications Manager の基本ページングまたは高度な通知の設定方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』の「ページング」の章を参照してください。

Cisco Unified Contact Center Enterprise

Cisco Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE) をシステムで使用して、インテリジェントコールルーティング、ネットワークとデスクトップ間のコンピュータ/テレフォニー インテグレーション (CTI) 、および IP ネットワークを介したコンタクトセンターエージェントへのマルチチャネルコンタクト管理を統合します。Unified CCE は、ソフトウェア IP の自動コール配布 (ACD) を Cisco Unified Communications と組み合わせたもので、詳細な分散型の連絡先センターを迅速に導入できます。

Unified CCE をシステムに統合するための設定方法の詳細については、『*Cisco Unified Contact Center Enterprise インストールおよびアップグレードガイド*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-contact-center-enterprise/products-installation-guides-list.html>) を参照してください。

Cisco Unified Contact Center Express

Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) は、シングルまたはデュアルサーバの導入において、パッケージ化された大規模なコンタクトセンターの機能をシステムに提供します。Unified CCX は、最大 400 人の同時エージェント、42 人のスーパーバイザ、150 のエージェントグループ、および 150 のスキルグループに対応するように拡張できます。また、電子メール、チャット、発信コール、着信コール、ワークフォース最適化、およびレポート機能が含まれています。

Unified CCX は、Unified CCX に代わってすべてのコンタクトセンターのコールを管理する Unified Communications Manager と連携します。コールがヘルプデスクに送信されると、コールシステムは、その番号が Unified CCX アプリケーションサーバを宛先としていることを認識します。この設定では、Unified CCX が着信コールを受信し、ダイヤルした内線番号に基づいて要求を処理します。スクリプトは、番号を収集し、必要に応じて、発信者からの情報を使用して適切なエージェントを選択します。割り当てられたエージェントが利用できない場合、そのコールは適切なキューに入れられ、録音されたメッセージまたは音楽が発信者にストリーミングされます。エージェントが対応可能になるとすぐに、Unified CCX はそのエージェントの電話を鳴らすように Unified Communications Manager に指示します。

エージェントが電話に出ると、関連するコールコンテキストがそのエージェントのデスクトップアプリケーションに提供されます。この手順により、顧客をサポートするための適切な情報がエージェントに表示されます。

Unified CCE をシステムに統合するための設定方法の詳細については、『*Cisco Unified CCX アドミニストレーションガイド*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/>

[unified-contact-center-express/products-installation-and-configuration-guides-list.html](https://www.cisco.com/wwww/unified-communications/wwww/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html)) を参照してください。

高度な QoS APIC-EM コントローラ

APICEMは、ネットワークトラフィックを集中管理するためのシステムを提供しているため、ネットワークの輻輳がある場合でも、常に通信を維持できるようになっています。Cisco Unified Communications Manager を設定して、APIC-EM コントローラを使用し SIP メディアフローを管理するように設定すると、次のような利点がもたらされます。

- QoS 管理を一元化し、エンドポイントによる DSCP 値の割り当てが不要になります。
- メディア フローごとに異なる QoS 処理を適用できます。たとえば、ネットワーク帯域幅が少ない場合でも、基本的な音声通信が常に維持されるように、オーディオの優先順位を付けることができます。
- SIP プロファイルの外部 QoS 設定では、APIC-EM を使用するようにユーザを設定できます。たとえば、Cisco Jabber ユーザは APIC-EM を使用してメディアフローを管理し、一方で Cisco Unified IP Phone ユーザは Cisco Unified Communications Manager の DSCP 設定を使用できます。

設定の詳細

APIC_EM コントローラと統合するように Cisco Unified Communications Manager を設定する方法など、詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』の「APIC-EM コントローラによる QoS の設定」の章を参照してください。

Cisco WebDialer サーバの設定

[WebDialersの一覧 (List of WebDialers)] サービスパラメータの代わりに Cisco WebDialer アプリケーションサーバを設定して、ユーザが入力できる文字数を制限します。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで Cisco WebDialer アプリケーションサーバを追加すると、Cisco WebDialer Web サービスの [サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、そのサーバが [WebDialersの一覧 (List of WebDialers)] フィールドに表示されます。Cisco WebDialer の設定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。

- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [アプリケーションサーバタイプ (Application Server Type)] ドロップダウンリストから、[Cisco Web Dialer] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [ホスト名/IPアドレス (Host name/IP Address)] フィールドに、WebDialer サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 5 [リダイレクタノード (Redirector Node)] ドロップダウンリストから、[<なし> (<None >)] または特定の Unified Communications Manager ノードを選択します。
- [<なし> (<None >)] の場合は、WebDialer サーバがすべてのノードに適用されることを示します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7 Cisco Unified Serviceability で [ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 8 [Cisco WebDialer Webサービス (Cisco WebDialer Web Service)] ラジオボタンをクリックします。
- ステップ 9 [再起動 (Restart)] をクリックします。
-



第 26 章

CTI アプリケーションの設定

- [CTI アプリケーションの概要 \(327 ページ\)](#)
- [CTI アプリケーションの前提条件 \(329 ページ\)](#)
- [CTI アプリケーションの設定タスクフロー \(330 ページ\)](#)

CTI アプリケーションの概要

コンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) を使用して、コンピュータ処理機能を活用しながら、電話コールの発信、受信、および管理を行うことができます。CTI アプリケーションを使用すると、発信者 ID を使用してデータベースから顧客情報を取得したり、対話式音声自動応答 (IVR) で収集した情報を使用して、顧客のコールをその情報とともに、適切なカスタマーサービス担当者にルートすることができます。

コールのメディアをルートポイントで終端するアプリケーションは、コール単位でコールのメディアおよびポートを指定する必要があります。CTI アプリケーションは、静的な IP アドレスまたは動的な IP アドレスとポート番号を使用して、CTI ポートおよび CTI ルートポイントでメディアを終了させることができます。

この章では、Cisco Unified Communications Manager を CTI アプリケーションとともに動作するように設定する方法について説明します。特定のアプリケーションの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』を参照してください。

利用可能な Cisco CTI アプリケーションの一部を次に示します。

- **Cisco IP Communicator** : コンピュータをフル機能の電話機に変えるデスクトップアプリケーションです。コールトラッキング、デスクトップコラボレーション、オンライン電話帳からのワンクリックダイヤルなどの機能を利用できます。
- **Cisco Unified Communications Manager 自動応答** : Unified Communications Manager と連携して、特定の内線電話番号でコールを受信し、発信者が適切な内線番号を選択できるようにします。
- **Cisco Web Dialer** : Cisco Unified IP Phone ユーザは ウェブ およびデスクトップ アプリケーションからコールを発信できます。

- Cisco Unified Communications Manager Assistant : マネージャとそのアシスタントがより効果的に協力して作業できます。この機能は、コールルーティングサービス、マネージャおよびアシスタント用の電話機拡張機能、および主にアシスタントが使用するアシスタントコンソールインターフェイスから構成されています。



(注) どの Unified Communications Manager CTI アプリケーションが SIP IP Phone をサポートしているかを確認するには、アプリケーション固有のマニュアルを参照してください。

CTI ルートポイントの概要

CTI ルートポイント仮想デバイスは、アプリケーションによって制御されるリダイレクトのための複数の同時コールを受信できます。ユーザがアプリケーションにアクセスするためにコールできる CTI ルートポイント上で 1 つ以上の回線を設定できます。アプリケーションはルートポイントでコールに応答することができ、コールを CTI ポートまたは IP Phone にリダイレクトすることもできます。CTI アプリケーションがリダイレクト API を使用してコールをリダイレクトすることを要求した場合、Cisco Unified Communications Manager は、リダイレクト先の通話者のために回線/デバイス コーリングサーチスペースの設定を使用します。

CTI ルートポイントでは、次のことができます。

- コールへの応答
- 複数のアクティブなコールの発信および受信
- コールのリダイレクト
- コールの保留
- コールの保留解除
- コールのドロップ

Cisco Unified Communications Manager の CTI 冗長性

クラスタ内の Unified Communications Manager ノードに障害が発生した場合、CTIManager は、影響を受けた CTI ポートおよびルートポイントを別の Unified Communications Manager ノードで置き直すことによって、これらのデバイスを回復します。アプリケーションによって電話デバイスが開かれていた場合、その電話が別の Unified Communications Manager にフェールオーバーしたときに CTIManager がその電話を開き直します。Cisco IP Phone が別の Unified Communications Manager にフェールオーバーしない場合、CTIManager は、その電話または電話機の回線を開くことができません。CTIManager は、デバイスプールに割り当てられている Unified Communications Manager グループを使用して、アプリケーションによって開かれた CTI デバイスと電話を回復するのにどの Unified Communications Manager を使用するかを決定します。

CTIManager 上の CTI 冗長性

CTIManager に障害が発生した場合、その CTIManager に接続されているアプリケーションは、これらのデバイスを別の CTIManager 上で再度開くことによって、影響を受けたリソースを回復できます。アプリケーションは、そのアプリケーションの設定時にプライマリとバックアップとして定義された CTIManager に基づいて、どの CTIManager を使用するかを決定します（そのアプリケーションによってサポートされている場合）。アプリケーションは、新しい CTIManager に接続すると、以前に開かれたデバイスと回線を再度開くことができます。アプリケーションは、電話が新しい Unified Communications Manager にリホームする前であれば Cisco IP Phone を開き直すことができますが、リホームが完了するまではその電話を制御できません。



(注) プライマリ CTIManager が作動状態に戻っても、アプリケーションはその CTIManager にリホームしません。アプリケーションがプライマリ CTIManager にフォールバックするのは、そのアプリケーションを再起動するか、またはバックアップ CTIManager に障害が発生した場合です。

アプリケーション障害の CTI 冗長性

アプリケーション（TAPI/JTAPI、または CTIManager に直接接続されているアプリケーション）に障害が発生した場合、CTIManager はそのアプリケーションを閉じ、CTI ポートおよびルートポイントでまだ終了していないコールを、設定された Call Forward On Failure (CFOF) 番号にリダイレクトします。CTIManager はまた、そのアプリケーションが回復してこれらのデバイスを再登録するまで、これらの CTI ポートおよびルートポイントへの後続のコールを、設定された Call Forward No Answer (CFNA) 番号にルーティングします。

CTI アプリケーションの前提条件

CTI アプリケーション用に Cisco Unified Communications Manager を設定する前に、デバイスプールを設定しておく必要があります。

CTI アプリケーションごとに IP Phone を追加して設定します。IP 電話を追加して設定する方法の詳細については、「Cisco Unified IP Phone」を参照してください。

CTI アプリケーションを使用するエンドユーザとアプリケーションユーザを設定する

コンピュータテレフォニー統合 (CTI) では、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスをサポートできる JTAPI および TAPI インターフェイスを通して IP アドレス情報が提供されます。IPv6 アドレスをサポートする必要がある場合は、アプリケーションが IPv6 をサポートする JTAPI/TAPI クライアントインターフェイスバージョンを使用していることを確認してください。

CTI アプリケーションの設定タスクフロー

CTI アプリケーション用に Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次のタスクに従います。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	CTIManager サービスのアクティブ化 (331 ページ)	アクティブになっていない場合、適切なサーバで CTIManager サービスをアクティブにします。
ステップ 2	CTIManager と Cisco Unified Communications Manager のサービスパラメータの設定 (331 ページ)	CTI のスーパープロバイダー機能と連携して使用される、CTIManager のクラスタ全体の拡張サービスパラメータを設定します。
ステップ 3	CTI ルート ポイントを設定するには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • CTI ルート ポイントの設定 (332 ページ) • 新しいコール受け付けタイマーの設定 (333 ページ) • 同時アクティブ通話の設定 (333 ページ) • CTI ルート ポイントの同期化 (334 ページ) 	アプリケーション制御のリダイレクションに複数の同時コールを受信できる 1 つ以上の CTI ルート ポイントの仮想デバイスを設定します。
ステップ 4	CTI デバイスの電話番号の設定 (334 ページ)	CTI デバイスの電話番号を設定します。
ステップ 5	デバイスとグループの関連付け (335 ページ)	アプリケーション ユーザとエンド ユーザがアプリケーションで使用するすべてのデバイスを、適切な Cisco Unified Communications Manager グループに関連付けます (デバイス プール経由)。
ステップ 6	エンドユーザとアプリケーションユーザの追加 (335 ページ)	エンドユーザとアプリケーションユーザを [標準CTIを有効にする (Standard CTI Enabled)] ユーザグループに追加して、Cisco Unified Communications Manager システムに設定されている CTI 制御可能なデバイスを CTI アプリケーションで制御できるようにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	(省略可) アプリケーション障害時の CTI 冗長性の設定 (337 ページ)	CTIManager が、連続する 2 回の間隔内でアプリケーションからメッセージを受信するまで待機する間隔を定義します。

CTIManager サービスのアクティブ化

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからノードを選択します。
- ステップ 3 [CM サービス (CM Services)] セクションで、[Cisco CTIManager] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

CTIManager と Cisco Unified Communications Manager のサービスパラメータの設定

CTI のスーパープロバイダー機能と連携して使用される、CTIManager のクラスタ全体の拡張サービスパラメータを設定します。



- (注) 設定した限度を超えた場合、CTI がアラームを生成しますが、アプリケーションは追加デバイスの処理を続行します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから [Cisco CTIManager (アクティブ) (Cisco CTIManager (Active))] を選択します。
- ステップ 4 [サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。

ステップ 5 [プロバイダーあたりの最大デバイス数 (Maximum Devices Per Provider)] フィールドに、単一の CTI アプリケーションが開くことのできるデバイスの最大数を入力します。デフォルトは 2000 デバイスです。

ステップ 6 [ノードあたりの最大デバイス数 (Maximum Devices Per Node)] フィールドに、Unified Communications Manager システム内の任意の CTIManager ノード上ですべての CTI アプリケーションが開くことのできるデバイスの最大数を入力します。デフォルトは 800 デバイスです。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ルートポイントの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	CTI ルートポイントの設定 (332 ページ)	新規の CTI ルートポイントを追加するか、既存のポイントを変更します。
ステップ 2	新しいコール受け付けタイマーの設定 (333 ページ)	コールがルートポイントに到着したとき、アプリケーションが指定時間内に処理 (受信、応答、リダイレクト) するように新しいコール受け入れタイマーを設定します。
ステップ 3	同時アクティブ通話の設定 (333 ページ)	ルートポイントの同時アクティブコール数を設定します。
ステップ 4	任意指定 : CTI ルートポイントの同期化 (334 ページ)	CTI ルートポイントを最新の設定変更と同期すると、割り込みを最小限に抑えながら、適用されていない構成設定を適用できます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部でリセットまたは再起動を行う必要がない場合があります)。

CTI ルートポイントの設定

新規の CTI ルートポイントを追加するか、既存のポイントを変更します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順にクリックします。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいゲートウェイを追加します。
- 既存の CTI ルートポイントの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから CTI ルートポイントを選択して、検索条件を入力します。

ステップ 3 [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

新しいコール受け付けタイマーの設定

コールがルートポイントに到着したとき、アプリケーションが指定時間内に処理（受信、応答、リダイレクト）するように新しいコール受け入れタイマーを設定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからノードを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから [Cisco CallManager (アクティブ) (Cisco CallManager (Active))] を選択します。

ステップ 4 [CTI の新しいコール受け付けタイマー (CTI New Call Accept Timer)] フィールドで、コールの応答を許可する時間を指定します。デフォルト値は 4 です。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

同時アクティブ通話の設定

ルートポイントの同時アクティブコール数を設定します。



(注) TAPI アプリケーションを使用し、Cisco CallManager Telephony Service Provider (TSP) を使用して CTI ポートデバイスを制御することを計画している場合は、CTI ポートデバイスごとに 1 つの回線を設定するだけで済みます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] をクリックします。

- ステップ2 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ3 必須フィールドに入力します。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

CTI ルートポイントの同期化

CTI ルートポイントを最新の設定変更と同期すると、割り込みを最小限に抑えながら、適用されていない構成設定を適用できます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部でリセットまたは再起動を行う必要がない場合があります）。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順にクリックします。
 - ステップ2 [CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックして、CTI ルートポイントの一覧を表示します。
 - ステップ3 同期させる CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ4 [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
 - ステップ5 [OK] をクリックします。
-

CTI デバイスの電話番号の設定

CTI デバイスの電話番号を設定します。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
 - ステップ2 [電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ3 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、必要なフィールドを入力します。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

デバイスとグループの関連付け

アプリケーションユーザとエンドユーザがアプリケーションで使用するすべてのデバイスを、適切な Cisco Unified Communications Manager グループに関連付けます（デバイスプール経由）。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザの管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] をクリックします。
- ステップ 2** [アプリケーションユーザの検索/一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [デバイス情報 (Device Information)] ペインで、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストから [制御するデバイス (Controlled Devices)] リストに移動して、デバイスを関連付けます。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** エンドユーザのデバイスを関連付けるには、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] をクリックします。
- ステップ 6** ステップ 2～4 を繰り返します。

エンドユーザとアプリケーションユーザの追加

エンドユーザとアプリケーションユーザを [標準CTIを有効にする (Standard CTI Enabled)] ユーザグループに追加して、Cisco Unified Communications Manager システムに設定されている CTI 制御可能なデバイスを CTI アプリケーションで制御できるようにします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [アクセス制御グループ (Access Control Group)] をクリックします。
- ステップ 2** [アクセス制御グループの検索と一覧表示 (Find and List Access Control Groups)] ウィンドウで、[検索 (find)] をクリックして、アクセス制御グループの現在のリストを表示します。
- ステップ 3** [標準 CTI を有効にする (Standard CTI Enabled)] をクリックすると、このグループの [アクセス制御グループの設定 (Access Control Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。すべての CTI ユーザが [標準 CTI を有効にする (Standard CTI Enabled)] ユーザグループに含まれることを確認します。使用可能なグループとその機能の完全な一覧については、「アクセス制御グループ設定のオプション」を参照してください。
- ステップ 4** エンドユーザを追加する場合は、[グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。アプリケーションユーザを追加する場合は、[アプリケーションユーザをグループに追加 (Add App Users to Group)] をクリックします。

ステップ5 [Find (検索)] をクリックして現在のユーザの一覧を表示します。

ステップ6 [標準CTIを有効にする (Standard CTI Enabled)] ユーザグループに割り当てるユーザのチェックボックスをオンにします。

ステップ7 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

アクセス制御グループの設定オプション



(注) CTIアプリケーションは、割り当て先の指定されたユーザグループをサポートしている必要があります。



(注) Standard CTI Allow Control of All Devices ユーザグループに関連付けられているユーザは、Standard CTI Secure Connection ユーザグループにも関連付けることをお勧めします。

フィールド	説明
[標準CTI通話モニタリング許可 (Standard CTI Allow Call Monitoring)]	このユーザグループでは、アプリケーションがコールをモニタできます。
[標準CTIコールパークモニタリング許可 (Standard CTI Allow Call Park Monitoring)]	このユーザグループでは、コールがすべてのコールパークディレクトリの番号にパーク/パーク解除される時、アプリケーションが通知を受信できます。
[標準CTI通話録音許可 (Standard CTI Allow Call Recording)]	このユーザグループでは、アプリケーションがコールを記録できます。
[標準CTI発信者番号の変更許可 (Standard CTI Allow Calling Number Modification)]	このユーザグループでは、サポートされているCTIアプリケーションの発信側番号をアプリケーションが変更できません。
[標準CTIによるすべてのデバイスの制御 (Standard CTI Allow Control of All Devices)]	このユーザグループでは、システムのCTI制御可能なデバイスをアプリケーションが制御またはモニタできます。
[標準CTI SRTP重要素材の受信許可 (Standard CTI Allow Reception of SRTP Key Material)]	このユーザグループでは、暗号化されたメディアのストリームの復号に必要な情報をアプリケーションが受け取ることができます。通常、このグループは記録およびモニタのために使用されます。
[標準CTI対応 (Standard CTI Enabled)]	すべてのCTIアプリケーションに必要なこのユーザグループでは、アプリケーションがCisco Unified Communications Managerに接続し、CTIの機能を利用できます。

フィールド	説明
[標準CTIセキュア接続 (Standard CTI Secure Connection)]	このグループに入るためには、アプリケーションが Cisco Unified Communications Manager にセキュア (TLS) な CTI 接続が可能で、Cisco Unified Communications Manager のクラスタのセキュリティが有効になっていることが必要です。

アプリケーション障害時の CTI 冗長性の設定

CTIManager が、連続する 2 回の間隔内でアプリケーションからメッセージを受信するまで待機する間隔を定義します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからノードを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CTI Manager (アクティブ) (Cisco CTIManager (Active))] を選択します。
- ステップ 4** [サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。
- ステップ 5** [アプリケーションハートビート最小間隔 (Application Heartbeat Minimum Interval)] フィールドに、最小間隔の時間を入力します。デフォルトは 5 です。
- ステップ 6** [アプリケーションハートビート最大間隔 (Application Heartbeat Maximum Interval)] フィールドに、最大間隔の時間を入力します。デフォルトは 3600 です。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。



第 **IV** 部

エンドユーザのプロビジョニング

- [プロビジョニング プロファイルの設定 \(341 ページ\)](#)
- [LDAP 同期の設定 \(359 ページ\)](#)
- [一括管理ツールを使用したユーザおよびデバイスのプロビジョニング \(369 ページ\)](#)



第 27 章

プロビジョニング プロファイルの設定

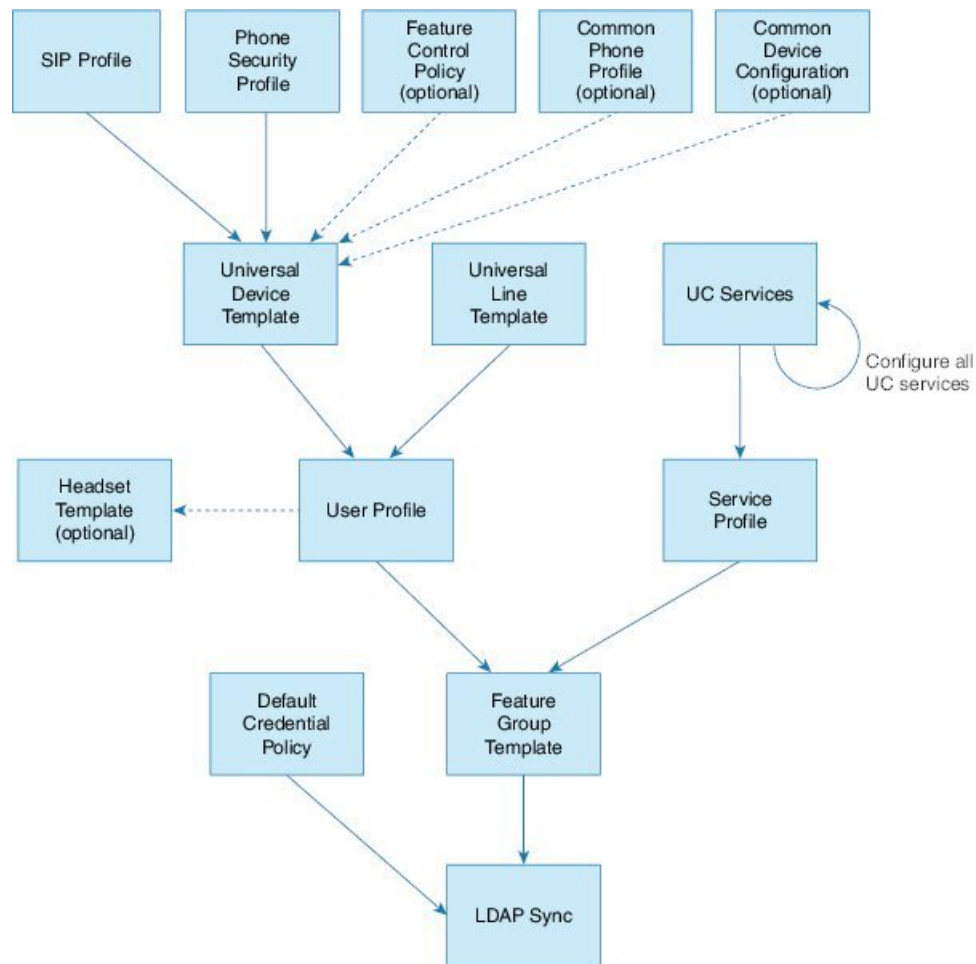
- [プロビジョニング プロファイルの概要 \(341 ページ\)](#)
- [プロビジョニング プロファイルのタスク フロー \(342 ページ\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(344 ページ\)](#)
- [電話機のセキュリティ プロファイルの設定 \(345 ページ\)](#)
- [機能管理ポリシーの作成 \(346 ページ\)](#)
- [共通の電話プロファイルの作成 \(347 ページ\)](#)
- [共通デバイス設定の構成 \(348 ページ\)](#)
- [ユニバーサル デバイス テンプレートの設定 \(349 ページ\)](#)
- [ユニバーサル回線テンプレートの設定 \(350 ページ\)](#)
- [ユーザ プロファイルの設定 \(351 ページ\)](#)
- [ヘッドセットテンプレートの設定 \(353 ページ\)](#)
- [UC サービスの設定 \(354 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルの設定 \(355 ページ\)](#)
- [機能グループ テンプレートの設定 \(355 ページ\)](#)
- [デフォルトのクレデンシヤル ポリシーの設定 \(356 ページ\)](#)

プロビジョニング プロファイルの概要

ユニファイドコミュニケーションマネージャには、新しいユーザに割り当てることができるプロファイルとテンプレートのセットが含まれています。これらのプロファイルと共通の設定を事前に設定した場合、新しいユーザをプロビジョニングしてデバイスを割り当てると、ユーザとデバイスが適用される設定に基づいて自動的に設定されます。

ユーザをプロビジョニングするときは、必要な設定が含まれているユーザプロファイルとサービスプロファイルにそれらに関連付けます。さらに、ユーザにデバイスを追加すると、そのユーザのユーザプロファイルに関連付けられているユニバーサル回線およびユニバーサルデバイステンプレートを使用して、デバイスと電話番号がすぐに設定されます。

次のプロファイルとテンプレートを使用して、ユーザのニーズに基づいて共通の設定をユーザとエンドポイントに適用できます。



プロビジョニング プロファイルのタスク フロー

プロビジョニングするユーザとデバイスが多数ある場合は、テンプレートを使用してユーザプロフィールとサービスプロフィールを設定し、特定のグループ (カスタマーサポートなど) のユーザに適用する共通の設定を行うことで、設定プロセスを簡素化できます。

ユーザをプロビジョニングするときは、必要な設定が含まれているユーザプロフィールとサービスプロフィールにそれらに関連付けます。さらに、ユーザにデバイスを追加すると、そのユーザのユーザプロフィールに関連付けられているユニバーサル回線およびユニバーサルデバイステンプレートを使用して、デバイスと電話番号がすぐに設定されます。

次のプロフィールとテンプレートを使用して、ユーザのニーズに基づいて共通の設定をユーザとエンドポイントに適用できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SIP プロファイルの設定 (344 ページ)	展開する SIP エンドポイントに関連付けられる共通の SIP 設定をセットアップします。
ステップ 2	電話機のセキュリティプロファイルの設定 (345 ページ)	プロビジョニングされたエンドポイントに割り当てるセキュリティプロファイルを設定します。TLS や TFTP 暗号化などの設定を割り当てます。
ステップ 3	機能管理ポリシーの作成 (346 ページ)	(省略可) このポリシーを使用すると、特定の機能を有効化して、電話機のソフトキーの外観を制御できます。
ステップ 4	共通の電話プロファイルの作成 (347 ページ)	(省略可) このプロファイルを使用して、TFTP データと製品固有の設定のデフォルトを、エンドポイントのグループに割り当てることができるプロファイルに割り当てます。
ステップ 5	共通デバイス設定の構成 (348 ページ)	(省略可) エンドポイントにユーザ固有の設定と IPv6 設定を割り当てるには、この設定を使用します。
ステップ 6	ユニバーサルデバイステンプレートの設定 (349 ページ)	このテンプレートには、新しくプロビジョニングされた電話機の設定に使用される共通の設定が含まれています。設定したプロファイルはこのテンプレートに割り当てることができます。
ステップ 7	ユニバーサル回線テンプレートの設定 (350 ページ)	このテンプレートには、新しくプロビジョニングされた拡張機能を設定するために使用される共通の設定が含まれています。内線用のエンタープライズ番号および E.164 番号を設定することもできます。
ステップ 8	ユーザプロファイルの設定 (351 ページ)	デバイステンプレート、回線テンプレート、および新しくプロビジョニングされたユーザの共通設定を使用して、ユーザプロファイルを設定します。
ステップ 9	ヘッドセットテンプレートの設定 (353 ページ)	(省略可) Cisco ヘッドセットを使用して、設定したユーザプロファイルに

	コマンドまたはアクション	目的
		ヘッドセットテンプレートを割り当てる予定の場合。
ステップ 10	UC サービスの設定 (354 ページ)	IM and Presence Service やディレクトリサービスなどの UC サービスを設定します。
ステップ 11	サービス プロファイルの設定 (355 ページ)	プロビジョニングされたユーザに割り当てる UC サービスを含む、サービス プロファイルを作成します。
ステップ 12	機能グループテンプレートの設定 (355 ページ)	LDAP 同期の場合、LDAP 同期されたユーザに割り当てることができる機能グループテンプレートにユーザプロフィールとサービスプロフィールを追加します。
ステップ 13	デフォルトのクレデンシャルポリシーの設定 (356 ページ)	新しくプロビジョニングされたユーザに割り当てるクレデンシャルポリシーを設定します。

次のタスク

- 新しいユーザをプロビジョニングするための LDAP 同期の設定
- LDAP を展開していない場合は、一括管理を使用してユーザを一括でプロビジョニングできます。

SIP プロファイルの設定

共通 SIP 設定を使用して SIP プロファイルを設定するには、この手順を使用します。設定した SIP プロファイルは、SIP デバイスに割り当てることができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] [デバイス の設定 (Device Settings)] [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のプロファイルを編集するには、[検索 (Find)] をクリックし、SIP プロファイルを選択します。
 - 新しいプロファイルを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ 3** プロファイルの [名前 (Name)] を入力します。
- ステップ 4** URI ダイヤリングを展開する場合は、[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] を設定して、コールをディレクトリ URI または電話番号として処理するかどうかをシステムに指示します。
- ステップ 5** [電話で使用されるパラメータ (Parameters Used in Phone)] で DSCP 設定を指定して、このプロファイルを使用するコールのタイプに対する QoS 処理を定義します。
- ステップ 6** (任意) 正規化スクリプトを割り当てる必要がある場合は、[正規化スクリプト (Normalization Script)] ドロップダウンリストからいずれかのデフォルトスクリプトを選択します。
- (注) 独自のスクリプトを作成することもできます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』を参照してください。
- ステップ 7** このプロファイルで IPv4 と IPv6 の両方のスタックを同時にサポートする場合は、[ANATの有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** ユーザがプレゼンテーションを共有できるようにするには、[BFCPを使用するプレゼンテーションの共有を許可 (Allow Presentation Sharing using BFCP)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9** [SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

電話機のセキュリティ プロファイルの設定

エンドポイントの TLS シグナリング、CAPF、ダイジェスト認証の要件などのセキュリティ機能を有効にする場合は、エンドポイントに適用できる新しいセキュリティプロファイルを設定する必要があります。



- (注) デフォルトでは、プロビジョニングされたデバイスに SIP 電話セキュリティプロファイルを適用しない場合、デバイスは非セキュアプロファイルを使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [電話のセキュリティプロファイルのタイプ (Phone Security Profile Type)] ドロップダウンリストから [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] を選択し、デバイステンプレートを使用してプロビジョニングする際に使用できるプロファイルを作成します。

(注) 必要に応じて、特定のデバイス モデルのセキュリティ プロファイルを作成することもできます。

- ステップ 4 プロトコルを選択します。
- ステップ 5 [名前 (Name)] フィールドにプロファイルの適切な名前を入力します。
- ステップ 6 TLS シグナリングを使用してデバイスに接続する場合は、[デバイスのセキュリティモード (Device Security Mode)] を [認証済み (Authenticated)] または [暗号化 (Encrypted)] に設定し、[トランスポートタイプ (Transport Type)] を [TLS] に設定します。
- ステップ 7 (任意) 電話でダイジェスト認証を使用する場合は、[OAuth認証の有効化 (Enable OAuth Authentication)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8 (任意) 暗号化された TFTP を使用する場合は、[TFTP暗号化設定 (TFTP Encrypted Config)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9 [電話のセキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

機能管理ポリシーの作成

機能管理ポリシーを作成するには、次の手順に従います。このポリシーを使用して、特定の機能を有効化または無効化し、電話に表示されるソフトキーの外観を制御します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を選択します。
- ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。
 - 既存のポリシーの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストからポリシーを選択します。
 - 新しいポリシーを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [機能管理ポリシーの設定 (Feature Control Policy Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに機能管理ポリシーの名前を入力します。
- ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、この機能管理ポリシーの説明を入力します。
- ステップ 5 [機能管理セクション (Feature Control Section)] でリストされている各機能に対して、システム デフォルトをオーバーライドするか、次の設定を有効/無効にするかを選択します。

- デフォルトで有効な機能の設定を無効にする場合は、[デフォルトをオーバーライド (Override Default)] チェックボックスをオンにして、[設定を有効にする (Enable Setting)] チェックボックスをオフにします。
- デフォルトで無効な機能の設定を有効にする場合は、[デフォルトをオーバーライド (Override Default)] チェックボックスをオンにして、[設定を有効にする (Enable Setting)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

共通の電話プロファイルの作成

共通の電話プロファイルは、プロファイルを使用する電話の TFTP データと製品固有の設定のデフォルトを設定するために使用できるオプションのプロファイルです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] メニューパスを選択して、共通の電話プロファイルを設定します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** プロファイルの [名前 (Name)] を入力します。
- ステップ 4** プロファイルの [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 5** このプロファイルを使用する電話に [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を設定する場合は、ドロップダウンリストからポリシーを選択します。
- ステップ 6** [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7** [製品固有の設定レイアウト (Product-Specific Configuration Layout)] の下にあるフィールドを設定します。フィールドの説明については、[?] をクリックして、フィールド固有のヘルプを参照してください。
- ステップ 8** (任意) モバイルおよびリモートアクセスの電話機用に Interactive Connectivity Establishment (ICE) を有効にするには、次の手順を実行します。
 - a) [ICE] ドロップダウンを [有効 (Enabled)] に設定します。
 - b) [デフォルト候補タイプ (Default Candidate Type)] を次のいずれかに設定します。
 - [ホスト (Host)] : ホストデバイスで IP アドレスを選択することで取得される候補。これはデフォルトです。

- [サーバ再帰 (Server Reflexive)] : STUN 要求を送信することで取得される IP アドレスとポートの候補。多くの場合、これは NAT のパブリック IP アドレスを表している可能性があります。
- [中継 (Relayed)] : TURN サーバから取得される IP アドレスとポートの候補。IP アドレスとポートは、メディアが TURN サーバを介して中継されるように、TURN サーバに常駐しています。

c) 残りの ICE フィールドを設定します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

共通デバイス設定の構成

共通デバイス設定は、任意指定のユーザ固有の機能属性で構成されます。IPv6 を導入している場合は、この設定を使用して SIP トランクまたは SCCP 電話に IPv6 優先設定を割り当てることができます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 SIP トランク、SIP 電話または SCCP 電話の場合、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] ドロップダウンリストの値を選択します。

- [IPv4 のみ (IPv4 Only)] — デバイスはメディアやシグナリングに IPv4 アドレスだけを使用します。
- [IPv6 のみ (IPv6 Only)] — デバイスはメディアやシグナリングに IPv6 アドレスだけを使用します。
- [IPv4 および IPv6 (IPv4 and IPv6)] — (デフォルト) デバイスはデュアルスタックデバイスで、利用できる IP アドレスのタイプを使用します。両方の IP アドレスのタイプがデバイスに設定されている場合、デバイスのシグナリングには、[シグナリング用 IP アドレッシングモード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] 設定を使用し、メディアデバイスには、[メディア用 IP アドレッシングモード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Media)] エンタープライズパラメータの設定を使用します。

ステップ 4 前のステップで IPv6 を設定した場合は、[シグナリング用の IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode for Signaling)] ドロップダウンリストで IP アドレッシング設定を指定します。

- [IPv4 (IPv4)] — デュアルスタックデバイスでシグナリングに IPv4 アドレスを優先して使用します。

- [IPv6 (IPv6)]—デュアル スタック デバイスでシグナリングに IPv6 アドレスを優先して使用します。
- [システム デフォルトを使用 (Use System Default)]—デバイスは、[シグナリング用 IP アドレッシング モード優先設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] エンタープライズ パラメータの設定を使用します。

ステップ 5 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ユニバーサル デバイス テンプレートの設定

ユニバーサル デバイス テンプレートを使用すると、新しくプロビジョニングしたデバイスに簡単に設定を適用できます。プロビジョニングされたデバイスは、ユニバーサル デバイス テンプレートの設定を使用します。さまざまなユーザグループのニーズを満たすために、異なるデバイステンプレートを設定できます。設定したプロファイルがこのテンプレートに割り当てられることもできます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル デバイス テンプレート (Universal Device Template)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 次の必須フィールドに入力します。

- a) テンプレートの [デバイスの説明 (Device Description)] を入力します。
- b) [デバイスプールタイプ (Device Pool Type)] を 65 Device Pools 選択します。
- c) [デバイスのセキュリティプロファイル (Device Security Profile)] をドロップダウン リストから選択します。
- d) [SIPプロファイル (SIP Profile)] をドロップダウンリストから選択します。
- e) [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] をドロップダウンリストから選択します。

ステップ 4 [ユニバーサルデバイステンプレートの設定 (Universal Device Template Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [電話の設定 (Phone Settings)] で、次の任意指定のフィールドを入力します。

- a) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] を設定した場合は、そのプロファイルを割り当てます。

- b) [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を設定した場合は、その設定を割り当てます。
- c) [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を設定した場合は、そのポリシーを割り当てます。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ユニバーサル回線テンプレートの設定

ユニバーサル回線テンプレートを使用すると、新しく割り当てられたディレクトリ番号に共通の設定を簡単に適用できます。さまざまなユーザグループのニーズに合わせて、異なるテンプレートを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユニバーサル回線テンプレートの設定 (Universal Line Template Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** 代替番号を使用したグローバルダイヤルプランレプリケーションを展開する場合は、[エンタープライズ代替番号 (Enterprise Alternate Number)] セクションと [+E.164代替番号 (+E.164 Alternate Number)] セクションを展開して、次の手順を実行します。
 - a) [エンタープライズ代替番号の追加 (Add Enterprise Alternate Number)] ボタンまたは [+E.164 代替番号の追加 (Add +E.164 Alternate Number)] ボタンのいずれか、または両方をクリックします。
 - b) 代替番号への割り当てに使用する [番号マスク (Number Mask)] を追加します。たとえば、4桁の内線番号では、エンタープライズ番号マスクとして 5XXXX を使用し、+E.164 代替番号マスクとして 1972555XXXX を使用することが考えられます。
 - c) 代替番号を割り当てるパーティションを割り当てます。
 - d) ILS を通じてこの番号をアドバタイズする場合は、[ILS経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] チェックボックスをオンにします。アドバタイズされたパターンを使用して一定の代替番号の範囲を要約している場合は、個別の代替番号をアドバタイズする必要はありません。
 - e) [PSTNフェールオーバー (PSTN Failover)] セクションを展開して、通常のコールルーティングが失敗した場合に使用する PSTN フェールオーバーとして、[エンタープライズ番号 (Enterprise Number)] または [+E.164代替番号 (+E.164 Alternate Number)] を選択します。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

ユーザ プロファイルの設定

ユーザ プロファイルを使用して、ユニバーサル回線テンプレートとユニバーサル デバイス テンプレートをユーザに割り当てます。さまざまなユーザ グループ用に複数のユーザ プロファイルを設定します。このサービスプロファイルを使用するユーザに対してセルフプロビジョニングを有効にすることもできます。

手順

- ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)]から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ設定 (User Settings)]>[ユーザプロファイル (User Profile)]を選択します。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)]をクリックします。
- ステップ3 ユーザ プロファイルの [名前 (Name)]および [説明 (Description)]を入力します。
- ステップ4 [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)]を、ユーザの [デスクフォン (Desk Phones)]、[モバイルおよびデスクトップデバイス (Mobile and Desktop Devices)]、および [リモート接続先/デバイスプロファイル (Remote Destination/Device Profiles)]に割り当てます。
- ステップ5 [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)]をこのユーザプロファイルのユーザの電話回線に適用するために割り当てます。
- ステップ6 このユーザプロファイルのユーザに自分の電話をプロビジョニングするセルフプロビジョニング機能の使用を許可するには、次の手順を実行します
- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)]チェックボックスをオンにします。
 - [エンドユーザのプロビジョニングする電話数を制限 (Limit Provisioning once End User has this many phones)]フィールドに、ユーザがプロビジョニングできる電話の最大数を入力します。最大値は20です。
 - このプロファイルに関連付けられたユーザに、別のユーザがすでに所有しているデバイスを移行または再割り当てする権限があるかどうかを判断するには、[すでに別のエンドユーザに割り当てられた電話機のプロビジョニングを許可する (Allow Provisioning of a phone already assigned to a different End User)]チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
- ステップ7 このユーザプロファイルに関連付けられた Cisco Jabber ユーザがモバイルおよびリモートアクセス機能を使用できるようにするには、[モバイルおよびリモートアクセスの有効化 (Enable Mobile and Remote Access)]チェックボックスをオンにします。

- (注)
- デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。このチェックボックスをオフにすると、[Jabber ポリシー (Jabber Policies)] セクションが無効になり、サービス クライアント ポリシー オプションは、デフォルトで選択されません。
 - この設定は、OAuth 更新ログインを使用している Cisco Jabber のユーザにのみ必須です。非 Jabber ユーザは、この設定がなくてもモバイルおよびリモートアクセスを使用できます。モバイルおよびリモートアクセス機能は、Jabber のモバイルおよびリモートアクセスユーザにのみ適用され、他のエンドポイントまたはクライアントには適用されません。

ステップ 8 このユーザ プロファイルに Jabber ポリシーを割り当てます。[Jabber デスクトップクライアントポリシー (Jabber Desktop Client Policy)] および [Jabber モバイルクライアントポリシー (Jabber Mobile Client Policy)] のドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [サービスなし (No Service)] : このポリシーでは、すべての Cisco Jabber サービスへのアクセスが禁止されます。
- [IM & Presence のみ (IM & Presence only)] : このポリシーは、インスタントメッセージとプレゼンス機能だけを有効にします。
- [IM & Presence、音声およびビデオ通話 (IM & Presence, Voice and Video calls)] : このポリシーは、オーディオまたはビデオデバイスを所有しているすべてのユーザーに対して、インスタントメッセージング、プレゼンス、ボイスメール、および会議機能を有効にします。これがデフォルトのオプションです。

- (注) Jabber デスクトップクライアントには、Windows ユーザ用 Cisco Jabber と、Mac ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。Jabber モバイルクライアントには、iPad および iPhone ユーザ用 Cisco Jabber と、Android ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。

ステップ 9 このユーザ プロファイルのユーザが Cisco Unified Communications セルフケア ポータルで Extension Mobility または Extension Mobility Cross Cluster の最大ログイン時間を設定できるようにするには、[エンドユーザにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェックボックスをオンにします。

- (注) デフォルトでは [エンドユーザにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェックボックスはオフになっています。

ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

ヘッドセットテンプレートの設定

シスコヘッドセットに適用できるカスタマイズされた設定でヘッドセットテンプレートを設定するには、次の手順を使用します。カスタマイズしたテンプレートを作成するか、システム定義の標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートを使用できます。



- (注) 標準のデフォルトのヘッドセット設定テンプレートは、システム定義のテンプレートです。標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートに新しいユーザプロファイルを割り当てることはできますが、テンプレートを編集することはできません。デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルがこのテンプレートに割り当てられます。このテンプレートからユーザプロファイルの関連付けを解除するには、新しいテンプレートにプロファイルを割り当てる必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [ヘッドセット (Headset)] > [ヘッドセットテンプレート (Headset Template)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- 既存のテンプレートを編集するには、テンプレートを選択します。
 - 新しいテンプレートを作成するには、既存のテンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。既存の設定が新しいテンプレートに適用されます。
- ステップ 3** テンプレートの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を追加します。
- ステップ 4** [モデルとファームウェアの設定 (Model and Firmware Settings)] で、このテンプレートに適用するカスタマイズされたヘッドセット設定を割り当てます。新しい設定を追加するには、[追加 (Add)] ボタンをクリックして設定項目を指定します。
- ステップ 5** 上下の矢印を使用して、このテンプレートに割り当てるユーザプロファイルを、[割り当てられているユーザプロファイル (Assigned Users Profiles)] リストボックスに移動します。これらのプロファイルに割り当てられているすべてのユーザは、このヘッドセットテンプレートにも割り当てられます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** デフォルトのテンプレート設定に戻すには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンを使用します。
- ステップ 8** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- 標準のデフォルトヘッドセット構成テンプレートでは、以下に対して [設定の適用 (Apply Config)] ボタンが有効になります。
- 割り当てられたユーザプロファイルリストに追加したユーザが所有しているデバイス
 - 名前非表示のデバイス

カスタマイズされたヘッドセット構成テンプレートでは、[割り当てられているユーザプロフィール (Assigned User Profiles)] リストに追加されたユーザが所有するデバイスに対してのみ [設定の適用 (Apply Config)] ボタンが有効になります。

UC サービスの設定

ユーザが使用する UC サービス接続を設定するには、次の手順を使用します。次の UC サービスの接続を設定できます。

- ボイスメール
- メールストア
- 会議
- ディレクトリ
- IM and Presence Service
- CTI
- ビデオ会議スケジュールポータルの設定
- Jabber クライアント設定 (jabber-config.xml)



(注) フィールドは、設定する UC サービスによって異なる場合があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Services)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [UC サービスタイプ (UC Service Type)] ドロップダウンリストから、設定する UC サービスを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [製品タイプ (Product Type)] を選択します。
- ステップ 5** [名前 (Name)] にサービスの名前を入力します。
- ステップ 6** サービスが存在するサーバーの **ホスト名または IP アドレス** を入力します。
- ステップ 7** [ポート (Port)] および [プロトコル (Protocol)] の情報を入力します。
- ステップ 8** 残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。フィールドオプションは、導入している UC サービスによって異なります。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 10 必要なすべての UC サービスをプロビジョニングするまで、この手順を繰り返します。

(注) サービスを複数のサーバに配置する場合は、別のサーバを指す複数の UC サービス接続を設定します。たとえば、IM and Presence Service の集中展開では、複数の IM and Presence UC サービスがそれぞれ異なる IM and Presence ノードを指すように設定することを推奨します。すべての UC 接続を設定した後、それらをサービスプロファイルに追加することができます。

サービス プロファイルの設定

このプロファイルを使用するエンドユーザに割り当てる UC サービスを含む、サービス プロファイルを設定します。

始める前に

サービス プロファイルに追加する前に、Unified Communications (UC) サービスをセットアップする必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービスプロファイル (Service Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** 選択したサービス プロファイルの設定の [名前 (Name)] を入力します。
- ステップ 4** 選択したサービス プロファイルの設定の [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 5** このプロファイルに含める各 UC サービスに、そのサービス用の [プライマリ (Primary)]、[セカンダリ (Secondary)]、および [ターシャリ (Tertiary)] の接続を割り当てます。
- ステップ 6** [サービスプロファイルの設定 (Service Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

機能グループ テンプレートの設定

機能グループテンプレートは、プロビジョニングされたユーザ用に、電話、回線、および機能をすばやく設定できるようにすることで、システムの展開をサポートします。企業の LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、ディレクトリからユーザを同期させるユーザ プロファイルおよびサービス プロファイルを使用して機能グループ テンプレートを設定しま

す。このテンプレートを使用して、同期されたユーザに対して IM and Presence Service を有効化することもできます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 機能グループ テンプレートの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 4 このテンプレートを使用するすべてのユーザのホーム クラスタとしてローカル クラスタを使用する場合は、[ホーム クラスタ (Home Cluster)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 5 このテンプレートを使用するユーザがインスタントメッセージおよびプレゼンス情報を交換できるようにするには、[Unified CM IM and Presenceのユーザを有効化 (Enable User for Unified CM IM and Presence)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 ドロップダウン リストから、[サービスプロファイル (Services Profile)] および [ユーザプロフィール (User Profile)] を選択します。
- ステップ 7 [機能グループ テンプレートの設定 (Feature Group Template Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

機能グループ テンプレートと LDAP ディレクトリ同期を関連付け、テンプレートの設定を同期したエンドユーザに適用します。

デフォルトのクレデンシャルポリシーの設定

新しくプロビジョニングされたユーザに適用されるクラスタ全体のデフォルトクレデンシャルポリシーを設定するには、次の手順を使用します。次の各ログイン情報タイプに対して、個別のログイン情報ポリシーを適用できます。

- アプリケーション ユーザ パスワード
- エンドユーザのパスワード
- エンドユーザ PIN

手順

ステップ 1 クレデンシャルポリシーの設定を入力します。

- a) Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] を選択します。
- b) 次のいずれかを実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のクレデンシャルポリシーを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいクレデンシャルポリシーを作成します。
- c) ABCD や 123456 のようなハッキングされやすいパスワードをシステムにチェックさせる場合は、[単純すぎるパスワードのチェック (Check for Trivial Passwords)] チェックボックスをオンにします。
- d) [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- e) [保存 (Save)] をクリックします。
- f) 他のクレデンシャルタイプのいずれかに対して異なるクレデンシャルポリシーを作成する場合は、これらの手順を繰り返します。

ステップ 2 クレデンシャルポリシーをクレデンシャルタイプのいずれかに適用します。

- a) Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] を選択します。
- b) クレデンシャルポリシーを適用するクレデンシャルタイプを選択します。
- c) [クレデンシャルポリシー (Credential policy)] ドロップダウンから、このクレデンシャルタイプに適用するクレデンシャルポリシーを選択します。たとえば、作成したクレデンシャルポリシーを選択することもできます。
- d) [クレデンシャルの変更 (Change Credential)] フィールドと [クレデンシャルの確認 (Confirm Credential)] フィールドの両方にデフォルトのパスワードを入力します。ユーザは次のログイン時にこれらのパスワードを入力する必要があります。
- e) [クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定 (Credential Policy Default Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- f) [保存 (Save)] をクリックします。
- g) 他のクレデンシャルタイプのいずれかにクレデンシャルポリシーを割り当てる場合は、これらの手順を繰り返します。



-
- (注) 個人ユーザに対して、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ、またはそのユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウから、特定のユーザログイン情報にポリシーを割り当てることもできます。ログイン情報タイプ (パスワードまたはPIN) の隣にある [ログイン情報の編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックして、そのユーザログイン情報に関する [ログイン情報の設定 (Credential Configuration)] を開きます。
-



第 28 章

LDAP 同期の設定

- [LDAP 同期の概要 \(359 ページ\)](#)
- [LDAP 同期の前提条件 \(360 ページ\)](#)
- [LDAP 同期の設定タスク フロー \(360 ページ\)](#)

LDAP 同期の概要

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の同期は、システムのエンドユーザのプロビジョニングと設定を支援します。LDAP の同期中、システムは外部 LDAP ディレクトリから Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザのリストと関連するユーザデータをインポートします。インポートしている間に、エンドユーザを設定することもできます。



- (注) Unified Communication Manager は、LDAPS (SSL を使用した LDAP) をサポートしますが、StartTLS を使用した LDAP はサポートしていません。LDAP サーバ証明書を Unified Communication Manager に Tomcat-Trust 証明書としてアップロードします。

サポートされている LDAP ディレクトリの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* と *IM and Presence Service* の互換性マトリクスを参照してください。

LDAP 同期では、以下の機能がアドバタイズされます。

- **エンドユーザのインポート** : LDAP 同期を使用して、システムの初期設定時にユーザー一覧を会社の LDAP ディレクトリから Unified Communication Manager のデータベースにインポートできます。機能グループテンプレート、ユーザプロファイル、サービスプロファイル、ユニバーサルデバイス、回線テンプレートなどの設定項目が設定されている場合は、設定をユーザに適用することができ、また、同期プロセス中に設定したディレクトリ番号とディレクトリ Uri を割り当てることができます。LDAP 同期プロセスは、ユーザーリストとユーザー固有のデータをインポートし、設定した構成テンプレートを適用します。



- 注 初期同期が実行された以降は、LDAP 同期を編集することはできません。

- **スケジュールされた更新**：Unified Communication Manager をスケジュールされた間隔で複数の LDAP ディレクトリと同期するように設定できます。これによって確実にデータベースが定期的に更新され、すべてのユーザ データを最新に保ちます。
- **エンドユーザの認証**：LDAP 同期を使用して、システムが Cisco Unified Communication Manager データベースではなく、LDAP ディレクトリに対してエンドユーザパスワードを認証するように設定できます。LDAP 認証によって、企業は、すべての企業内アプリケーションに対応する単一のパスワードをエンドユーザに割り当てることができます。この機能は、PIN またはアプリケーション ユーザパスワードには適用されません。
- **Cisco モバイルおよびリモートアクセス クライアントおよびエンドポイントのディレクトリサーバユーザ検索**：企業ファイアウォールの外部で操作している場合でも、社内ディレクトリサーバを検索できます。この機能を有効にすると、ユーザデータ サービス (UDS) がプロキシとして機能し、Unified Communication Manager データベースにユーザ検索要求を送信する代わりに、それを社内ディレクトリに送信します。

LDAP 同期の前提条件

前提タスク

LDAP ディレクトリからエンドユーザをインポートする前に、次のタスクを実行します。

- ユーザアクセスを設定します。ユーザに割り当てるアクセス制御グループを決定します。ほとんどの導入環境では、デフォルトのグループで十分です。ロールとグループをカスタマイズする必要がある場合は、アドミニストレーション ガイドの「ユーザアクセスの管理」の章を参照してください。
- 新しくプロビジョニングされたユーザーにデフォルトで適用されるクレデンシャル ポリシーに、デフォルトのクレデンシャルを設定します。
- LDAP ディレクトリからユーザを同期する場合は、機能グループテンプレートが設定されていることを確認してください。このテンプレートには、ユーザプロファイル、サービスプロファイル、ユーザの電話と電話の内線に割り当てるユニバーサル回線テンプレートおよびユニバーサル デバイス テンプレートの設定が含まれます。



(注) システムにデータを同期するユーザについては、Active Directory サーバでの電子メール ID フィールドが一意的なエン트리であるか空白であることを確認してください。

LDAP 同期の設定タスク フロー

外部 LDAP ディレクトリからユーザリストをプルし、Unified Communication Manager のデータベースにインポートするには、以下のタスクを使用します。



(注) LDAP ディレクトリをすでに一度同期している場合、外部 LDAP ディレクトリから新しい項目を同期することはできますが、Unified Communication Manager 内の新しい設定を LDAP ディレクトリ同期に追加することはできません。この場合は、一括管理ツールを使用して、ユーザの更新やユーザの挿入などのメニューを使用できます。『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco DirSync サービスの有効化 (362 ページ)	Cisco Unified Serviceability にログインし、Cisco DirSync サービスを有効にします。
ステップ 2	LDAP ディレクトリ同期の有効化 (362 ページ)	Unified Communication Manager の LDAP ディレクトリ同期を有効にします。
ステップ 3	LDAP フィルタの作成 (363 ページ)	(省略可) Unified Communication Manager に社内 LDAP ディレクトリからユーザのサブセットだけを同期するには、LDAP フィルタを作成します。
ステップ 4	LDAP ディレクトリの同期の設定 (363 ページ)	アクセス制御グループ、機能グループのテンプレートとプライマリ エクステンションのフィールド設定、LDAP サーバのロケーション、同期スケジュール、および割り当てなどの LDAP ディレクトリ同期を設定します。
ステップ 5	エンタープライズディレクトリ ユーザ検索の設定 (366 ページ)	(省略可) エンタープライズディレクトリ サーバユーザを検索するシステムを設定します。システムの電話機とクライアントをデータベースの代わりにエンタープライズディレクトリ サーバに対してユーザの検索を実行するように設定するには、次の手順に従います。
ステップ 6	LDAP 認証の設定 (367 ページ)	(省略可) エンドユーザのパスワード認証に LDAP ディレクトリを使用するには、LDAP 認証を設定します。
ステップ 7	LDAP アグリーメントサービスパラメータのカスタマイズ (368 ページ)	(省略可) 任意指定の [LDAP 同期 (LDAP Synchronization)] サービスパラメータを設定します。ほとんどの導入

	コマンドまたはアクション	目的
		の場合、デフォルト値のままです。

Cisco DirSync サービスの有効化

Cisco Unified Serviceability で Cisco DirSync サービスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。社内の LDAP ディレクトリからエンドユーザの設定を同期するには、このサービスをアクティブ化する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [ディレクトリサービス(Directory Services)]の下で、[Cisco DirSync] ラジオボタンをクリックします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP ディレクトリ同期の有効化

エンドユーザの設定を社内 LDAP ディレクトリから同期させるには、以下の手順で Unified Communication Manager を設定します。



- (注) LDAP ディレクトリをすでに一度同期している場合、外部 LDAP ディレクトリから新しい項目を同期することはできませんが、Unified Communications Manager 内の新しい設定を LDAP ディレクトリ同期に追加することはできません。また、機能グループテンプレートやユーザプロフィールなどの基になる構成アイテムの編集を追加することもできません。すでに1回のLDAP同期を完了しており、別の設定でユーザを追加する場合は、ユーザの更新やユーザの挿入などの一括管理メニューを使用できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択します。
- ステップ 2 Unified Communications Manager で LDAP ディレクトリからユーザをインポートするには、[LDAPサーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスをオンにします。

- ステップ 3** [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウンリストから、使用する LDAP ディレクトリサーバの種類を選択します。
- ステップ 4** [ユーザ IDのLDAP属性 (LDAP Attribute for User ID)] ドロップダウンリストで、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [ユーザID (User ID)] フィールドに関して、Unified Communications Manager で同期する社内 LDAP ディレクトリから属性を選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP フィルタの作成

LDAP フィルタを作成することで、LDAP 同期を LDAP ディレクトリからのユーザのサブセットのみに制限することができます。LDAP フィルタを LDAP ディレクトリに適用する場合、Unified Communications Manager は、フィルタに一致するユーザのみを LDAP ディレクトリからインポートします。



- (注) LDAP フィルタを設定する場合は、RFC4515 に指定されている LDAP 検索フィルタ標準に準拠する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP(LDAP)] > [LDAP フィルタ (LDAP Filter)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP フィルタを作成します。
- ステップ 3** [フィルタ名 (Filter Name)] テキストボックスに、LDAP フィルタの名前を入力します。
- ステップ 4** [フィルタ (Filter)] テキストボックスに、フィルタを入力します。フィルタは、UTF-8 で最大 1024 文字まで入力できます。また、丸カッコ (()) で囲みます。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP ディレクトリの同期の設定

LDAP ディレクトリと同期するように Unified Communications Manager を設定するには、この手順を使用します。LDAP ディレクトリの同期により、エンドユーザのデータを外部の LDAP ディレクトリから Unified Communication Manager データベースにインポートして、エンドユーザの設定ウィンドウに表示することができます。ユニバーサル回線とデバイステンプレートを使用する機能グループテンプレートがセットアップされている場合は、新しくプロビジョニングされるユーザとその内線番号に自動的に設定を割り当てることができます。



ヒント アクセス制御グループまたは機能グループテンプレートを割り当てる場合は、LDAP フィルタを使用して、インポートを同じ設定要件のユーザグループに限定できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[System (システム)] > [LDAP] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存の LDAP ディレクトリを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP ディレクトリを作成します。
- ステップ 3** [LDAPディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウで、次のように入力します。
- a) [LDAP設定名 (LDAP Configuration Name)] フィールドで、LDAP ディレクトリに一意の名前を割り当てます。
 - b) [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリ サーバにアクセスできるユーザ ID を入力します。
 - c) パスワードの詳細を入力し、確認します。
 - d) [LDAPユーザサーチスペース (LDAP User Search Space)] フィールドに、サーチスペースの詳細を入力します。
 - e) [ユーザ同期用のLDAPカスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Users Synchronize)] フィールドで、[ユーザのみ (Users Only)] または [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
 - f) (省略可) 特定のプロファイルに適合するユーザのサブセットのみにインポートを限定する場合は、[グループ用LDAPカスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)] ドロップダウンリストから LDAP フィルタを選択します。
- ステップ 4** [LDAPディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] フィールドに、外部 LDAP ディレクトリとデータ同期を行うために Unified Communication Manager が使用するスケジュールを作成します。
- ステップ 5** [同期対象の標準ユーザ フィールド (Standard User Fields To Be Synchronized)] セクションを記入します。各エンドユーザのフィールドで、それぞれ LDAP 属性を選択します。同期プロセスが LDAP 属性の値を Unified Communication Manager のエンドユーザ フィールドに割り当てます。
- ステップ 6** URIダイヤリングを展開する場合は、ユーザのプライマリディレクトリURIアドレスに使用されるLDAP属性が割り当てられていることを確認してください。
- ステップ 7** [同期対象のカスタムユーザフィールド (Custom User Fields To Be Synchronized)] セクションで、必要な LDAP 属性を持つカスタムユーザフィールド名を入力します。
- ステップ 8** インポートしたエンドユーザを、インポートしたすべてのエンドユーザに共通するアクセス制御グループに割り当てるには、次の手順を実行します。

- a) [アクセス制御グループに追加 (Add to Access Control Group)] をクリックします。
- b) ポップアップ ウィンドウで、インポートされたエンドユーザに割り当てる各アクセス制御グループごとに、対応するチェックボックスをオンにします。
- c) [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

ステップ 9 機能グループ テンプレートを割り当てる場合は、[機能グループテンプレート (Feature Group Template)] ドロップダウン リストからテンプレートを選択します。

(注) エンドユーザは、そのユーザが存在しない初回のみ、割り当てられた機能グループ テンプレートと同期されます。既存の [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] が変更され、関連付けられた LDAP の完全同期が実行される場合、変更点は更新されません。

ステップ 10 インポートされた電話番号にマスクを適用して、プライマリ内線番号を割り当てるには、次の手順を実行します。

- a) [挿入されたユーザの新規回線を作成するために、同期された電話番号にマスクを適用する (Apply mask to synced telephone numbers to create a new line for inserted users)] チェックボックスをオンにします。
- b) [マスク (Mask)] を入力します。たとえば、インポートされた電話番号が 8889945 である場合、11XX のマスクによって 1145 のプライマリ内線番号が作成されます。

ステップ 11 電話番号のプールからプライマリ内線番号を割り当てる場合は、次の手順を実行します。

- a) [同期された LDAP 電話番号に基づいて作成されなかった場合、プール リストから新しい回線を割り当て (Assign new line from the pool list if one was not created based on a synced LDAP telephone number)] チェック ボックスをオンにします。
- b) [DN プールの開始 (DN Pool Start)] テキスト ボックスと [DN プールの終了 (DN Pool End)] テキスト ボックスに、プライマリ内線番号を選択する電話番号の範囲を入力します。

ステップ 12 [LDAPサーバ情報 (LDAP Server Information)] セクションで、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

ステップ 13 TLS を使用して LDAP サーバに対するセキュアな接続を作成する場合は、[TLSを使用 (Use TLS)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 14 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 15 LDAP 同期を完了させるには、[完全同期を今すぐ実行 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。それ以外の場合は、スケジュールされた同期を待つことができます。



(注) LDAP で削除されたユーザは、24 時間後に Unified Communications Manager から自動的に削除されます。また、削除されたユーザが次のいずれかのデバイスのモビリティユーザとして設定されている場合、それらの非アクティブデバイスも自動的に削除されます。

- リモート宛先プロファイル
- リモート接続先プロファイルテンプレート
- モバイルスマートクライアント
- CTI リモート デバイス
- Spark リモートデバイス
- Nokia S60
- Cisco Dual Mode for iPhone
- IMS 統合モバイル (ベーシック)
- キャリア統合モバイル
- Cisco Dual Mode for Android

エンタープライズディレクトリユーザ検索の設定

データベースではなくエンタープライズディレクトリサーバに対してユーザ検索を実行するように、システムの電話機とクライアントを設定するには、次の手順を使用します。

始める前に

- LDAP ユーザ検索に選択するプライマリ、セカンダリ、および第 3 サーバが Unified Communication Manager のサブスクリバノードに到達可能なネットワークにあることを確認します。
- [システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択し、[LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウの [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウンリストから LDAP サーバのタイプを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 検索 (LDAP Search)] を選択します。
- ステップ 2** エンタープライズLDAPディレクトリサーバを使用してユーザ検索を実行するには、[エンタープライズディレクトリサーバのユーザ検索を有効にする (Enable user search to Enterprise Directory Server)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [LDAP 検索の設定 (LDAP Search Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) OpenLDAP サーバでルーム オブジェクトとして表される会議室を検索するには、カスタム フィルタを (`| (objectClass=intOrgPerson)(objectClass=rooms)`) に設定します。これにより、Cisco Jabber クライアントは部屋に関連付けられた名前およびダイヤル番号で会議室を検索できます。

会議室は、ルーム オブジェクトの OpenLDAP サーバに、**givenName**、**sn**、**mail**、**displayName**、または **telephonenumber** の属性が設定されていると検索可能です。

LDAP 認証の設定

LDAP 認証を有効にして、会社の LDAP ディレクトリに割り当てられているパスワードに対してエンドユーザのパスワードが認証されるようにするには、この手順を実行します。この設定は、エンドユーザのパスワードにのみ適用され、エンドユーザの PIN またはアプリケーションユーザのパスワードには適用されません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] を選択します。
- ステップ 2** [エンドユーザに LDAP 認証を使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] チェックボックスをオンにして、ユーザ認証に LDAP ディレクトリを使用します。
- ステップ 3** [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。
- ステップ 4** [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドに、LDAP マネージャのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)] フィールドに、検索条件を入力します。
- ステップ 6** [LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)] セクションで、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** TLS を使用して LDAP サーバに対するセキュアな接続を作成する場合は、[TLS を使用 (Use TLS)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ \(368 ページ\)](#)

LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ

LDAP アグリーメントのシステムレベルでの設定をカスタマイズする、任意指定のサービスパラメータを設定するには、この手順を実行します。これらのサービスパラメータを設定しない場合、Unified Communications Manager により、LDAP ディレクトリ統合のデフォルト設定が適用されます。パラメータの説明については、ユーザインターフェイスでパラメータ名をクリックしてください。

サービス パラメータを使用して次の設定をカスタマイズできます。

- [最大アグリーメント数 (Maximum Number of Agreements)] : デフォルト値は 20 です。
- [最大ホスト数 (Maximum Number of Hosts)] : デフォルト値は 3 です。
- [ホスト障害時の再試行の遅延 (秒) (Retry Delay On Host Failure (secs))] : ホスト障害のデフォルト値は 5 です。
- [ホストリスト障害時の再試行の遅延 (分) (Retry Delay On HotList failure (mins))] : ホストリスト障害のデフォルト値は 10 です。
- [LDAP接続のタイムアウト (秒) (LDAP Connection Timeouts (secs))] : デフォルト値は 5 です。
- [遅延同期の開始時間 (分) (Delayed Sync Start time (mins))] : デフォルト値は 5 です。
- [ユーザカスタマーマップの監査時間 (User Customer Map Audit Time)]

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシャ ノードを選択します。
 - ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco DirSync] を選択します。
 - ステップ 4** Cisco DirSync サービスパラメータの値を設定します。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-



第 29 章

一括管理ツールを使用したユーザおよびデバイスのプロビジョニング

- [一括管理ツールの概要 \(369 ページ\)](#)
- [一括管理ツール的前提条件 \(370 ページ\)](#)
- [一括管理ツールのタスク フロー \(370 ページ\)](#)

一括管理ツールの概要

一括管理ツール (BAT) は、Unified Communications Manager データベースに対してバルク トランザクションを実行するのに使用できる Web ベースのアプリケーションです。BAT を使用することで、類似する大量の電話、ユーザ、またはポートを一度に追加、更新、削除できます。



(注) [一括管理 (Bulk Administration)] メニューは、Unified Communications Manager サーバの最初のノードでのみ表示されます。

Cisco Unified CM Administration の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューから送信されたすべてのジョブは、Cisco Bulk Provisioning Service (BPS) によって管理および保守されます。このサービスは、Cisco Unified Serviceability から開始できます。Cisco Bulk Provisioning Service は、Unified Communications Manager の最初のノード上でのみアクティブ化する必要があります。

BAT を使用して、次の操作を実行できます。

- 多数の電話機を一括で追加、更新、または削除する
- 新しい電話のグループを追加する共通の電話属性を定義する
- 新しい BAT 電話テンプレートを作成する
- 新規ユーザのグループを追加し、ユーザを電話機やその他の IP テレフォニーデバイスに関連付ける

- BAT スプレッドシートからユーザ CSV データ ファイルを作成する
- 電話とユーザをバッチで追加するための CSV データ ファイルを作成する
- 電話機とユーザのグループを Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加する

一括管理ツールの前提条件

- ユーザプロファイルとサービスプロファイルの設定

一括管理ツールのタスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	データベースへの電話機の追加 (371 ページ)	BAT を使用して、電話およびその他の IP テレフォニー デバイスを Unified Communications Manager データベースに一括で追加します。
ステップ 2	新しい BAT 電話テンプレートの作成 (372 ページ)	新しい BAT 電話テンプレートを作成できます。
ステップ 3	BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データ ファイルの作成 (378 ページ)	BAT で使用するよう設計された .xls 形式のスプレッドシートを使用して、新しい電話または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加できます。
ステップ 4	テキストエディタを使用したカスタム電話機ファイル形式の作成 (381 ページ)	テキストエディタを使用して、テキストベースの CSV データ ファイルのカスタム電話機ファイル形式を作成できます。
ステップ 5	Unified Communications Manager への電話の挿入 (382 ページ)	電話、Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを Unified Communications Manager データベースに追加できます。
ステップ 6	ユーザの追加 (384 ページ)	BAT を使用して、新しいユーザのグループを追加し、ユーザを電話機やその他の IP テレフォニー デバイスに関連付けることができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成 (385 ページ)	Unified Communications Manager データベースに新しいユーザを追加するための詳細情報を BAT スプレッドシートに入力し、それを CSV データ ファイルに変換することができます。
ステップ 8	Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入 (386 ページ)	CSV データ ファイルを使用して、ユーザのグループを Unified Communications Manager データベースに追加できます。
ステップ 9	電話およびユーザファイル形式の追加 (388 ページ)	テキストベースの CSV データ ファイルで電話とユーザのファイル形式を追加できます。CSV データ ファイルを作成した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルと関連付ける必要があります。
ステップ 10	Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入 (389 ページ)	電話とユーザのグループを Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加できます。

データベースへの電話機の追加

BAT を使用して、電話およびその他の IP テレフォニー デバイスを Unified Communications Manager データベースに一括で追加する場合は、個々の電話に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。CTI ポートや H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機の CSV データ ファイルの作成には、2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートする
- テキストエディタを使用して、CSV 形式のテキストファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CSV ファイルを作成して、電話テンプレートを挿入します。

次のいずれかの選択肢を実行します。

- BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成します。

- b) 以下のようにテキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成します。
1. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
 2. テキストエディタを使用して、電話機の CSV データ ファイルを作成します。このファイルは、使用するファイル形式に従います。
 3. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択し、テキストベースのファイル形式を CSV データ ファイルと関連付けます。

ステップ 3 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert phones)] を選択して、電話レコードを Unified Communications Manager データベースに挿入します。

新しい BAT 電話テンプレートの作成

新しい BAT 電話テンプレートを作成できます。電話テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新しい電話テンプレートの追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 電話タイプのドロップダウンリストから、テンプレートを作成する電話機モデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 デバイスプロトコルの選択のドロップダウンリストから、デバイスのプロトコルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが、選択したデバイスタイプのフィールドとデフォルト エントリと共に表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を使用できます。

ステップ 6 [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチの共通の電話設定を入力します。一部の電話モデルとデバイスタイプには、一覧に示されている属性がすべて揃っていないものもあります。すべての属性の詳細については、電話機モデルのマニュアルを参照してください。

ステップ 7 この BAT 電話テンプレートのすべての設定を入力したら、[保存 (Save)] をクリックします。

ステータスにトランザクションが完了したことが示されたら、回線の属性を追加できます。

BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新

BAT テンプレートに 1 つ以上の回線を追加したり、既存の回線を更新したりできます。BAT テンプレートに使用されるボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線の数が決定されます。複数回線を持つプライマリ電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザデバイスプロファイルが、選択された設定を使用することになります。

回線テンプレートの値には英数字を使用することが推奨されています。数字のみを指定した場合、実際の電話番号と競合してしまう可能性があります。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号やコールパーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートに応じて異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

ステップ 1 回線を追加する電話テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [回線 [1]- 新規 DN の追加 (Line [1] Add a new DN)] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 回線の設定に適切な値を入力するか、選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 その他の回線の設定を追加するには、[ステップ 2 \(373 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(373 ページ\)](#) を繰り返します。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[回線テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Line Template)] ウィンドウが表示されます。

- 既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 新しい回線テンプレートを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新

この機能が BAT テンプレートに直接含まれている Cisco Unified IP Phone モデルに、Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。ユーザや電話を IP サービスに一括で登録するには、IP サービスに共通のサービスパラメータが必要で、電話テンプレートを使用して登録する必要があります。

ます。固有のサービスパラメータを持つ IP サービスは一括登録できません。固有のパラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用します。

手順

-
- ステップ 1** IP サービスを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規SURLの追加 (Add a new SURL)] をクリックします。ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、使用可能な Cisco Unified IP Phone サービスに登録できます。
- ステップ 3** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリストボックスで、すべての電話に登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスには、選択したサービスの詳細が表示されます。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [サービス名 (Service Name)] フィールドで、必要に応じてサービスの名前を変更します。
- ステップ 6** 選択したサービスを関連付けるか、他のサービスをテンプレートに追加します。
- これらの電話サービスを電話テンプレートに関連付けるには、[保存 (Save)] をクリックします。
 - さらにサービスを追加するには、[ステップ 3 \(374 ページ\)](#) ~ [ステップ 6 \(374 ページ\)](#) を繰り返します。
 - すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新 (Update)] をクリックします。選択したテンプレートに対してサービスの追加または更新を実行した後は、次のステップに進みます。
- ステップ 7** ポップアップウィンドウを閉じます。
-

BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤルボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる短縮ダイヤルボタンの数が決定します。

手順

-
- ステップ 1** 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、次のいずれかを実行します。
- [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 SD の追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。

b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [短縮ダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone と拡張モジュールの短縮ダイヤルボタンを指定できます。

ステップ 3 [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [番号 (Number)] フィールドに、電話番号 (アクセス コードまたは長距離コードを含む) を入力します。

(注) 電話番号を入力する際に、必要に応じて、強制承認コード (FAC) /クライアント識別コード (CMC) を続けて入力することもできます。このフィールドには電話番号、FAC、CMC を連続して、またはカンマ (,) で区切って入力できます。短縮ダイヤルには、コールが接続された後に DTMF デジットとして送信される PIN、パスワード、またはその他の数字を含めることができます。短縮ダイヤルで接続するときには一時停止を必要とする場合、1つ以上のカンマ (,) を入力することができます。各カンマは2秒間の一時停止を表します。DTMF デジットは、コールが接続され、カンマの数に対応する適切な一時停止期間が経過した後に送信されます。

ステップ 4 [ラベル (Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。

ステップ 5 [短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、該当する IP フォン モデルの短縮ダイヤルを設定できます。 [ステップ 3 \(375 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によってテンプレートに短縮ダイヤルの設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

BAT テンプレート内の話中ランプ フィールドの追加または更新

電話ボタン テンプレートに短縮ダイヤル ボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで話中ランプフィールドを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF SD ボタンの数が決定します。

手順

ステップ 1 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 BLF SD の追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。

b) ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから、[ビジョランプフィールドスピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials)] を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対してビジー ランプ フィールド スピードダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。

- ステップ 3** [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [接続先 (Destination)] フィールドに、接続先 (アクセス コードまたは長距離コードを含む) を入力します。
- ステップ 4** ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに BLF SD の設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

BAT テンプレート内のビジー ランプ フィールド ダイレクト コール パークの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤル ボタンが備えられている場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートでビジー ランプ フィールド (BLF) ダイレクト コール パークを追加したり、更新したりできます。この BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF ダイレクト コール パーク ボタンの数が決定されます。

手順

-
- ステップ 1** BLF ダイレクト コール パークを追加する電話テンプレートを見つけます。
 - ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 BLF ダイレクト コール パークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)] をクリックします。
 - b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [BLF ダイレクト コール パークの追加/更新 (Add/Update BLF Directed Call Park)] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、BLF ダイレクト コール パーク ボタンを指定できます。
- ステップ 3** [割り当てられていないビジーランプフィールド/ダイレクトコールパークの設定 (Unassigned Busy Lamp Field/Directed Call Park Settings)] 領域で、ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。
 - ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF ダイレクト コール パーク番号に対応するラベルを入力します。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によってテンプレートに BLF ダイレクト コール パークの設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

BAT テンプレート内のインターコム テンプレートの追加または更新

1 つ以上のインターコム テンプレートを BAT テンプレートに追加できます。または既存のインターコム テンプレートを BAT テンプレートで更新できます。BAT テンプレートに使用しているボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線数が決定します。複数回線を持つ標準電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルは、インターコム テンプレートに選択した設定を使用します。

インターコムテンプレートには英数字を使用することを推奨します。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号やコールパーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートによって異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

- ステップ 1** インターコム テンプレートを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [インターコム[1]-新規インターコムの追加 (Intercom [1] - Add a new Intercom)] をクリックします。
[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** インターコム テンプレートの設定に適切な値を入力するか、選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によって、インターコム テンプレートが電話テンプレートの設定に追加されます。
- ステップ 5** その他のインターコム テンプレートの設定を追加するには、[ステップ 2 \(377 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(377 ページ\)](#) を繰り返します。

[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

(注) [インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

- a) 既存のインターコム電話番号を検索するには、[検索 (Find)] をクリックし、適切な検索条件を入力します。
- b) 新しいインターコム電話番号を追加するには、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成します。スプレッドシート内でファイル形式を定義できます。そうすると、BAT スプレッドシートは、そのデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。



- (注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。

BAT スプレッドシートに空の行を含めると、その空の行がファイルの終わりとして扱われます。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

CTI ポートの追加時に、ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。このオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で Cisco Unified Communications Manager Administration または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。



- 注目** BAT スプレッドシートで電話機用に定義する回線や短縮ダイヤルの数は、BAT 電話テンプレートで定義された数を超えないようにしなければなりません。超えてしまうと、CSV データ ファイルや BAT テンプレートを挿入しようとするときにエラーが発生します。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータ ファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

エクスポートしたファイルをローカルワークステーションに保存したら、CSV形式のデータファイルの名前を変更できます。



(注) CSVファイル名にカンマが含まれていると（例：abcd,e.txt）、Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (EnableMacros)] をクリックします。
- ステップ 3** 電話のオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [電話 (Phone)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかのデバイスタイプを表すラジオボタンを選択します。

選択するデバイスタイプによって、BAT スプレッドシートでのデータの検証基準が決まります。

- [電話 (Phones)]
- [CTI ポート (CTI Port)]
- [H.323 クライアント (H.323 Client)]
- [VGC フォン (VGC Phones)]
- [VGC 仮想電話機 (VGC Virtual Phones)]
- [Cisco IP Communicator フォン (Cisco IP Communicator Phone)]

スプレッドシートには、選択されたデバイスに対して選択可能なオプションが表示されます。たとえば、電話を選択すると、電話回線や短縮ダイヤルの数に関するフィールドが表示されます。

- ステップ 5** 各電話機の BAT スプレッドシートに表示されるデバイスや回線のフィールドを選択します。次の手順を実行します。
- a) [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックします。
 - b) デバイスフィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイスフィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データファイルには、[MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。

- c) [回線フィールド (Line Field)]ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線 (Selected Line)]および [デバイス (Device)]ボックス内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して、上矢印と下矢印を使用してそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

- d) 既存の CSV 形式を上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[作成 (Create)]をクリックして、CSV データ ファイル形式を変更します。
- e) [OK] をクリックします。
選択されたフィールドの新しい列が指定された順序で BAT スプレッドシート内に表示されます。

ステップ 6 右にスクロールして [電話回線数 (Number of Phone Lines)]ボックスを見つけ、電話機の回線数を入力します。

(注) BAT テンプレートで設定された回線の数を超えた回線数を入力することはできません。

ステップ 7 電話機では、[短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)]ボックスに、短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。

(注) BAT テンプレートで設定された短縮ダイヤルの数を超えた短縮ダイヤル数を入力することはできません。

数値を入力すると、短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 8 [BLF 短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of BLF Speed Dials)]ボックスに、ビジョラン プフィールド (BLF) 短縮ダイヤル ボタンの数を入力します。
数値を入力すると、BLF 短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 9 スプレッドシートで、各回線の個々の電話についてデータを入力します。

すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。電話フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 10 各電話の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)]チェックボックスをオンにする必要があります。

注目 ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ステップ 11 BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを移すには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)]をクリックします。

ヒント エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の挿入 (Insert phones)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

ファイルは、デフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt でローカルワークステーション上の選択したフォルダに保存されます。

テキスト エディタを使用したカスタム電話機ファイル形式の作成

テキスト エディタを使用して、テキストベースの CSV データ ファイルのカスタム電話機ファイル形式を作成できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

ステップ 4 カスタム ファイル形式に表示するフィールドを選択します。次の手順を実行します。

- a) デバイスフィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。

- b) [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

- c) [インターコム DN フィールド (Intercom DN Field)] ボックスでインターコム DN フィールド名をクリックし、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックス、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックス、および [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更できます。アイテムを選択して、上矢印と下矢印を使用してそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

ステップ 5 [IP 電話サービスの最大数 (IP Phone Services Maximums)] 領域で、以下のフィールドに最大値を入力します。

- [短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)]
- [BLF 短縮ダイヤルの最大数 (BLF Maximum Number of Speed Dials)]
- [BLF ダイレクト コール パークの最大数 (Maximum Number of BLF Directed Call Parks)]
- [IP 電話サービスの最大数 (Maximum Number of IP Phone Services)]
- [IP 電話サービス パラメータの最大数 (Maximum Number of IP Phone Service Parameters)]

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

[電話ファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウの [ファイル形式名 (File Format Names)] リストに、カスタム ファイル形式の名前が表示されます。

Unified Communications Manager への電話の挿入

電話機レコードを Unified Communications Manager データベースに挿入するときは、ターゲット CSV データ ファイルと、電話機レコードの挿入方法を定義します。既存の電話機レコードを上書きするには、次の操作から任意の組み合わせを選択します。または、アップロード時にレコードを挿入することもできます。

- 新しい短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF 短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての BLF 短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF ダイレクトコールパークを追加する前に既存のすべての BLF ダイレクトコールパークを削除
- 新しいサービスを追加する前に既存の登録済みサービスをすべて削除



(注) 電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。



(注) BAT は、次の形式による電話番号 URI フィールドを想定しています。

電話番号 1 での URI 1、電話番号 1 での URI 1 ルートパーティション、電話番号 1 での URI 1 プライマリ。

ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。CTI ポートを追加するときにこのオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で Unified Communications Manager Administration または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成しません。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。

始める前に

- 追加するデバイス用に、Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の電話テンプレートが必要です。データ ファイルアップロードのターゲットと方法を選択することができます。電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。
- 電話機または他の IP テレフォニーデバイス固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert Phones)] の順に選択します。

ステップ 2 アップロードする電話機レコードのファイル形式タイプを指定します。

- a) カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを挿入するには、[電話固有の詳細の挿入 (Insert Phones Specific Details)] ラジオボタンをクリックして、[ステップ 3 \(383 ページ\)](#) と [ステップ 5 \(384 ページ\)](#) に進みます。
- b) [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したエクスポート済みの電話ファイルから電話レコードを挿入するには、[電話のすべての詳細の挿入 (Insert Phones All Details)] ラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3 [ファイル名 (FileName)] ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクションのために作成した CSV データファイルを選択します。次に、[カスタムファイルを使用した電話の更新の許可 (Allow Update Phone with Custom File)] チェックボックスをオンにして、選択したカスタム ファイルを使用して電話機を更新できるようにします。

ステップ 4 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話の設定が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます。次に、アップロード中に実行するアップロードアクションの横にあるチェックボックスをオンにします。

[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにした場合は、次のアップロードアクションが選択可能になります。

- 新しい短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF 短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての BLF 短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF ダイレクトコールパークを追加する前に既存のすべての BLF ダイレクトコールパークを削除
- 新しいサービスを追加する前に既存の登録済みサービスをすべて削除

(注) アップロード時に CSV データ ファイルの既存のレコードにこれらのレコードを追加する場合は、このチェックボックスをオフにします。

ステップ 5 [固有の詳細 (Specific Details)] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウンリストで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話テンプレートを選択します。

注目 CSV データ ファイルに個別の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。この情報は後で手動で更新できます。[ステップ 8 \(384 ページ\)](#) にスキップします。データ入力ファイルで MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合には、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用に MAC アドレスが登録されます。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュール設定またはアクティブ化するには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

次のタスク

挿入される電話機が Cisco Unified Mobile Communicator タイプである場合は、挿入ジョブの完了後にデバイスをリセットする必要があります。電話機をリセットするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] オプションを使用できます。

ユーザの追加

BAT スプレッドシートを使用して複数の新しいユーザを Unified Communications Manager データベースに一括で追加するには、CSV データ ファイルを作成する必要があります。Cisco IP SoftPhone のように CTI ポートを必要とするアプリケーションを使用するユーザのために、BAT で CTI ポートを既存のユーザに関連付けることができます。

手順

ステップ 1 追加する各ユーザに対して個別の値を定義するには、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成します。

ステップ 2 BAT を使用して、ユーザを Unified Communications Manager データベースに挿入します。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成

Unified Communications Manager データベースに新しいユーザを追加するための詳細情報を BAT スプレッドシートに入力し、それを CSV データ ファイルに変換することができます。



(注) BAT スプレッドシートに空の行を含めると、その空の行がファイルの終わりとして扱われま
す。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

BAT スプレッドシートでユーザを追加するためのフィールドを編集し終えたら、その内容を
CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデー
タ ファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> は
ファイルが作成された正確な日時を表します。

エクスポートしたファイルをローカル ワークステーションに保存したら、CSV 形式のデー
タ ファイルの名前を変更できます。いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエ
クスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。



(注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると (例 : abcd,e.txt) 、 Unified Communications Manager
サーバにアップロードできません。

手順

ステップ 1 BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

ステップ 2 スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (EnableMacros)]
をクリックします。

ステップ 3 ユーザを追加するには、スプレッドシートの下部にある [ユーザ (Users)] タブをクリックし
ます。

ステップ 4 すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しで
はフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。

各行に、オンライン ヘルプ ファイルの説明に従って情報を入力します。

- ユーザが複数のデバイスを使用している場合は、デバイスごとに、デバイス名フィールド
に入力する必要があります。

- 新規ユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] テキスト ボックスに値を入力します。

(注) CTI ポート、ATA ポート、H.323 クライアントを含む、すべてのデバイスをユーザと関連付けることができます。

ステップ 5 新規ユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] テキスト ボックスに値を入力します。

ステップ 6 [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックして、BAT Excel スプレッド シートから CSV 形式データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、デフォルトのファイル名 (<タブ名><タイムスタンプ>.txt) で、C:\XLSDataFiles に保存されます。または[参照 (Browse)] を使用して別の既存フォルダに保存することもできます。

ヒント エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT の [ユーザの挿入 (Insert Users)] ウィンドウにある [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

CSV データ ファイルを Unified Communications Manager データベース サーバの最初のノードにアップロードして、BAT がデータ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。

Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入

CSV データ ファイルを使用して、ユーザのグループを Unified Communications Manager データベースに追加できます。ユーザを挿入する目的で CSV ファイルに入力したフィールド値は、ユーザ テンプレートに入力された値よりも優先されます。



注目 クレデンシャル ポリシーで [単純すぎるパスワードの確認 (check for trivial password)] 「」が有効になっており、しかもユーザ テンプレート内のパスワードがユーザ ID である場合、単純すぎるパスワードに関する基準をユーザ ID が満たしていなければ、BAT を使ったユーザ挿入が失敗することがあります。

管理対象デバイスとしてどのデバイスも選択されないまま、プライマリ エクステンションが設定された状態で、BAT を使用してユーザを挿入できます。それには、BAT を使用してユーザを挿入する前に、Unified Communications Manager で DN を定義しておく必要があります。DN を事前に設定する手順の概要は、次のとおりです。

1. DN ページで、ユーザのプライマリ内線番号に関連付ける DN の範囲を作成します。
2. プライマリ エクステンションが設定された BAT テンプレートを作成します (同じ DN の事前設定)。

3. 次の手順に示すように、BAT を使用してユーザを挿入します。

始める前に

ユーザ名、制御するデバイスの名前、および電話番号が格納されている、UTF-8 符号化形式で保存された CSV データ ファイルが必要です。次のいずれかの方法を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- ユーザ データのエクスポート ファイルを生成するエクスポート ユーティリティ



- (注) エクスポート済み BAT ファイルを使ってユーザを挿入するとき、複数ファイルにエクスポートされたユーザに関して、[ユーザIDはすでに存在します (User ID already exists)] 「」 というエラーが表示されることがあります。たとえば、最初の回線マネージャのリストとユーザのリストの両方に、同じマネージャ ユーザ ID が含まれている場合です。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの挿入 (Insert Users)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** エクスポート ユーティリティを使って CSV データ ファイルを作成した場合は、[ユーザのエクスポートで作成されたファイル (File created with Export Users)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウン リストから、この挿入で使用するユーザテンプレートを選択します。

(注) ユーザプロファイル、制御するデバイスの名前、およびディレクトリ番号が、Unified Communications Manager データベースに存在している必要があります。管理対象デバイス名の全体を入力する必要があります。デバイス名に MAC アドレスしか含まれていない場合は、デバイスが存在しないことを示すエラーが BAT に表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) ユーザレコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) ユーザレコードを後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ユーザレコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加

電話機とユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成します。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。BAT.xlt ファイルをダウンロードできます。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** スプレッドシートの下部にある [電話-ユーザ (Phone-Users)] タブをクリックします。
- ステップ 4** [BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データ ファイルの作成 \(378 ページ\)](#) のステップ 4 から 10 に従います。

電話およびユーザ ファイル形式の追加

テキストベースの CSV データ ファイルで電話とユーザのファイル形式を追加できます。CSV データ ファイルを作成した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルと関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルと関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、正しい順序で各フィールドに値を入力したことを確認できます。

始める前に

更新する各ユーザに対して個別の値を定義する CSV データ ファイルを作成する必要があります。

テキストエディタを使用して CSV データ ファイルを作成する際に、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式を作成します。ファイル形式によって指定した順序でテキストファイルに値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] > [電話とユーザのファイル形式 (Phones & Users File Format)] > [ファイル形式の割り当て (Assign File Format)] の順に選択します。
[ファイル形式の設定の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)]フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ファイル形式名 (Format File Name)]フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルと関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ 5** このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- (注) ファイル形式を追加すると、ユーザ フィールドが自動的に作成されます。

Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入

電話とユーザのグループを Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加できます。



- (注) 電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。

ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。CTI ポートを追加するときこのオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で Unified Communications Manager Administration または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成して、挿入する電話とユーザごとに個々の値を定義します。ユーザを伴う電話を追加するために BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使って CSV データ ファイルを作成することも、ユーザと電話の組み合わせを追加するために CSV 形式のカスタム テキスト ファイルを作成することもできます。
2. ファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けます。
3. 電話機とユーザ レコードを検証します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones & Users)] > [ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このトランザクションに使用した BAT 電話機テンプレートを選択します。

注目 CSV データ ファイルに個別の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。この情報は後で手動で更新できます。データ入力ファイルで MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

ユーザに割り当てられている電話の MAC アドレスがわからない場合には、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用に MAC アドレスが登録されます。

- ステップ 4** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] フィールドで、このトランザクションに使用した BAT ユーザ テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐにユーザ付き電話を挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後でユーザ付き電話を挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** 電話機とユーザのレコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールしてアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。



第 **V** 部

エンドポイントのプロビジョニング

- [エンドポイントの設定 \(393 ページ\)](#)
- [CAPF の設定 \(401 ページ\)](#)
- [TFTP サーバの設定 \(421 ページ\)](#)
- [アクティベーションコードによるデバイスのオンボーディング \(431 ページ\)](#)
- [自動登録の設定 \(451 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニングの設定 \(461 ページ\)](#)



第 30 章

エンドポイントの設定

- エンドポイント プロビジョニングのデフォルト値 (393 ページ)
- エンドポイント プロビジョニングのデフォルトの前提条件 (393 ページ)
- エンドポイント プロビジョニングのデフォルトのタスク フロー (394 ページ)
- デバイスのデフォルト値の設定 (395 ページ)
- エンタープライズ電話の設定 (399 ページ)
- セルフ ケア ポータル (400 ページ)

エンドポイント プロビジョニングのデフォルト値

この項の情報を使用して、エンドポイントデバイスを設定し、エンドポイントにユーザを関連付けます。

ユニファイドコミュニケーションマネージャには、エンドポイントを追加する前にプロビジョニングできるデバイスのデフォルトのセットが含まれています。これらのデバイスのデフォルト設定を事前に設定した場合、新しいユーザをプロビジョニングすると、適用される設定に基づいてデバイスが自動的に設定されます。

次に、エンドポイントプロビジョニングの2つのデフォルト設定を示します。

- デバイスのデフォルト値の設定
- エンタープライズ電話設定の構成

エンドポイントプロビジョニングのデフォルトの前提条件

エンドポイントの登録用に設定されているポートを確認します。Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [Cisco Unified CM] に移動し、サーバを選択して、構成されているポート設定を確認します。



(注) ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。

エンドポイントプロビジョニングのデフォルトのタスクフロー

システムのデバイスを設定するには、このタスク フローを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	デバイスのデフォルト値の設定 (395 ページ)	Unified Communications Manager ノードに自動登録するデバイスに適用される、デフォルト設定を変更できます。各タイプのデバイスには、特定のデフォルトのセットが設定されています。
ステップ 2	デバイスプロファイルの設定 (398 ページ)	(省略可) ユーザ用の特定のデバイスに関連付けられている一連の属性で構成される、デバイス プロファイルを設定できます。
ステップ 3	デフォルト デバイス プロファイルの設定 (396 ページ)	ユーザ デバイス プロファイルが設定されていない電話機にユーザがログインするたびに電話機が取得する、デフォルトのデバイス プロファイルを設定できます。
ステップ 4	デフォルトのデバイスプロファイルでのソフトキーテンプレートの設定 (396 ページ)	(省略可) ソフトキー テンプレートに追加するデフォルトのデバイスプロファイルを追加できます。
ステップ 5	エンタープライズ電話の設定 (399 ページ)	同じクラスタ内のすべての電話に適用されるエンタープライズ電話の基本設定を指定できます。

デバイスのデフォルト値の設定

デバイスのデフォルト設定の更新

デバイスのデフォルト設定を構成するには、次の手順を実行します。この設定では、デフォルトのファームウェアロード、デフォルトのデバイスプール、ソフトキープレート、および登録方法（自動登録またはアクティベーションコード）を割り当てることができます。

始める前に

デバイスのデフォルト設定を更新する前に、システムに適用する次のタスクを実行します。

- TFTP サーバにデバイスの新しいファームウェア ファイルを追加します。
- デバイスのデフォルトを使用して、ディレクトリに存在しないファームウェア ロードを割り当てると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアをロードできません。
- 新しいデバイスプールを設定します。デバイスが電話の場合は、新しい電話プレートを設定します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[**デバイス (Device)**] > [**デバイスの設定 (Device Settings)**] > [**デバイスのデフォルト (Device Defaults)**] を選択します。
 - ステップ 2** [**デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)**] ウィンドウで、更新するデバイスタイプに適用可能な設定を変更し、[**保存 (Save)**] をクリックします。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
 - [**ロード情報 (Load Information)**]
 - [**デバイスプール (Device Pool)**]
 - [**電話プレート (Phone Template)**]
 - ステップ 3** そのタイプのすべてのデバイスをリセットして、クラスタ内の全ノードにある該当するタイプのすべてのデバイスに新しいデフォルトをロードするには、デバイス名の左側にある [**リセット (Reset)**] アイコンをクリックします。

すべてのデバイスをリセットしない場合は、ノードに自動登録された新しいデバイスにだけ、更新されたデフォルト値が設定されます。
-

デフォルト デバイス プロファイルの設定

ユーザがユーザデバイスプロファイルのない電話機にログインした場合、電話機は必ずデフォルトのデバイスプロファイルを使用します。

デフォルトのデバイスプロファイルには、デバイスタイプ（電話機）、ユーザロケール、電話ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレート、マルチレベル優先順位およびプリエンブション（MLPP）情報が含まれています。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration ウィンドウで、[デバイス（Device）]>[デバイスの設定（Device Settings）]>[デフォルトのデバイス プロファイル（Default Device Profile）]を選択します。
 - ステップ 2 [デフォルトのデバイスプロファイルの設定（Default Device Profile Configuration）]ウィンドウで、[デバイスプロファイルタイプ（Device Profile Type）]ドロップダウンリストから、該当する Cisco Unified IP Phone を選択します。
 - ステップ 3 [次へ（Next）]をクリックします。
 - ステップ 4 [デバイスプロトコル（Device Protocol）]ドロップダウンリストから、適切なプロトコルを選択します。
 - ステップ 5 [次へ（Next）]をクリックします。
 - ステップ 6 [デフォルトのデバイスプロファイルの設定（Default Device Profile Configuration）]ウィンドウで、フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 7 [保存（Save）]をクリックします。
-

デフォルトのデバイスプロファイルでのソフトキーテンプレートの設定

Cisco Unified Communications Manager には、コール処理およびアプリケーション用の標準のソフトキーテンプレートが含まれています。カスタムソフトキーテンプレートを作成するときは、標準テンプレートをコピーして、必要に応じて変更します。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）]から、以下を選択します。[デバイス（Device）]>[デバイスの設定（Device Settings）]>[ソフトキーテンプレート（Softkey Template）]を選択します。
 - ステップ 2 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
 - a) [新規追加（Add New）]をクリックします。

- b) デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
- c) [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
- d) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、次の手順を実行します。

- a) [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
- b) 必要な既存のテンプレートを選択します。

ステップ 4 [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。

(注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。

ステップ 5 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。

ステップ 7 [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 8 追加のコール状態でのソフトキーを表示するには、前述のステップを繰り返します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 10 次のいずれかの操作を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」と「電話機のセクションとソフトキーテンプレートの関連付け」を参照してください。

次のタスク

次のいずれかの設定ウィンドウにあるソフトキーテンプレートドロップダウンからテンプレートを選択すると、カスタマイズされたソフトキーテンプレートをデバイスに適用できます。

- [電話の設定 (Phone Configuration)]
- [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)]
- [BATテンプレート (BAT Template)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]

- [デバイスプロファイル (Device Profile)]
- [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)]
- [UDPプロファイル (UDP Profile)]

デバイスプロファイルの設定

デバイスプロファイルは特定のデバイスに関連付けられた属性のセットで構成されます。Cisco Extension Mobility機能を使用するために、作成したデバイスプロファイルをエンドユーザーに関連付けることができます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration ウィンドウで、[デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[デバイスプロファイル (Device Profile)]を選択します。
- ステップ 2** [デバイス プロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、[デバイス プロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウンリストから、該当する Cisco Unified IP Phone を選択します。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウンリストから、適切なプロトコルを選択します。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、テンプレートを選択します。
- ステップ 7** (省略可) [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストから、ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 8** [デバイス プロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

(注) デバイスプロファイルを使用して Cisco Extension Mobility をセットアップする方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager リリース 12.5(1)SU1 機能設定ガイド』を参照してください。

エンタープライズ電話の設定

エンタープライズ電話設定の構成

ネットワーク内の電話機で使用可能なデフォルトの製品固有の設定フィールドを設定するには、次の手順を使用します。

このウィンドウで設定するパラメータは、各種デバイスの[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されます。これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、それらの設定の優先順位は、1) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウでの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウでの設定の順になります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] を選択します。
 - ステップ 2** [製品固有の設定レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] セクションの必須フィールドに入力します。

すべてのエンタープライズ電話パラメータについて説明を表示するには、[エンタープライズ電話パラメータの設定 (Enterprise Phone Parameters Configuration)] ウィンドウで [?] ボタンをクリックします。
 - ステップ 3** [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
-

電話の設定

Unified Communications Manager データベースに電話を手動で追加するには、この手順を実行します。自動登録を使用している場合は、次の手順を実行する必要はありません。自動登録を選択すると、Unified Communications Manager が自動的に電話を追加し、ディレクトリ番号を割り当てます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ 3** [電話タイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、該当する Cisco IP Phone モデルを選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [デバイス プロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
- SCCP
 - SIP
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- (注) セキュリティプロファイルで設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される Certificate Authority Proxy Function の設定に関係するものです。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) に関連する証明書操作の CAPF 設定を設定する必要があります。電話の設定ウィンドウで更新する CAPF 設定がセキュリティプロファイルの CAPF 設定に与える影響の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** [関連付け (Association)] エリアで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。
- ステップ 10** [ディレクトリ番号 (Directory Number)] フィールドに、電話に関連付ける電話番号を入力します。
- ステップ 11** [保存 (Save)] をクリックします。

セルフケアポータル

セルフケアポータルは、展開プロセスの一部として、新しい電話機のプロビジョニングと設定を行うために使用できます。

- エンドユーザは、ポータルを使用して電話機の機能と設定をカスタマイズできます。
- アクティベーションコードによるデバイスのオンボーディングでは、ポータルを使用して電話機をアクティブ化するオプションがユーザに提供されます。
- ユーザは、ポータルを使用して、自分用のシングルナンバーリーチのリモート接続先をセルフプロビジョニングすることもできます。

ポータルを使用する前に、エンドユーザにアクセス権を設定する必要があります。ポータルのセットアップ方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「セルフケアポータル」の章を参照してください。



第 31 章

CAPF の設定

- [認証局プロキシ機能 \(CAPF\) の概要 \(401 ページ\)](#)
- [CAPF 前提条件 \(403 ページ\)](#)
- [認証局プロキシ機能の設定タスクフロー \(404 ページ\)](#)
- [CAPF の管理タスク \(414 ページ\)](#)
- [CAPF システムの連携動作と制限事項 \(415 ページ\)](#)

認証局プロキシ機能 (CAPF) の概要

Cisco 認証局プロキシ機能 (CAPF) は、ローカルで有効な証明書 (LSC) を発行し、Cisco エンドポイントを認証する Cisco 専有サービスです。CAPF サービスは、Unified Communications Manager 上で実行され、次のタスクを実行します。

- サポートされる Cisco Unified IP 電話 に対して LSC を発行する。
- 混合モードが有効になっている場合に電話機を認証する。
- 電話機用の既存の LSC をアップグレードする。
- 表示とトラブルシューティングのために電話機証明書を取得する。

CAPF の実行モード

CAPF は、次のモードで動作するように設定することができます。

- **Cisco Authority プロキシ機能** : Unified Communications Manager の CAPF サービスが、CAPF サービス自体によって署名された LSC を発行します。これがデフォルトのモードです。
- **オンライン CA** : 外部オンライン CA によって電話機用の LSC に署名する場合は、このオプションを使用します。CAPF サービスは自動的に外部 CA に接続します。CSR が送信されると CA が署名し、CA で署名された LSC が自動的に返されます。
- **オフライン CA** : オフラインの外部 CA によって電話機用の LSC に署名する場合は、このオプションを使用します。このオプションでは、LSC を手動でダウンロードし、CA に提出して、CA で署名された証明書の準備ができれば、それらをアップロードする必要があります。



注 サードパーティ CA を使用して LSC に署名する必要がある場合、シスコでは、オフライン CA ではなくオンライン CA のオプションを使用することを推奨します。オンライン CA ではプロセスが自動化されるため、はるかに高速で、問題が発生する可能性も低くなります。

CAPF サービス証明書

統合コミュニケーションマネージャがインストールされている場合、CAPF サービスが自動的にインストールされ、CAPF 固有のシステム証明書が生成されます。セキュリティが適用されると、Cisco CTL クライアントは、すべてのクラスタノードに証明書をコピーします。

電話機の証明書タイプ

シスコは次の X.509v3 証明書タイプを電話で使用します。

- ローカルで有効な証明書 (LSC) : このタイプの証明書は Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF) に関連する必要な作業の実行後に、電話にインストールされます。デバイスセキュリティ モードを認証または暗号化に設定した後で、LSC は Unified Communications Manager と電話の間の接続を保護します。



注 オンライン CA の場合、LSC の有効性は CA に基づいています。また、CA が許可している限り使用できません。

- 製造元でインストールされる証明書 (MIC) : Cisco Manufacturing は MIC をサポートされている電話モデルに自動的にインストールします。製造元でインストールされる証明書は LSC インストールの Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF) を認証します。製造元でインストールされる証明書を上書きしたり、削除することはできません。



(注) 製造元でインストールされる証明書 (MIC) を LSC のインストールでのみ使用することが推奨されます。シスコでは Unified Communications Manager との TLS 接続の認証のために LSC をサポートしています。MIC ルート証明書は侵害される可能性があるため、TLS 認証またはその他の目的に MIC を使用するように電話を設定するお客様は、ご自身の責任で行ってください。MIC が侵害された場合シスコはその責任を負いません。

CAPF 経由の LSC 生成

CAPF を設定した後、電話機に設定されている認証文字列を追加します。キーと証明書の交換は、電話機と CAPF の間で行われ、以下が発生します。

- 電話機は、設定された認証方法を使用して CAPF に対して自身を認証します。
- 電話機は公開/秘密キー ペアを生成します。
- 電話機は、署名されたメッセージの中で、公開キーを CAPF に転送します。
- 秘密キーは電話に残り、外部に公開されることはありません。
- 証明書は CAPF によって署名され、署名付きメッセージによって電話に送り返されます。



(注) 電話のユーザが証明書操作の中断や、電話の動作ステータスの確認を実行できることに注意してください。



(注) キーの生成を低い優先順位で設定すると、アクションの発生中に、電話機が機能します。電話機は証明書生成中に機能しますが、TLS トラフィックが追加された場合、電話機でのコールプロセスの中断が最小限に抑えられる可能性があります。たとえば、インストールの最後に証明書がフラッシュに書き込まれると、音声信号が発生することがあります。

CAPF 前提条件

LSC 生成用の認証局のプロキシ機能を設定する前に、次の手順を実行します。

- サードパーティ CA を使用して LSCs に署名したい場合は、CA を外部に設定します。
- 電話機を認証する方法を計画します。
- LSC を生成する前に、次の条件を満たしていることを確認してください。
 - Unified Communications Manager リリース 12.5 以降
 - 証明書に CAPF を使用するエンドポイント (Cisco IP 電話 および Jabber を含む)
 - Microsoft Windows Server 2012 および 2016
 - ドメインネームサービス (DNS) が構成されている
- LSC を生成する前に、CA ルート証明書と HTTPS 証明書をアップロードする必要があります。セキュア SIP 接続では、HTTPS 証明書は CAPF 信頼を通過し、CA ルート証明書は CAPF 信頼と CallManager 信頼を通過します。インターネットインフォメーションサービ

ス (IIS) は、HTTPS 証明書をホストします。CA ルート証明書は、証明書署名要求 (CSR) への署名に使用されます。

証明書をアップロードする必要がある場合のシナリオを次に示します。

表 26: 証明書のアップロードシナリオ

シナリオ	結果
CA ルート証明書と HTTPS 証明書が同じ。	CA ルート証明書をアップロードする。
CA ルート証明書と HTTPS 証明書が異なり、HTTPS 証明書は同じ CA ルート証明書によって発行される。	CA ルート証明書をアップロードする。
中間 CA 証明書と HTTPS 証明書が異なり、CA ルート証明書によって発行される。	CA ルート証明書をアップロードする。
CA ルート証明書と HTTPS 証明書が異なり、同じ CA ルート証明書によって発行される。	CA ルート証明書と HTTPS 証明書をアップロードする。



(注) 複数の証明書を同時に生成するとコール処理中断の原因となるため、スケジュールされたメンテナンスの時間帯に CAPF を使用することを強く推奨します。

認証局プロキシ機能の設定タスクフロー

次のタスクを実行して、証明機関プロキシ機能 (CAPF) サービスがエンドポイント用 LSCs を発行するように設定します。



(注) 新しい CAPF 証明書を再生成またはアップロードした後に、CAPF サービスを再起動する必要はありません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード	LSC にサードパーティの CA 署名を適用する場合は、CA ルート証明書チェーンを CAPF 信頼ストアにアップロードしま

	コマンドまたはアクション	目的
		す。その他の場合は、このタスクをスキップします。
ステップ 2	認証局 (CA) ルート証明書のアップロード (406 ページ)	CA ルート証明書を Unified Communications Manager 信頼ストアにアップロードします。
ステップ 3	オンライン認証局の設定 (407 ページ)	電話機の LSC 証明書を生成するには、次の手順を使用します。
ステップ 4	オフライン認証局の設定の設定	オフライン CA を使用して電話機 LSC 証明書を生成するには、次の手順を使用します。
ステップ 5	CAPF サービスのアクティブ化または再起動	CAPF システム設定を構成した後、必須の CAPF サービスをアクティブにします。
ステップ 6	次のいずれかの手順を使用して、Unified Communications Manager で CAPF 設定を構成します。 <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデバイステンプレートでの CAPD 設定の構成 (410 ページ) 一括管理による CAPF 設定の更新 (411 ページ) 電話機の CAPF 設定の構成 (413 ページ) 	次のオプションのいずれかを使用して、CAPF 設定を電話機の設定に追加します。 <ul style="list-style-type: none"> まだ LDAP ディレクトリを同期していない場合、CAPF 設定をユニバーサルデバイステンプレートに追加し、初期 LDAP 同期を使用して設定を適用します。 一括管理ツールを使用すると、1 回の操作で多数の電話機に CAPF 設定を適用できます。 CAPF 設定を電話機ごとに適用することができます。
ステップ 7	キープアライブ タイマーの設定 (413 ページ)	(オプション) ファイアウォールがタイムアウトしないように、CAPF エンドポイント接続のキープアライブ値を設定します。デフォルト値は 15 分です。

サードパーティの認証局のルート証明書のアップロード

CA ルート証明書を CAPF 信頼ストアと Unified Communications Manager 信頼ストアにアップロードし、外部 CA を使用して LSC 証明書に署名します。



(注) LSC の署名にサードパーティ CA を使用しない場合は、このタスクをスキップします。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified OS Administration] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ 2 [証明書/証明書チェーンのアップロード (Upload Certificate/Certificate chain)] をクリックします。
- ステップ 3 [証明書の目的 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで、[CAPF 信頼 (CAPF-trust)] を選択します。
- ステップ 4 証明書の説明を [説明 (Description)] に入力します。たとえば、外部 LSC 署名 CA の証明書のように指定します。
- ステップ 5 [参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動してから、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ 6 [アップロード (Upload)] をクリックします。
- ステップ 7 このタスクを繰り返し、[証明書の用途 (Certificate Purpose)] を [CallManager 信頼 (callmanager-trust)] として証明書をアップロードします。

認証局 (CA) ルート証明書のアップロード

クラスタ全体の証明書をアップロードし、クラスタ内のすべてのサーバに配布します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified OS Administration] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ 2 [証明書/証明書チェーンのアップロード (Upload Certificate/Certificate chain)] をクリックします。
- ステップ 3 [証明書目的 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで、[CallManager 信頼 (CallManager-trust)] を選択します。
- ステップ 4 証明書の説明を [説明 (Description)] に入力します。たとえば、外部 LSC 署名 CA の証明書のように指定します。
- ステップ 5 [参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動してから、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ 6 [アップロード (Upload)] をクリックします。

オンライン認証局の設定

オンライン CAPF を使用して電話機 LSC を生成するには、Unified Communications Manager でこの手順を使用します。



(注) FIPS 対応モードは、オンライン CAPF および CAPFips3 をサポートしません。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、[Cisco Certificate Authority Proxy Function (アクティブ) (Cisco Certificate Authority Proxy Function (Active))] サービスをアクティブにしたノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Certificate Authority Proxy Function (アクティブ) (Cisco Certificate Authority Proxy Function (Active))] を選択します。サービス名の横に「Active」と表示されることを確認します。
- ステップ 4 [エンドポイントへの証明書発行者 (Certificate Issuer to Endpoint)] ドロップダウンリストから、[オンラインCA (Online CA)] を選択します。CA 署名付き証明書の場合、オンライン CA を使用することを推奨します。
- ステップ 5 [証明書の有効期間 (日数) (Duration Of Certificate Validity (in Days))] フィールドに、CAPF が発行した証明書が有効である日数を表す数値を、1 ~ 1825 の間で指定します。
- ステップ 6 [オンラインCAパラメータ (Online CA Parameters)] セクションで、次のパラメータを設定して、オンライン CA セクションへの接続を作成します。
 - [オンラインCAホスト名 (Online CA Hostname)] : サブジェクト名または共通名 (CN) は、HTTPS 証明書の完全修飾ドメイン名 (FQDN) と同じである必要があります。

(注) 設定されたホスト名は、Microsoft CA で実行されているインターネットインフォメーションサービス (IIS) によってホストされる HTTPS 証明書の共通名 (CN) と同じです。
 - [オンラインCAポート (Online CA Port)] : オンライン CA のポート番号を入力します。たとえば、443 のように指定します。
 - [オンラインCAテンプレート (Online CA Template)] : テンプレートの名前を入力します。Microsoft CA がテンプレートを作成します。
 - [オンラインCAタイプ (Online CA Type)] : デフォルトのタイプである Microsoft CA を選択します。
 - [オンラインCAユーザ名 (Online CA Username)] : CA サーバのユーザ名を入力します。

- [オンラインCAパスワード (Online CA Password)] : CA サーバのユーザ名のパスワードを入力します。

ステップ7 残りのCAPFサービスパラメータを完了します。サービスパラメータのヘルプシステムを表示するには、パラメータ名をクリックします。

ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ9 変更内容を有効にするには、**Cisco Certificate Authority Proxy Function** を再起動します。Cisco Certificate Enrollment サービスが自動的に再起動します。

現在のオンライン CA の制限

- オンライン CA 操作の場合、EST サーバは CUCM から TVS 証明書を使用します。TVS 証明書が CA で署名されている場合、オンライン CA は動作しません。
- CA サーバが英語以外の言語を使用している場合、オンライン CA 機能は動作しません。CA サーバは英語でのみ応答します。
- オンライン CA 機能は、CA での mTLS 認証をサポートしていません。
- LSC 操作にオンライン CA を使用している場合、LSC 証明書に「デジタル署名」と「キー暗号化」のキー使用法が指定されていないと、デバイスのセキュア登録は失敗します。
- LSC 操作にオンライン CA を使用している場合、LSC 証明書に「デジタル署名」と「キー暗号化」が指定されていないと、デバイスのセキュア登録は失敗します。

オフライン認証局の設定の設定

オフラインCAを使用して電話機LSC証明書を生成することを決定した場合は、次の高度なプロセスに従うことができます。



- (注) オフライン CA オプションを使用すると、オンライン CA よりも時間がかかり、手動による手順が非常に多くなります。証明書の生成および送信プロセス中に問題（たとえば、ネットワークの停止や電話機のリセットなど）が発生した場合は、プロセスを再起動する必要があります。

手順

ステップ1 サードパーティ認証局からルート証明書チェーンをダウンロードします。

ステップ2 ルート証明書チェーンを Unified Communications Manager 内の必要な信頼 (CallManager 信頼 CAPF 信頼) にアップロードします。

- ステップ 3** [エンドポイントへの証明書の発行 (Certificate Issue to Endpoint)] サービスパラメータを [オフライン CA (Offline CA)] に設定して、オフライン CA を使用するよう Unified Communications Manager を設定します。
- ステップ 4** お使いの電話機の LSC 用に **CSR** を生成します。
- ステップ 5** 認証局に **CSR** を送信します。
- ステップ 6** **CSR** から署名付き証明書を取得します。

オフライン CA を使用して電話機 LSC を生成する方法の詳細な例については、「[CUCM サードパーティ CA 署名済み LSC の作成およびインポートの設定](#)」を参照してください。

CAPF サービスのアクティブ化または再起動

CAPF システム設定を構成した後、必須の CAPF サービスをアクティブにします。CAPF サービスがすでにアクティブ化されている場合は、再起動します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスアクティベーション (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** [セキュリティサービス (Security Services)] ペインで、適用されるサービスを確認します。
- **Cisco Certificate Enrollment Service** : オンライン CA を使用している場合は、このサービスをオンにし、そうでない場合はオフのままにします。
 - **Cisco Certificate Authority Proxy Function** : オフになっている (非アクティブ) 場合は、このサービスをオンにします。このサービスがすでにアクティブ化されている場合は、再起動します。
- ステップ 4** 設定を編集した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** **Cisco Certificate Authority Proxy Function** サービスがすでにチェックされている場合は (アクティブ)、再起動します。
- a) [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - b) [セキュリティ設定 (Security Settings)] ペインで、[Cisco Certificate Authority Proxy Function] サービスをオンにして、[再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ 6** 次の手順のいずれかを実行して、個々の電話機に対して CAPF 設定を構成します。
- a) [ユニバーサル デバイス テンプレートでの CAPD 設定の構成 \(410 ページ\)](#)
 - b) [一括管理による CAPF 設定の更新 \(411 ページ\)](#)

c) 電話機の CAPF 設定の構成 (413 ページ)

ユニバーサル デバイス テンプレートでの CAPD 設定の構成

CAPF 設定をユニバーサルデバイステンプレートに設定するには、次の手順を実行します。テンプレートは、機能グループテンプレートの設定を使用して、LDAPディレクトリ同期に適用することができます。テンプレートのCAPF設定は、このテンプレートを使用する同期のすべてのデバイスに適用されます。



(注) ユニバーサル デバイス テンプレートは、まだ同期されていない LDAP ディレクトリにしか追加することができません。初期LDAP同期が発生した場合は、一括管理を使用して電話機を更新します。詳細については、「一括管理による CAPF 設定の更新 (411 ページ)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックして、既存のテンプレートを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [認証局プロキシ機能 (CAPF) の設定 (Certificate Authority Proxy Function (CAPF) Settings)] 領域を展開します。
- ステップ 4** [証明書の操作 (Certificate Operation)] ドロップダウンリストで、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 5** [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウンリストメニューから、デバイスを認証するためのオプションを選択します。
- ステップ 6** 認証文字列の使用を選択した場合は、[認証文字列 (Authentication String)] テキストボックスに文字列を入力するか、または [文字列を生成 (Generate String)] をクリックして、システムによって文字列が生成されるようにします。

(注) この文字列がデバイス上で設定されていない場合、認証は失敗します。
- ステップ 7** 残りのフィールドで、キー情報を設定します。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

(注) このテンプレートを使用するデバイスは、この手順で割り当てたのと同じ認証方式で設定されていることを確認してください。それ以外の場合、デバイス認証は失敗します。電話機の認証を設定する方法の詳細については、電話機のマニュアルを参照してください。

- ステップ 9** 次の手順に従って、このプロファイルを使用しているデバイスにテンプレートの設定を適用します。
- a) ユニバーサル デバイス テンプレートを [機能グループテンプレートの設定 (Feature Group Template Configuration)] に追加します。
 - b) 同期されていない LDAP ディレクトリ設定に機能グループテンプレートを追加します。
 - c) LDAP 同期を完了します。CAPF 設定は、同期されているすべてのデバイスに適用されます。

機能グループテンプレートと LDAP ディレクトリの設定の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)』の「エンドユーザの設定」の項を参照してください。

一括管理による CAPF 設定の更新

Bulk Administrationの**電話機の更新**クエリを使用して、1回の操作で多数の既存の電話機に CAPF 設定と LSC 証明書を設定します。



- (注) まだ電話機をプロビジョニングしていない場合は、一括管理の [電話機の挿入 (Insert phone)] メニューを使用して、CSV ファイルからの CAPF 設定で新しい電話機をプロビジョニングできます。CSV ファイルから電話機を挿入する方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド](#)』の「電話機の挿入」セクションを参照してください。

電話機は、この手順で追加する文字列と認証方式と同じ文字列と認証方式で設定されていることを確認します。それ以外の場合、お使いの電話機は CAPF に対して認証しません。電話機で認証を設定する方法の詳細については、電話ドキュメンテーションを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話機 (Phones)] > [電話機の更新 (Update Phones)] > [クエリ (Query)]
- ステップ 2** フィルタオプションを使用して、更新する電話機に検索を制限し、[検索 (Find)] をクリックします。

たとえば、[電話機の検索場所 (Find phones where)] ドロップダウンリストを使用して、特定の日付の前に LSC の有効期限が切れる電話機や、特定のデバイスプールにある電話機をすべて選択します。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [ログアウト/リセット/リスタート (Logout/Reset/Restart)] セクションで、[設定の適用 (Apply Config)] ラジオボタンを選択します。ジョブを実行すると、CAPF アップデートは更新されたすべての電話に適用されます。

ステップ 5 [認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] で、[証明書の操作 (Certificate Operation)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [証明書の操作 (Certificate Operation)] ドロップダウンリストから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択して、新しい LSC 証明書を電話機にインストールします。

ステップ 7 [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウンリストから、LSC のインストール時に電話機を認証する方法を選択します。

(注) 電話機で同じ認証方式を設定します。

ステップ 8 [認証モード (Authentication Mode)] として [認証文字列による (By Authentication String)] を選択した場合は、次の手順のいずれかを実行します。

- 各デバイスに対して一意の認証文字列を使用する場合は、[各デバイスに対して一意の認証文字列を生成する (Generate unique authentication string for each device)] をオンにします。
- すべてのデバイスに同じ認証文字列を使用する場合は、[認証文字列 (Authentication String)] テキストボックスに文字列を入力するか、[文字列の生成 (Generate String)] をクリックします。

ステップ 9 [電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウの [認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] セクションで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、[今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。

(注) スケジュールされた時刻にジョブを実行する場合は、[後で実行 (Run Later)] を選択します。ジョブのスケジュール設定の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド](#)』の「スケジュールされたジョブの管理」セクションを参照してください。

ステップ 11 [送信 (Submit)] をクリックします。

(注) この手順で [設定の適用 (Apply Config)] オプションを選択しなかった場合は、[電話機の設定 (Phones Configuration)] ウィンドウですべての更新された電話機に設定を適用します。

電話機の CAPF 設定の構成

個々の電話機の LSC 証明書の CAPF 設定を設定するには、次の手順を実行します。



- (注) LDAP 設定を多数の電話機に適用するには、一括管理または CAPF ディレクトリ同期を使用します。

この手順で追加するのと同じ文字列と認証方式で電話機を設定します。それ以外の場合、電話機は CAPF に対してそれ自体を認証しません。電話機で認証を設定する方法の詳細については、電話ドキュメンテーションを参照してください。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- ステップ 2 既存の電話機を選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。[電話の設定 (Phone Configuration)] ページが表示されます。
- ステップ 3 [認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] ペインに移動します。
- ステップ 4 [証明書の操作 (Certificate Operation)] ドロップダウンリストから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択して、新しい LSC 証明書を電話機にインストールします。
- ステップ 5 [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウンリストから、LSC のインストール時に電話機を認証する方法を選択します。

(注) 電話機は、同じ認証方式を使用するように設定する必要があります。
- ステップ 6 [認証文字列による (By Authentication String)] を選択した場合は、テキスト文字列を入力するか、[文字列の生成 (Generate String)] をクリックして文字列を生成します。
- ステップ 7 [電話の設定 (Phone Configuration)] ページの [認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] ペインで、残りのフィールドに詳細を入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

キープアライブ タイマーの設定

ファイアウォールによって接続がタイムアウトしないように、次の手順を実行して、CAPF-エンドポイント接続のクラスターワイドキープアライブ タイマーを設定します。デフォルト値は 15 分です。各間隔の後、CAPF サービスは電話機にキープアライブ信号を送信して、接続を開いた状態にします。

手順

-
- ステップ 1** コマンドライン インターフェイスを使用して、パブリッシャーノードにログインします。
- ステップ 2** `utils capt set keep_alive CLI` コマンドを実行します。
- ステップ 3** 5 ~ 60 (分) の間の数値を入力し、**Enter** キーを押します。
-

CAPF の管理タスク

CAPF を設定し、LSC 証明書を発行した後、次のタスクを使用して LSC 証明書を継続的に管理します。

証明書ステータスのモニタリング

証明書のステータスを自動的に監視するようにシステムを設定することができます。証明書が期限切れに近づいたときにシステムから電子メールが送信され、期限切れ後に証明書が失効します。

証明書の監視の確認の設定方法の詳細については、「証明書の管理」の章の「[証明書の監視と失効のタスクフロー](#)」を参照してください。

古い LSC レポートの実行

次の手順を使用して、古い LSC レポートを Cisco ユニファイドレポートから実行します。古い LSC とは、エンドポイント CSR への応答として生成された証明書ですが、その LSC がインストールされる前にエンドポイントによって新しい CSR が生成されたため、インストールされなかったものです。



-
- (注) パブリッシャーノードで `utils capf stale-lsc list CLI` コマンドを実行して、古い LSC 証明書のリストを取得することもできます。
-

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Reporting から、[システムレポート (System Reports)] を選択します。
- ステップ 2** 左側のナビゲーションバーで、[古い LSC (Stale LSCs)] を選択します。
- ステップ 3** [新規レポートの作成 (Generate a new Report)] をクリックします。
-

保留中の CSR リストの表示

保留中の CAPF CSR ファイルのリストを表示するには、この手順を使用します。すべての CSR ファイルはタイムスタンプされます。

手順

- ステップ 1** コマンドラインインターフェイスを使用して、パブリッシャノードにログインします。
- ステップ 2** `utils core active list` CLI コマンドを実行します。
保留中の CSR ファイルのタイムスタンプリストが表示されます。

古い LSC 証明書の削除

古い LSC 証明書をシステムから削除するには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1** コマンドラインインターフェイスを使用して、パブリッシャノードにログインします。
- ステップ 2** `utils capf stale-lsc delete all` CLI コマンドを実行します。
古い LSC 証明書はすべてシステムから削除されます。

CAPF システムの連携動作と制限事項

機能	連携動作
認証文字列	電話の CAPF 認証方式については、アップグレードまたはインストールの後に同じ認証文字列を電話に入力する必要があります。入力されなかった場合、操作が失敗します。[TFTP Encrypted Config] エンタープライズパラメータが有効な状態で認証文字列の入力に失敗した場合、電話の設定は失敗し、該当する認証文字列が電話に入力されるまで回復しません。
クラスタサーバクレデンシャル	CAPF が Unified Communications Manager クラスタのすべてのサーバを認証できるよう、クラスタ内のすべてのサーバで管理者のユーザ名とパスワードを同じものにする必要があります。

機能	連携動作
<p>セキュアな電話機の移行</p>	<p>セキュアな電話が別のクラスタに移動されると、Unified Communications Managerはその電話が送信する LSC 証明書を信頼しなくなります。これは、その LSC 証明書が、CTL ファイル内に証明書が存在しない別の CAPF によって発行されたものであるためです。</p> <p>セキュアな電話機を登録できるようにするには、既存の CTL ファイルを削除します。その後、[Install/Upgrade] オプションを使用して新しい CAPF を使用して新しい LSC 証明書をインストールし、電話機を新しい CTL ファイルにリセット (または MIC を使用) することができます。電話機を移動する前に既存の LSC を削除するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [CAPF] セクションの [削除 (Delete)] オプションを使用します。</p>
<p>Cisco Unified IP 電話 6900 シリーズ、7900 シリーズ、および 8900 シリーズ、および 9900</p>	<p>将来的な互換性の問題を回避するため、Unified Communications Manager との TLS 接続に LSC を使用するために Cisco Unified IP 電話 6900 シリーズ、7900 シリーズ、8900 シリーズ、9900 シリーズをアップグレードし、MIC ルート証明書を CallManager 信頼ストアから削除することが推奨されます。Cisco Unified Communications Manager との TLS 接続に MIC を使用する一部の電話モデルは登録できない場合があることに注意してください。</p> <p>管理者は、CallManager 信頼ストアから次の MIC ルート証明書を削除する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CAP-RTP-001 • CAP-RTP-002 • Cisco_Manufacturing_CA • Cisco_Root_CA_2048
<p>停電</p>	<p>以下の情報は、通信障害や電源障害の発生時に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話機で証明書のインストールが行われている間に通信障害が発生した場合、電話機は30秒間隔で証明書の取得を3回試行します。これらの値は設定できません。 • 電話機が CAPF とのセッションを試行している間に電源障害が発生した場合、電話機はフラッシュに保存されている認証モードを使用します。つまり、電話機の再起動後に、電話機が TFTP サーバから新しい設定ファイルをロードできない場合です。証明書の操作が完了すると、システムはフラッシュの値をクリアします。

機能	連携動作
証明書の暗号化	<p>Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(1)SU1 以降、CAPF サービスによって発行されるすべての LSC 証明書は、SHA-256 アルゴリズムで署名されています。したがって、IP 電話 7900/8900/9900 シリーズのモデルは、SHA-256 署名済み LSC 証明書および外部 SHA2 アイデンティティ証明書 (Tomcat、CallManager、CAPF、TVS など) をサポートしません。署名の検証が必要な、その他の暗号化の操作では、SHA-1 のみがサポートされます。</p> <p>(注) ソフトウェアメンテナンスが終了またはサポートが終了した電話モデルを使用する場合は、Unified Communications Manager の 11.5(1)SU1 より前のリリースの使用を強くお勧めします。</p>

7942 および 7962 電話機での CAPF の例

ユーザまたは Unified Communications Manager によって電話がリセットされたときの CAPF と Cisco Unified IP 電話 7962 および 7942 とのインタラクションについては、以下の情報を考慮してください。



(注) 以下の例では、電話機に LSC が存在せず、CAPF 認証モードとして [既存の証明書 (By Existing Certificate)] が選択されている場合、CAPF 証明書操作が失敗します。

例：非セキュア デバイス セキュリティ モード

この例では、[Device Security Mode] を [Nonsecure] に設定し、[CAPF Authentication Mode] を [By Null String] または [By Existing Certificate (Precedence...)] に設定した後、電話がリセットされます。リセットした電話は直ちにプライマリ Unified Communications Manager に登録され、設定ファイルを受信します。その後、電話機は CAPF とのセッションを自動的に開始して LSC をダウンロードします。電話機が LSC をインストールした後、デバイスセキュリティモードを [認証済み (Authenticated)] または [暗号化 (Encrypted)] に設定します。

例：認証済み/暗号化済みデバイス セキュリティ モード

この例では、[Device Security Mode] を [Authenticated] または [Encrypted] に設定し、[CAPF Authentication Mode] を [By Null String] または [By Existing Certificate (Precedence...)] に設定した後、電話がリセットされます。CAPF セッションが終了し LSC がインストールされるまで、電話はプライマリ Unified Communications Manager に登録されません。セッションが終了すると、電話機が登録され、すぐに認証モードまたは暗号化モードで実行されます。

この例では、電話が自動的に CAPF サーバに接続されないため、[By Authentication String] を設定できません。電話に有効な LSC がない場合、登録は失敗します。

IPv6 アドレッシングとの CAPF のインタラクション

CAPF は、IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスを使用する電話機に証明書を発行し、アップグレードすることができます。IPv6 アドレスを使用する SCCP を実行する電話の証明書の発行またはアップグレードを実行するには、[Unified Communications Manager Administration] で [Enable IPv6] サービス パラメータを [True] に設定する必要があります。

電話機が CAPF に接続して証明書を取得すると、CAPF は [IPv6 を有効にする (Enable IPv6)] エンタープライズパラメータの設定を使用して、電話機に証明書を発行するか、またはアップグレードするかを決定します。エンタープライズパラメータが **False** に設定されている場合、Capf は IPv6 アドレスを使用する電話機からの接続を無視または拒否し、電話機は証明書を受信しません。

次の表では、IPv4、IPv6、または両方のタイプのアドレスを持つ電話機が CAPF に接続する方法について説明します。

表 27: IPv6 または IPv4 電話機の CAPF への接続方法

電話機の IP モード	電話機の IP アドレス	CAPF IP アドレス	電話機から CAPF への接続方法
2 スタック	IPv4 と IPv6 が利用可能	IPv4、IPv6	電話機は、IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。電話機が IPv6 アドレスを介して接続できない場合は、IPv4 アドレスを使用して接続を試みます。
2 スタック	IPv4	IPv4、IPv6	電話は IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。
2 スタック	IPv6	IPv4、IPv6	電話機は、IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。試行に失敗した場合、電話機は IPv4 アドレスを使用して CAPF に接続します。
2 スタック	IPv4	IPv4	電話は IPv4 アドレスを使用して CAPF に接続します。
2 スタック	IPv4 と IPv6 が利用可能	IPv6	電話機は、および IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。

電話機の IP モード	電話機の IP アドレス	CAPF IP アドレス	電話機から CAPF への接続方法
2 スタック	IPv4 と IPv6 が利用可能	IPv4	電話は IPv4 アドレスを使用して CAPF に接続します。
2 スタック	IPv4	IPv6	電話機が CAPF に接続できません。
2 スタック	IPv6	IPv4	電話機が CAPF に接続できません。
2 スタック	IPv6	IPv6	電話は IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。
IPv4 スタック	IPv4	IPv4、IPv6	電話は IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。
IPv6 スタック	IPv6	IPv4、IPv6	電話機は、IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。
IPv4 スタック	IPv4	IPv4	電話は IPv4 アドレスを使用して CAPF に接続します。
IPv4 スタック	IPv4	IPv6	電話機が CAPF に接続できません。
IPv6 スタック	IPv6	IPv6	電話は IPv6 アドレスを使用して CAPF に接続します。
IPv6 スタック	IPv6	IPv4	電話機が CAPF に接続できません。



第 32 章

TFTP サーバの設定

- [プロキシ TFTP 展開の概要 \(421 ページ\)](#)
- [TFTP サーバの設定タスク フロー \(425 ページ\)](#)

プロキシ TFTP 展開の概要

プロキシ簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) サーバを使用して、ネットワークのエンドポイントに必要な設定ファイル(ダイヤルプラン、着信音ファイル、デバイス設定ファイルなど)を指定します。展開内の任意のクラスタに TFTP サーバをインストールして、複数クラスタのエンドポイントからの要求を処理することができます。DHCP スコープは、設定ファイルを取得するために使用するプロキシ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

冗長およびピアプロキシ TFTP サーバ

単一クラスタの導入では、クラスタは少なくとも 1 つのプロキシ TFTP サーバを備えている必要があります。冗長性を確保するために、クラスタに別のプロキシ TFTP サーバを追加することができます。2 台目のプロキシ TFTP サーバは、IPv4 のオプション 150 に追加されます。IPv6 の場合、第 2 TFTP サーバを、DHCP スコープの TFTP サーバアドレスサブオプションタイプ 1 に追加します。

複数のクラスタ展開では、最大 3 台のリモートプロキシ TFTP サーバをプライマリプロキシ TFTP サーバのピアクラスタとして指定できます。これは、複数の DHCP スコープに対して 1 台のプロキシ TFTP サーバだけを設定する場合、または 1 つの DHCP スコープのみを設定する場合に便利です。プライマリプロキシ TFTP サーバは、ネットワーク内のすべての電話機とデバイスに設定ファイルを提供します。

各リモートプロキシ TFTP サーバとプライマリプロキシ TFTP サーバの間にピア関係を作成する必要があります。



ヒント

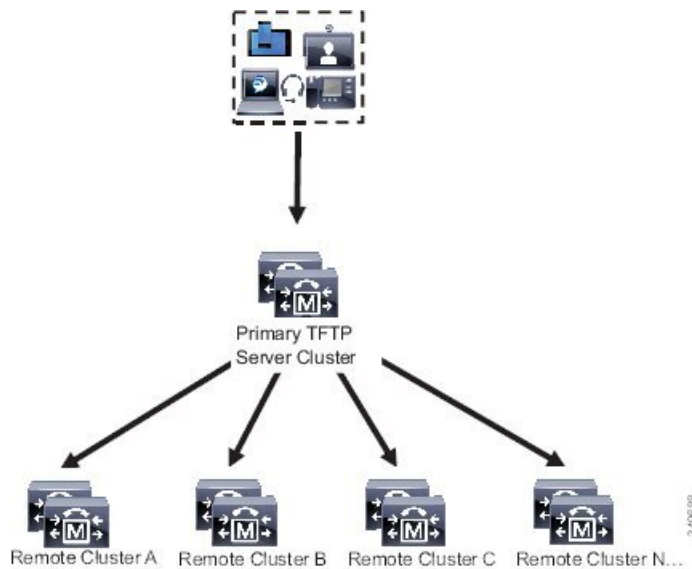
ネットワーク内のリモートプロキシ TFTP サーバ間にピア関係を設定する場合は、関係を階層構造にしておきます。ループの発生を回避するために、リモートクラスタ上のピアプロキシ TFTP サーバが相互にポイントしないようにします。たとえば、プライマリノード A にノード B と C のピアリレーションシップがあるとします。ノード B と C の間にピア関係を作成しないでください。作成すると、ループが作成されます。

プロキシ TFTP

マルチクラスタ システムでは、プロキシ TFTP サービスは、1つのプライマリ TFTP サーバを介して複数のクラスタから TFTP ファイルを提供できます。単一のサブネットまたは VLAN に複数のクラスタからの電話機が含まれている場合や、複数のクラスタが同じ DHCP TFTP オプション (150) を共有している場合、プロキシ TFTP はそれらの状況に対する単一の TFTP 参照として機能できます。

プロキシ TFTP サービスは、図に示すように、単一レベルの階層として機能します。より複雑な複数レベル階層はサポートされません。

図 7: プロキシ TFTP のシングル レベル階層



上の図では、デバイスのグループが構成ファイルのプライマリ TFTP サーバと通信します。デバイスから TFTP の要求を受信すると、プライマリ TFTP は、設定ファイルだけでなく、リモートクラスタ A、B、C、N(構成されている他のリモートクラスタ)などリモートで構成された他のクラスタについて、それぞれ自身のローカルキャッシュを検索します。

プライマリ TFTP サーバ上では、任意の数のリモートクラスタを設定できます。ただし、各リモートクラスタには最大 3 個の TFTP IP アドレスしか含めることができません。冗長性を確保するための推奨設計は、クラスタごとに 2 台の TFTP サーバを使用することです。したがって、プライマリ TFTP サーバ上のリモートクラスタあたり 2 つの IP アドレスを使用して冗長性を確保できます。

ユースケースとベストプラクティス

プロキシ TFTP の使用方法と実装に関するベストプラクティスとして、次のシナリオを検討してください。

1. クラスタは、他の用途に対応しない専用のプロキシ TFTP クラスタとして動作できます。このようなクラスタは他のクラスタと関係を持たず、コールの処理も行いません。このシナリオでは、リモートクラスタ TFTP を手動で定義し、8.0 よりも前にロールバックすることを推奨します。



注 このシナリオでは自動登録は機能しません。

2. クラスタはリモートクラスタであり、リモートクラスタに対するプロキシ TFTP サーバとしても動作します。リモートクラスタは手動で定義されます。自動登録は有効にしないでください。

IPv4 および IPv6 デバイスに対する TFTP サポート

IPv4 の電話機とゲートウェイで DHCP カスタムオプション 150 を使用して、TFTP サーバの IP アドレスを検出することを推奨します。オプション 150 を使用すると、ゲートウェイと電話機は TFTP サーバの IP アドレスを検出します。詳細については、デバイスに同梱されているマニュアルを参照してください。

IPv6 ネットワークでは、Cisco ベンダー固有の DHCPv6 情報を使用して、TFTP サーバ IPv6 アドレスをエンドポイントに渡すことを推奨します。この方法では、TFTP サーバの IP アドレスをオプション値として設定します。

IPv4 を使用するエンドポイントと IPv6 を使用するエンドポイントがある場合は、IPv4 には DHCP カスタム オプション 150 を、IPv6 には Cisco ベンダー固有情報オプションである TFTP サーバアドレスのサブオプションタイプ 1 を使用することをお勧めします。TFTP サーバが IPv4 を使用して要求を処理しているときに、エンドポイントが IPv6 アドレスを取得して要求を TFTP サーバに送信した場合、TFTP サーバは IPv6 スタックで要求を受信していないため、その要求を受信しません。この場合、エンドポイントを Cisco Unified Communications Manager に登録できません。

IPv4 および IPv6 デバイスが TFTP サーバの IP アドレスを検出するために使用できる別の方法があります。たとえば、IPv4 デバイスに DHCP オプション 066 または CiscoCM1 を使用できます。IPv6 デバイスの場合、他の方法として、TFTP サービスのサブオプションタイプ 2 を使用する方法と、エンドポイントで TFTP サーバの IP アドレスを設定する方法があります。これらの代替手段は推奨されません。代替手段を使用する前に、シスコのサービスプロバイダーに問い合わせてください。

TFTP 展開のエンドポイントおよび設定ファイル

SCCP 電話機、SIP 電話およびゲートウェイは、初期化時に設定ファイルを要求します。デバイス設定を変更すると、更新された設定ファイルがエンドポイントに送信されます。

設定ファイルには、Unified Communications Manager ノードの優先順位リスト、これらのノードに接続するために使用される TCP ポート、さらに他の実行可能ファイルが含まれます。一部のエンドポイント用の設定ファイルには、電話機のボタン（メッセージ、ディレクトリ、サービス、および情報）用のロケール情報および URL が保存されています。ゲートウェイ用の設定ファイルには、デバイスが必要とする設定情報がすべて保存されています。

プロキシ TFTP のセキュリティに関する考慮事項

Cisco プロキシ TFTP サーバは、署名付きの要求と署名されていない要求の両方を処理し、非セキュアモードと混在モードのどちらでも動作します。プロキシ TFTP サーバは、電話機がファイルを要求したときにローカルファイルシステムまたはデータベースを検索し、見つからない場合は要求をリモートクラスタに送信します。電話機がサーバに共通ファイル（ringlist.xml.sgn のような名前のファイルやロケールファイルなど）を要求した場合、サーバは、電話機のホームクラスタにあるファイル自体の代わりに、そのファイルのローカルコピーを送信します。

プロキシ TFTP からファイルを受信したとき、このファイルにはプロキシサーバの署名が含まれていて電話機の初期信頼リスト（ITL）と一致しないため、署名の検証に失敗し、ファイルは電話機に拒否されます。この問題を解決するには、電話機のデフォルトのセキュリティ（SBD）を無効にするか、またはプロキシ TFTP の CallManager 証明書を新しい（リモート/ホーム）クラスタの phone-sast-trust にインポートします。その後、電話機から信頼検証サービス（TVS）に接続し、プロキシ TFTP 証明書を信頼できます。展開環境で EMCC が有効になっている場合は、一括証明書交換が必要です。

デフォルトのセキュリティを無効にするには、『[Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド](#)』の「Cisco Unified IP Phone の ITL ファイルの更新」セクションを参照してください。

混在モードのプロキシ TFTP

混在モードで動作しているリモートクラスタ上の TFTP サーバでは、プライマリプロキシ TFTP サーバ証明書を Cisco 証明書信頼リスト（CTL）ファイルに追加する必要があります。追加しない場合、セキュリティが有効になっているクラスタに登録されたエンドポイントに必要なファイルをダウンロードできなくなります。これを行うには、証明書の一括インポート/エクスポートの実行後に CTL ファイルを更新します。

詳細については、IP Phone をクラスタ間で移行して証明書の一括エクスポートを実行するときに、『[Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド](#)』の「証明書の一括エクスポート」セクションを参照してください。

プロキシ TFTP 環境におけるクラスタ間での電話機の移動

プロキシ TFTP 環境のリモートクラスタ間で電話機を移動する場合は、次の手順を実行します。

1. リモートクラスタ B (移動先クラスタ) に電話機の詳細を追加します。
2. リモートクラスタ A (移動元クラスタ) から電話機を削除します。



注 プロキシ TFTP の電話機の設定が期限切れになるまでには 30 分かかります。ファイルが見つからないという応答が返されるのを避けるために、プロキシクラスタの TFTP サービスを再起動します。

3. 電話機をリセットして、リモートクラスタ B から構成ファイルをダウンロードし、リモートクラスタ B に登録します。

TFTP サーバの設定タスク フロー

クラスタに対して拡張モビリティクロスクラスタ (EMCC) が設定されている場合は、システムがプロキシ TFTP サーバを動的に設定できます。そうしない場合は、TFTP サーバを設定して、セキュリティモードを手動で設定することができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	次のいずれかの方法を使用して、TFTP サーバをセットアップします。 <ul style="list-style-type: none"> • TFTP サーバのダイナミック設定 (426 ページ) • TFTP サーバの手動設定 (427 ページ) 	クラスタ間ロックアップサービス (ILS) が設定されている場合は、TFTP サーバを動的に設定することができます。 EMCC が設定されていない場合は、TFTP サーバを手動でセットアップします。クラスタがセキュアであるか、あるいは非セキュアであるかを示す必要があります。クラスタは、デフォルトでは非セキュアとして扱われます。
ステップ 2	(任意) TFTP サーバの CTL ファイルの更新 (428 ページ)	CTL クライアントプラグインをインストールし、混在モードで動作しているすべてのリモートクラスタ内のすべてのプロキシ TFTP サーバの Cisco Certificate Trust List (CTL) ファイルにプライマリプロキシ TFTP サーバを追加します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) エンドポイント デバイスに対応するドキュメントを参照してください。	プロキシ TFTP 展開にリモート クラスタがある場合は、プロキシ TFTP サーバをすべてのリモート エンドポイントの信頼検証リスト (TVL) に追加する必要があります。
ステップ 4	(任意) TFTP サーバの非設定ファイルの変更 (428 ページ)	プロキシ TFTP サーバからエンドポイントを要求した非設定ファイルを変更できます。
ステップ 5	(任意) TFTP サービスの停止と開始 (429 ページ)	エンドポイントの変更済みの設定されていないファイルをアップロードした場合は、プロキシ TFTP ノード上で TFTP サービスを停止して再起動します。
ステップ 6	(任意) DHCP サーバに対応するドキュメントを参照してください。	複数のクラスタに展開する場合は、プライマリ プロキシ TFTP サーバの IP アドレスが含まれるように、個々のリモート ノードの DHCP スコープを変更します。

TFTP サーバのダイナミック設定

ネットワークに設定されているクラスタ ルックアップ サービス (ILS) を使用している場合は、Cisco proxy TFTP サーバを動的に設定することができます。

始める前に

ネットワークの EMCC を設定します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

手順

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[拡張機能(Advanced Features)] > [クラスタ ビュー(Cluster View)] > [今すぐリモート クラスタを更新(Update Remote Cluster Now)] を選択します。TFTP サーバはクラスタに対して自動的に設定されます。

次のタスク

エンドポイントの信頼検証リスト (TVL) にリモート プロキシ TFTP サーバを追加する必要があります。そうでない場合は、リモート クラスタ上のプロキシ TFTP サーバからの設定ファイル

は受け入れられません。詳細については、お使いのエンドポイントデバイスに対応するマニュアルを参照してください。

TFTP サーバの手動設定

EMCC が設定されていない場合にネットワークで TFTP を設定するには、手動の手順を実行する必要があります。

[クラスタ ビュー (Cluster View)] で、プライマリ プロキシ TFTP サーバとその他の TFTP サーバ間のピア関係をセットアップします。最大 3 台のピア TFTP サーバを追加できます。

プロキシ TFTP 導入環境の各リモート TFTP サーバには、プライマリ プロキシ TFTP サーバとのピア関係が含まれる必要があります。ループの作成を回避するため、リモートクラスタのピア TFTP サーバが互いを指し示していないことを確認します。

手順

ステップ 1 リモート クラスタを作成します。次のアクションを実行します。

- a) Cisco Unified CM Administration で、[高度な機能 (Advanced Features)] > [クラスタの表示 (Cluster View)] を選択します。
- b) [新規追加 (Add New)] をクリックします。[リモート クラスタの設定 (Remote Cluster Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- c) TFTP サーバの最大 50 文字のクラスタ ID と完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

クラスタ ID の有効な値には、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-) が含まれます。FQDN の有効な値には、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アスタリスク (*)、およびスペースが含まれます。

- d) (任意) [リモート クラスタ サービスの設定 (Remote Cluster Service Configuration)] ウィンドウで、リモート クラスタの最大 128 文字の説明を入力します。

二重引用符 (“ ”)、山カッコ (><)、バックスラッシュ (\)、ハイフン (-)、アンパサンド (&)、またはパーセント記号 (%) は使用しないでください。

ステップ 2 リモート クラスタの TFTP を有効にするには、[TFTP] チェック ボックスをオンにします。

ステップ 3 [TFTP] をクリックします。

ステップ 4 [リモート クラスタ サービスの手動上書き設定 (Remote Cluster Service Manually Override Configuration)] ウィンドウで、[リモート サービス アドレスの手動設定 (Manually configure remote service addresses)] を選択します。

ステップ 5 これらの TFTP サーバとピア関係を作成するには、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。

TFTP サーバの IP アドレスは 3 つまで入力できます。

ステップ 6 (任意) プロキシ TFTP サーバがセキュアなクラスタに展開されている場合は、[クラスタは安全です (Cluster is Secure)] チェック ボックスをオンにします。

ステップ7 [保存 (Save)]をクリックします。

次のタスク

エンドポイントの Trust Verification List (TVL) に、すべてのリモート TFTP サーバを追加する必要があります。追加しないと、エンドポイントがリモート クラスタにあるプロキシ TFTP サーバからの設定ファイルの受け入れが拒否されます。詳細については、お使いのエンドポイント デバイスに対応するマニュアルを参照してください。

TFTP サーバの CTL ファイルの更新

混在モードの各クラスタで `utils ctl` を実行して、パブリッシュノードから CTL ファイルを更新します。プロキシ TFTP サーバとすべてのクラスタの間に完全なセキュリティネットワークが確立していて、プロキシとリモートクラスタ間で一括インポートおよびエクスポートによる証明書の交換が可能であることを確認します。

CTLClient を使用して、混在モードで動作しているリモートクラスタ内のすべての TFTP サーバの Cisco 証明書信頼リスト (CTL) ファイルに、プライマリ TFTP サーバまたはプライマリ TFTP サーバの IP アドレスを追加する必要があります。これは、セキュリティ対応クラスタ内のエンドポイントが設定ファイルを正常にダウンロードできるようにするために必要です。

セキュリティと Cisco CTL CLI の使用方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド](#)』の「Cisco CTL の設定について」セクションを参照してください。

手順

- ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)]から、以下を選択します。[アプリケーション (Application)]>[プラグイン (Plugins)]
- ステップ2 [検索 (Find)]をクリックして、インストールできるすべてのプラグインの一覧を表示します。
- ステップ3 Cisco CTL クライアントのダウンロードリンクをクリックします。
システムは TFTP サーバ上に保管される証明書にデジタル署名をするクライアントをインストールします。
- ステップ4 TFTP サーバをリブートします。

TFTP サーバの非設定ファイルの変更

ロードファイルや RingList.xml など、設定されていないファイルを、プロキシ TFTP サーバからのエンドポイント要求であるように変更できます。この手順を完了したら、変更したファイルをプロキシ TFTP サーバの TFTP ディレクトリにアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Operating System Administration で、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] > [TFTP ファイル管理 (TFTP File Management)] を選択します。
[TFTPファイル管理 (TFTP File Management)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- [参照] をクリックして、アップロードするファイルのディレクトリの場所を参照します。
 - 更新されたファイルの完全なディレクトリパスを [ディレクトリ] フィールドに貼り付けます。
- ステップ 4** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックするか、[閉じる (Close)] をクリックしてファイルをアップロードせずに終了します。
-

次のタスク

Cisco Unified Serviceability Administration を使用して、プロキシ TFTP ノード上の Cisco TFTP サービスを停止して再起動します。

TFTP サービスの停止と開始

次の手順に従って、プロキシ TFTP ノード上の TFTP サービスを停止して再開します。

サービスの有効化、無効化、および再起動についての詳細は、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロール センター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
- ステップ 2** [コントロール センター-機能サービス (Control Center-Feature Services)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンリストからプロキシ TFTP ノードを選択します。
- ステップ 3** [CMサービス (CM Services)] 領域で TFTP サービスを選択し、[停止 (Stop)] をクリックします。
- ステータスが変化し、更新されたステータスが反映されます。
- ヒント** サービスの最新のステータスを表示するには、[更新 (Refresh)] をクリックします。

ステップ 4 [CM サービス (CM Services)] 領域で TFTP サービスを選択し、[開始 (Start)] をクリックします。

ステータスが変わり、更新されたステータスが反映されます。



第 33 章

アクティベーションコードによるデバイスのオンボーディング

- [アクティベーションコードの概要 \(431 ページ\)](#)
- [アクティベーションコードの前提条件 \(434 ページ\)](#)
- [オンプレミスモードでのアクティベーションコードを使用したデバイスのオンボーディングのタスクフロー \(434 ページ\)](#)
- [デバイスオンボーディングタスクフロー \(モバイルおよびリモートアクセスモード\) \(442 ページ\)](#)
- [アクティベーションコードの追加タスク \(445 ページ\)](#)
- [アクティベーションコードの使用例 \(447 ページ\)](#)

アクティベーションコードの概要

アクティベーションコードにより、新しくプロビジョニングされた電話機が簡単にプロビジョニングされます。アクティベーションコードは、1 回だけ使用できる 16 桁の値であり、電話機を登録する際にユーザが電話機に入力する必要があります。アクティベーションコードは、電話機のプロビジョニングとオンボーディングを効率化する方法であり、管理者が手動で個々の電話機の MAC アドレスを収集して入力する必要がありません。これは自動登録の代替となるシンプルな方法であり、この方法で多数の電話機のプロビジョニング、1 台の電話機のプロビジョニング、または既存の電話機の再登録も可能です。

モバイルおよびリモートアクセスに準拠したデバイスを使用して、アクティベーションコードによる登録をモバイルおよびリモートアクセス経由で簡単かつ安全に実行することもできます。

アクティベーションコードデバイスのオンボードは、次のモードで動作します。

- オンプレミス
- モバイルアンドリモートアクセス (MRA)

アクティベーションコードには次の利点があります。

- アクティベーションコードを使用したオンボーディングによって、新しくプロビジョニングされた電話機または信頼されていない電話機すべてについて、それぞれの Manufacturing Installed Certificate (MIC) の評価と検証を Unified Communications Manager に実行させることができます。



注 オンボードアクティビティを実行するには、シスコの製造ルート証明書が CallManager 信頼ストアに存在している必要があります。

- 実際の MAC アドレスを手動で入力する必要はありません。管理者はダミーの MAC アドレスを使用することができ、電話機は登録時に実際の MAC アドレスを使用して設定を自動的に更新します。
- 電話名を BAT から SEP に変換するために、タップなどの IVR を導入する必要はありません。

[アクティベーション可能状態になっている電話機を表示 (Show Phone Ready To Activate)] エンタープライズパラメータが True に設定されている場合、電話機のユーザは、セルフケアポータルを使用してアクティベーションコードを取得できます。それ以外の場合は、管理者が電話機のユーザにコードを提供する必要があります。



(注) BAT MAC アドレスを使用してプロビジョニングすると、アクティベーションコードはその電話機モデルに関連付けられます。BAT MAC は、「BAT」で始まるデバイス名への参照であり、その後、MAC アドレスのように見えるランダムな 12 桁の 16 進数が続きます。空白の MAC アドレスフィールドを使用してデバイス設定ページを保存すると、この形式のランダムな名前が作成されます。電話機をアクティブ化するには、電話機のモデルに一致するアクティベーションコードを入力する必要があります。

セキュリティを強化するために、電話機の実際の MAC アドレスを使用して電話機をプロビジョニングできます。このオプションでは、管理者がプロビジョニング時に個々の電話機の MAC アドレスを収集して入力する必要があるため、設定項目が多くなりますが、ユーザが電話機の実際の MAC アドレスと一致するアクティベーションコードを入力する必要があるため、セキュリティが向上します。

オンプレミス モードでのオンボーディングのプロセス フロー

次に、されている場合に、アクティベーションコードを使用して新しい電話機をオンボードするプロセスフローを示します。

1. 管理者は、ユーザがオンボードのアクティベーションコードを入力するように設定を設定します。

2. 管理者が電話機をプロビジョニングして設定します。BAT MAC アドレスが使用されている場合、管理者は実際の MAC アドレスを入力しません。
3. 電話機は、DHCP opt 150 を介して、または電話機の設定で設定されている代替 TFTP から TFTP の IP アドレスを取得します。電話機は XMLDefault ファイルをダウンロードし、アクティベーションコードが使用中であることを検出します。
4. ユーザが電話機のアクティベーションコードを入力します。
5. 電話機は、アクティベーションコードと製造元でインストールされた証明書を使用して Cisco Unified Communications Manager を認証します。
6. Cisco Unified Communications Manager は、実際の MAC アドレスを使用してデバイス設定を更新します。TFTP サーバは、電話機のデバイス設定を検知し、電話機を登録できるようにします。デバイス登録は最大で5分間可能であることに注意してください。



注 オンプレミスでのアクティベーションコードによるオンボーディングのために、デフォルトの通信マネージャグループに追加のサブスクリイバを含めておくことをお勧めします。追加のサブスクリイバが存在しない場合、デフォルトの通信マネージャグループ内のノードが停止すると、オンボーディングの問題が発生する可能性があります。

モバイルおよびリモートアクセスモードでのオンボーディングプロセスフロー

以下は、モバイルおよびリモートアクセスモードを使用する場合に、アクティベーションコードによる新しい電話機のオンボーディングを実行するプロセスフローを示しています。

1. 管理者は、クラウド/ハイブリッド通信を設定して Cisco Cloud を使用したアクティベーションコードによるオンボーディングを有効化し、モバイルおよびリモートアクセスアクティベーション ドメインを指定します。
2. また、必要に応じて追加のモバイルおよびリモートアクセス サービス ドメインを設定します。
3. 管理者は、MAC アドレス (BAT、AXL、GUI) を指定せずに完全なデバイス設定を作成します。デバイス名は、ランダムな BAT MAC アドレスになります。
4. 管理者が、このデバイスのアクティベーション コードを要求します。デバイスアクティベーションサービスは、クラウドベースのデバイスアクティベーションサービスからコードを要求します。
5. ユーザはセルフケアポータルからコードを取得できます。または、管理者がそのコードをユーザに送信することもできます。
6. ユーザが電話機の電源を投入し、アクティベーションコードを入力します。

7. 電話機が、クラウドから Expressway のロケーションを学習し、モバイルおよびリモートアクセスまたは Cisco Unified Communications Manager に対して認証します。
8. デバイスアクティベーションサービスが、電話機の MAC アドレスでデータベース内のデバイス設定を更新します。

これで電話機は、TFTP に登録して通常のモバイルおよびリモートアクセスなどの電話機固有の設定ファイルを取得し、Cisco Unified Communications Manager に登録できるようになりました。

アクティベーションコードの前提条件

リリース 12.5(1) では、次の Cisco IP Phone モデルでアクティベーションコードによるオンボーディングがサポートされます。7811、7821、7832、7841、7861、8811、8841、8845、8851、8851NR、8861、8865、および 8865NR。

リリース 12.5 SR3 は、オンプレミスと MRA の両方の Cisco IP Phone モデルでのオンボードをサポートしています。

さらに、リリース 12.5(1)SU1 では、次の Cisco IP 電話モデルがサポートされます。8832 および 8832NR

クラウドのオンボードプロセスでは、次のドメイン名が Cisco Unified Communications Manager によって解決される必要があります。

- fos-a.wbx2.com
- idbroker.webex.com
- push.webexconnect.com
- btpush.webexconnect.com

セルフケアポータル

ユーザにセルフケアポータルを使用して電話をオンボードさせる場合は、ユーザがアクセスできるようにポータルを事前にセットアップする必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「セルフケアポータル」の章を参照してください。

オンプレミスモードでのアクティベーションコードを使用したデバイスのオンボーディングのタスクフロー

アクティベーションコードを使用して新しい電話をオンボードするには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	デバイス アクティベーション サービスの有効化 (435 ページ)	Cisco Unified Serviceability でシスコ デバイス アクティベーション サービスが実行されている必要があります。
ステップ 2	アクティベーション コードを使用する登録方法の設定 (436 ページ)	[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults)] で、サポートされている電話機モデルについて、アクティベーション コードを使用するようにデフォルトの登録方法を設定します。
ステップ 3	<p>アクティベーション コードを要件とする電話機をプロビジョニングします。プロビジョニングのオプションの例を2つ示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティベーション コードを要件とする電話機の追加 (437 ページ) • 一括管理によるアクティベーション コードを使用した電話の追加 (438 ページ) 	Cisco Unified Communications Manager には、左側のオプションを含むさまざまなプロビジョニング方法があります。どの方法を選択する場合も、その電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] で [オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。
ステップ 4	電話機のアクティブ化 (441 ページ)	アクティベーション コードをユーザに配布します。電話機を使用するためには、ユーザがその電話機にコードを入力する必要があります。

デバイス アクティベーション サービスの有効化

アクティベーション コードを使用するには、Cisco Unified Serviceability でシスコ デバイス アクティベーション サービスが実行されている必要があります。サービスが実行されていることを確認するには、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを選択して [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 [CMサービス (CM Services)] で、シスコ デバイス アクティベーション サービスのステータスが [アクティブ化 (Activated)] になっていることを確認します。

- ステップ 4** サービスが実行されていない場合は、隣接するチェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[アクティベーションコードを使用する登録方法の設定 \(436 ページ\)](#)

アクティベーションコードを使用する登録方法の設定

特定のモデルタイプの電話機で Unified Communications Manager への登録にアクティベーションコードを使用するようにシステムのデフォルト値を設定するには、次の手順を使用します。



- (注) この手順は、オンプレミスのエンドポイントのオンボーディングにのみ適用されます。[デバイスのデフォルト (Device Defaults)] のオンボーディング方式の設定は、アクティベーションコードを使用したモバイルおよびリモートアクセスエンドポイントのオンボーディングには適用されません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] を選択します。
- ステップ 2** [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウの [デュアルバンク情報 (Dual Bank Information)] セクションで、登録にアクティベーションコードを使用するデバイスタイプを選択し、[オンプレミスオンボーディング方式 (On-Premise Onboarding Method)] を [自動登録 (Auto Registration)] から [アクティベーションコード (Activation Code)] に変更します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

- (注) 以前に電話機のタイプに対して自動登録が使用されていた場合にデバイスのデフォルトをアクティベーションコードに設定すると、以降に追加される新しい電話機は、アクティベーションコードによるオンボーディングか、電話機の手動設定 (MAC アドレスを使用) と登録に従うこととなります。

新しい電話機のプロビジョニングの詳細については、「[アクティベーションコードを要件とする電話機の追加](#)」および「[一括管理によるアクティベーションコードを使用した電話の追加](#)」セクションを参照してください。

アクティベーションコードを要件とする電話機の追加

アクティベーションコードを要件として新しい電話機をプロビジョニングする場合は、この手順を使用します。

始める前に

適用する設定を入力したユニバーサル デバイス テンプレートおよびユニバーサル回線テンプレートを設定することで、プロビジョニング プロセスを迅速化できます。



- (注) テンプレートを使用しない場合は、新しい電話機を追加して手動で設定するか、または BAT テンプレートを使用して設定を追加することができます。いずれの場合も、[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- ステップ 2** [テンプレートからの新規の追加 (Add New From Template)] をクリックして、ユニバーサル回線テンプレートまたはユニバーサル デバイス テンプレートから設定を追加します。
- ステップ 3** [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンメニューから、電話機モデルを選択します。
- ステップ 4** [MACアドレス (MAC Address)] フィールドに、MAC アドレスを入力します。アクティベーションコードでは、ダミーの MAC アドレスまたは電話機の実際の MAC アドレスを使用できます。

次のシナリオでは、電話機の MAC アドレスを変更できます。

- **BAT{mac}->SEP{mac}** : 保存時にプレフィックスを ?BAT? から ?SEP? に変更するデバイス名を正確に知っている必要があります。
- **SEP{mac}->BAT{mac}** : プレフィックスを ?SEP? から ?BAT? に変更する MAC アドレスと、プレフィックスが ?BAT? の新しいデバイス名を空白にできます。

アクティベーションコードが有効化されている場合、[MACアドレス (MAC Address)] フィールドは空白のままにすることができます。ダミーの MAC アドレスが自動入力されます。

- ステップ 5** [デバイステンプレート (Device Template)] ドロップダウンリストから、適用する設定が含まれる既存のユニバーサル デバイス テンプレートなどのテンプレートを選択します。
- ステップ 6** [ディレクトリ番号 (Directory Number)] フィールドから、既存のディレクトリ番号を選択するか、[新規 (New)] をクリックして次の手順を実行します。
- a) [新規内線の追加 (Add New Extension)] ポップアップで、適用する設定が含まれている新しいディレクトリ番号と回線テンプレートを入力します。
 - b) [保存 (Save)] をクリックして、さらに [閉じる (Close)] をクリックします。

新しい内線番号が [ディレクトリ番号 (Directory Number)] フィールドに表示されます。

- ステップ 7 (省略可) [ユーザ (User)] フィールドで、この電話機に適用するユーザ ID を選択します。
- ステップ 8 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 9 [オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにします。モバイルおよびリモートアクセスモードの場合は、[モバイルおよびリモートアクセス経由のアクティベーションコードを許可する (Allow Activation Code via Mobile and Remote Access)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10 適用するその他の設定を入力します。フィールドおよびその設定についてのヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 11 [保存 (Save)] をクリックし、[OK] をクリックします。
この電話機の設定によって新しいアクティベーションコードが生成されます。コードを表示する場合は、[アクティベーションコードの表示 (View Activation Code)] をクリックします。

次のタスク

[電話機のアクティブ化 \(441 ページ\)](#)

一括管理によるアクティベーションコードを使用した電話の追加

このオプションのタスクフローには、一括管理ツールの電話の挿入機能を使用して1回の操作で多数の電話をプロビジョニングするプロビジョニング例が含まれます。これらの電話では、登録にアクティベーションコードを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	BAT プロビジョニングテンプレートの設定 (438 ページ)	プロビジョニングされた電話に適用する設定を含む BAT テンプレートを設定します。
ステップ 2	新しい電話機での CSV ファイルの作成 (439 ページ)	追加する新しい電話を含む CSV ファイルを作成します。
ステップ 3	電話の挿入 (440 ページ)	一括管理の電話の挿入機能を使用して、新しい電話をデータベースに追加します。

BAT プロビジョニングテンプレートの設定

特定の電話機モデルの新しくプロビジョニングされた電話に対して一括管理から適用できる、共通設定を入力した電話テンプレートを作成するには、この手順を使用します。

始める前に

この手順では、ユーザがすでにシステムに展開されており、ニーズに合ったデバイスプール、SIP プロファイル、および電話セキュリティプロファイルがすでに設定済みであることを前提としています。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、テンプレートを作成する電話機モデルを選択します。
- ステップ 4 [テンプレート名 (Template Name)] を入力します。
- ステップ 5 [オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにします。モバイルおよびリモートアクセスモードの場合は、[モバイルおよびリモートアクセス経由のアクティベーションコードを許可する (Allow Activation Code via Mobile and Remote Access)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 次の必須フィールドに値を入力します。
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]
 - [オーナーのユーザID (Owner User ID)]
 - [デバイスのセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]
 - [SIPプロファイル (SIP Profile)]
- ステップ 7 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[新しい電話機での CSV ファイルの作成 \(439 ページ\)](#)

新しい電話機での CSV ファイルの作成

新しい電話機で新しい csv ファイルを作成するには、次の手順を使用します。



- (注) Csv ファイルは手動で作成することもできます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** **bat.xlt** スプレッドシートを選択してダウンロードします。
- ステップ 4** スプレッドシートを開き、[電話 (Phones)] タブに移動します。
- ステップ 5** 新しい電話機の詳細をスプレッドシートに追加します。ダミー MAC アドレスを使用する場合は、[MAC アドレス (MAC Address)] フィールドを空白のままにします。[オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにします。モバイルおよびリモートアクセスモードの場合は、[モバイルおよびリモートアクセス経由のアクティベーションコードを許可する (Allow Activation Code via Mobile and Remote Access)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** 入力が完了したら、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。
- ステップ 7** Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択します。
- ステップ 8** CSV ファイルをアップロードします。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [ファイルの選択 (Choose file)] をクリックして、アップロードする csv ファイルを選択します。
 - ターゲットとして [電話 (Phones)] を選択します。
 - [**Insert phone**]: トランザクションタイプに固有の詳細を選択します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[電話の挿入 \(440 ページ\)](#)

電話の挿入

CSV ファイルから新しい電話機を挿入するには、この手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert Phones)] を選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストから、CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リストから、作成したプロビジョニング テンプレートを選択します。

ステップ 4 [ダミーMACアドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにします。

(注) セキュリティを強化するために、このCSVファイルに実際のMACアドレスを追加することで、一致するMACアドレスを持つ電話機でのみアクティベーションコードを使用できるようになります。その場合は、このチェックボックスをオフのままにします。

ステップ 5 ジョブをすぐに実行するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] チェックボックスをオンにします。後で実行することを選択した場合は、一括管理ツールのジョブスケジューラでジョブのスケジュールを設定する必要があります。

ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

次のタスク

[電話機のアクティブ化 \(441 ページ\)](#)

電話機のアクティブ化

プロビジョニング後に、電話機のユーザにアクティベーションコードを配布して、電話機をアクティブ化できるようにします。アクティベーションコードを収集して配布するには、次の2つのオプションがあります。

- **セルフケアポータル:** 電話機のユーザは、電話機に適用されるアクティベーションコードを取得するために、セルフケアポータルにログインできます。電話機にコードを手動で入力するか、電話機のビデオカメラを使用して、セルフケアで表示されるバーコードをスキャンすることができます。どちらの方法でも動作します。セルフケアを使用して電話機をアクティブ化するには、Cisco Unified Communications Manager で、[アクティベーション可能状態になっている電話機を表示 (Show Phones Ready to Activate)] エンタープライズパラメータを[はい (True)] に設定する必要があります (これがデフォルト設定です)。



注 セルフケアポータルのユーザアクセスの設定方法に関する追加要件については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』の「セルフケアポータル」の章を参照してください。

- **CSV ファイル:** 未処理のユーザとアクティベーションコードのリストを csv ファイルにエクスポートすることもできます。これをユーザに配布できます。手順については、「[アクティベーションコードのエクスポート \(442 ページ\)](#)」を参照してください。

登録プロセス

電話機のユーザは、電話機を使用するために、電話機にアクティベーションコードを入力する必要があります。電話機のユーザが電話機で正しいアクティベーションコードを入力すると、次のことが発生します。

- 電話機は Cisco Unified Communications Manager で認証されます。
- Cisco Unified Communications Manager の電話機の設定は、電話機の実際の MAC アドレスを使用して更新されます。
- 電話機は、TFTP サーバからコンフィギュレーションファイルおよびその他の関連ファイルをダウンロードし、Cisco Unified Communications Manager に登録します。

次の作業

これで、電話機を使用できる状態になりました。

アクティベーションコードのエクスポート

アクティベーションコードとそれに対応する電話機およびユーザと共に CSV ファイルにエクスポートするには、この手順を使用します。このファイルを使用して、アクティベーションコードをユーザに配布できます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 [関連リンク (Related Links)] から [アクティベーションコードのエクスポート (Export Activation Codes)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
-

デバイス オンボーディング タスク フロー (モバイルおよびリモートアクセスモード)

モバイルおよびリモートアクセスモードでアクティベーションコードを使用して新しい電話機のオンボーディングを実行するには、次のタスクを実行します。

始める前に

Cisco Unified Serviceability でシスコ デバイス アクティベーション サービスが実行されている必要があります (このサービスはデフォルトで実行されます)。サービスが実行されていることを確認するには、「[デバイスアクティベーションサービスの有効化 \(435 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	モバイルおよびリモートアクセスによる Cisco Cloud オンボーディングの有効化 (444 ページ)	[クラウドオンボーディング (Cloud Onboarding)] でバウチャーを生成し、アクティベーションコードによるオンボーディングを有効にして、モバイルおよびリモートアクセスアクティベーションドメインを指定します。
ステップ 2	モバイルおよびリモートアクセス サービスドメインの設定 (オプション) (444 ページ)	クラウドへのクラスタのオンボーディングを実行して、モバイルおよびリモートアクセスのリモートデバイスを、特定のモバイルおよびリモートアクセスアクティベーションドメインにオンボーディングできるようにします。
ステップ 3	カスタム証明書のアップロード (オプション) (445 ページ)	オンプレミスの場合、HTTPのデフォルトは8090、HTTPSのデフォルトは8181です。独自のカスタム証明書を使用する場合は、リモートのモバイルおよびリモートアクセス エンドポイントでクラウドから証明書をダウンロードし、Expressway への接続に使用できるようにします。
ステップ 4	<p>アクティベーションコードを要件とする電話機をプロビジョニングします。プロビジョニングのオプションのサンプルを2つ示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティベーションコードを要件とする電話機の追加 (437ページ) • 一括管理によるアクティベーションコードを使用した電話の追加 (438ページ) 	Unified CM database で電話機をプロビジョニングする必要があります。Unified CM では、サンプルとして挙げたオプションを含めて、さまざまなプロビジョニング方法を使用できます。
ステップ 5	電話機のアクティブ化 (441 ページ)	アクティベーションコードをユーザに配布します。電話機を使用するためには、ユーザがその電話機にコードを入力する必要があります。

モバイルおよびリモートアクセスによる Cisco Cloud オンボーディングの有効化

手順

- ステップ 1 クラウドベースのデバイスアクティベーションサービスに接続するためにクラスタ (CCMACT サービス) を認証するには、[バウチャーの生成 (Generate Voucher)] ボタンをクリックしてバウチャーを生成します。
- ステップ 2 モバイルおよびリモートアクセス アクティベーション ドメインを指定します (これは、モバイルおよびリモートアクセスのサービスドメインリストに自動的にコピーされます)。
- ステップ 3 アクティベーションコードによるオンボーディングを有効にするには、[アクティベーションコードによるオンボーディングを有効化 (Enable the Activation Code Onboarding)] チェックボックスと [モバイルおよびリモートアクセスによるオンボーディングを許可 (Allow Mobile and Remote Access Onboarding)] チェックボックスをオンにします。自動登録によるオンボーディングをデバイスのデフォルトとして設定した場合、[モバイルおよびリモートアクセスによるオンボーディングを許可 (Allow Mobile and Remote Access Onboarding)] チェックボックスは無効化され、自動的にオンになります。この設定は、モバイルおよびリモートアクセスモードの電話機でのみ機能するためです。アクティベーションコードを使用したオンボーディングをデバイスのデフォルトとして設定した場合は、両方のチェックボックスを使用できます。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

モバイルおよびリモートアクセスサービスドメインの設定 (オプション)

電話機のモバイルおよびリモートアクセス サービス ドメインを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [高度な機能 (Advanced Features)] > [モバイルおよびリモートアクセスサービスドメイン (Mobile and Remote Access Service Domain)] を選択して、[モバイルおよびリモートアクセスサービスドメイン (Mobile and Remote Access Service Domain)] ウィンドウにアクセスします。
- ステップ 2 モバイルおよびリモートアクセス サービス ドメイン名を入力します。
- ステップ 3 アクティベーションに使用される Expressway-E の SRV レコードを入力します。
- ステップ 4 選択したドメインの横にある [デフォルト (Default)] チェックボックスをオンにして、デフォルトのモバイルおよびリモートアクセス サービス ドメインを選択します。これは、デバイスプールレベルで [<None>] を選択した場合に使用されるドメインです。

- ステップ5** そのレコードの行にあるリンクを使用して依存関係レコードにアクセスし、依存関係の数も表示します。

カスタム証明書のアップロード(オプション)

カスタム証明書をアップロードするには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ1** 証明書をエクスプレス Sway にアップロードします。他の証明書は削除しないでください。
- ステップ2** [CUCM OSの管理 (CUCM OS Administration)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] のパスを使用して、新しい証明書を Unified Communications Manager にアップロードします。「電話エッジ信頼」タイプを使用します。(Cisco Unified Communication Manager は、これらの証明書をクラウドに送信してから、Expressway にアクセスするために電話機に送信します)。
- ステップ3** 必要に応じて、その他の「電話エッジ信頼」タイプの証明書を削除して、カスタム証明書が使用中の証明書だけになるようにします。

アクティベーションコードの追加タスク

次の表に、アクティベーションコードに必要となる追加タスクを示します。

タスク	手順
登録済み電話機のアクティベーションコードの生成	<p>すでに登録されている電話機のアクティベーションコードを生成するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。 2. アクティベーションコードを生成する電話機を検索して [電話機の設定 (Phone Configuration)] を開きます。 3. [オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。

タスク	手順
<p>未登録の電話機のアクティベーションコードを生成する</p>	<p>未登録の電話機用に新しいアクティベーションコードを生成するには、次の手順を実行します。これは、新しい電話機のアクティベーションプロセスが失敗した場合などに必要になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。 2. アクティベーションコードを生成する電話機を検索して [電話機の設定 (Phone Configuration)] を開きます。 3. [アクティベーションコードの解放 (Release Activation Code)] をクリックします。 4. [新しいアクティベーションコードの生成 (Generate New Activation Code)] をクリックし、[保存 (Save)] をクリックします。
<p>アクティベーションコードのオプションパラメータの設定</p>	<p>アクティベーションコードのオプションのサービスパラメータを設定する場合は、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。 2. [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャノードを選択します。 3. [サービス (Service)] ドロップダウンリストから [シスコデバイスアクティベーションサービス (Cisco Device Activation Service)] を選択します。 4. 以下に示すオプションのサービスパラメータの値を設定します。設定の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [アクティベーション有効期間 (時間) (Activation Time to Live (Hours))] : アクティベーションコードが有効である時間数。デフォルトは 168 です。 • [モバイルおよびリモートアクセス アクティベーションの有効化 (Enable Mobile and Remote Access Activation)] : モバイルおよびリモートアクセスアクティベーションを有効にするには、この値を [はい (True)] (デフォルト設定) にします。 • [モバイルおよびリモートアクセスアクティベーションドメイン (Mobile and Remote Access Activation Domain)] : モバイルおよびリモートアクセスデバイスのアクティベーションが実行されるドメイン。 5. [保存 (Save)] をクリックします。

アクティベーションコードの使用例

次の表に、アクティベーションコードによるデバイスのオンボードの使用例を示します。

使用例	説明
既存の電話機の交換	<p>アクティベーションコードを使用すると、既存の電話機を簡単に置き換えることができます。たとえば、リモートワーカーの電話機が破損し、新しい電話機が必要になったとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者が、Unified Communications Manager で破損した電話機の [電話機の設定 (Phone Configuration)] を開きます。 • 管理者は、[MAC アドレス (MAC Address)] を空白にし、[オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。 • ユーザが同じモデルの新しい電話機を入手し、その電話機をネットワークに接続します。 • ユーザはセルフケアにログインしてアクティベーションコードを取得し、電話機にコードを入力します。電話機のオンボーディングが正常に終了します。 <p>(注) このシナリオでは、ユーザは、破損した電話機と同じ電話機モデルである限り、新しい電話機をオンボードできます。より安全な環境では、古い電話機を交換するために、管理者が交換用電話機をプロビジョニングする必要がある場合があります (以下を参照)。</p>

使用例	説明
<p>アクティベーションコードを使用した新しい電話機の安全な配送</p>	<p>より安全な環境では、次のように、特定の MAC アドレスにアクティベーションコードを使用して、電話機の出荷プロセスが安全であることを確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者が、Unified Communications Manager で新しい電話機をプロビジョニングします。 • 管理者は、新しい電話機の [電話機の設定 (Phone Configuration)] で、電話機の実際の MAC アドレスを入力し、[オンボーディングにはアクティベーションコードが必要 (Requires Activation Code for Onboarding)] チェックボックスをオンにします。 • 管理者が、電話機を梱包してユーザに発送します。 • ユーザが新しい電話機をネットワークに接続します。 • ユーザがセルフケアにログインしてアクティベーションコードを取得し、電話機にコードを入力します。電話機のオンボーディングが正常に終了します。 <p>(注) このシナリオでは、ユーザはその特定の電話機のみをオンボードできます。</p>
<p>新しい電話機の安全な配送 (自動登録)</p>	<p>アクティベーションコードの代わりに、自動登録およびTAPSを使用して、リモートワーカーに電話機を安全に配送することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者は、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] で、その電話モデルの [オンボーディング方式 (Onboarding Method)] を [自動登録 (Autoregistration)] に設定します。 • 管理者が、Unified Communications Manager で新しい電話機をプロビジョニングします。管理者は、新しい電話機の [電話機の設定 (Phone Configuration)] で、電話機の実際の MAC アドレスを空白にします。 • 管理者が、電話機を梱包してユーザに発送します。 • ユーザが新しい電話機をネットワークに接続し、自動登録を実行させます。 • ユーザは、TAPS を使用して、自動登録されたレコードを古いレコードにマッピングします。 <p>(注) このシナリオでは、自動登録と TAPS の両方を設定する必要があります。</p>

使用例	説明
自動登録による電話機の再オンボーディング	<p>[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウの[オンプレミスのオンボーディング方式 (On-Premise Onboarding Method)]フィールドで、特定の電話機モデルのオンボーディング方式を、アクティベーションコードか自動登録に切り替えることができます。</p> <p>(注) 既存の電話機の再オンボーディングを自動登録によって実行する場合、自動登録を機能させるには、既存のレコードをデータベースから削除する必要があります。</p>
モバイルおよびリモートアクセスモードで使用するためのオンプレミス電話機のオンボーディング	<p>電話機のオンボーディングをオンプレミスで実行した後、モバイルおよびリモートアクセスモードでもう一度オンボーディングを実行するように電話機を設定すると、Expressway への OAuth 接続と Expressway から Cisco Unified Communications Manager への信頼できる接続で提供されるセキュリティを活用できます。</p> <p>このシナリオでは、[モバイルおよびリモートアクセス経由のアクティベーションコードを許可する (Allow Activation Code via Mobile and Remote Access)]を有効にしてオンプレミスで電話機のオンボーディングを実行し、受信した OAuth アクセストークンを検証した後、モバイルおよびリモートアクセスモードに切り替えて Expressway との通信を開始します。内部ネットワークでオンプレミスからのライン Sway との通信が許可されていない場合、電話機は登録されませんが、オフプレミスの電源がオンになっているときには、その電話機に接続する準備ができています。</p> <p>(注) 未登録のオフプレミスの電話機は、ファームウェアのロードを更新できません。このシナリオは、最新のファームウェアをダウンロードし、アクティベーションコード機能を使用するためにオンプレミスにする必要がある、すぐに設定された電話機で役立ちます。</p> <p>電話機は、[MRA経由のアクティベーションコードを許可する (Allow Activation Code via MRA)]チェックボックスがオンになっていて、MRA サービスドメインと OAuth トークンがある場合に MRA モードに切り替わります。</p>
ゼロタッチオンボーディングによるオンプレミス電話機のオンボーディング	<p>オンプレミスの電話機を登録するとき、セキュリティプロファイルが OAuth に設定されていると、電話機のリセット時または再起動時に自動的にアクセストークンが取得されます。</p>



第 34 章

自動登録の設定

- [自動登録の概要 \(451 ページ\)](#)
- [自動登録の設定タスク フロー \(452 ページ\)](#)

自動登録の概要

自動登録では、新しい電話機をネットワークに接続したときに、Unified Communications Manager がそれらの電話機にディレクトリ番号を自動的に割り当てることができます。

現在、自動登録はセキュアモードで有効になっています。この拡張機能によって、新しい電話のプロビジョニング中にクラスタを保護できるため、システムのセキュリティが強化されます。また、新しい電話を登録する際にクラスタセキュリティを無効にする必要がないため、登録プロセスが簡素化されるメリットもあります。

911 (緊急) および 0 (オペレータ) コールのみを許可するデバイスプールを作成しておく、自動登録が有効になっている場合に許可されていないエンドポイントがネットワークに接続するのを防ぐために使用できます。新しいエンドポイントはこのプールに登録できますが、アクセスは制限されます。連続して起動しネットワークへの登録を試みる不正なデバイスによる不正アクセスは阻止されます。電話番号に影響を与えることなく、自動登録された電話を新しい場所に移動し、別のデバイスプールに割り当てることができます。

システムは、自動登録されている新しい電話機が SIP または SCCP を実行しているかどうかを認識していないため、自動登録を有効にするときにこれを指定する必要があります。SIP と SCCP の両方をサポートするデバイス (Cisco IP 電話 7911、7940、7941、7960、7961 シリーズなど) は、Auto Registration Phone Protocol と呼ばれるエンタープライズパラメータで指定されたプロトコルで自動登録されます。

1つのプロトコルのみをサポートするデバイスは、そのプロトコルを使用して自動登録されません。自動登録の電話プロトコル設定は無視されます。たとえば、SCCP のみをサポートするすべての Cisco IP 電話は、自動登録電話プロトコルパラメータが [SIP] に設定されていても、SCCP のみ自動登録します。

ネットワークに追加する電話機が 100 に満たない場合は、自動登録機能を使用することをお勧めします。100 台を超える電話機を追加するには、一括管理ツール (BAT) を使用します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』 (<http://www.cisco.com/>)

c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html) を参照してください。

自動登録の設定タスクフロー

自動登録を有効にすると、セキュリティ上のリスクが伴います。ネットワークに新しいエンドポイントを追加している間は、短時間の自動登録のみを有効にしてください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	自動登録のパーティションの設定 (453 ページ)	自動登録された電話を内部コールのみに制限するために、自動登録専用使用するルートパーティションを設定します。
ステップ 2	自動登録用コーリングサーチスペースの設定 (454 ページ)	自動登録電話を内線専用に限るには、自動登録専用のコーリングサーチスペースを設定します。
ステップ 3	自動登録用デバイスプールの設定 (455 ページ)	自動登録用に設定されているコーリングサーチスペースを使用するデバイスプールを作成します。
ステップ 4	自動登録のデバイスプロトコルタイプの設定 (456 ページ)	自動登録する電話機のタイプに一致するように、プロトコルを SCCP または SIP に設定するには、次の手順を使用します。
ステップ 5	自動登録の有効化 (456 ページ)	自動登録で使用する Cisco Unified Communications Manager グループに対して自動登録を有効にするには、自動登録用ノードで自動登録を有効にして、[自動登録 Cisco Unified Communications Manager グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] パラメータを設定します。
ステップ 6	自動登録の無効化 (459 ページ)	新しいデバイスの登録が完了した直ちに、ノードの自動登録を無効にします。
ステップ 7	自動登録番号の再利用 (459 ページ)	(省略可) 無効になっているデバイスの自動登録番号は再利用できます。自動登録ディレクトリ番号の範囲をリセットした場合、開始番号から再度検索するようにシステムに強制します。利用可能なディレクトリ番号は再利用されます。

自動登録のパーティションの設定

自動登録された電話を内部コールのみに制限するために、自動登録専用を使用するルートパーティションを設定します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- ステップ 3** [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
- パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。
- 説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。
- ステップ 5** 複数のパーティションを作成するには、各パーティション エントリごとに 1 行を使います。
- ステップ 6** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
- スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- ステップ 7** 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。
- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
 - [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウン リストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[自動登録用コーリングサーチスペースの設定 \(454 ページ\)](#)

自動登録用コーリングサーチスペースの設定

自動登録電話を内線専用に制限するには、自動登録専用のコーリングサーチスペースを設定します。

始める前に

[自動登録のパーティションの設定 \(453 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ 5 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが 1 つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、Ctrl キーを押した状態で適切なパーティションを選択します。

ステップ 6 ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。

ステップ 7 (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[自動登録用デバイスプールの設定 \(455 ページ\)](#)

関連トピック

[サービスクラス \(200 ページ\)](#)

自動登録用デバイスプールの設定

自動登録にデフォルトのデバイスプールを使用するか、SIP 用と SCCP デバイス用に自動登録に使用する個別のデバイスプールを設定することができます。

自動登録用のデフォルトのデバイスプールを設定するには、デフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループと、自動登録コーリングサーチスペース (CSS) をデフォルトのデバイスプールに割り当てます。SIP デバイスと SCCP デバイス用に個別のデフォルトデバイスプールを設定する場合は、デフォルトのデバイスプール値を使用します。

始める前に

[自動登録用コーリングサーチスペースの設定 \(454 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、**[システム(System)] > [デバイスプール(Device Pool)]** を選択します。
- ステップ 2** 自動登録のデフォルトデバイスプールを変更するには、次の操作を実行します。
 - a) **[検索 (Find)]** をクリックし、デバイスプールのリストから **[デフォルト]** を選択します。
 - b) **[デバイスプールの設定 (Device Pool Configuration)]** ウィンドウで、**[自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)]** フィールドで自動登録に使用する CSS を選択し、**[保存 (Save)]** をクリックします。
- ステップ 3** 自動登録用の新しいデバイスプールを作成するには、次の操作を実行します。
 - a) **[新規追加 (Add New)]** をクリックします。
 - b) **[デバイスプールの設定 (Device Pool Configuration)]** ウィンドウで、デバイスプールの一意の名前を入力します。

名前は最大 50 文字までで、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、および空白を使用できます。
 - c) 次のフィールドをデフォルトのデバイスプールと一致するように設定します。フィールドの説明については、オンライン ヘルプを参照してください。
 - **[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]** で、**[デフォルト (Default)]** を選択します。
 - **[日時グループ (Date/Time Group)]** で、**[CMLocal]** を選択します。
 - **[リージョン (Region)]** で、**[デフォルト (Default)]** を選択します。

- d) [自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)] フィールドで自動登録に使用する CSS を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[自動登録のデバイスプロトコルタイプの設定 \(456 ページ\)](#)

自動登録のデバイスプロトコルタイプの設定

SIP および SCCP デバイスが自動登録されている場合は、まず自動登録の電話プロトコルパラメータを SCCP に設定し、SCCP を実行しているすべてのデバイスをインストールする必要があります。次に、Auto Registration Phone Protocol パラメータを [SIP] に変更し、SIP を実行するすべての電話を自動登録する必要があります。

始める前に

[自動登録用デバイスプールの設定 \(455 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで、[自動登録電話プロトコル (Auto Registration Phone Protocol)] ドロップダウンリストから [SCCP] または [SIP] を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[自動登録の有効化 \(456 ページ\)](#)

自動登録の有効化

自動登録が有効の場合は、ネットワークに接続する際に新しいエンドポイントに割り当てられる電話番号の範囲を指定する必要があります。新しいエンドポイントが接続される度に、次の使用可能な電話番号が割り当てられます。自動登録に使用できる電話番号がなくなった場合、エンドポイントを自動登録することはできません。

新しいエンドポイントは、[自動登録Cisco Unified CMグループ (Auto-Registration Cisco Unified Communications Manager Group)] 設定が有効になっているグループ内の最初の Unified Communications Manager ノードを使用して、自動登録されます。その後、デバイスタイプに基づき、自動登録された各エンドポイントがデフォルトのデバイスプールに自動で割り当てられます。

始める前に

自動登録のデバイスプロトコルタイプの設定 (456 ページ)

- デバイス プール、コーリング サーチ スペース、および内線発信のみ許可するように自動登録するデバイスのアクセスを制限するルート パーティションを作成します。
- 電話番号が自動登録範囲で利用できることを確認します。
- 新しい電話を登録するために利用できるライセンスポイントが十分にあることを確認します。
- [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウに、SIP および SCCP の電話イメージ名が正しく表示されていることを確認します。共通デバイス設定ファイルのほとんどは TFTP サーバ上で利用できますが、デバイスの設定ファイルが存在することを確認します。
- Cisco TFTP サーバが起動して実行中であること、および TFTP の DHCP オプションで適切なサーバが指定されていることを確認します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[システム (System)]>[Cisco Unified CM] を選択し、[Cisco Unified Communications Manager の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified Communications Managers)] ウィンドウの [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 2 自動登録を使用するには、クラスタの [Cisco Unified Communications Manager] を選択します。が表示されます。

ステップ 3 [Cisco Unified CM Configuration (Cisco Unified CM Configuration)] ウィンドウで、[自動登録情報 (Auto-registration Information)] セクションのノードの自動登録パラメータを設定し、[保存 (Save)] をクリックします。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

- a) ユニバーサル デバイス テンプレートを選択して、ドロップダウン リストから自動登録を使用します。

自動登録用に作成されているユニバーサル デバイス テンプレートがない場合は、[デフォルトのユニバーサル デバイス テンプレート (Default Universal Device Template)] を選択します。選択したテンプレートで、デバイスプールが指定されていることを確認します。これは、[ユーザの管理 (User Management)]>[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)]>[ユニバーサルデバイス テンプレート (Universal Device Template)] からの自動登録で使用されます。

- b) ドロップダウン リストからの自動登録に使用するユニバーサル ライン テンプレートを選択します。

自動登録用に作成されているユニバーサル ライン テンプレートがない場合は、[デフォルトのユニバーサル ライン テンプレート (Default Universal Line Template)] を選択します。選択したテンプレートで、コーリング サーチ スペースおよびルート パーティションが指

定されていることを確認します。これは、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] からの自動登録で使用されます。

- c) 電話番号の最初と最後を [開始電話番号 (Starting Directory Number)] および [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドに入力します。
- 電話番号の最初と最後を同じ値に設定すると、自動登録は無効になります。
- d) [このCisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] のチェックボックスをオフにして、このノードの自動登録を有効にします。

選択した Unified Communications Manager ノードでのみ自動登録を常に有効化または無効化します。自動登録機能をクラスタ内の別のノードに切り替える場合は、使用する Unified Communications Manager ノード、デフォルトの Unified Communications Manager グループ、およびデフォルトのデバイス プールを設定し直す必要があります。

ステップ 4 [システム (System)] > [Cisco Unified CM Group] を選択し、[Cisco Unified CM グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified Communications Manager Groups)] ウィンドウの [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 自動登録を有効化する Unified Communications Manager グループを選択します。

このグループ名は、ほとんどの場合 [デフォルト (Default)] になります。別の Cisco Unified Communications Manager グループを選択することもできます。このグループでは、最低 1 つのノードを選択する必要があります。

ステップ 6 このグループの [Cisco Unified CM グループの設定 (Cisco Unified CM Group Configuration)] ウィンドウで、[自動登録Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] を選択して、グループの自動登録を有効にし、[保存 (Save)] をクリックします。

ヒント [選択済みのCisco Unified CM (Selected Cisco Unified Communications Managers)] のリストに、自動登録用に設定したノードが含まれていることを確認します。矢印を使用して、リストに表示するノードを移動します。表示されている順に、Unified Communications Manager ノードが選択されます。変更を [保存 (Save)] します。

ステップ 7 自動登録するデバイスをインストールします。



(注) 自動登録された電話を再設定し、その電話を永続的なデバイスプールに割り当てます。電話のロケーションを変更しても、電話に割り当てられている電話番号は変更されません。



(注) 別の種類の電話を登録するには、デバイスのプロトコルタイプを変更し、そのデバイスを取り付けてから自動登録を無効にします。

自動登録の無効化

新しいデバイスの登録が完了したらすぐに、ノードの自動登録を無効にします。

始める前に

[自動登録の有効化 \(456 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Administration] で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM] を選択し、[Cisco Unified CM の検索と一覧表示] ウィンドウの [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 2** ノードのリストから **Cisco Unified Communications Manager** を選択します。
- ステップ 3** 選択したノードの [Cisco Unified CM Configuration] ウィンドウで、[この Cisco Unified Communications Manager で自動登録を無効にする] チェックボックスにチェックし、このノードの自動登録を無効にし、[保存 (Save)] をクリックします。

ヒント [開始電話番号(Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号(Ending Directory Number)] フィールドに同じ値を設定した場合も、自動登録が無効になります。

次のタスク

(省略可) 自動登録されたデバイスのディレクトリ番号を手動で変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、そのディレクトリ番号を再使用することができます。詳細については、「[自動登録番号の再利用 \(459 ページ\)](#)」を参照してください。

自動登録番号の再利用

新しいデバイスがネットワークに接続されると、システムは、次に使用可能な (未使用の) 自動登録電話番号をそのデバイスに割り当てます。自動登録されたデバイスの電話番号を手動で変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、そのデバイスの自動登録されていたディレクトリ番号を再使用することができます。

デバイスが自動登録しようとする時、システムは管理者が指定した自動登録番号の範囲を検索して次に使用可能な電話番号を検出し、そのデバイスに割り当てます。Cisco Unified Communications Manager は、最後に割り当てられた電話番号の次の番号から順に、検索を開始します。範囲内の最後のディレクトリ番号に達すると、システムは範囲の開始ディレクトリ番号から検索し続けます。

自動登録のディレクトリ番号の範囲をリセットし、システムがその範囲の開始番号から検索できるようにすることができます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified Communications Manager] を選択します。

ステップ 2 自動登録をリセットするには、[Cisco Unified Communications Manager] を選択します。

ステップ 3 現在の設定を [開始のディレクトリ番号 (Starting Directory Number)] と [最後のディレクトリ番号 (Ending Directory Number)] フィールドに書き留めます。

ステップ 4 [この Cisco Unified Communications Manager で自動登録を無効化 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] をクリックしてから、[保存 (Save)] をクリックします。

自動登録が無効の間、新しい電話は自動登録できません。

ステップ 5 [開始ディレクトリ番号 (Starting Directory Number)] と [最後のディレクトリ番号 (Ending Directory Number)] フィールドを以前の値に設定してから、[保存 (Save)] をクリックします。

ヒント これらのフィールドを新しい値に設定できます。



第 35 章

セルフプロビジョニングの設定

- [セルフプロビジョニングの概要 \(461 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニングの前提条件 \(463 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニングの設定タスク フロー \(463 ページ\)](#)

セルフプロビジョニングの概要

セルフプロビジョニング機能は、管理者に連絡することなく自分の電話をプロビジョニングする機能をエンドユーザに提供することにより、ネットワークの電話機をプロビジョニングするのに役立ちます。システムでセルフプロビジョニングが設定されており、個別のエンドユーザでセルフプロビジョニングが有効化されている場合、そのエンドユーザは電話をネットワークに接続して所定のいくつかのプロンプトに従うことで、新しい電話機をプロビジョニングできます。Cisco Unified Communications Managerは、事前設定されたテンプレートを適用することによって、電話と電話回線を設定します。

セルフプロビジョニングは、管理者がエンドユーザの代わりに電話機をプロビジョニングする際に使用するか、またはエンドユーザがセルフプロビジョニングを使用して自分の電話機をプロビジョニングするために使用することができます。

セルフプロビジョニングは、クラスタのセキュリティ設定が非セキュアモードまたは混在モードであるかどうかにかかわらずサポートされます。

セキュリティモード

次の2つのモードのいずれかで、セルフプロビジョニングを設定できます。

- **セキュアモード:**セキュアモードでは、セルフプロビジョニングにアクセスするためにはユーザまたは管理者が認証されている必要があります。エンドユーザは、そのパスワードまたは暗証番号に対して認証を受けることができます。管理者は、事前設定された認証コードを入力できます。
- **非セキュアモード:**非セキュアモードでは、ユーザまたは管理者は、ユーザIDまたはセルフプロビジョニングIDを入力して、電話機をユーザアカウントに関連付けることができます。セキュリティで保護されていないモードは、日々の使用には推奨されていません。

ユニバーサル回線とデバイステンプレートによる設定

セルフプロビジョニングは、エンドユーザに対して、プロビジョニング済みの電話機と電話回線を設定するために、ユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用します。ユーザが自分の電話機をプロビジョニングすると、システムはそのユーザのユーザプロファイルを参照し、対応するユニバーサルラインテンプレートを、プロビジョニングされた電話回線に、ユニバーサルデバイステンプレートを、プロビジョニングされた電話機に適用します。

プロビジョニングされた電話

この機能を設定したら、次の手順を実行して電話をプロビジョニングできます。

- 電話機をネットワークに接続します。
- セルフプロビジョニング IVR 内線番号をダイヤルします。
- プロンプトに従って、電話機を設定し、電話機をエンドユーザに関連付けます。セルフプロビジョニングの設定方法に応じて、エンドユーザは、ユーザパスワード、PIN、または管理者の認証コードを入力することができます。



ヒント

エンドユーザに代わって多数の電話をプロビジョニングしている場合、セルフプロビジョニング IVR 拡張に転送するユニバーサル デバイス テンプレートに短縮ダイヤルを設定します。

アナログ FXS ポートのセルフプロビジョニング

ユーザがセルフプロビジョニング IVR を呼び出して、関連付けられた DN をそのアナログポートに割り当てることができるように、アナログ FXS ポートでセルフプロビジョニングを有効にすることができます。さらに、プロビジョニングされた電話機では、ユーザはアナログ音声ゲートウェイポートに関連付けられている DN の割り当てを解除し、別のユーザに割り当てることができます。

手順

1. プラグインは、ゲートウェイの FXS 音声ポートのアナログ電話機です。ポートは自動登録または事前設定されている(手動で)ため、電話機は自動登録プールまたは割り当てられた DN から自動的に DN を取得します。
2. 自動登録されたアナログデバイスからのセルフプロビジョニング IVR を呼び出します。
3. セルフサービス ID と PIN を入力します。



(注)

確認時に、アナログデバイスはエンドユーザのプライマリ内線番号を使用してプロビジョニングされます。自動登録 DN がプールに解放されます。

セルフプロビジョニングの前提条件

エンドユーザがセルフプロビジョニングを使用できるようにするには、次の項目を使用してエンドユーザを設定する必要があります。

- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。
- エンドユーザは、ユニバーサルラインテンプレートのユニバーサルデバイステンプレートを含む、ユーザプロファイルまたは機能グループテンプレートに関連付けられている必要があります。ユーザプロファイルは、セルフプロビジョニング用に有効にする必要があります。

セルフプロビジョニングの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	セルフプロビジョニングのサービスの有効化 (464 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、セルフプロビジョニング IVR サービスと CTI Manager サービスを有効にします。
ステップ 2	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化 (464 ページ)	セルフプロビジョニング用の自動登録パラメータを有効にします
ステップ 3	CTI ルート ポイントの設定 (465 ページ)	セルフプロビジョニング IVR サービスを処理するように CTI ルート ポイントを設定します。
ステップ 4	CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て (465 ページ)	ユーザが自動プロビジョニング IVR にアクセスするためにダイヤルインする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルートポイントに関連付けます。
ステップ 5	セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定 (466 ページ)	セルフプロビジョニング IVR 向けのアプリケーションユーザの設定 CTI ルートポイントをアプリケーションユーザに関連付けます。
ステップ 6	セルフプロビジョニングのシステムの設定 (467 ページ)	アプリケーションユーザと CTI ルートポイントをセルフプロビジョニングの IVR に関連付けるなど、セルフプロビジョニングのシステムの設定を構成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化 (468 ページ)	ユーザが割り当てられているユーザプロフィールで電話機をセルフプロビジョニングできるようにします。

セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブ化するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング用 IVR サービスと Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されていることを確認します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - ステップ 3 [CM サービス (CM Services)] で、[Cisco CTI Manager] をオンにします。
 - ステップ 4 [CTI サービス (CTI Services)] で、[セルフプロビジョニング IVR (Self Provisioning IVR)] をオンにします。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

セルフプロビジョニングの自動登録の有効化

セルフプロビジョニングにこの手順を使用するためには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
 - ステップ 2 パブリッシャノードをクリックします。
 - ステップ 3 プロビジョニングされた電話機に適用するユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
 - ステップ 4 プロビジョニングされた電話機の電話回線に適用するユニバーサル回線テンプレートを選択します。
 - ステップ 5 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] および [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドを使用して、プロビジョニングする電話に適用する電話番号の範囲を入力します。

- ステップ 6** [このCisco Unified CMでは自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on the Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 7** SIP 登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ルート ポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 用の CTI ルート ポイントを設定するには、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存の CTI ルート ポイントを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい CTI ルート ポイントを作成します。
- ステップ 3** [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ルート ポイントを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストで、このデバイスのプロパティを指定するデバイス プールを選択します。
- ステップ 5** [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストから、この CTI ルート ポイントの適切なロケーションを選択します。
- ステップ 6** [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager がこのメディアエンドポイントを使用してトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定では、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の設定が使用されます。
- ステップ 7** [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て

セルフプロビジョニング用の IVR にアクセスするためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、この手順を使用します。この内線を、セルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- ステップ 2** [[検索 (Find)]] をクリックして、セルフプロビジョニング用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- ステップ 3** [割り当て (Association)] で、[回線 [1] - 新しい DN の追加 (Line [2] - Add a new DN)] をクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、セルフプロビジョニング IVR サービスにアクセスするためにダイヤルする内線番号を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーションユーザを設定し、アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントを関連付ける必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ (User)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のアプリケーションユーザを選択するには、[検索 (Find)] をクリックして、アプリケーションユーザを選択します。
 - 新しいアプリケーションユーザを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザ ID (User ID)] テキストボックスに、アプリケーションユーザの一意の名前を入力します。
- ステップ 4** アプリケーションユーザの [BLF プレゼンスグループ (BLF Presence Group)] を選択します。
- ステップ 5** アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントを関連付けるには、次の手順を実行します。
- 作成した CTI ルーティングポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスに表示されない場合は、[別のルートポイントを検索 (Find More Route Points)] をクリックします。
作成した CTI ルーティングポイントが、使用可能なデバイスとして表示されます。

- b) [使用可能なデバイス (Available Devices)]リストで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルート ポイントを選択し、下向き矢印をクリックします。
CTI ルート ポイントが [制御するデバイス (Controlled Devices)] リストに表示されます。

ステップ 6 [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの他のフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

セルフプロビジョニングのシステムの設定

システムをセルフプロビジョニング用に設定するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニングは、ネットワーク内のユーザが管理者に連絡をとらずに IVR システムを介して自分のデスクフォンを追加できる機能を提供します。



(注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザ プロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- [認証が必要 (Require Authentication)] : セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
 - [認証は必要なし (No Authentication Required)] : エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。
- ステップ 3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプション ボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。
- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)] : エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
 - [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))] : エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。

- ステップ 4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、cisco.com のダウンロード セクションを参照してください。
- ステップ 5** [CTI ルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング IVR 用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- ステップ 6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーションユーザを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化

ユーザが電話をセルフプロビジョニングできるようにするには、その機能が割り当てられているユーザプロファイルで有効になっている必要があります。



- (注) ユーザが使用しているユーザプロファイルがわからない場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでユーザの設定を開き、[ユーザプロファイル (User Profile)] フィールドで正しいプロファイルを確認できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザプロファイル (User Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、ユーザが割り当てられている**ユーザプロファイル**を選択します。
- ステップ 3** そのユーザプロファイルに**ユニバーサル回線テンプレート**と**ユニバーサルデバイステンプレート**を割り当てます。
- ステップ 4** セルフプロビジョニング用のユーザの設定
- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] チェックボックスをオンにします。
 - ユーザがプロビジョニングできる電話機の数の制限を入力します。デフォルトは10です。
 - ユーザがセルフプロビジョニングを使用して以前に割り当てられた電話機を無効にしたい場合は、古いデバイスのエンドユーザに関連付けられているユーザプロファイルページで、別のエンドユーザに割り当てられている電話機の**[別のエンドユーザーにすでに割り当てられている電話のプロビジョニングを許可する]**設定を確認します。以前に割り当てられた電話機をユーザが再割り当てできるのは、古いデバイスに関連付けられているユーザプロファイル内でこのチェックボックスをオンにした場合のみです。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。



第 VI 部

参考情報

- [Cisco Unified Communications Manager の TCP および UDP ポートの使用 \(471 ページ\)](#)
- [IM and Presence Service のポートの使用情報 \[英語\] \(491 ページ\)](#)



第 36 章

Cisco Unified Communications Manager の TCP および UDP ポートの使用

- [Cisco Unified Communications Manager の TCP と UDP ポートの使用に関する概要 \(471 ページ\)](#)
- [ポート説明 \(473 ページ\)](#)
- [ポート参照 \(489 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager の TCP と UDP ポートの使用に関する概要

Cisco Unified Communications Manager の TCP および UDP ポートは、次のカテゴリに整理されます。

- Cisco Unified Communications Manager サーバーがクラスタ間で使用するポート
- 共通サービス ポート
- Cisco Unified Communications Manager と LDAP ディレクトリの間のポート
- CCMAAdmin または CCMUser から Cisco Unified Communications Manager への Web 要求
- Cisco Unified Communications Manager から電話機への Web 要求
- 電話機と Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信
- ゲートウェイと Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信
- アプリケーションと Cisco Unified Communications Manager の間の通信
- CTL クライアントとファイアウォールの通信
- HP サーバ上の特殊なポート

上記のそれぞれのカテゴリのポートの詳細については、「「ポートの説明」」を参照してください。



- (注) シスコでは、これらのポートで想定されるすべての設定シナリオを検証しているわけではありません。この一覧を参考にした結果、設定に問題が発生した場合は、シスコのテクニカルサポートにお問い合わせください。

ポート設定は、特に Cisco Unified Communications Manager に適用されます。リリースによってポートが異なる場合があり、今後のリリースで新しくポートが追加される可能性もあります。このため、インストールされている Cisco Unified Communications Manager のバージョンに一致するバージョンのマニュアルを使用していることを確認してください。

事実上すべてのプロトコルが双方向で行われますが、セッション開始側から見た方向を記載しています。デフォルトのポート番号は、管理者が手動で変更できる場合がありますが、ベストプラクティスとしてこのような変更は推奨しません。Cisco Unified Communications Manager が内部使用に限って複数のポートを開くことに注意してください。

Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアをインストールすると、デフォルトでは有用性のために次のネットワーク サービスが自動的にインストールされてアクティブになります。詳細については、「「Cisco Unified Communications Manager サーバの間のクラスタ内ポート」」を参照してください。

- Cisco Log Partition Monitoring (共通パーティションを監視および消去します。このサービスは、カスタム共通ポートを使用しません)
- Cisco Trace Collection Service (TCTS ポート使用)
- Cisco RIS Data Collector (RIS サーバ ポート使用)
- Cisco AMC Service (AMC ポート使用)

ファイアウォール、ACL、または QoS の設定は、トポロジ、テレフォニー デバイスおよびテレフォニー サービスの配置とネットワーク セキュリティ デバイスの配置との関係、および使用中のアプリケーションとテレフォニー拡張機能によって異なります。また、デバイスやバージョンによって、ACL のフォーマットが異なることにも注意してください。



- (注) Cisco Unified Communications Manager でマルチキャスト保留音 (MoH) ポートを設定することもできます。このマニュアルにはマルチキャスト MOH のポート値を記載していません。



- (注) システムのエフェメラルポートの範囲は 32768 ~ 61000 であり、電話を登録したままにするには、これらのポートを開く必要があります。詳細については、「<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/asa-5500-series-next-generation-firewalls/tsd-products-support-series-home.html>」を参照してください。



- (注) ポート 22 への接続が開き、抑えられないように、ファイアウォールを設定します。IM and Presence サブスクライバノードのインストール中に、Cisco Unified Communications Manager パブリッシュノードに対する複数の接続が短時間に連続して開かれます。これらの接続をスロットリングすると、インストールが失敗する可能性があります。

ポート説明

Cisco Unified Communications Manager サーバーがクラスタ間で使用するポート

表 28: Cisco Unified Communications Manager サーバーがクラスタ間で使用するポート

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
エンドポイント	Unified Communications Manager	514 / UDP	システム ロギング サービス
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	443 / TCP	このポートは、サブスクライバノードでの COP ファイルのインストール中に、サブスクライバとパブリッシュ間の通信に使用されます。
Unified Communications Manager	RTMT	1090、1099 / TCP	RTMT パフォーマンス モニター、データ収集、ロギング、およびアラート生成用の Cisco AMC サービス
Unified Communications Manager (DB)	Unified Communications Manager (DB)	1500、1501 / TCP	データベース接続 (1501 / TCP はセカンダリ接続)
Unified Communications Manager (DB)	Unified Communications Manager (DB)	1510 / TCP	CAR IDS DB。CAR IDS エンジンが、クライアントからの接続要求を監視します。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager (DB)	Unified Communications Manager (DB)	1511 / TCP	CAR IDS DB。アップグレード時に、CAR IDS のインスタンスをもう1つ開始するために使用される代替ポート。
Unified Communications Manager (DB)	Unified Communications Manager (DB)	1515 / TCP	インストール時のノード間でのデータベースレプリケーション
Cisco Extended Functions (QRT)	Unified Communications Manager (DB)	2552 / TCP	Cisco Unified Communications Manager データベース変更通知をサブスクライバが受信できるようにします。
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	2551 / TCP	アクティブ/バックアップ判別のための Cisco Extended Services 間のクラスタ間通信
Unified Communications Manager (RIS)	Unified Communications Manager (RIS)	2555 / TCP	Real-time Information Services (RIS) データベース サーバー
Unified Communications Manager (RTMT、AMC、またはSOAP)	Unified Communications Manager (RIS)	2556 / TCP	Cisco RIS 向け Real-time Information Services (RIS) データベース クライアント
Unified Communications Manager (DRS)	Unified Communications Manager (DRS)	4040 / TCP	DRS プライマリエージェント
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (SOAP)	5001 / TCP	このポートは、SOAP モニターがリアルタイム モニターリング サービスに使用します。
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (SOAP)	5002 / TCP	このポートは、SOAP モニターがパフォーマンス モニター サービスに使用します。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (SOAP)	5003 / TCP	このポートは、SOAP モニターがコントロールセンター サービスに使用します。
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (SOAP)	5004 / TCP	このポートは、SOAP モニターがログコレクションサービスに使用します。
標準 CCM 管理者ユーザ / 管理者	Unified Communications Manager	5005 / TCP	このポートは SOAP CDROnDemand2 サービスによって使用されます
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (SOAP)	5007 / TCP	SOAP モニター
Unified Communications Manager (RTMT)	Unified Communications Manager (TCTS)	エフェメラル / TCP	Cisco Trace Collection Tool Service (TCTS) : RTMT Trace and Log Central (TLC) 向けのバックエンドサービス
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (TCTS)	7000、7001、7002 / TCP	このポートは、Cisco Trace Collection Tool Service と Cisco Trace Collection Servlet との通信に使用されます。
Unified Communications Manager (DB)	Unified Communications Manager (CDLM)	8001 / TCP	クライアントデータベース変更通知
Unified Communications Manager (SDL)	Unified Communications Manager (SDL)	8002 / TCP	クラスタ間通信サービス
Unified Communications Manager (SDL)	Unified Communications Manager (SDL)	8003 / TCP	クラスタ間通信サービス (CTI 対象)
Unified Communications Manager	CMI マネージャ	8004 / TCP	Cisco Unified Communications Manager と CMI マネージャとのクラスタ間通信

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (Tomcat)	8005 / TCP	Tomcat シャットダウン スクリプトで使用される内部リスニングポート
Unified Communications Manager (Tomcat)	Unified Communications Manager (Tomcat)	8080 / TCP	診断テストのためのサーバー間の通信
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	8090	CUCM と GW (Cayuga インターフェイス) が Gateway Recording 機能のための通信に使用する HTTP ポート
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
Unified Communications Manager (IPSec)	Unified Communications Manager (IPSec)	8500 / TCP および UDP	IPSec クラスタ マネージャによるシステムデータのクラスタ間複製
Unified Communications Manager (RIS)	Unified Communications Manager (RIS)	8888 ~ 8889 / TCP	RIS サービス マネージャのステータス要求と応答
Location Bandwidth Manager (LBM)	Location Bandwidth Manager (LBM)	9004 / TCP	LBM 間のクラスタ間通信

共通サービスポート

表 29: 共通サービスポート

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
エンドポイント	Unified Communications Manager	7	Internet Control Message Protocol (ICMP)。このプロトコル番号がエコー関連のトラフィックを伝送します。列見出しに示すようなポートとなるものではありません。
Unified Communications Manager	エンドポイント		

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager (DRS、CDR)	SFTP サーバー	22 / TCP	SFTP サーバーにバックアップデータを送信します。（DRS ローカル エージェント） SFTP サーバーに CDR データを送信します。
エンドポイント	Unified Communications Manager (DHCP サーバー)	67 / UDP	DHCP サーバーとして機能する Cisco Unified Communications Manager (注) Cisco Unified Communications Manager 上で DHCP サーバーを実行することは推奨しません。
Unified Communications Manager	DHCP サーバー	68 / UDP	DHCP クライアントとして機能する Cisco Unified Communications Manager (注) Cisco Unified Communications Manager 上で DHCP クライアントを実行することは推奨しません。その代わりに、Cisco Unified Communications Manager には固定 IP アドレスを設定します。
エンドポイントまたはゲートウェイ	Unified Communications Manager	69、6969、次にエフェメラル / UDP	電話機およびゲートウェイに対する Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サービス

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
エンドポイントまたはゲートウェイ	Unified Communications Manager	6970 / TCP	プライマリサーバとプロキシサーバ間のトリビアルファイル転送プロトコル（TFTP） 電話機とゲートウェイに対する TFTP サーバの HTTP サービス
Unified Communications Manager	NTP サーバー	123 / UDP	Network Time Protocol（NTP）
SNMP サーバー	Unified Communications Manager	161 / UDP	SNMP サービス応答（管理アプリケーションからの要求）
CUCM サーバ SNMP プライマリエージェントアプリケーション	SNMP トラップの宛先	162 / UDP	SNMP トラップ
SNMP サーバー	Unified Communications Manager	199 / TCP	SMUX サポートのためのネイティブ SNMP エージェントリスニングポート
Unified Communications Manager	DHCP サーバー	546 / UDP	DHCPv6。IPv6 用の DHCP ポート。
Unified Communications Manager Serviceability	Location Bandwidth Manager（LBM）	5546 / TCP	Enhanced Location CAC Serviceability
Unified Communications Manager	Location Bandwidth Manager（LBM）	5547 / TCP	コールアドミッションの要求および帯域幅の縮小
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	6161 / UDP	プライマリエージェントとネイティブエージェント間の通信に使用され、ネイティブエージェントの MIB 要求を処理します。

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	6162 / UDP	プライマリエージェントとネイティブエージェント間の通信に使用され、ネイティブエージェントから生成された通知を転送します。
中央集中型 TFTP	代替 TFTP (Alternate TFTP)	6970 / TCP	中央集中型 TFTP ファイル ロケータ サービス
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	7161 / TCP	SNMP プライマリエージェントとサブエージェント間の通信に使用されます。
SNMP サーバー	Unified Communications Manager	7999 / TCP	Cisco Discovery Protocol (CDP) エージェントが、CDP 実行可能機器と通信します。
エンドポイント	Unified Communications Manager	8443/TCP	Cisco ユーザー データ サービス (UDS) の要求に使用されます。
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	9050 / TCP	Cisco Unified Communications Manager にある TAPS を利用して CRS 要求を処理します。
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	61441 / UDP	Cisco Unified Communications Manager アプリケーションが、UDP でこのポートにアラームを送信します。Cisco Unified Communications Manager MIB エージェントが、Cisco Unified Communications Manager MIB 定義に従って、このポートを監視し、SNMP トラップを生成します。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	5060、5061 / TCP	トランクベースの SIP サービスを提供します。
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	7501	クラスタ間検索サービス (ILS) の証明書ベースの認証に使用されます。
Unified Communications Manager	Unified Communications Manager	7502	ILS のパスワードベース認証に使用されます。

Cisco Unified Communications Manager と LDAP ディレクトリの間ポート

表 30: Cisco Unified Communications Manager と LDAP ディレクトリの間ポート

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager	外部ディレクトリ	389、636、3268、3269/TCP	外部ディレクトリ (Active Directory、Netscape Directory) への Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) クエリー
外部ディレクトリ	Unified Communications Manager	エフェメラル	

CCMAdmin または CCMUser から Cisco Unified Communications Manager への Web 要求

表 31: CCMAdmin または CCMUser から Cisco Unified Communications Manager への Web 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
ブラウザ	Unified Communications Manager	80、8080/TCP	ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP)
ブラウザ	Unified Communications Manager	443、8443/TCP	Hypertext Transport Protocol over SSL (HTTPS)

Cisco Unified Communications Manager から電話機への Web 要求

表 32: Cisco Unified Communications Manager から電話機への Web 要求

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager <ul style="list-style-type: none"> • QRT • RTMT • [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ページ • [電話の設定 (Phone Configuration)] ページ 	電話	80/TCP	ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP)

電話機と Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信

表 33: 電話機と Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
電話	Unified Communications Manager (TFTP)	69、次にエフェメラル / UDP	ファームウェアおよび設定ファイルのダウンロードに使用される Trivial File Transfer Protocol (TFTP)
電話	Unified Communications Manager	2000 / TCP	Skinnny Client Control Protocol (SCCP)
電話	Unified Communications Manager	2443 / TCP	Secure Skinnny Client Control Protocol (SCCPS)
電話	Unified Communications Manager	2445 / TCP	エンドポイントに信頼検証サービスを提供します。

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
電話	Unified Communications Manager (CAPF)	3804 / TCP	ローカルで有効な証明書 (LSC) を IP 電話に発行するための認証局プロキシ機能 (CAPF) リスニングポート
電話	Unified Communications Manager	5060 / TCP および UDP	Session Initiation Protocol (SIP) 電話機
Unified Communications Manager	電話		
電話	Unified Communications Manager	5061 TCP	Secure Session Initiation Protocol (SIPS) 電話機
Unified Communications Manager	電話		
電話	Unified Communications Manager (TFTP)	6970 TCP	ファームウェアおよび設定ファイルの HTTP ベースのダウンロード
電話	Unified Communications Manager	8080 / TCP	XML アプリケーション、認証、ディレクトリ、サービスなどで電話機が使用する URL。サービスごとにこれらのポートを設定できます。
電話	Unified Communications Manager	9444	
IP VMS	電話	16384 ~ 32767 / UDP	Real-Time Protocol (RTP)、Secure Real-Time Protocol (SRTP) (注) 他のデバイスは全範囲を使用しますが、Cisco Unified Communications Manager は 24576 ~ 32767 だけを使用します。
電話	IP VMS		

ゲートウェイと Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信

表 34: ゲートウェイと Cisco Unified Communications Manager の間のシグナリング、メディア、およびその他の通信

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	47、50、51	Generic Routing Encapsulation (GRE)、Encapsulating Security Payload (ESP)、認証ヘッダー (AH)。これらのプロトコル番号は、暗号化された IPsec トラフィックを伝送します。列見出しに示すようなポートとなるものではありません。
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	500 / UDP	IP Security (IPsec) プロトコル確立のためのインターネットキーエクステンジ (IKE)
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
ゲートウェイ	Unified Communications Manager (TFTP)	69、次にエフェメラル / UDP	トリビアルファイル転送プロトコル (TFTP)
Cisco Intercompany Media Engine (CIME) トランクを使用した Unified Communications Manager	CIME ASA	1024 ~ 65535 / TCP	ポート マッピング サービス。CIME オフパス導入モデルでのみ使用します。
Gatekeeper	Unified Communications Manager	1719 / UDP	ゲートキーパー (H.225) RAS
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	1720 / TCP	H.323 ゲートウェイおよびクラスタ間トランク (ICT) 向けの H.225 シグナリングサービス
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	エフェメラル / TCP	ゲートキーパー制御トランク上の H.225 シグナリング サービス
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	エフェメラル / TCP	音声、ビデオ、およびデータを確立するための H.245 シグナリング サービス
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		<p>(注) ゲートウェイの種類によって異なる、リモートシステムで使用される H.245 ポート。</p> <p>IOS ゲートウェイでの H.245 ポート範囲は、11000 ~ 65535 です。</p>
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	2000 / TCP	Skippy Client Control Protocol (SCCP)
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	2001 / TCP	Cisco Unified Communications Manager の導入で使用する 6608 ゲートウェイ用アップグレードポート
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	2002 / TCP	Cisco Unified Communications Manager の導入で使用する 6624 ゲートウェイ用アップグレードポート
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	2427 / UDP	Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイコントロール

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	2428 / TCP	Media Gateway Control Protocol (MGCP) バックホール
--	--	4000 ~ 4005 / TCP	Cisco Unified Communications Manager に音声、ビデオ、および D チャネルのポートがないときには、これらのポートがこのようなメディアのファントム Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートおよび Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートとして使用されます。
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	5060 / TCP および UDP	Session Initiation Protocol (SIP) ゲートウェイおよびクラスター間トランク (ICT)
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	5061 / TCP	Secure Session Initiation Protocol (SIPS) ゲートウェイおよびクラスター間トランク (ICT)
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		
ゲートウェイ	Unified Communications Manager	16384 ~ 32767 / UDP	Real-Time Protocol (RTP)、Secure Real-Time Protocol (SRTP) (注) 他のデバイスは全範囲を使用しますが、Cisco Unified Communications Manager は 24576 ~ 32767 だけを使用します。
Unified Communications Manager	ゲートウェイ		

アプリケーションと Cisco Unified Communications Manager の間の通信

表 35: アプリケーションと Cisco Unified Communications Manager の間の通信

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
CTL クライアント	Unified Communications Manager CTL プロバイダ	2444 / TCP	Cisco Unified Communications Manager の証明書信頼リスト (CTL) プロバイダリスニングサービス
Cisco Unified Communications アプリケーション	Unified Communications Manager	2748 / TCP	CTI アプリケーションサーバー
Cisco Unified Communications アプリケーション	Unified Communications Manager	2749 / TCP	CTI アプリケーション (JTAPI/TSP) と CTI Manager 間の TLS 接続
Cisco Unified Communications アプリケーション	Unified Communications Manager	2789 / TCP	JTAPI アプリケーションサーバー
Unified Communications Manager Assistant Console	Unified Communications Manager	2912 / TCP	Cisco Unified Communications Manager Assistant サーバー (以前の IPMA)
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	1103 ~ 1129 / TCP	Cisco Unified Communications Manager Attendant Console (AC) JAVA RMI レジストリサーバー
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	1101 / TCP	RMI サーバーは、RMI コールバックメッセージをこれらのポートを使用するクライアントに送信します。

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	1102 / TCP	Attendant Console (AC) RMI サーバー バインドポート : RMI サーバーは、これらのポートに RMI メッセージを送信します。
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	3223 / UDP	Cisco Unified Communications Manager Attendant Console (AC) サーバー回線状態ポートは、Attendant Console サーバーから ping および登録メッセージを受信し、Attendant Console サーバーに回線状態を送信します。
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	3224 / UDP	Cisco Unified Communications Manager Attendant Console (AC) クライアントは、回線状態情報およびデバイス状態情報のために AC サーバーに登録されます。
Unified Communications Manager Attendant Console	Unified Communications Manager	4321 / UDP	Cisco Unified Communications Manager Attendant Console (AC) クライアントは、コール制御のために AC サーバーに登録されます。
SAF/CCD を使用する Unified Communications Manager	SAF イメージを実行する IOS ルータ	5050 / TCP	EIGRP/SAF プロトコルを実行するマルチサービス IOS ルータ。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
Unified Communications Manager	Cisco Intercompany Media Engine (IME) サーバー	5620 / TCP このポートでは、ポート番号 5620 の使用を推奨しますが、CLI コマンドの <code>add ime vapserver</code> または <code>set ime vapserver port</code> を Cisco IME サーバーで実行することにより、値を変更できます。	VAP プロトコルは、Cisco Intercompany Media Engine サーバーとの通信に使用されます。
Cisco Unified Communications アプリケーション	Unified Communications Manager	8443 / TCP	課金アプリケーションまたはテレフォニー管理アプリケーションなどのサードパーティが、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してプログラムで読み書きするために使用する AXL/SOAP API。

CTL クライアントとファイアウォールの通信

表 36: CTL クライアントとファイアウォールの通信

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
CTL クライアント	TLS プロキシ サーバ	2444 / TCP	ASA ファイアウォールの証明書信頼リスト (CTL) プロバイダーリスニング サービス

HP サーバ上の特殊なポート

表 37: HP サーバ上の特殊なポート

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
エンドポイント	HP SIM	2301/TCP	HP エージェントへの HTTP ポート

送信元（送信者）	送信先（リスナー）	宛先ポート	目的
エンドポイント	HP SIM	2381/TCP	HP エージェントへの HTTPS ポート
エンドポイント	Compaq 管理エージェント	25375、25376、25393/UDP	COMPAQ 管理エージェント拡張 (cmaX)
エンドポイント	HP SIM	50000 ~ 50004/TCP	HP SIM への HTTPS ポート

ポート参照

ファイアウォールアプリケーションインスペクションガイド

ASA シリーズ参考情報

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/asa-5500-series-next-generation-firewalls/tsd-products-support-series-home.html>

PIX アプリケーション Inspection Configuration Guides

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/pix-firewall-software/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

『FWSM 3.1 Application Inspection Configuration Guide』

http://www-author.cisco.com/c/en/us/td/docs/security/fwsm/fwsm31/configuration/guide/fwsm_cfg/inspect_f.html

IETF TCP/UDP ポート割り当てリスト

インターネット割り当て番号局 (IANA) IETF 割り当てポートリスト

<http://www.iana.org/assignments/port-numbers>

IP テレフォニー設定とポート使用に関するガイド

『Cisco CRS 4.0 (IP IVR and IPCC Express) Port Utilization Guide』

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

『Port Utilization Guide for Cisco ICM/IPCC Enterprise and Hosted Editions』

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1001/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Cisco Unified Communications Manager Express Security Guide to Best Practices

http://www.cisco.com/en/US/netsol/ns340/ns394/ns165/ns391/networking_solutions_design_guidance09186a00801f8e30.html

Cisco Unity Express Security Guide to Best Practices

http://www.cisco.com/en/US/netsol/ns340/ns394/ns165/ns391/networking_solutions_design_guidance09186a00801f8e31.html#wp41149

VMware ポート割り当てリスト

vCenter Server、ESX ホスト、およびその他のネットワーク コンポーネントの管理アクセス用の TCP ポートおよび UDP ポート



第 37 章

IM and Presence Service のポートの使用情報 [英語]

- [IM and Presence Service ポート利用の概要 \(491 ページ\)](#)
- [表に記載の情報 \(492 ページ\)](#)
- [IM and Presence サービス ポート リスト \(492 ページ\)](#)

IM and Presence Service ポート利用の概要

このマニュアルには、IM and Presence Service が、クラスタ内接続用および、外部アプリケーションまたは外部デバイスとの通信用に使用する TCP および UDP ポートの一覧を示します。これは、IP Communications ソリューションの実装時に、ネットワークにファイアウォール、アクセス制御リスト (ACL)、および Quality of Service (QoS) を設定するうえで重要な情報となります。



(注) シスコでは、これらのポートで想定されるすべての設定シナリオを検証しているわけではありません。この一覧を参考にした結果、設定に問題が発生した場合は、シスコのテクニカルサポートにお問い合わせください。

事実上すべてのプロトコルが双方向で行われますが、このマニュアルではセッション開始側から見た方向を記載しています。デフォルトのポート番号は、管理者が手動で変更できる場合がありますが、ベストプラクティスとしてこのような変更は推奨しません。IM and Presence Service は、内部使用に限定していくつかのポートを開くことに留意してください。

このドキュメントのポートは、IM and Presence サービスに特別に適用されます。リリースによってポートが異なる場合があり、今後のリリースで新しくポートが追加される可能性もあります。このため、参照しているマニュアルのバージョンが、インストールされている IM and Presence Service のバージョンと一致していることを確認してください。

ファイアウォール、ACL、または QoS の設定内容は、トポロジ、ネットワークセキュリティデバイスの配置に対するデバイスとサービスの配置、および使用するアプリケーションとテレ

フォニー拡張機能の種類に応じて異なります。また、デバイスやバージョンによって、ACLのフォーマットが異なることにも注意してください。

表に記載の情報

この表は、このマニュアルの表で確認できる情報を示します。

表 38: 表の内容

表の項目	説明
送信元 (From)	ポートに要求を送信するクライアント
送信先	ポートで要求を受信するクライアント
ロール	クライアントまたはサーバのアプリケーションまたはプロセス
[プロトコル (Protocol)]	通信の確立と終了に使用されるセッション層プロトコル、またはトランザクションの要求と応答に使用されるアプリケーション層プロトコルのどちらか。
トランスポートプロトコル	コネクション型 (TCP) またはコネクションレス型 (UDP) のトランスポート層プロトコル
宛先/リスナー	要求の受信に使用されるポート
ソース/送信元	要求の送信に使用されるポート

IM and Presence サービス ポート リスト

次のテーブルは、IM and Presence サービスがクラスタ内とクラスタ間のトラフィックに使用するポートを示します。

表 39: IM and Presence サービス ポート : SIP プロキシの要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
SIP ゲートウェイ ----- IM and Presence	IM and Presence ----- SIP ゲートウェイ	SIP	TCP/UDP	[5060]	エフェメラル	デフォルトの SIP プロキシの UDP および TCP リスナー

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
SIP ゲートウェイ	IM and Presence	SIP	TLS	5061	エフェメラル	TLS サーバー認証のリスナー ポート
IM and Presence	IM and Presence	SIP	TLS	5062	エフェメラル	TLS 相互認証のリスナー ポート
IM and Presence	IM and Presence	SIP	UDP/TCP	5049	エフェメラル	内部ポート。ローカル ホスト トラフィック 専用。
IM and Presence	IM and Presence	HTTP	TCP	8081	エフェメラル	設定の変更を示す設定のエージェントからの HTTP 要求に使用されます。
サードパーティ製クライアント	IM and Presence	HTTP	TCP	8082	エフェメラル	デフォルトの IM and Presence HTTP のリスナー。サードパーティ製クライアントからの接続に使用されます。
サードパーティ製クライアント	IM and Presence	HTTPS	TLS/TCP	8083	エフェメラル	デフォルトの IM and Presence HTTPS リスナー。サードパーティ製クライアントからの接続に使用されます。

表 40: IM and Presence サービス ポート : Presence エンジンの要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	IM and Presence (Presence エンジン)	SIP	UDP/TCP	5080	エフェメラル	デフォルトの SIP UDP/TCP リスナー ポート

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (Presence エンジン)	IM and Presence (Presence エンジン)	Livebus	UDP	50000	エフェメラル	内部ポート。ローカルホストトラフィック専用。LiveBus メッセージングポート。IM and Presence サービスは、クラスタ通信に対してこのポートを使用します。

表 41: IM and Presence サービス ポート: シスコの Tomcat WebRequests

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
ブラウザ	IM and Presence	HTTPS	TCP	8080	エフェメラル	ウェブアクセスに使用されます。
ブラウザ	IM and Presence	AXLHTTPS	TLS/TCP	8443	エフェメラル	SOAP によりデータベースおよびサービスアビリティへのアクセスを提供します。
ブラウザ	IM and Presence	HTTPS	TLS/TCP	8443	エフェメラル	Web 管理へのアクセスを提供します。
ブラウザ	IM and Presence	HTTPS	TLS/TCP	8443	エフェメラル	ユーザー オプションページへのアクセスを提供します。
ブラウザ	IM and Presence	SOAP	TLS/TCP	8443	エフェメラル	SOAP により Cisco Unified Personal Communicator、Cisco Unified Mobility Advantage、およびサードパーティ製の API クライアントへのアクセスを提供します。

表 42: IM and Presence サービス ポート : 外部社内ディレクトリ要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence ----- 外部企業ディレクトリ	外部企業ディレクトリ ----- IM and Presence	LDAP	TCP	389	エフェメラル	ディレクトリプロトコルを外部企業ディレクトリと統合できるようにします。このLDAPポートは、統合される社内ディレクトリによって異なります (デフォルトは389)。Netscape Directory の場合は、別のポートでLDAPトラフィックを受信できるよう設定できます。
IM and Presence	外部企業ディレクトリ	LDAPS	TCP	636	エフェメラル	ディレクトリプロトコルを外部企業ディレクトリと統合できるようにします。このLDAPポートは、統合される社内ディレクトリによって異なります (デフォルトは636)。

表 43: IM and Presence サービス ポート : リクエストの設定

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (設定エージェント)	IM and Presence (設定エージェント)	TCP	TCP	8600	エフェメラル	設定エージェントのハートビートポート

表 44: IM and Presence サービス ポート : *Certificate Manager* の要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	証明書マネージャ	TCP	TCP	7070	エフェメラル	内部ポート。ローカルホストトラフィック専用。

表 45: IM and Presence サービス ポート : *IDS* データベースの要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (データベース)	IM and Presence (データベース)	TCP	TCP	1500	エフェメラル	データベースクライアント用の内部 IDS ポート。ローカルホストトラフィック専用。
IM and Presence (データベース)	IM and Presence (データベース)	TCP	TCP	1501	エフェメラル	内部ポート: アップグレード中に IDS の 2 次インスタンスを始動するための代替ポートです。ローカルホストトラフィック専用。
IM and Presence (データベース)	IM and Presence (データベース)	XML	TCP	1515	エフェメラル	内部ポート。ローカルホストトラフィック専用。DB レプリケーションポート。

表 46: IM and Presence Service ポート : *IPSec* マネージャの要求

送信元送信者	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (IPSec)	IM and Presence (IPSec)	専用	UDP/TCP	8500	8500	内部ポート: ipsec_mgr デモンがプラットフォーム データ (ホスト) の証明書のクラスタレプリケーションに使用するクラスタマネージャポートです。

表 47: IM and Presence サービス ポート : DRFにマスター エージェント サーバー要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (DRF)	IM and Presence (DRF)	TCP	TCP	4040	エフェメラル	DRF Master Agent サーバー ポート。Local Agent、GUI、および CLIからの接続を受け入れます。

表 48: IM and Presence サービス ポート : RISDC 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (RIS)	IM and Presence (RIS)	TCP	TCP	2555	エフェメラル	Real-time Information Services (RIS) データベース サーバー。クラスタの別の RISDC に接続し、クラスタ全体のリアルタイム情報を提供します。
IM and Presence (RIMI/AMC/ SOAP)	IM and Presence (RIS)	TCP	TCP	2556	エフェメラル	Cisco RIS 向け Real-time Information Services (RIS) データベース クライアント。RIS クライアント接続で、リアルタイム情報を取得できるようにする
IM and Presence (RIS)	IM and Presence (RIS)	TCP	TCP	8889	8888	内部ポート。ローカル ホスト トラフィック 専用。サービス ステータスの要求および 応答用として、RISDC (システム アクセス) が TCP で servM にリンクするために使用します。

表 49: IM and Presence サービス ポート : SNMP の要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
SNMP サーバー	IM and Presence	SNMP	UDP	161、8161	エフェメラル	SNMP ベースの管理アプリケーションにサービスを提供
IM and Presence	IM and Presence	SNMP	UDP	6162	エフェメラル	SNMP マスター エージェントから転送される要求を受信するネイティブ SNMP エージェント。
IM and Presence	IM and Presence	SNMP	UDP	6161	エフェメラル	ネイティブ SNMP エージェントからのトラップ情報を受信し、管理アプリケーションに転送する SNMP マスター エージェント。
SNMP サーバー	IM and Presence	TCP	TCP	7999	エフェメラル	CDP Agent が CDP バイナリと通信するためにソケットとして使用します。
IM and Presence	IM and Presence	TCP	TCP	7161	エフェメラル	SNMP マスター エージェントとサブエージェント間の通信に使用されます。
IM and Presence	SNMP トラップ モニター	SNMP	UDP	162	エフェメラル	SNMP トラップを管理アプリケーションに送信します。
IM and Presence	IM and Presence	SNMP	UDP	設定可能	61441	内部 SNMP トラップ レシーバ

表 50: IM and Presence サービス ポート : *Racoon* サーバー要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
ゲートウェイ ----- IM and Presence	IM and Presence ----- ゲートウェイ	Ipsec	UDP	500	エフェメラル	Internet Security Association と KeyManagement Protocol を有効化

表 51: IM and Presence サービス ポート : システム サービス要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (RIS)	IM and Presence (RIS)	XML	TCP	8888 および 8889	エフェメラル	内部ポート。ローカルホストトラフィック専用。RIS サービスマネージャ (servM) と通信するクライアントを受信するために使用します。

表 52: IM and Presence サービス ポート : *DNS* 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	DNS サーバー	DNS	UDP	53	エフェメラル	DNS サーバーが IM and Presence DNS 照会を受信するポート。 宛先:DNS サーバー 送信元:IM and Presence

表 53: IM and Presence サービス ポート: SSH/SFTP 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	エンドポイント	SSH/SFTP	TCP	22	エフェメラル	多くのアプリケーションが、サーバーへのコマンドラインアクセスを行うために使用します。ノード間で証明書などのファイル交換 (sftp) にも使用されます。

表 54: IM and Presence サービス ポート: ICMP 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence ----- Cisco Unified Communications Manager	Cisco Unified Communications Manager ----- IM and Presence	ICMP	IP	N/A	エフェメラル	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP)。Cisco Unified Communications Manager サーバーとの通信に使用されます。

表 55: IM and Presence サービス ポート: NTP 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	NTP サーバー	NTP	UDP	123	エフェメラル	Cisco Unified Communications Manager は NTP サーバーとして動作します。サブスクライバノードが、パブリックノードと時刻を同期するために使用されます。

表 56: IM and Presence サービス ポート : Microsoft Exchange 通知要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
Microsoft Exchange	IM and Presence	HTTP (HTTPu)) WebDAV : HTTP /UDP/IP 通知 2) EWS - HTTP/TCP/ SOAP 通知	IM and Presence サーバーポート (デフォルト 50020)	エフェメラル	Microsoft Exchange は、このポートを使用してカレンダー イベントの特定のサブスクリプション識別子に対する変更を示す通知 (NOTIFY メッセージによって示される) を送信します。ネットワーク構成内にある Exchange サーバーと統合する場合に使用されます。どちらのポートも作成されます。送信されるメッセージの種類は、設定するカレンダー プレゼンス バックエンド ゲートウェイのタイプによって異なります。

表 57: IM and Presence サービス ポート : SOAP サービス リクエスト

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (Tomcat)	IM and Presence (SOAP)	TCP	TCP	5007	エフェメラル	SOAP モニターポート

表 58: IM and Presence サービス ポート : AMC RMI 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	RTMT	TCP	TCP	1090	エフェメラル	AMC RMI オブジェクトポート RTMT パフォーマンス モニター、データ収集、ロギング、およびアラート生成用の Cisco AMC サービス。
IM and Presence	RTMT	TCP	TCP	1099	エフェメラル	AMC RMI レジストリポート RTMT パフォーマンス モニター、データ収集、ロギング、およびアラート生成用の Cisco AMC サービス。

表 59: IM and Presence サービス ポート : XCP 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
XMPP クライアント	IM and Presence	TCP	TCP	5222	エフェメラル	クライアントアクセスポート
IM and Presence	IM and Presence	TCP	TCP	5269	エフェメラル	サーバー間接続 (S2S) ポート
サードパーティ製 BOSH クライアント	IM and Presence	TCP	TCP	7335	エフェメラル	XCP Web Connection Manager が、BOSH を使用するサードパーティ製 API との接続に使用する HTTP リスニングポート

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (XCP サービス)	IM and Presence (XCP ルータ)	TCP	TCP	7400	エフェメラル	XCP ルータ マスター アクセス ポート。オープン ポート設定からルータに接続する XCP サービス (XCP 認証コンポーネント サービスなど) は、通常このポートを使用して接続します。
IM and Presence (XCP ルータ)	IM and Presence (XCP ルータ)	UDP	UDP	5353	エフェメラル	MDNS ポート。クラスタ内の XCP ルータはこのポートを使用してお互いを検出します。
IM and Presence (XCP ルータ)	IM and Presence (XCP ルータ)	TCP	TCP	7336	HTTPS	MFT ファイル転送 (オンプレミスのみ)。

表 60: IM and Presence サービスポート - 外部データベースリクエスト

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポート プロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	PostgreSQL データベース	TCP	TCP	5432 ¹	エフェメラル	PostgreSQL データベース リスニング ポート
[IM and Presence]	Oracle データベース	TCP	TCP	1521	エフェメラル	Oracle データベース リスニング ポート
IM and Presence	MSSQL データベース	TCP	TCP	1433	エフェメラル	MSSQL データベース リスニング ポート

¹ これがデフォルトのポートですが、任意のポートで受信するよう PostgreSQL データベースを設定できます。

表 61: IM and Presence サービス ポート: 高可用性の要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (Server Recovery Manager)	IM and Presence (Server Recovery Manager)	TCP	TCP	20075	エフェメラル	Cisco Server Recovery Manager が管理 RPC リクエストを行うために使用するポート。
IM and Presence (Server Recovery Manager)	IM and Presence (Server Recovery Manager)	UDP	UDP	21999	エフェメラル	Cisco Server Recovery Manager がピアとの通信に使用するポート。

表 62: IM and Presence サービス ポート: In Memory データベース レプリケーションのメッセージ

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	9003	エフェメラル	Cisco Presence Datastore デュアル ノードサブクラスタの複製。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	9004	エフェメラル	Cisco Login Datastore デュアル ノードサブクラスタの複製。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	9005	エフェメラル	Cisco SIP Registration Datastore デュアル ノードサブクラスタの複製。

表 63: IM and Presence サービス ポート: In Memory データベース SQL メッセージ

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6603	エフェメラル	Cisco Presence Datastore SQL クエリ。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6604	エフェメラル	Cisco Login Datastore SQL クエリ。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6605	エフェメラル	Cisco SIP Registration Datastore SQL クエリ。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6606	エフェメラル	Cisco Route Datastore SQL クエリ。

表 64: IM and Presence サービス ポート : In Memory データベースの通知メッセージ

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6607	エフェメラル	Cisco Presence Datastore XML ベースの変更通知。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6608	エフェメラル	Cisco Login Datastore XML ベースの変更通知。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6609	エフェメラル	Cisco SIP Registration Datastore XML ベースの変更通知。
IM and Presence	IM and Presence	専用	TCP	6610	エフェメラル	Cisco Route Datastore XML ベースの変更通知。

表 65: IM and Presence Service ポート : 強制手動同期/X.509 証明書更新要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	[プロトコル (Protocol)]	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence (Intercluster Sync Agent)	IM and Presence (Intercluster Sync Agent)	TCP	TCP	37239	エフェメラル	Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、このポートを使用してコマンドを処理するためのソケット接続を確立します。

表 66: IM and Presence サービス ポート: ICMP 要求

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	宛先ポート	目的
エンドポイント/IM and Presence	[IM and Presence]	7	Internet Control Message Protocol (ICMP)。このプロトコル番号がエコー関連のトラフィックを伝送します。列見出しに示すようなポートとなるものではありません。
[IM and Presence]	エンドポイント/IM and Presence		

表 67: IM and Presence に使用するポート - Cisco Unified CM 通信および IM and Presence Publisher - Subscriber 通信

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	TCP	1500	双方向	データベースクライアント用内部 ID ポート。ローカルホストトラフィック専用。
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	TCP	8443	双方向	Web管理へのアクセスを提供します。
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	TCP	1090	双方向	AMC RMI オブジェクトポート RTMT パフォーマンスモニター、データ収集、ロギング、およびアラート生成用の Cisco AMC サービス。
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	TCP	2555	双方向	双方向 Real-time Information Services (RIS) データベース サーバークラスターの別の RISDC に接続し、クラスター全体のリアルタイム情報を提供します。

送信元 (送信者)	送信先 (リシーナ)	トランスポートプロトコル	宛先/リシーナ	ソース/送信元	備考
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	[TCP]	8500	双方向	内部ポート。プラットフォームデータ (ホスト) 証明書のクラスタレプリケーションに対して ipsec_mgr デーモンが使用するクラスタ管理ポート。
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	TCP	8600	双方向	設定エージェントのハートビートポート
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	UDP	123	双方向	同期に使用する Network Time Protocol (NTP)。
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	UDP	50000	双方向	内部ポート。ローカルホストトラフィック専用。LiveBus メッセージングポート。IM and Presence サービスは、クラスタ通信に対してこのポートを使用します。
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	UDP	21999	双方向	Cisco Server Recovery Manager がピアとの通信に使用するポート。
IM and Presence Publisher	Cisco Unified Communications Manager	TCP	4040	双方向	DRF Master Agent サーバーポート。Local Agent、GUI、および CLI からの接続を受け入れます。
IM and Presence Publisher	Cisco Unified Communications Manager	TCP	8001	双方向	常設チャットの構成中に使用されます。
IM and Presence Publisher	Cisco Unified Communications Manager	[TCP]	6379	双方向	マネージドファイル転送 (MFT) の構成中に使用されます。
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	[TCP]	7	双方向	外部データベース (MSSQL) の構成中に使用されます。

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	トランスポートプロトコル	宛先/リスナー	ソース/送信元	備考
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	TCP	20075	双方向	Cisco Server Recovery Manager が管理 RPC リクエストを行うために使用するポート。
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	TCP	8600	双方向	設定エージェントのハートビートポート
IM and Presence Subscriber	IM and Presence Publisher	TCP	9005	双方向	Cisco SIP Registration Datastore デュアルノードプレゼンス冗長グループの複製。
IM and Presence Subscriber	IM and Presence Publisher	TCP	9003	双方向	Cisco Presence Datastore デュアルノードプレゼンス冗長グループの複製。
IM and Presence Subscriber	IM and Presence Publisher	TCP	20075	双方向	Cisco Server Recovery Manager が管理 RPC リクエストを行うために使用するポート。
IM and Presence Subscriber	IM and Presence Publisher	TCP	9004	双方向	Cisco Login Datastore デュアルノードプレゼンス冗長グループの複製。
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	[TCP]	5070	双方向	コール構成で使用
IM and Presence Publisher	IM and Presence Subscriber	[TCP]	44000	双方向	コール構成で使用

表 68: On-a-call_Presence

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	送信元ポート	宛先ポート	プロトコル	備考
Cisco Unified Communications Manager	IM and Presence Publisher	[37240 – 61000]	5070	[TCP]	

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	送信元ポート	宛先ポート	プロトコル	備考
IM and Presence Publisher	XMPP クライアント (Jabber)	5222	64846	[TCP]	クライアントアクセスポート
IM and Presence Publisher	XMPP クライアント (Jabber)	5222	56361	[TCP]	クライアントアクセスポート

表 69: MS-SQL DB 構成

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	送信元ポート	宛先ポート	プロトコル
IM and Presence Publisher	データベース	[37240 – 61000]	7	[TCP]

表 70: MS-SQL 持続チャット構成

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	送信元ポート	宛先ポート	プロトコル
IM and Presence Publisher	データベース	37240 – 61000	1433	[TCP]

表 71: マネージド ファイル転送 (MFT) 構成

送信元 (送信者)	送信先 (リスナー)	送信元ポート	宛先ポート	プロトコル
IM and Presence Publisher	外部ファイルサーバ	37240 – 61000	7	[TCP]
IM and Presence Publisher	外部ファイルサーバ	37240 – 61000	22	TCP
IM and Presence Publisher	外部ファイルサーバ	37240 – 61000	5432	TCP
IM and Presence Publisher	データベース	54288 - 54292	5432	TCP

SNMP については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

